旅行案内

南滿洲鐵道株式會社

旅行案内

南滿洲鐵道株式會社

旅行案内

南滿洲鐵道株式會社

例言

一、本書は滿洲旅行者の便に供せん爲に發行したものであるが、會社鐵道沿線の遊覽地に就て記述する外、日支共存共榮の實際地として要路竝會社の施設寄與等の概畧にも及び、其點は他の多少此種案內書と趣を異にしてゐる積りである。

一、本書編輯資料は大畧左記に據り、匆忙の際に編輯したので取材の點にも行文の點にも不滿足な點が多い。其等に就ては他日大方の垂敎を俟つて訂正せんとするものである。

滿蒙諸鐵道	會社鐵道部庶務課
時事年鑑	時事新報社
滿蒙全書	滿蒙文化協會
關東廳要覽	關東廳
滿鐵十年史	會社
滿鐵營業一班	會社庶務部調査課
滿鐵旅行案內（八年版）	會社鐵道部
滿鐵事業概況	會社
業績の大要	會社中央試驗所
滿鮮各地視察便覽	滿蒙文化協會

滿鐵沿線主要機關及事業一覽表	會社地方部庶務課
朝鮮滿洲支那案內	鐵道省
滿蒙年鑑(十三年版)	滿蒙文化協會
統計年報(十一年度)	京城鐵道局
統計年報	會社
撫順炭坑一覽表	會社
驛勢一班	會社運輸部
撫順要覽	撫順案內社
鮮滿支旅行案內	會社
旅順事情	旅順民政署
鞍山製鐵所概要	會社
滿鐵概要	會社調査課
大連港	會社埠頭事務所
平原(雜誌)	會社鐵道部
教育施設要覽	會社地方部學務課
長春概況	會社長春鐵道事務所
哈爾賓事情	哈爾賓運輸事務所
滿鐵の現在(十三年版)	會社
滿洲旅行案內(一枚刷)	會社
地質調査所業務概畧	會社地質調査所
遊覽指南	四洮鐵路局
中央試驗所業務提要	會社中央試驗所
旅客及荷物運送規則	會社
農業施設概要	會社農務課
商工施設梗概	會社興業部商工課
混合保管便覽	會社鐵道部
會社運送規程	會社
倉庫營業規程	會社
運輸概況	吉長鐵路管理局運輸處
地方經營梗概	會社地方部
撫順炭	會社興業部販賣課

大連及旅順案內　小林又七商店
製糖會社要覽　其社
—鮮滿支旅程と費用概算　會社東京鮮滿案內所

一、卷末附錄に東支、吉長、四洮、京奉諸鐵道の主要地概畧記事を添へてあるが、滿洲地方旅行者が其地方へ行李を進めらるゝ際、多少共役立つやうの婆心からである。

一、本書の見返しは、旅順博物館所藏千秋萬歲甎を模寫し色彩を施したものである。甎は今より一千七百年以上のものであつて、支那古代の墓廓は地下室の如く一室を成し、子孫は常に出入して祭祀供養を行ふ。甎は卽其壁間嵌入の裝飾に用ゐ、素燒の土製であつて、故人の德を頌表し、子孫の繁榮を祈る意味のもの、現物には色彩はない。扉は大連匋雅堂小森氏の所藏捺染模樣を採り、上は龍戲珠、中は獅子戲珠で共に吉祥の意に用ゐられ、下部は佛子（福―中央）桃（壽―右）石榴（喜―左）を合せ福祿壽喜を表徵するもの、又卷中挿入のカットは眞山孝治氏筆である。

南滿洲鐵道旅行案內目次

附錄

—目次終—

滿洲旅行上の注意事項

左記は內地から滿洲への旅行に就ての二三注意事項でありますが、中には便宜上朝鮮、支那內地の旅行に關聯したものもあります。

◆旅費に就て

朝鮮、滿洲方面への旅行には左記のやうな經濟な、そして便利な乘車船劵があります。

一 內地—朝鮮／內地—滿洲　往復切符　賃金　二割引　通用　二ケ月

此の切符は往復共に下關釜山を經由するもので、省線大部分の驛と會社の朝鮮線、滿洲線各驛相互間に發賣されて居ります。

二 內地—滿洲往復切符

賃金	省線	普通	通用二ケ月
	大阪商船	一割引	
	滿鐵	二割引	

此の切符は往復共に大阪商船經由のもので下記日鮮滿周遊劵發賣驛の外佐世保、別府と滿

洲線海城、鞍山、遼陽、奉天、鐵嶺、開原、四平街、公主嶺、長春、旅順、營口、撫順間に發賣されて居ります。

三 日鮮滿周遊切符　賃金　二割引　通用　二ケ月

發賣驛　東京、新橋、横濱、名古屋、京都、大阪、神戶、廣島、下關、門司、博多、熊本、鹿兒島、長崎

徑　路　初發驛—神戶(三ノ宮)又は門司—大阪商船便—大連—奉天—安東—京城—釜山—聯絡船—下關—初發驛歸著　又は此の反對

特典　(イ)　奉天—長春間　永登浦—仁川間　往復二割引劵添付　(ロ)　神戶—門司(又は下關)間　汽車又は汽船(大阪商船)孰れにても乘車船隨意　(ハ)　大阪—名古屋間　東海道線を經由するも、關西線によるも隨意　(ニ)　各鐵道共途中下車回數制限なし

鐵道省線發賣驛及賃金

發賣驛＼等級	三等	二等	一等
東京又は新橋	五三・六〇	一〇五・八〇	一六〇・二〇
横濱	五三・三〇	一〇五・二〇	一五九・三〇
名古屋	四九・八〇	九八・二〇	一四八・八〇
京都	四八・一〇	九四・九〇	一四三・九〇
大阪	四七・六〇	九三・九〇	一四二・三〇
神戸	四七・三〇	九三・一〇	一四一・一〇
廣島	四二・八〇	八四・二〇	一二七・八〇
下關又は門司	三八・〇〇	七四・七〇	一一三・五〇
博多	四〇・〇〇	七八・六〇	一一九・四〇
長崎	四三・五〇	八五・六〇	一三〇・〇〇
熊本	四二・三〇	八三・三〇	一二六・五〇
鹿兒島	四五・三〇	八九・二〇	一三五・三〇

四　普通團體乘車船割引　各鐵道五割　大阪商船一割　通用　二ケ月

二十人以上團體を組んで內地から朝鮮及滿洲を汽車にて往復するか、又は片道汽車片道大阪商船に依り廻遊するものに對し往復の場合は前記往復券發賣驛にて、廻遊の場合は前掲周遊券發賣驛にて取扱つて居る。

特典　人員二十一人以上五十人迄は內一名を、五十一人以上は五十人を增す每に內一名を

監督者として各鐵道及鐵道省航路に限り無賃扱をする。

五　教員學生割引　內地　二割　鮮滿五割

此の切符は官公立及監督官廳の認可を得て設立した私立學校の學生及生徒に對して三等、其の教員生徒監及舍監の諸氏に對しては二三等に限り、文部省又は監督官廳で發行した割引證と引換に、省線各驛で發賣して居る。但し旅行中は常に學校長發行の身分證明書を携帶してゐなければならない。

六　學生團體割引

二十人以上の學生が一團となつて三等にて旅行する場合往復とも汽車に依れば內地五割引鮮滿六割以上七割引、發賣驛前揭往復劵發賣驛と同樣又片道大阪商船に依れば內地五割、鮮滿六割以上七割引、大阪商船二割以上三割引、發賣驛前揭日鮮滿周遊劵發賣驛に同じ。從つて發賣驛以外の地方より旅行の場合は初發地最近發賣驛迄を學生三割引に依らるれば

一番便利であります。

割引汽車賃金早見表

團は普通團體往復五割引一人當り賃金
單は單獨往復二割引賃金

上部は二等　下部は三等

		長春	奉天	大連
下關	團	49.90 27.34	41.40 22.20	51.60 27.90
	單	79.84 43.76	66.24 36.16	82.56 45.28
廣島	團	55.86 30.32	47.36 25.58	57.56 31.28
	單	89.36 48.52	75.76 40.92	92.08 50.04
大阪	團	61.90 33.34	53.40 28.60	63.60 34.30
	單	99.04 53.36	85.44 45.76	101.76 54.88
東京	團	69.36 37.08	60.86 32.33	71.06 38.02
	單	110.96 59.32	97.36 51.72	113.68 60.84
博多	團	52.46 28.68	43.96 23.93	57.10 31.10
	單	83.92 45.88	70.32 38.28	86.64 47.40
熊本	團	55.40 30.14	46.90 25.40	59.70 32.34
	單	88.64 48.24	75.04 40.64	91.36 49.76
山口	團	52.50 28.64	44.00 23.90	54.20 29.60
	單	84.00 45.84	70.40 38.24	86.72 47.36
松江	團	58.00 31.40	49.50 26.64	59.70 32.34
	單	92.80 50.24	79.20 42.64	95.52 51.76
鳥取	團	60.12 32.46	51.62 27.70	61.82 33.40
	單	96.18 51.92	82.58 44.32	98.90 53.44

船車の運賃に就ては前掲の如く各種日鮮滿支等の聯絡割引施設があつて、只漫然と購求し

たならば、非常な不得策を招くのである。例へば東京から大連乃至奉天に往復するに就ても、朝鮮經由もあれば、大阪商船航路によるものもあり、往復切符にすれば買ふ手數も一度でよく且二割引ともなり、鮮滿支那地方視察者には最も至便にして經濟的な周遊劵があり、其時々に應じて之れを利用せらるゝ事に努められ度いものである。

次ぎに如上の費用を標準として東京から十五日間鮮滿周遊費用を概算すれば

十五日間旅費概算

等級	單獨	團體
一等	三三〇・〇〇円	—
二等	二四〇・〇〇	二一〇・〇〇
三等	一二〇・〇〇	一〇〇・〇〇
學生	九〇・〇〇	七五・〇〇

即上記旅費は、船車運賃、急行料金、宿泊料、車中辨當、旅館中食料、車馬賃を含めたものであつて、旅館の中食料を他の飲食店で簡單なものとすれば尚十圓乃至二十圓前後の節約となり得べく、さすれば大畧

一等は一日當り　二十三圓前後　二等は　十六圓前後

三等は　八圓前後　學生は　六圓前後

普通團體は、二等十四圓、三等六圓五十錢　學生團體は五圓前後として豫算する時は、相當の旅行を爲し得られるのである。

◆觀光箇所の選定

限りある日數に對して、各地を最も有效に可及的に詳細に觀光しやうとするためには、豫め旅行の目的等を明示して別項當會社案内所等に照會さるゝならば、無駄のない旅程の下に、相當滿洲の眞狀に徹し得るやう便宜を圖る事になつてゐる。

◆視察日數

視察の程度にも依るが一般觀光には左記日數を割當つれば概畧の目的は達成し得らる。

大連二日　旅順一日　營口半日　鞍山半日　遼陽半日　奉天一日半　撫順一日　長春半日

公主嶺半日　哈爾賓二日　安東一日

◆旅館に就て

洋式旅館　大連、星ケ浦、旅順、奉天、及長春には會社直營の純洋式ヤマトホテルの設けがあり、土地に依り多少共の料金に等差があるが室料は一日三圓五十錢以上各種、食事料は朝一圓七十五錢、晝二圓五十錢、夕三圓である。

日本旅館　會社沿線は各地共旅館の設備完全し、概して內地のそれよりは宿泊料幾分割高となり一等旅館は大畧一日四・五圓以上十二圓迄の各種に別れてゐる。又團體客に對しては豫めその豫算に從つて交涉する時は、採算を度外にした値引奉仕にも應ずるのが例である。

現に學生團は一泊三食付二圓、普通團體三—四圓見當にても應諾し、相當滿足なる待遇を受けると好評を博しつゝあるのである。然し玆に注意すべきは、日程旅館等の手配萬端を豫め或る一方に依賴し、更に別箇に知人なり縣人會等に交渉する爲め重複して混雜を來す事屢な事である。次ぎに會社沿線の各旅館とも、因襲打破の爲めに卒先して茶代廢止を勵行し、中には室料と食料とを別箇に切り離してゐる處もある。使用人に對する心付はもとより其の繁鎖其の奉仕振りによつて相違するが、洋式旅館は普通宿泊料の一割を、日本旅館は二割位を標準とすれば結構である。

◆汽車中の食事に就て

食堂車の食事料は左の通りである。

本　線

洋食　朝一圓、晝及晩一圓五十錢

安奉線

普通列車　洋食朝七十錢、晝及晩一圓二十錢

丼類　五十錢　　急行列車　洋食朝八十五錢、晝及晩一圓五十錢
其他一品料理二十五錢以上　　和食朝八十錢、晝及晩一圓二十錢
上記の外主要驛では列車内に持ち込むで、上等辨當（五十錢）と普通辨當（三十五錢）を賣つて居るが、尙左記には驛構內に食堂の設けがある。
大連、大石橋、遼陽、奉天、鐵嶺、昌圖、公主嶺、長春、安東、撫順

◆車馬賃に就て

車馬賃は豫め行先を示して其の料金を確めて置けば間違ひがないが、さうでない場合屢不當な賃金を强請される事がある。土地なれぬ者は可成旅館自用の車馬に依り或は旅館から命じさせ支拂はせた方が割高であつても安全である。そして若し不都合があつた場合は、大連、旅順の如きは背後の番號を記憶し警察官吏等に通告する事を勵行して欲しい。
視察遊覽者は時間定めとする方が、凡ゆる點で經濟で有利である。

華人の車夫の云ひ値は常に實際より高いが、他に電車の如き競爭の立場のものある時は、その安價なるを說き、それを選ぶ體にすれば、割安く乘れるのである。

車馬種類 / 時間 / 地名	自動車（四人乘） 一時間	自動車（四人乘） 半日	自動車（四人乘） 一日	馬車（二人乘） 一時間	馬車（二人乘） 半日	馬車（二人乘） 一日	人力車 一時間	人力車 半日	人力車 一日
大連	円 五・〇〇	円 二〇・〇〇	円 三五・〇〇	円 ・五〇	円 二・〇〇	円 三・六〇	円 ・四〇	円 一・二〇	円 二・〇〇
旅順	五・〇〇	二〇・〇〇	三五・〇〇	・五〇	二・五〇	五・〇〇	・四〇	一・二〇	二・二〇
奉天	五・〇〇	二〇・〇〇	三五・〇〇	一・〇〇	三・五〇	五・〇〇	・三〇	一・〇〇	一・八〇
長春	五・〇〇	二〇・〇〇	三五・〇〇	・四五	二・五〇	四・〇〇	・三五	一・二〇	二・〇〇
哈爾賓	六・〇〇	二五・〇〇	四〇・〇〇	・八〇	三・〇〇	五・〇〇	・三〇	一・五〇	三・〇〇
吉林	—	—	—	元 ・五〇	元 二・五〇	元 五・〇〇	元 ・二五	元 一・六〇	元 三・〇〇
鄭家屯	—	—	—	・六〇	三・〇〇	五・〇〇	・四〇	一・八〇	三・〇〇
天津	弗 三・〇〇	弗 八・〇〇	弗 二〇・〇〇	弗 ・七〇	弗 二・五〇	弗 六・〇〇	弗 ・二〇	弗 ・八〇	弗 一・六〇
北京	三・〇〇	八・〇〇	一八・〇〇	・五〇	二・〇〇	五・〇〇	・一五	・七〇	一・五〇

◆旅行期節に就て

一般に滿洲の旅行は、內地と同樣春秋の雨季を選び、夏七、八月は雨季として回避する場合があるが、雨季とは云はるゝも其の實は比較的に雨少く大氣濕潤であるといふ程度であつて旅行上さして支障なく、暑さに就ても內地のそれよりは涼味も多く旅は快適なのである。又冬の滿洲は寒い事から旅行者の跡を斷つが特產出廻り期であつて市況活潑、各驛とも大豆、豆粕等は山積殺倒してその壯觀は屢觀者を喫驚せしむる處、然も室內は防寒設備よく整つてゐて冬の旅行も決してしかく回避するに當らないのである。

◆案內所

鮮、滿の旅行に就て萬端の手配、指導、乃至各種利便を要望せらるゝ方は左記會社の特設機關を十分に利用せられ度い。

大連　鐵道部旅客課案內係――大連東公園町本社內

東京　會社鮮滿案内所――東京驛前丸ビル内
大阪　會社鮮滿案内所――東區堺筋瓦町二丁目
下關　會社鮮滿案内所――西細江町三六
其他　此の種の公共機關には
　滿蒙文化協會大連本部――東公園町滿鐵會社前
　滿蒙文化協會奉天支部――淀江町
尙會社の案内所の業務は大畧左の通りであつて、揭記事項以外諸般の便宜にも應じてゐる。
一　滿鮮地方狀況の說明竝に滿蒙企業の紹介
一　旅行日程の作成竝に旅館の紹介
一　汽車の聯絡時刻船車接續狀況の說明
一　貨物運送竝に通關に關する各種の說明

一　滿鮮支那鐵道寢臺の豫約

前記事項無料にて取扱ふ外東京、大阪驛發左記の切符類を乘車の五日前から發賣する。

一　各種聯絡割引乘車船劵の發賣

一　急行列車劵及寢臺車劵の發賣

◆案內書類

朝鮮鐵道旅行案內　（滿鐵京城鐵道局編）　二圓

發賣所、大阪屋號書店　（東京日本橋數寄屋町、一京城、大連其他同支店）

朝鮮、滿洲、支那案內　（鐵道省編）　五圓

英文朝鮮、滿洲、西比利亞案內　（同）　十圓

英文支那案內　（同）　十圓

發賣所、ジヤパン、ツーリスト、ビユーロー　（東京驛內、橫濱、神戶、長崎、北京支部）

鮮滿支那旅程と費用概算　（會社東京鮮滿案內所編）　非賣品

鮮滿支旅行案內（同所）非賣品
滿鮮各地視察便覽（大連滿蒙文化協會編）非賣品

◆紹介狀の携行

如何なる場合に於ても、知已友人の親切以上に旅行を容易に愉快にするものはない。其の意味から、行先地方の然るべき人々に對して、知人友人等の紹介狀を携行する事は、其の地方で多少の時間は面會等で費されても、然し有利至便な事が極めて多いものである。

◆稅關

日本內地稅關

日本內地稅關は關釜聯絡汽船と日支聯絡汽船は船內で、其他は上陸地點の長崎、門司、神戶、橫濱等で行はれる。

朝鮮稅關

朝鮮の出入には朝鮮稅關があつて、關釜聯絡船內、安東驛ホーム其他船舶寄港地に關門を設けてゐる。鴨綠江の鐵橋通過の場合は橋畔で行つてゐる。

關東州稅關

租借地關東州內では、煙草、酒等に課稅してゐる關係から、鐵道で大連に入る場合は普蘭店以南の汽車中で、汽船で入る場合は當該汽船內で前記二種に對し行はれる。そして其煙草、酒類持込免除量は安東に準じてゐる。

支那稅關

支那上陸地竝に內地都市も亦特殊の檢査を行つてゐる。上海、青島、天津は勿論の事、北京でも停車場內にて檢査し、滿洲では安東、大連、旅順等の驛構內で奧地行乘客の手小荷物等を檢査して居る。

稅關檢査に對して特に注意されるものは、內地歸還に對する煙草、酒類、砂糖、絹織物、毛



雛賣り



オーピアムイーター

皮、骨董品類で、手廻品ならば何等顧慮を要しないが
煙草は葉巻五十本、紙巻百本、刻三十匁以内、酒類は二・三本、砂糖は十斤位迄、絹織物
は一疋位
と凡そ不文律のやうに搬入を認められて居るが、元々税關吏の認定によるのであつて、必
ずしも上記を持込量と斷定して税官吏に强請することは出來ない。そして是等税關檢査に
は必ず立會を要するのである。
寫眞器其他課税品を一個以上內地より携出する場合、豫め税關の許可證明を受けて置かぬ
と、歸還の際課税される。

◆通貨

朝鮮各地　日本貨幣

滿鐵沿線　日本及支那貨幣

東支鐵道沿線　支那及露國貨幣、哈爾賓には日本貨幣よく流通する。

支那各地　支那各種貨幣（銀貨本位）

吉長、四洮鐵道沿線　右同

吉林、鄭家屯地方には日本貨多少流通するが、買物等は旅館にて立換乃至は支拂はせる方が便利である。なまなか兩替すると、種類の多い支那紙幣は、他地方に通用せぬ事が多い。

朝鮮は勿論、大連始め滿鐵沿線では內地の紙幣がその儘通用する。然し釣錢は主に朝鮮銀行の紙幣であるから、歸國の節は滿鮮の最終地點にある鮮銀兩替所或は船中で交換されなければならない。

一度支那貨幣に兩替されて、再び殘餘を日本貨に兩替すると其の間に意外の損失を招くものである。從つて日本貨流通範圍ではわざ〳〵兩替せずにその相場の率で品物を御求めに

なるのが一番得策である。換算方法の大體は正比例式で算出される。
釣錢には往々支那銅貨を受取る事があつて、使用困難であるから注意する事が必要である。

滿洲及支那の通貨は頗る複雜で本邦貨幣の外、横濱正金銀行及朝鮮銀行の兌換金券及横濱正金銀行の兌換銀券並に圓銀、支那小銀貨、中國銀行券等其の種類極めて多く、其の內廣く流通してゐるのは支那小銀貨、墨西哥、香港、北洋の各弗銀、中國銀行券（弗銀及小銀貨を本位とする二種あり）、東三省官銀號券（小銀貨を本位とす）等である。之等貨幣は時々の相場に從ひ常に兩替價格に變動を來すので、計算頗る繁雜、加ふるに其の種類によつて普く各地方に通用せず、單に一地方に限られるものがあるから支那旅行に際しては最も信用ある本邦貨幣又は銀行信用狀を携帶し到る處で所要の金額だけを兩替し當座の用に充てられる方がよろしい。

◆標準時

滿洲と支那各地とは支那時間であつて、內地又は朝鮮の時刻より一時間遲れとなり、出入每に時計の整備をせねばならぬ。長春、又哈爾賓、滿洲里以東、浦鹽間は哈爾賓時刻で、支那時刻に二十六分を加へねばならぬ。

◆要塞地帶

大連も旅順も共に我が要塞地帶であつて、大連市內は山形の筆寫撮影をせぬやうにすれば格別の事もないが、景勝地である大連の星ケ浦、老虎灘も、旅順各砲臺も、禁制區であるから注意せねばならぬ。

◆土產物に就て

主なる土產物は

◇絹綢(けんちう)　◇絹緞(けんどん)　◇緞子　◇繻子　◇テーブル掛其他の刺繡品　◇燒茶器　◇支那素麵　◇翡翠　◇アレキサンダー、ルビー、サフイア等寶石類　◇煙草　◇毛皮類　◇砂

糖漬　◇砂糖　◇酒類　◇寫眞器　◇懷中時計　◇甘栗、干柿、◇ロシア飴　◇骨董品　◇硝子製品（大連）　◇支那製雜貨類等であるが、支那內地へ行かる方は北京、天津、上海等が孰れの點よりするも安價である。

滿洲で求めるならば、安東、奉天等比較的安價であるが大連では正札の最も信賴し得る支那商品店二・三があつて安心して買へるが他では其の地方住民の指導を受けて購求するが安全である。

洋服類は北京、上海もさうであるが哈爾賓も頗る安價である。

満洲の印象　　碧梧桐

菊一車買つて並べさせとる　（大　連）
枯芝刈る前のあるき貪る　（星ヶ浦）
吹きさらされて砂地ふむ足並がそろふ　（熊岳城）
蒲團展べてあつて部屋が暖められてる　（湯崗子）
白塔は寒い足どりの後ろに立つとる　（遼　陽）
一人になるまでの火鉢引き寄せた　（五龍背）
栗の皮が枕元に溜つた　（奉　天）
大きな雪のかたまりが沈まうと舞ふのだ　（ハルビン）



満洲の夕日

南滿洲鐵道旅行案内

滿蒙の概況

地域と地勢　滿蒙全書第一卷に、滿洲の稱呼の起源は我が崇德年間に起り、其の意義は諸說の中滿節なる人種名に基くと云ふ市村博士の考證を引照してある。從つて漢人に對する人種別上に呼び慣された滿洲なる言葉に對し、地理上の區域を與へることは頗る困難であつて、二三の地理書には近年に至り漸く滿洲は所謂東三省の地卽奉、吉、黑の三省を抱括すると解釋するやうになつて來たのである。

滿洲に隣接する蒙古の意義に就ては我が白鳥博士が Schmidt の說に從つて Mongal の語根は Mong 卽勇悍の義で、滿洲語の Manga 韓語の Maeng（猛）と語源を均うするものと述べてゐる。

東三省は奉天省三道五七縣、吉林省四道三九縣、黑龍江省三道二九縣八設治一自治區の行政區とし大體北境は黑龍江の幹流に沿うて烏蘇里河合流點に至り、東境は烏蘇里河を溯つて松阿察河に入り興凱湖を兩斷し諸水の分水嶺を傳つて日本海に臨む**ポシエツト灣**に近づき圖們江を經る線によつて露領と界し、更に圖們江、白頭山及鴨綠江によつて朝鮮に接し、南は黃海渤海に濱し、西境は山海關から長柵と哲里木盟界に沿うて熱河特別行政區域に接し、更に外蒙との境界線を經て北方額爾古納河によつて露領と界してゐる。

蒙古の地域に至つては滿洲と同樣に寧ろそれ以上に不確定のもので、大略北緯三七度から五三度に亙り、東經八五度から一二七度に亙り、更に大別して內外兩蒙古と額魯特蒙古の三に分つ事が通例である。そして此の蒙古が滿洲に配屬して滿蒙と云はる場合は、東部內蒙古を意味し卽東四盟、察哈爾東四旗、承德縣に區分されて居る。

滿洲は更に二分して普通に南滿洲、北滿洲と稱してゐるけれども、康熙帝時代に現

在の奉天吉林兩省一帶を老滿と云ひ、黑龍江省一帶を新滿と云つた事と、民國三年に唐紹儀が滿洲の南北二分說を提唱した事を多少其の根據とし、支那側で公式に南北滿洲の名稱を使用した文獻は最近民國十年に奉天管理局を南滿郵務管理局とし、哈爾賓を北滿郵務管理局とした事があるだけである。然し外國側では一八九七年露國大藏省の出版に係る滿洲地誌に「滿洲の領域は反對に傾斜する兩傾斜に區分せらる。北滿、南滿がそれである」と區分限界を示し、露曆一八九八年六月の露支間締結東淸鐵道會社續約第一條に

本契約ニ議定セル東淸鐵道ノ支線ハ、旅順、大連灣海岸ニ達スヘキモノナルカ故ニ名付ケテ東淸鐵道南滿支線ト稱ス

と公文に見え、要するに南北滿洲の稱號は外國側から提唱して民國がそれに從屬したと見做し得る。從つて兩地の區劃に就ても省境界なり、地勢なり、鐵道勢力範圍なり、貿易系統なり、乃至は日露勢力に依つて區分しやうとする等の諸說があつて、他日の

決定に俟つ外はないのである。

滿蒙の地勢は東は長白山脈、西は陰山々脈及大興安嶺、北は小興安嶺によつて抱擁され、黑龍江、松花江、嫩江、洮兒河、烏蘇里河、圖們江、鴨綠江、遼河等の大小の河流灌漑して廣大の平野を南方に展開してゐる。

面積、人口と鐵道　上記の限界に據ると滿蒙の面積は大略七萬四千方里となり、我國の四萬四千方里(含朝鮮)より三萬方里多く、それに對する人口は約二千四百萬、一方里三百三十人に該當し、(我國の人口約五千六百萬、一方里二千二百人)、此の人口と面積に對し文明に伴ふと稱せられた鐵道は本社線が六八六哩、民國國有鐵道の內吉長線七九哩、四洮線二六五哩、京奉線山海關迄と營口支線とを合せ三一八哩、東支本支線合せて約一、〇六七哩、渓城輕便鐵道線一三哩、齊昂輕便線一八哩、通裕鐵道線一八哩、卽鐵道總計二千四百五十五哩となり二五方里に一哩當りであつて我が內地の三方里に對し一哩當りと比すれば及ばざること遠いのである。尙此處に注意すべきこ

とは將來吉會線（會寧、吉林間二六二哩）と大正二年協定の所謂滿蒙五鐵道中の未設線（既設四洮線）である開海線（開原、海龍城間一三三哩）吉海線（吉林、海龍城間一一〇哩）長洮線（長春、洮南間一八〇哩）洮熱線（洮南、熱河間四七〇哩）が開通されない限り日本系に屬する鐵道は全延長の約半に過ぎないと云ふことである。

氣候　大陸的であるとは一言にして滿蒙の氣候を表現する言葉であるが、南滿のそれに就て具體的に例證するならば、大連は緯度に於て內地東北の小牛田、酒田邊りと等しく、冬季の溫度から云へば平均零下五度で札幌邊りと似、夏季の溫度からすると平均八十五度で銚子邊りの涼味と大差がない。そして北方の極寒は零下三四十度であつても、防寒設備完き爲めに居住地としてさのみ脅威に價しないばかりか、寧ろ內地のそれよりは快適のものと言ひ得る。

農產　滿蒙の土地は或る小部分を除いて一般に肥沃であつて、農產地として世界有數のものであるが、就中南滿はよく開墾され、北滿なり蒙古には尚八割の未開墾地

を有つて、歳々農耕されつゝあるのである。其の重要農産物は年約三千萬石以上に及ぶ高粱、二千萬石に上る大豆、同じく二千萬石の粟、玉蜀黍等を以て大宗とし、約三百萬石の陸稻、五十萬石の水稻其他穀類、煙草等であつて、將來有望視さるゝものは水稻、甜菜、亞麻、果樹等の栽培である。

畜　産　畜産は農産に亞ぐ滿蒙の主産物であつて、住民二人に對し一頭の割合となつてゐる。豚六百七十萬頭、馬二百五十萬頭、牛二百萬頭、騾六十萬頭、驢十萬頭、其他駱駝、緬羊、山羊約三百萬頭に及んでゐる。

林　産　木材は主に針葉樹で濶葉木は割合に少い。使用途は建材、棺材、枕木、杭木、薪炭等である。産地は長白山麓地方、鴨綠江、深江流域、北滿海林地方、吉林の三姓地方、蒙古の興安嶺と陰山々脈等で、未調査のものを除いて五六十億萬石以上に查定されてゐる。

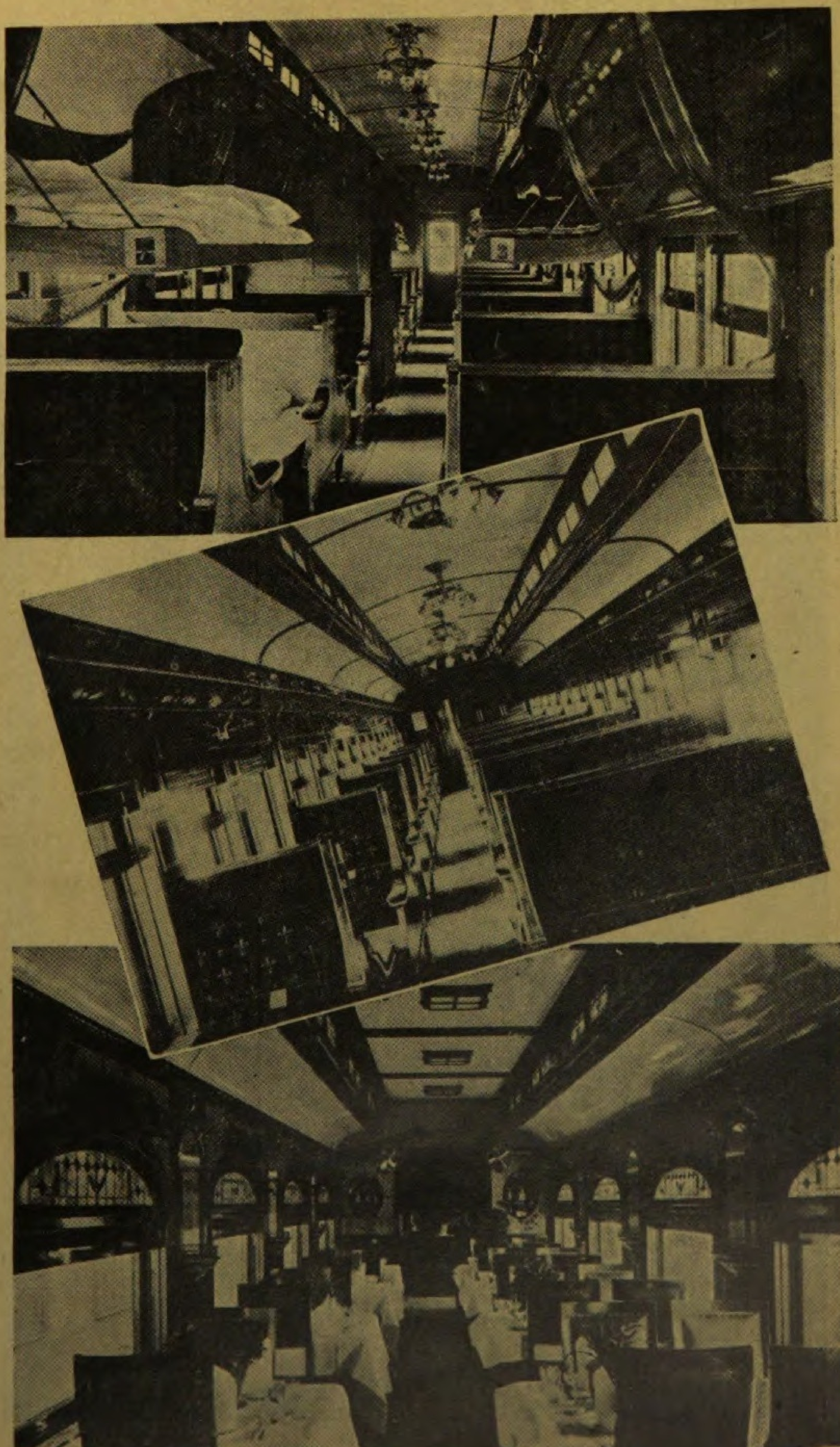
水　産　水産業は微々として見るべきものはないが、一部關東州のみで八年度の統

高粱の收獲





滿鐵本社



一等寢台と一等車內部及食堂車

計によると魚獲二百五十萬圓に上り、暑熱烈しく雨量少い事から製鹽業相當に發達し、適地八千町歩の中、半は利用され年七、八十萬石の産額である。

鑛産　鑛産物では殆ど無盡藏視さるゝ石炭に次いで鐵、砂金、鉛等を産し、蒙古の天然曹達は霜の如く低濕地に層をなし、菱苦土鑛、粘土、石灰石、硅石等の有用鑛物も亦多量に豐藏されてゐる。

大略上記の如き驚く可き資源を包藏する滿蒙は然も世界無比の安價なる勞銀の土地であり、燃料も無盡藏とされ、此の三條件の下に工業地として智識文化と資本とを迎へ以て開拓の緒に就かむとする頗る多望の將來を有つてゐる處なのである。

會社の鐵道事業概況

五億餘萬の會社興業費中、一億九千餘萬圓卽三十七割二分は會社の主體營業である鐵道に投下され、更に之れに港灣、船舶、旅館、工場等の諸費五千四百萬圓を加算す

る時は、滿蒙の交通運送施設の爲めに會社は總興業費の半を割いてゐるのである。

當初會社が創立されて、明治四十年の四月に、政府から引繼いだ際の鐵道は、戰爭の際急遽更改した三呎六吋の狹軌軌幅の長春以南の本支線と、軍隊輸送の爲めに急設を旨として難工事を避けた輕便鐵道の安奉線とであつて、前者は直ちに標準軌幅に改築の工を起し、工事中は謂ふ所の三線式を試み、廣狹兩樣の車輛を巧みに同時に運轉しつゝ、一箇年後の翌五月に完成を告げ、後者は支那當局との折衝に荏苒日を要し、引繼後三箇年以內に改築すべく政府より命ぜられながら起工徒らに遷延して、明治四十二年に至つて漸く起工し、二箇年三箇月を閱して廣軌工事を完成したのである。

現在營業總哩六八六哩、起點を大連港に置き、周水子にて旅順支線を、大石橋にて營口支線を、蘇家屯にて安奉線を、渾河にて撫順支線を射出し、奉天にて京奉線と、四平街にて蒙古白音太來、洮南に至る四洮線と、長春にて吉長、東支と孰れも聯絡し、本線四三九哩、安奉線一六二哩、四支線計八五哩である。延長總哩よりすれば一千哩

に滿たざる鐵道ではあつても、東支鐵道と接續して世界交通路の一部となり、朝鮮線と續いて東亞交通の動脈となり、東亞に於ける交通樞軸の感あるのである。

大正十二年九月末現在當會社の車輛數は機關車三百六十六、客車類三百七十三、貨車六千百八十輛、停車場百十五驛、機關車十二であつて、大正十一年度の營業は客車收入一四に對し、貨車收入七八、其他八の割合を示し、その收支は

一日平均			一哩平均			一日一哩平均		
收入	支出	益	收入	支出	益	收入	支出	益
二四〇、五八四円	九三、六一四円	一四六、九六九円	一三八、〇〇七円	四九、八〇九円	七八、一九八円	三五〇・七二円	一三六・四六円	二一四・二四円

上記一日平均收入に對し、之れを明治四十年と比するならば、其の當時は

	收入	支出	益
一日平均	三六、六九一円	二六、六七一円	一〇、〇二〇円

即收入に於て九倍、支出六倍、益に於て十四倍の驚くべき成績を擧げつゝあるのである。

旅客運送　當初は野戰鐵道の制度そのまゝを踏襲して等級を二、三等の二級とし、十錢を單位とする賃率を採つてゐたが、其の十月に銀建から金建に改め、翌四十一年廣軌開通と同時に等級を三級制とし、從來省線に準じて遞次累加であつた賃率を距離比例に改正し、更に大正八年現在の如き一人一哩三等二錢五厘、二等四錢五厘、一等七錢の賃率を採用するに至つたのである。

一方旅客列車竝聯絡施設に對しては、明治四十一年十月に上海航路を開始して船車聯絡を整へ、同時に完璧の定評ある**プルマン**客車を購入して、之れを大連長春間の急行列車に使用し、寢臺、食堂車を連結し、越えて鴨綠江架橋の竣成を告ぐるを俟つて鮮滿を一貫する直通竝急行列車を運行し、玆に東淸鐵道を介して極東と西歐間とを僅僅二週間の最短日時に結ぶ、國際交通聯絡の端を開いたのである。

今左記會社の客車收入の進展を示す統計表の一部を掲載するならば

年度	乗車人員	收入	一日一哩平均 人員	一日一哩平均 收入
明治四十年	一、五一二、二三一人	三、五九四、二三九円	五四五・二人	一三・九二三円
明治四十一年	一、八六八、一四〇	二、九六四、五八七	五三一・七	一一・五一八
大正八年	九、二七四、一一四	一四、二四三、七九〇	二、三〇一・四	五九・九六〇
大正十一年	七、六四五、〇六八	一二、三八九、四六四	一、八三八・八	五〇・〇七九

（參考　國有鐵道十年度客車收入一日一哩平均九〇圓）

即右表によれば會社の客車收入は創業より十六歳の間に乘車人員に於て五倍となり、運賃收入に於て三倍四分五厘の增加となつてゐるのである。


貨物運送　各驛に蝟集殺倒山積して貨物運送開始當時の野戰鐵道從事員を戰慄脅威せしめた大豆、豆粕等の滿蒙特產物は、冬を出廻りの最盛季として、其の季節には奥

地々方の滯貨甚しく、夏はその閑散期であつて出廻り少く、會社は此の季節を以て石炭の輸送を行ひ出貨の平均を圖るのであるが鐵道營業收入の約八割は實に是等貨物の輸送より得るのである。

當初會社は貨物も亦旅客運賃と同樣野戰鐵道時代其の儘を踏襲して通常、貨切の二種扱とし銀建に據つてゐたが、廣軌の開通に伴ひ、原料產地に適應する大量積載貨車を設備して、輸送能力に霄壤の差を與へ、明治四十二年には其の運送規程を根本より改正し、積卸しの直營を行ひ、三級制から四級制に、米噸を一千五百十二斤に、一車扱貨物の種類限定、及賃率の輕減を實行し、後大正八年複線工事の完成、車輛の改良等其他時運に適應せしむる變改を行ふと共に、約四割方の運賃値上を行つて現今に及んでゐる。其の運賃率は左の如くである。



地々方の滯貨甚しく、夏はその閑散期であつて出廻り少く、會社は此の季節を以て石炭の輸送を行ひ出貨の



	小口扱（百斤一哩ニ付）				一車扱		
	四級品	三級品	二級品	一級品	四級品	三級品	二級品
一〇〇哩迄	二・五〇厘	三・七五厘	五・〇〇厘	六・二五厘	二・五〇錢	三・七五錢	五・〇〇錢
二〇〇哩迄	二・四〇	三・六〇	四・八〇	六・〇〇	二・四〇	三・六〇	四・八〇
四〇〇哩迄	二・三〇	三・四五	四・六〇	五・七五	二・三〇	三・四五	四・六〇
四〇一哩以上	二・二〇	三・三〇	四・四〇	五・五〇	二・二〇	三・三〇	四・四〇

註　一斤—一六〇匁　一噸—一、五三三斤—二、〇〇〇封度　（累加計算法による）

開業以來貨物の運送は極めて順調の發展を遂げ、運賃收入の最高は其の輸送距離の大なる大豆及豆粕、數量の最高は石炭と略一定し左の如き成績を示してゐる。

年度	噸數	收入	一日一哩平均 噸數	一日一哩平均 收入
明治四十年	一、四八六、四三四	六、一六〇、二七四円	一、〇五一・五	二三・八三八円
明治四十一年	二、六〇九、〇三九	九、五四二、二六二	一、九八九・三	三六・九七九
大正八年	一〇、〇九六、六七三	四六、三〇五、七五九	八、二二一・五	一八四・一九五
大正十一年	一三、〇四三、八七〇	六九、五一八、一一二	一一、〇七三・八	二七七・六三九

（參考　國有鐵道大正十年度貨車收入一日一哩平均六九圓）

即過去に於ける增加率は取扱噸數にて八倍一分、收入にて十一倍餘となり、歐洲戰後の世界的不況にも些の影響なく、逐年增加しつゝある事は注目に價すべく、以て滿蒙の特產の如何に豊富であるかを語る一證查とするに足るべし。左は特產物の輸送成績である。

年度	大豆	高粱	玉蜀黍	粟	石炭
明治四十三年	六六八、一八九噸	六九、三二九噸	一五、三二六噸	二四、六六六噸	一、一二九、九〇五噸
大正八年	一、八三八、五〇七	二四三、九二一	九〇、四九四	一八〇、七九三	三、三六七、四六〇
大正九年	一、八六一、九二五	五一八、二二九	一一六、五六二	一七五、三五〇	三、四九九、四一五
大正十年	一、八二九、八九三	七五〇、四一一	一六四、八四八	一四〇、六六三	三、七五二、二三三
大正十一年	一、八五九、八九六	九一三、一九九	二二九、〇三〇	一八〇、〇四三	五、一三三、六七八

右表に依つて、大豆三倍、高粱十三倍、玉蜀黍十五倍、粟八倍、石炭五倍の增加指數であることを知るを得べく、當會社が滿蒙天產物に對し、其の輸送竝發達に寄與することの如何に多大なるかを想像し得べし。

本　線

關東州の大連を起點として、遼陽を過ぎ、東三省の首都奉天を經、鐵嶺、開原等の都邑を貫き、遼河、松花江流域の分水界公主嶺を越え、進んで長春に至る延長四百三十七哩六分は會社の本線である。沿道の地勢概して平坦であつて一の隧道なく、最急勾配と云ふも僅に百分の一にしか過ぎぬのである。

大連、長春間急行は十三時間、普通直通列車は十八時間を要してゐる。奉天へはほぼ其の半を要し、急行七時間、普通十時間で達する。そして上記兩終點に一日急行一回、直通二回を運轉し、其他は區間列車である。

此の南滿本線の竣成は云ふまでもなく、沿道に急速な發展を促し、金州から熊岳城附近間に特產する落花生並鹽の生產を誘發激增せしめ、奉天附近に甜菜を、松樹、鐵嶺附近に所謂滿洲米を產する水田の普及を見るに至り、以北に及ぶに從つて增大して

行く大豆の產額にも影響を與へてゐる。

今大正十一年度に於ける、四、五品目に就て本線主要驛發送貨物噸數を示すならば左の通りである。

米	鐵嶺	七、六七〇噸
	奉天	五、五二三
	開原	四、三二四
	遼陽	二、二四二
	松樹	一、七一三
	公主嶺	一、〇六三
大豆	開原	二六〇、八一五噸
	長春	一三九、六一四
	公主嶺	一一七、〇六〇
	范家屯	八七、五七二
	四平街	六四、九四九
	郭家店	二九、一五九
高粱	長春	一六二、八九六噸
	開原	一二三、四九四
	四平街	九〇、九一六
	范家屯	八六、三〇一
	公主嶺	七六、一四八
	郭家店	四八、四五八
玉蜀黍	郭家店	八五、五一七噸
	開原	三〇、二四〇
	長春	二九、二四九
	四平街	八、七八〇
	公主嶺	八、七六六
	海城	六、三四六

粟	長春	四五,五三〇
	四平街	三〇,六七三
	昌圖	二〇,七六三
	遼陽	一〇,七六〇
	海城	八,一三〇
落花生	普蘭店	六,二六六
	三十里堡	三,九七〇
	奉天	三,二七〇
	熊岳城	一,八七八
	二十里臺	一,八四六
繭	松樹	二,八四四
	開原	一,五二七
	熊岳城	一,三三〇
	海城	一,一五四
	萬家嶺	九一一
鹽	太平山	四〇,九四七
	蓋平	二一,二五八
	普蘭店	七,五三五
	大石橋	四,一三八
	田家	五八〇

甜菜	新城子	八,四六八
	蘇家屯	八,一二五
	新臺子	四,〇四三
	首山	二,二一八
	遼陽	一,五九三
豆粕	范家屯	二四,七五七
	開原	二一,九五一
	長春	二一,三六〇
	鐵嶺	一九,一五二
	撫順	一八,六三九
小麥	開原	一七,二二八
	公主嶺	一四,三三三
	長春	八,五〇九
	范家屯	四,〇七五
	四平街	三,一二八
酒類	遼陽	三,四六六
	千山	一,一〇八
	奉天	一,〇四八
	海城	六四三
	十里河	五四六

🄳大連 (Dairen)

	粁	哩		浬
周水子	九・三	五・五	門司	六一四
奉天	三九七・〇	二四六・四	上海	五三〇
長春	七〇一・八	四三五・八	青島	二三九
釜山	一五九一・六	九八九・二		

大連驛 ●赤帽(一箇金五錢) ●公衆電報取扱驛 ●構内食堂 ●携帯品一時預驛 ●手小荷物市内配達

大連埠頭 ●赤帽(一箇金五錢) ●客船待合食堂 ●手小荷物市内配達 ●公衆電報取扱 ●鮮銀兩替店

年度	乗降客數		發著貨物噸數	
	乗車	降車	發送	到著
明治四十年	一三五、七三三	一三五、四七一	三〇五、四七一	四二〇、二〇四
大正十年	五三三、五三一	五一三、五九二	四八七、〇三五	四、八四三、五六一
大正十一年	六〇八、七〇二	六一一、二七二	四七六、〇一五	五、七八三、五六九



大廣場の一部



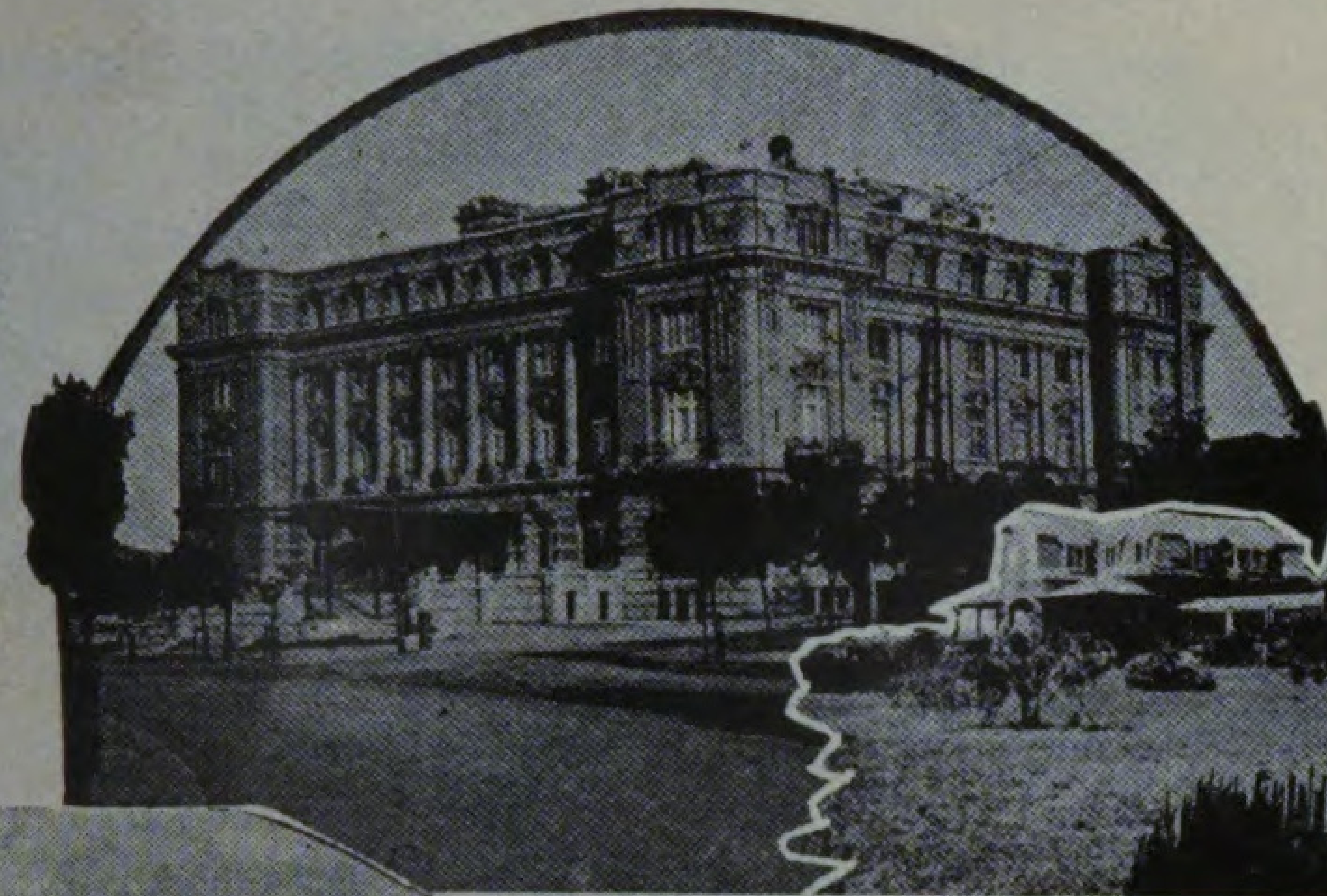
支那芝居



浪速町通



常盤橋附近



大連ヤマトホテル



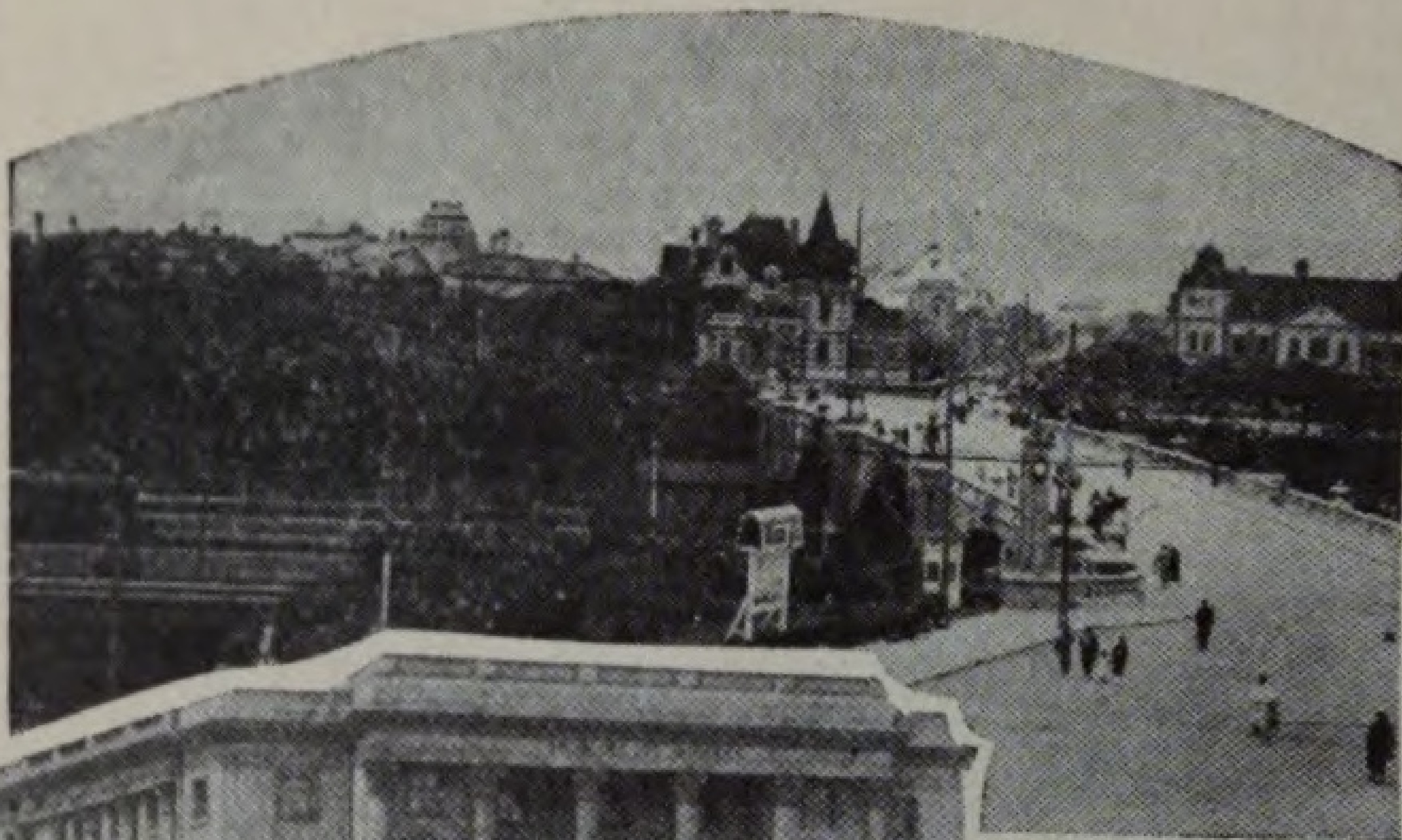
星ケ浦ヤマトホテル



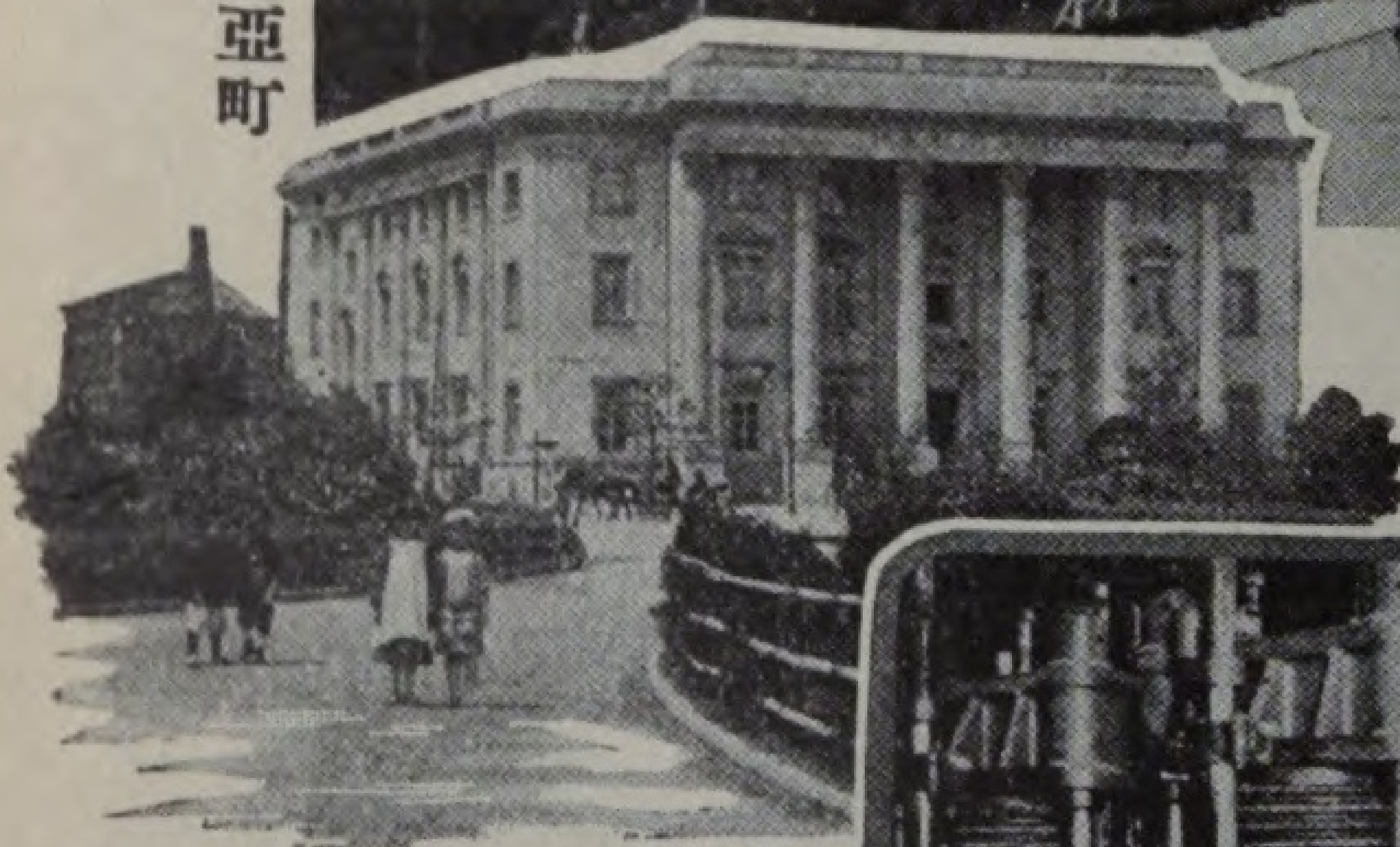
星ケ浦ゴルフリンク



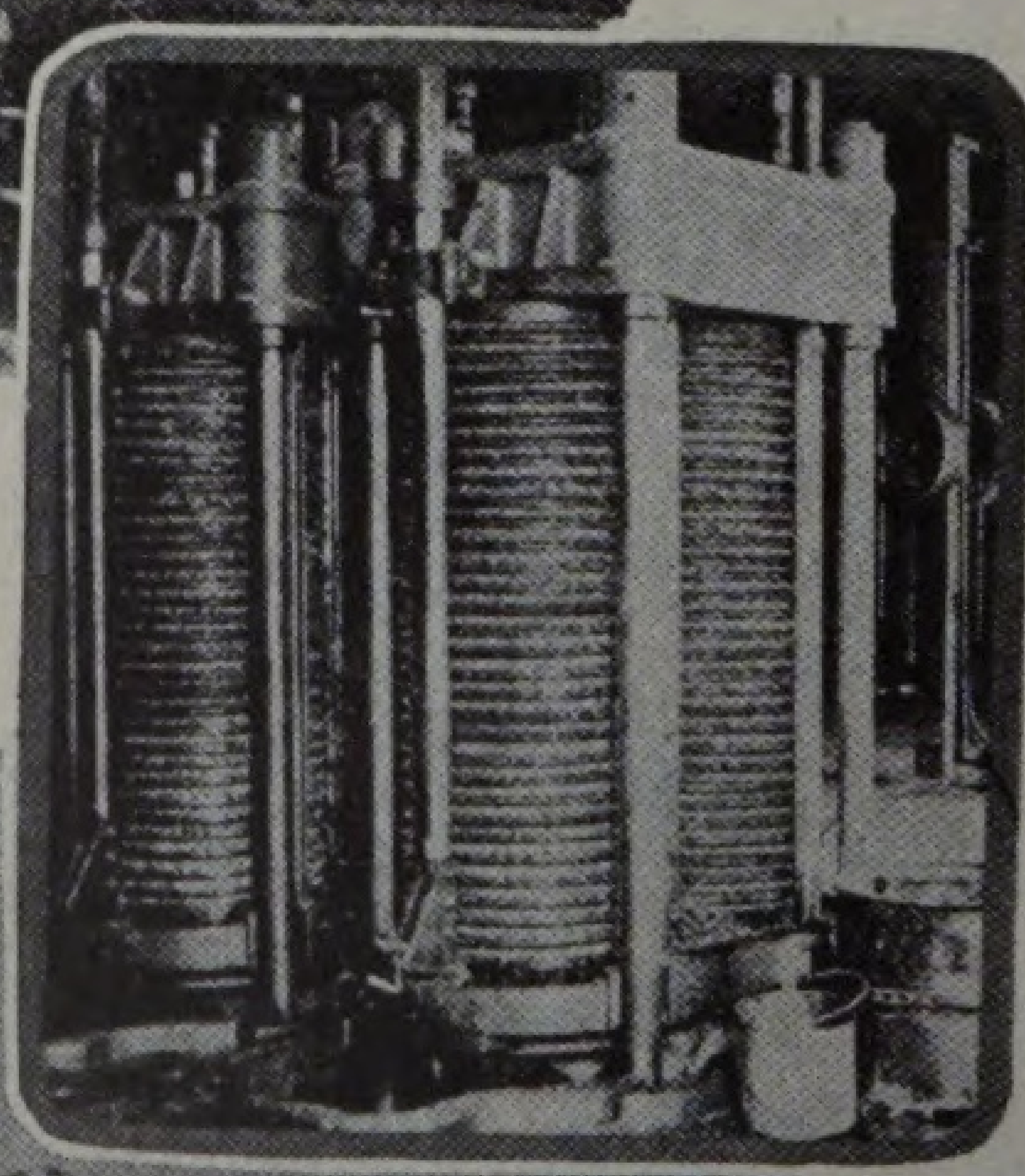
南山麓スケート場



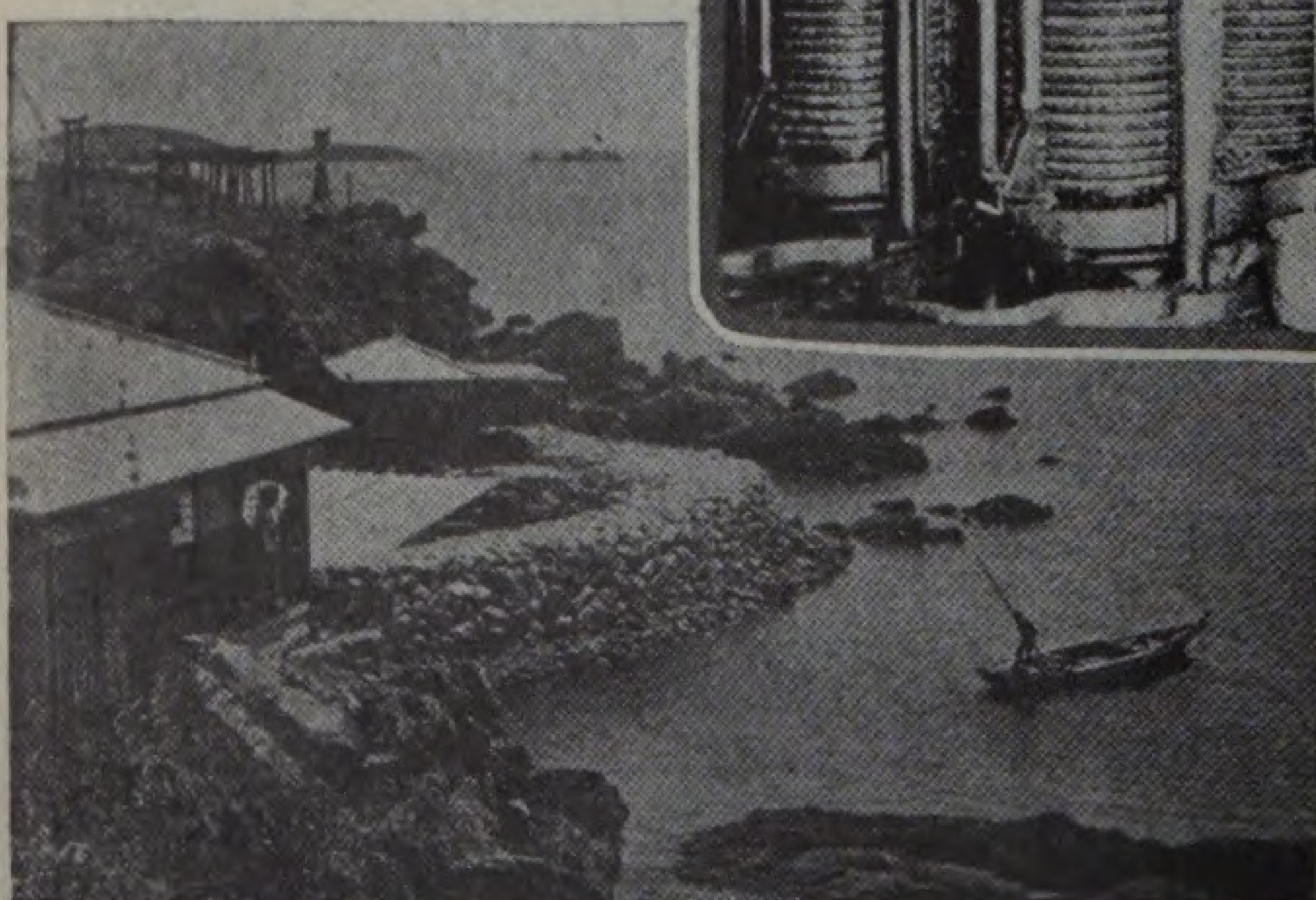
露西亜町



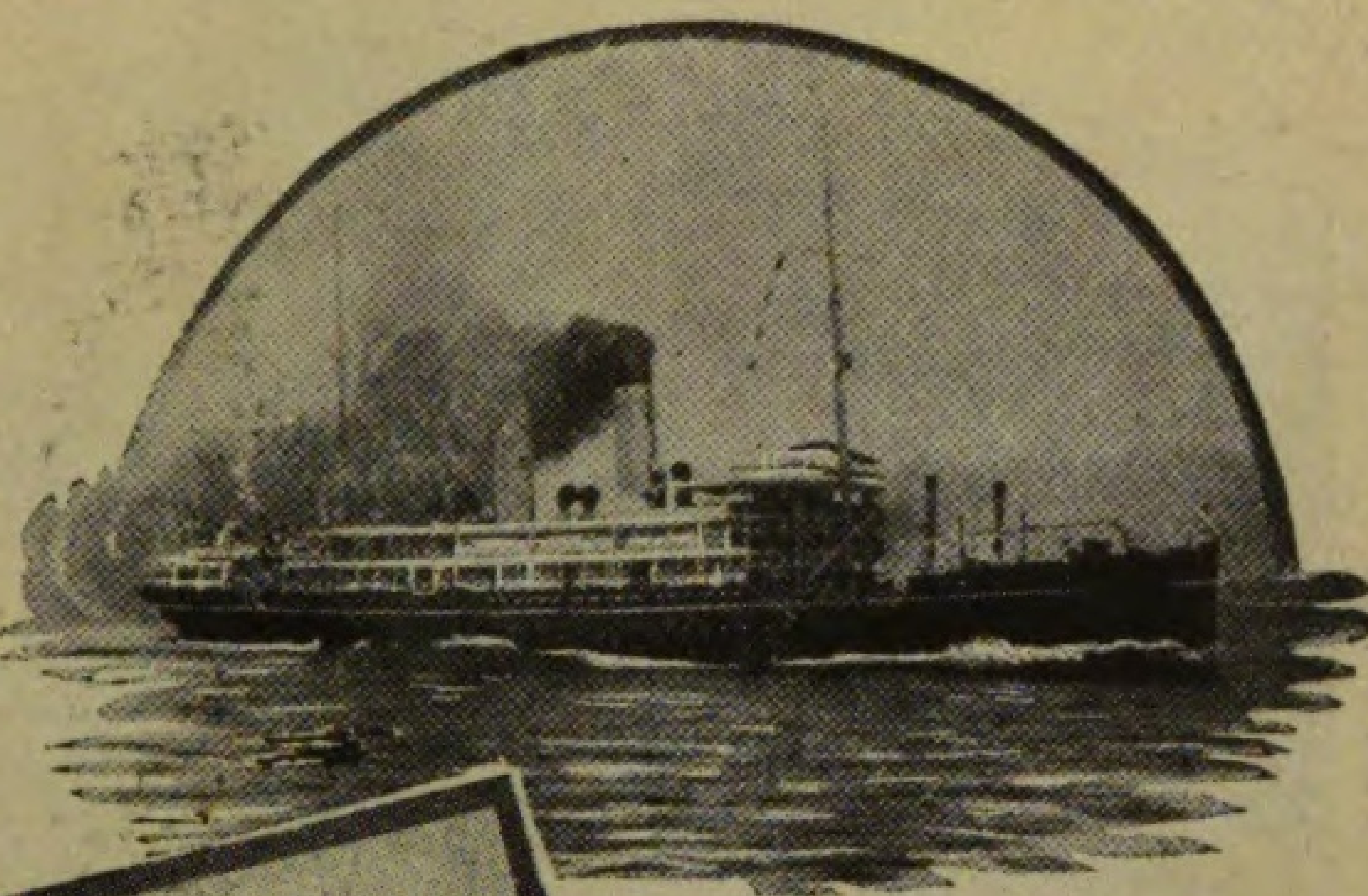
朝鮮銀行



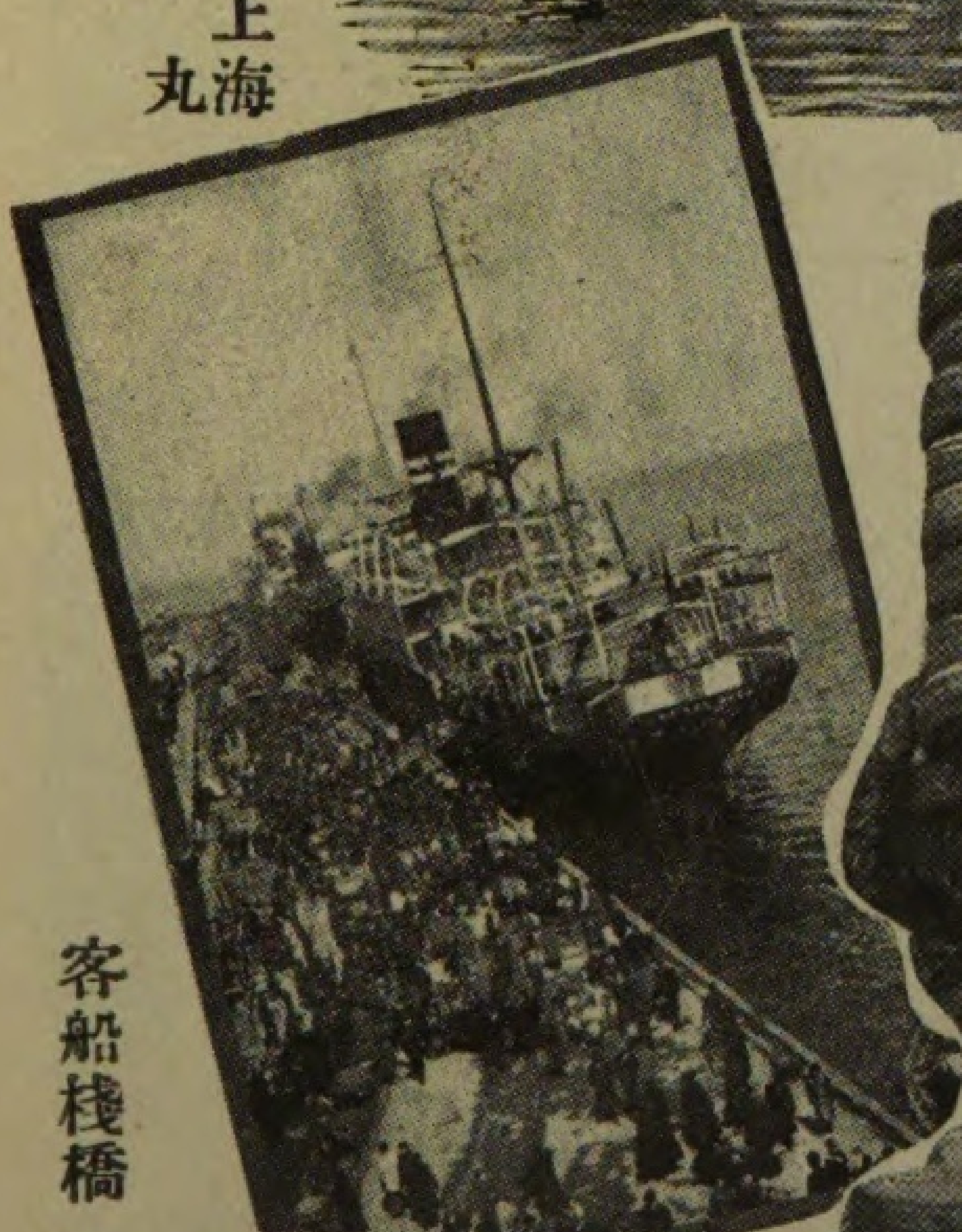
豆油壓搾



老虎灘の涼味



大連、青島、上海連絡榊丸



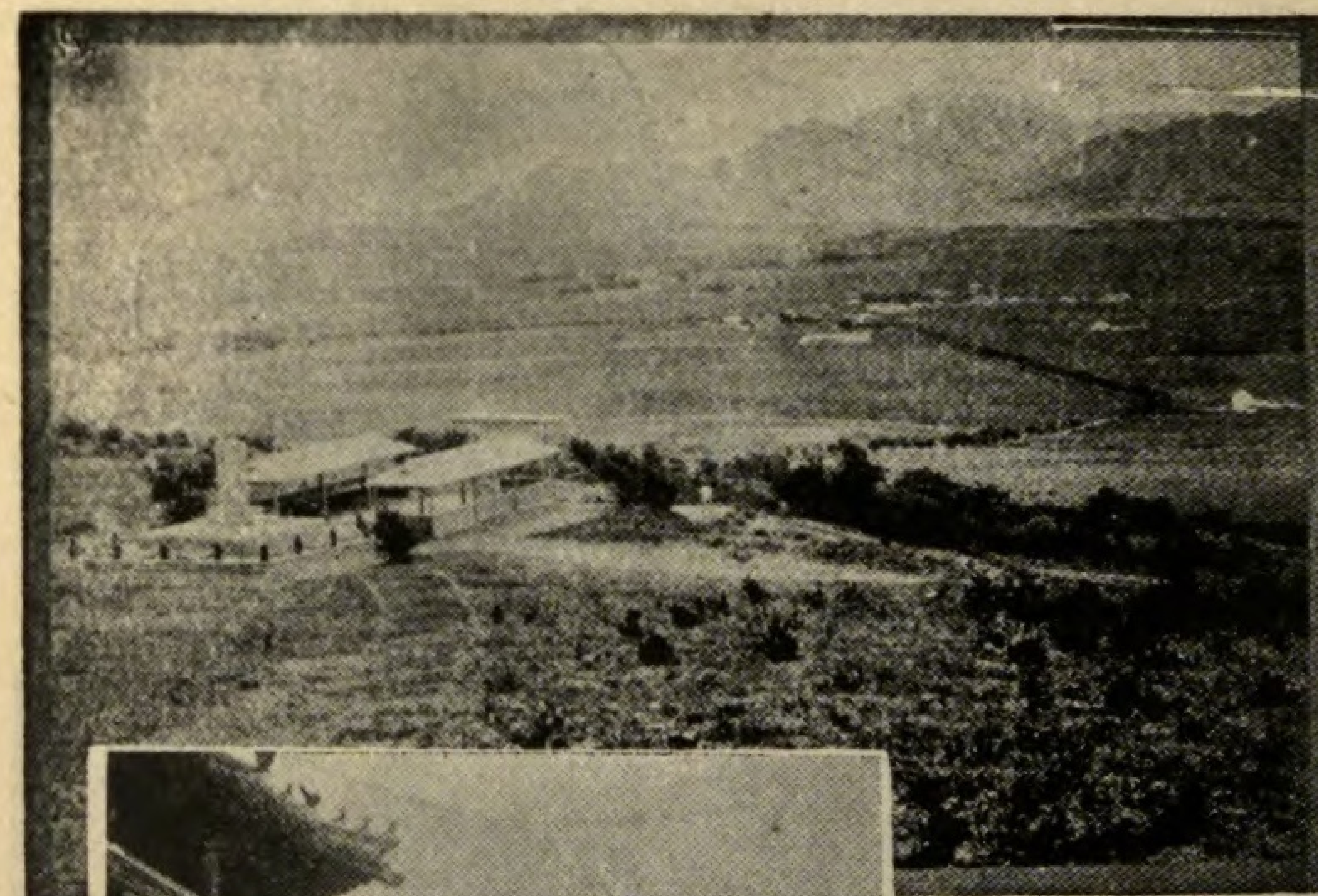
客船桟橋



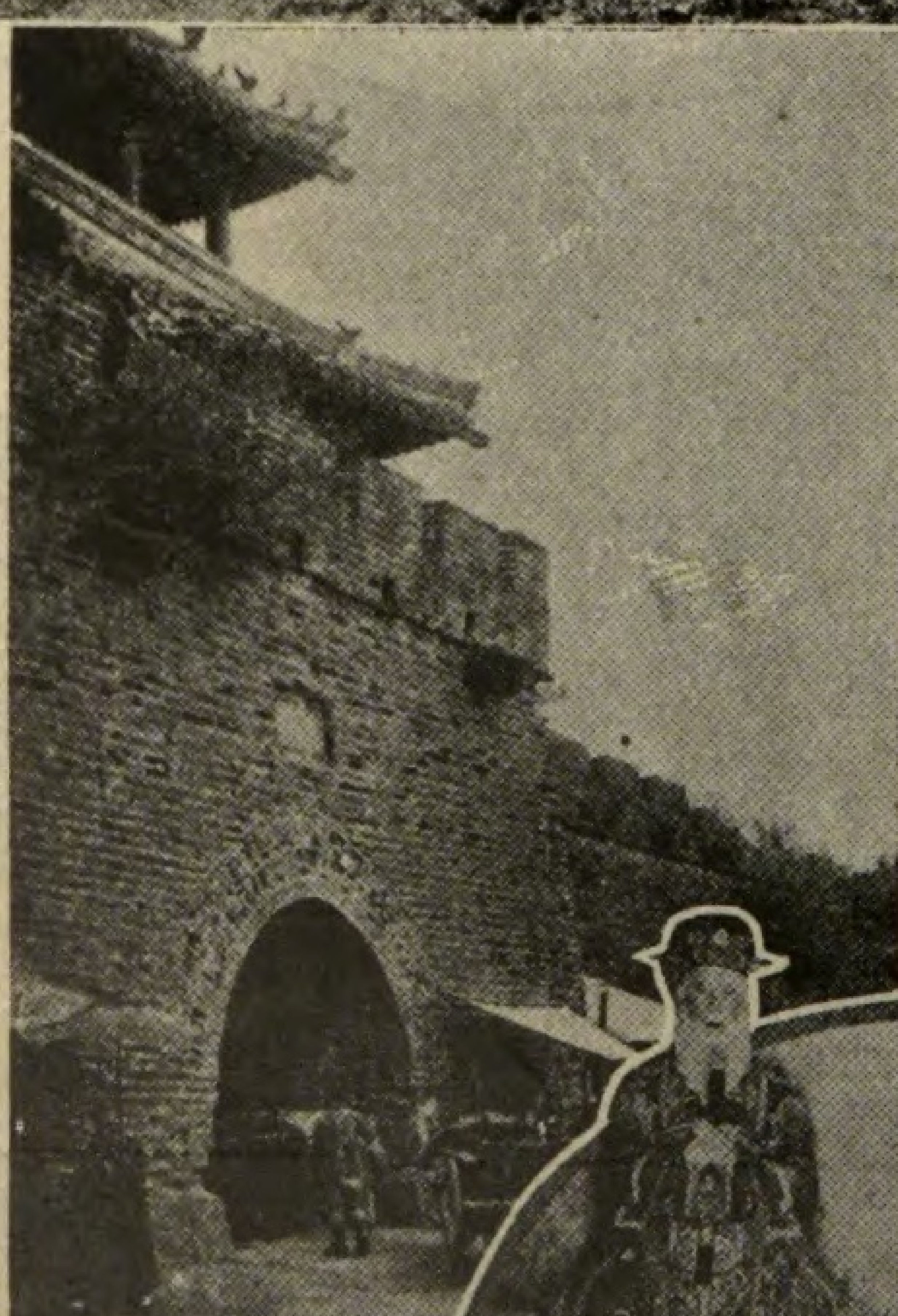
埠頭豆粕荷役



沙河口工場



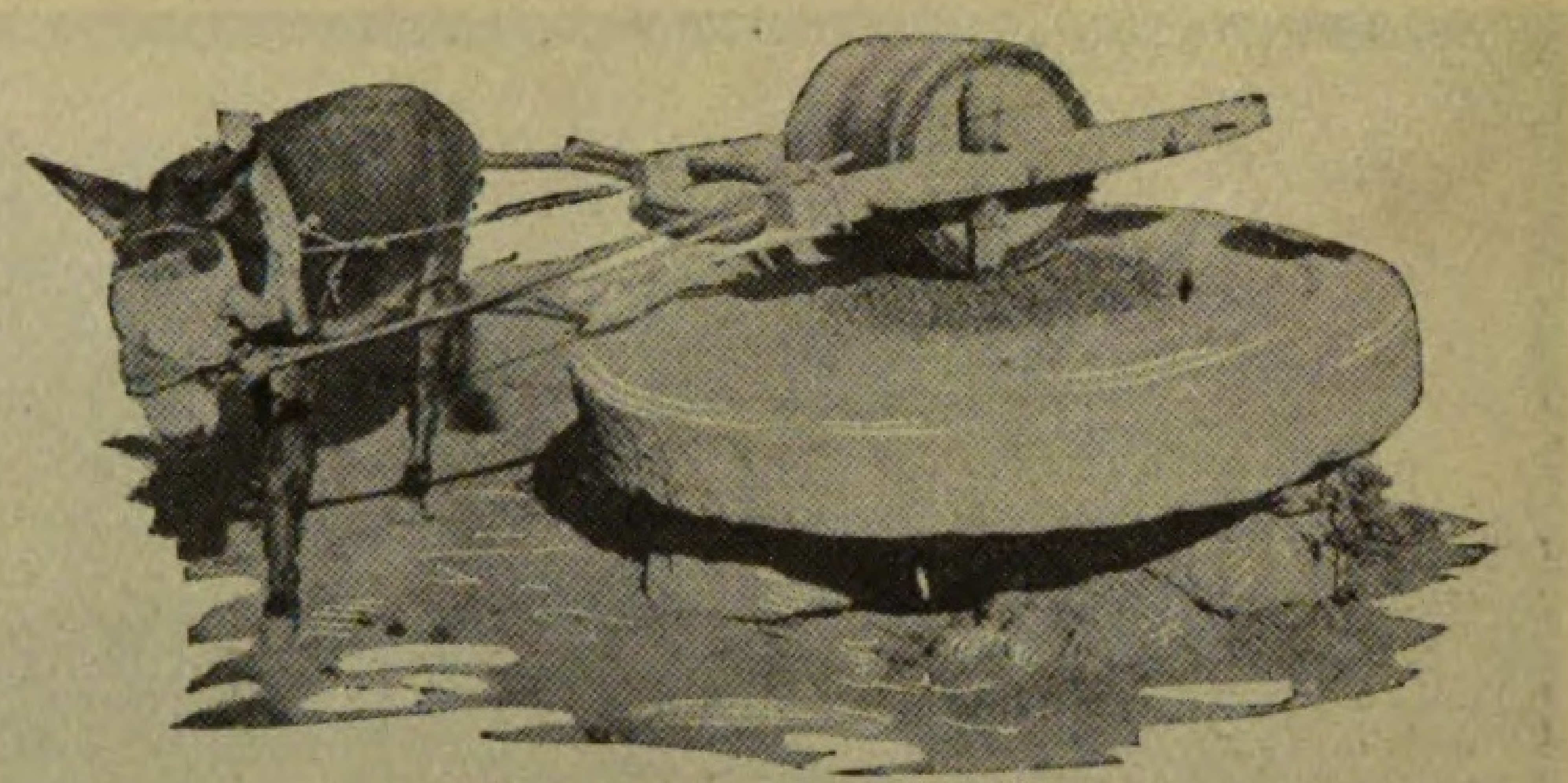
南山の顧望



金州城門



天齊廟內部



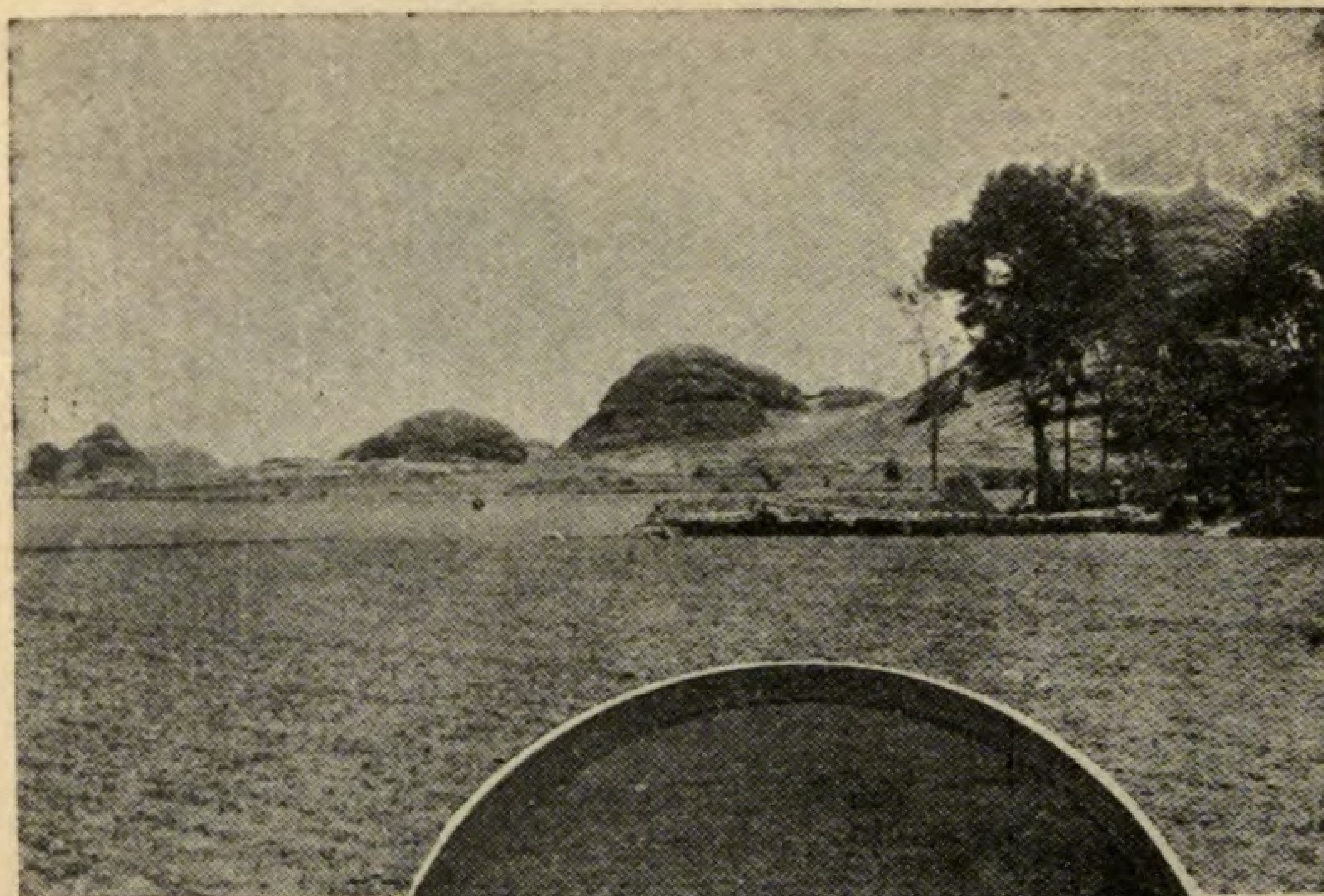
驢馬挽粉



大石橋迷鎭山娘々祭



營口遼河



望小山遠望



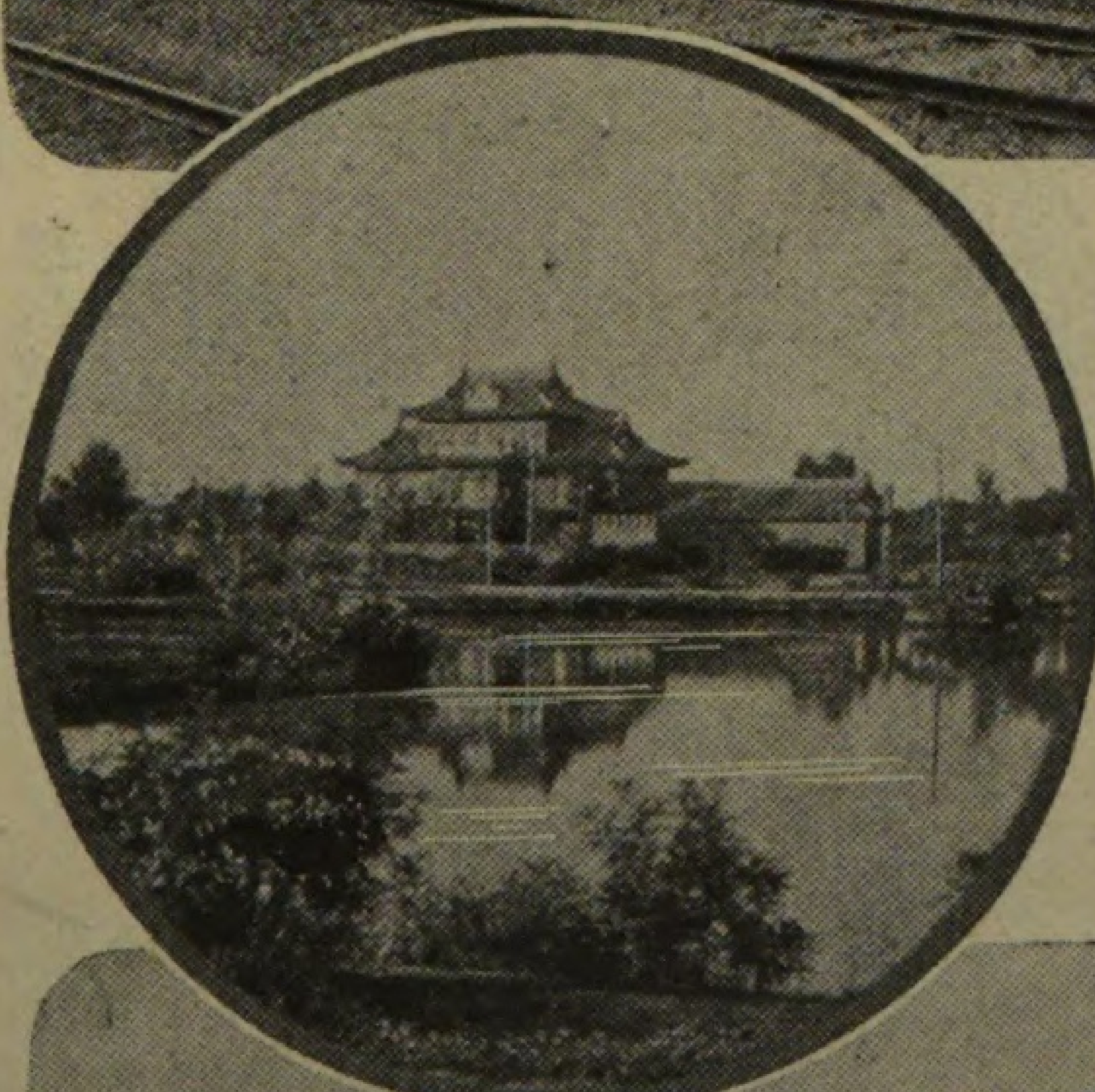
熊岳城砂風呂浴



觀寶山喇嘛洞



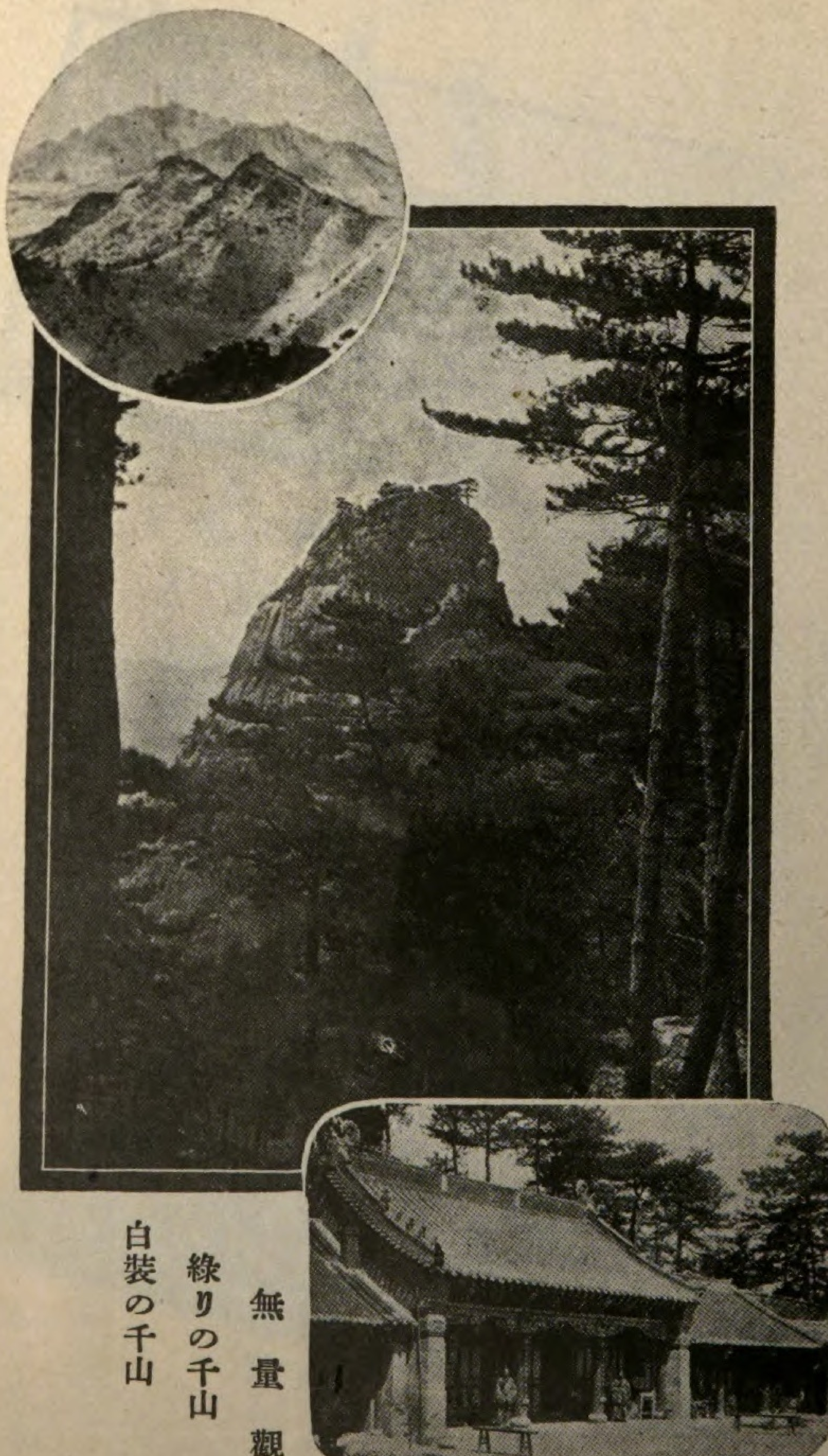
湯崗子驛



支那館龍泉別墅



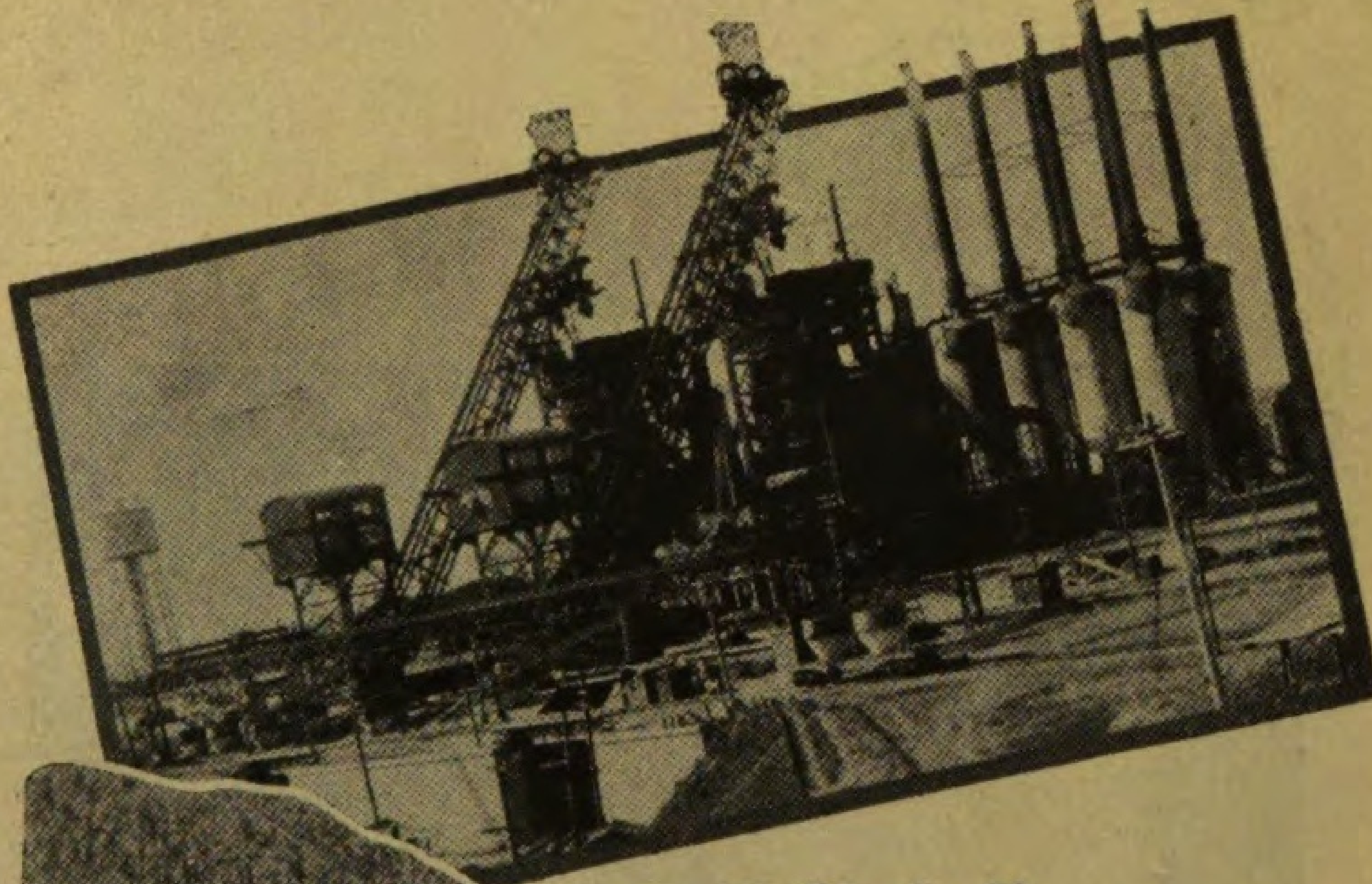
對翠閣及玉泉館



無量観

緑りの千山

白装の千山



鞍山製鐵所



大孤山鑛區



首山堡戰蹟

【視察に便宜を供與する處】 ○滿蒙文化協會（東公園町滿鐵本社前） ○滿鐵本社（東公園町） ○商業會議所（敷島町） ○民政署（大廣場） ○市役所（大廣場）

上記の中滿蒙文化協會は法人組織の公共機關であつて、指導案内を求むるに最も適當の處である。滿鐵本社内旅客課案内係も亦各種の便宜を與ふる處であつて、他は此の種に對する特設のものではない。

【視察行程】 埠頭—油房—苦力收容所—大廣場—中央試驗所—星ケ浦—沙河口工場—支那町小崗子—露天市場—窯業試驗工場—地質調査所—老虎灘等で、一日ならば其の一部分を、二日ならば全部を視察觀光し得べく、若し當日日曜日に當該する場合は、旅順の觀光に當てるがよい。尙油房は夏季概ね休業する。

尙上記以外の主なる地點は

電氣瓦斯作業所—屠畜場—重要物産取引所—錢鈔取引所—株式商品取引所—自働式電話交換局—大連神社—本願寺—表忠碑—西公園—北公園—電氣遊園—春日池—露西亞町埠頭—車夫合宿所—豆油タンク—支那芝居—支那風呂—

信濃町市場―浪速町通―小森匂雅堂等

【車馬賃】 **電車**(市內一圓片道五錢、往復十錢、市外一區每に同上、回數壹圓券二十二區分)**自動車**(タクシー四人迄市內一回一圓五十錢、一時間三圓、半日十二圓、一日二十圓星ヶ浦竝老虎灘片道二圓。ヤマトホテルハイヤー市內一回二圓五十錢、半日二十五圓、一日四十圓、星ヶ浦及老虎灘片道五圓)**俥**(一時間四十錢、半日八十錢、一日一圓五十錢、十町以內二十錢、二十町以內三十錢、一里以內五十錢)**馬車**(二人乘一時間五十錢、半日二圓、一日三圓六十錢、五町以內二十錢、十町以內四十錢、一里未滿九十錢)。

【旅館】 大連ヤマトホテル(大廣場)、會社の經營する純洋式旅館であつて室料三・五〇圓以上各種、食事料朝一・五〇圓、晝二・五〇圓、夕三・〇〇圓。米式九・五〇圓以上。船車發著の都度制服著用の送迎人を派遣する。遼東ホテル(信濃町)、和洋兩樣の設備ある特等旅館である。宿泊料四・〇〇―一〇・〇〇圓。其他一等旅館に東鄕旅館(東鄕町)、磐城ホテル(磐城町)、日本橋ホテル(伊勢町)、花屋ホテル(信濃町)、鎭西旅館(信濃町)、春田旅館(吉野町)、東旅館(信濃町)、大連ホテル(磐

城町)、以上宿泊料三・〇〇—六・〇〇圓。二等旅館に富士屋旅館(信濃町)、辰巳旅館(常陸町)、大阪屋旅館(吉野町)、以上宿泊料二・五〇—六・〇〇圓。支那旅館には萬聚棧(山縣通、一泊食事付一元一角)、聚蚨棧(常陸町、同上)中華棧(奥町、同上)等。

【旗亭】扇芳亭(磐城町)、濱廼家(常磐町)、湖月(美濃町)、星の家(星ヶ浦)、支那料理— 泰華樓(監部通)、共和樓(淡路町)、群英樓(東鄉町)、聚仙樓(羽前町)等。

【定期客船】大連埠頭に發著するものを擧ぐれば

▽大連汽船

天津—大連—安東線　月三回
大連—天津線　月六回乃至十回
大連—龍口線　月六回
大連—青島—上海線　四日乃至六日目

▽滿洲運輸

大連—貔子窩線　一日三回
大連—柳樹屯線　一日三回

▽政記公司

大連—芝罘線　隔日一回

▽阿波共同

大連—芝罘—仁川線　一週一回
大連—芝罘—青島線　一週一回

▽朝鮮郵船

仁川—青島—大連—芝罘線
朝鮮—北支那線　約十日目一回

▽東洋汽船

香港—北米線

日本—歐洲線(往航)　月一回

甲谷陀—ニューオルレアンス線(復航)　月一回

▽大阪商船

大阪—神戸—大連線　每週二回

高雄—天津—大連線　月二回以上

ビューゼツトサウンド線(往航)

紐育線(往航)　月一回

▽近海郵船

横濱—北支那線　十日目一回

大阪—大連—牛莊線　月一回

(冬季休航)

【官公署】大連民政署、大連市役所、遞信局、海務局、土木課出張所、水産試驗場、憲兵分隊、關東倉庫支庫、陸軍經理部、要塞司令部派出所、大連海關、英國領事館、米國領事館、和蘭領事取扱、露國領事館、丁抹領事取扱。

【學校、圖書館、社寺】南滿工業專門學校、大連商業學校、第一中學校、第二中學校、大連市立高等女學校、廳立高等女學校、高等小學校三、尋常小學校八、幼稚園七、公學堂四、滿鐵圖書館、埠頭圖書館、簡易圖書館四、大連神社、沙河口神社、東西兩本願寺別院、曹洞宗常安寺、淨土宗明照寺、日蓮宗大連教會、高野山大師教會、日本基督教會、聖公會、救世軍小隊、福音教會、青年會館、其他金光、大社、御嶽、黑住、天理教會所等。

【銀行、會社】南滿洲鐵道、正隆銀行、龍口銀行、滿洲銀行、大連株式商品、滿蒙土

地建物、大連郊外土地。（支店又は出張所）三越、正金、大阪商船、三井物産、鮮銀、日本綿花、東洋拓殖、大倉商事、三菱商事、國際運輸、東亞煙草、東亞證券、日本電氣、東京電氣、東洋道路工業、日立製作所、古川電氣、鈴木商店等。中國銀行、交通銀行、露亞銀行、香港上海銀行、バーデンス商會、ブラナーモンド商會、スタンダード石油會社（美孚洋行）、シンガーミシン會社、太沽洋行、和記洋行等（資本一千萬圓以上）

【商業機關】大連商業會議所、滿洲重要物産同業組合、公議所、市場、實業俱樂部、滿蒙文化協會等。

【新聞雜誌】滿洲日々新聞社（東公園町）、遼東新報社（敷嶋町）、大連新聞社（淡路町）、關東新聞社（三河町、週刊）、マンチュリアデリニュース社（週刊）、泰東日報社（支那文）關東報（同上）、滿洲報（同上）、滿蒙（滿蒙文化協會）、新天地社、大陸、滿洲公論社。

【病院】滿鐵大連醫院（露西亞町）、同分院（神明町）、大連婦人病院（南山麓）、大連療病院（王家屯、避病院）、大連慈惠病院（南山麓）、宏濟醫院（小崗子）、其他私立醫院二五、齒科醫院一〇、眼科醫院一、等。

【娛樂】大連劇場（若狹町）、歌舞伎座（敷島町）、浪速館（浪速町）、電氣館（電氣遊園）、高等演藝館（西廣場）、保善茶園（奧町、民國劇場）、同樂舞臺、三星茶園（小崗子）。

概觀　北緯三八度五五、東經一二一度三五、我が內地の山形、仙臺より北に

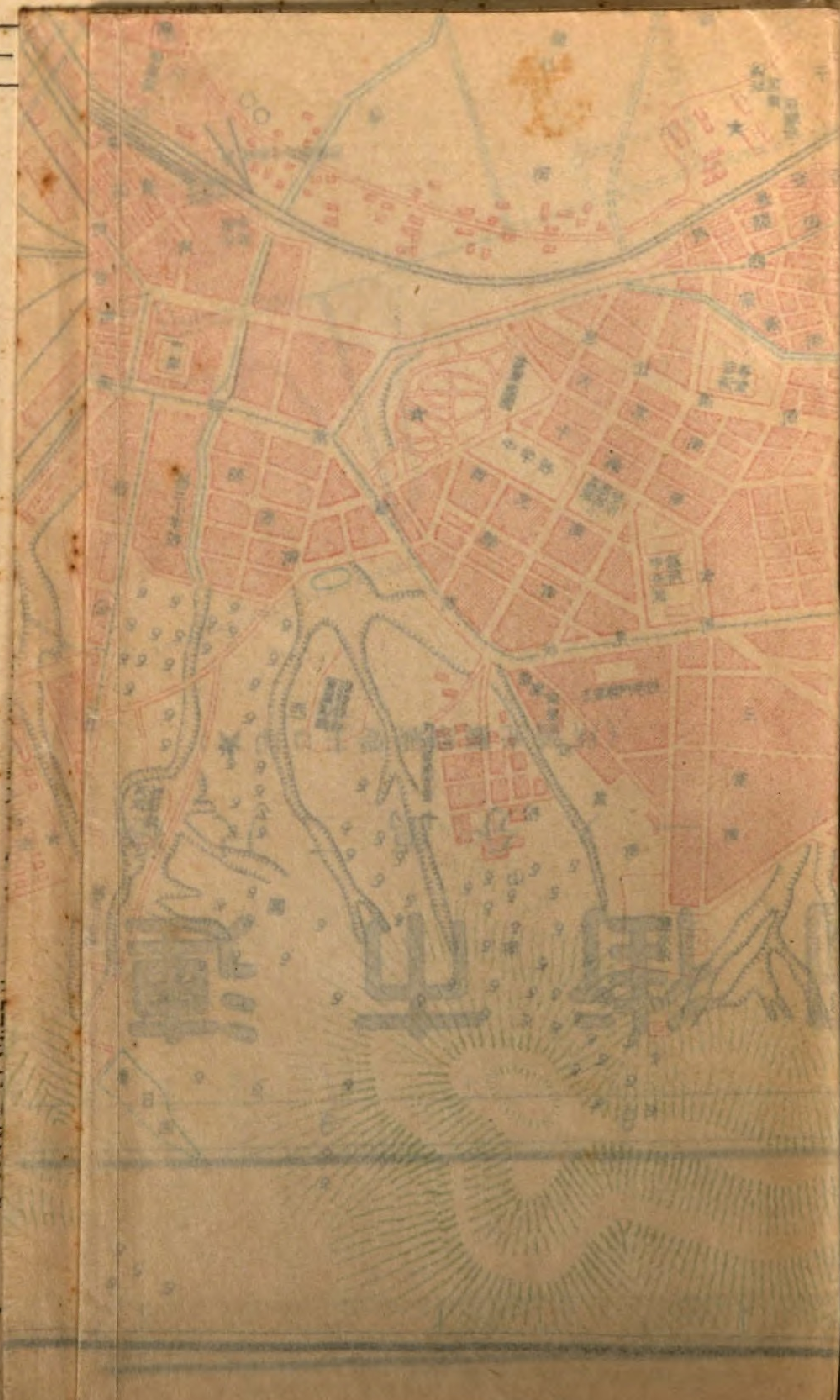
酒田、小牛田邊りと緯度を同うし、臺灣と經度を等しくしてゐる。夏季最高溫度九〇度、平均八五度、冬季最低溫度零下一七度、平均零下五度。夏は內地三府より涼しく、冬は小樽邊りの寒さと大差なく、大氣乾燥して防寒設備よき爲め居住地として頗る快適である。

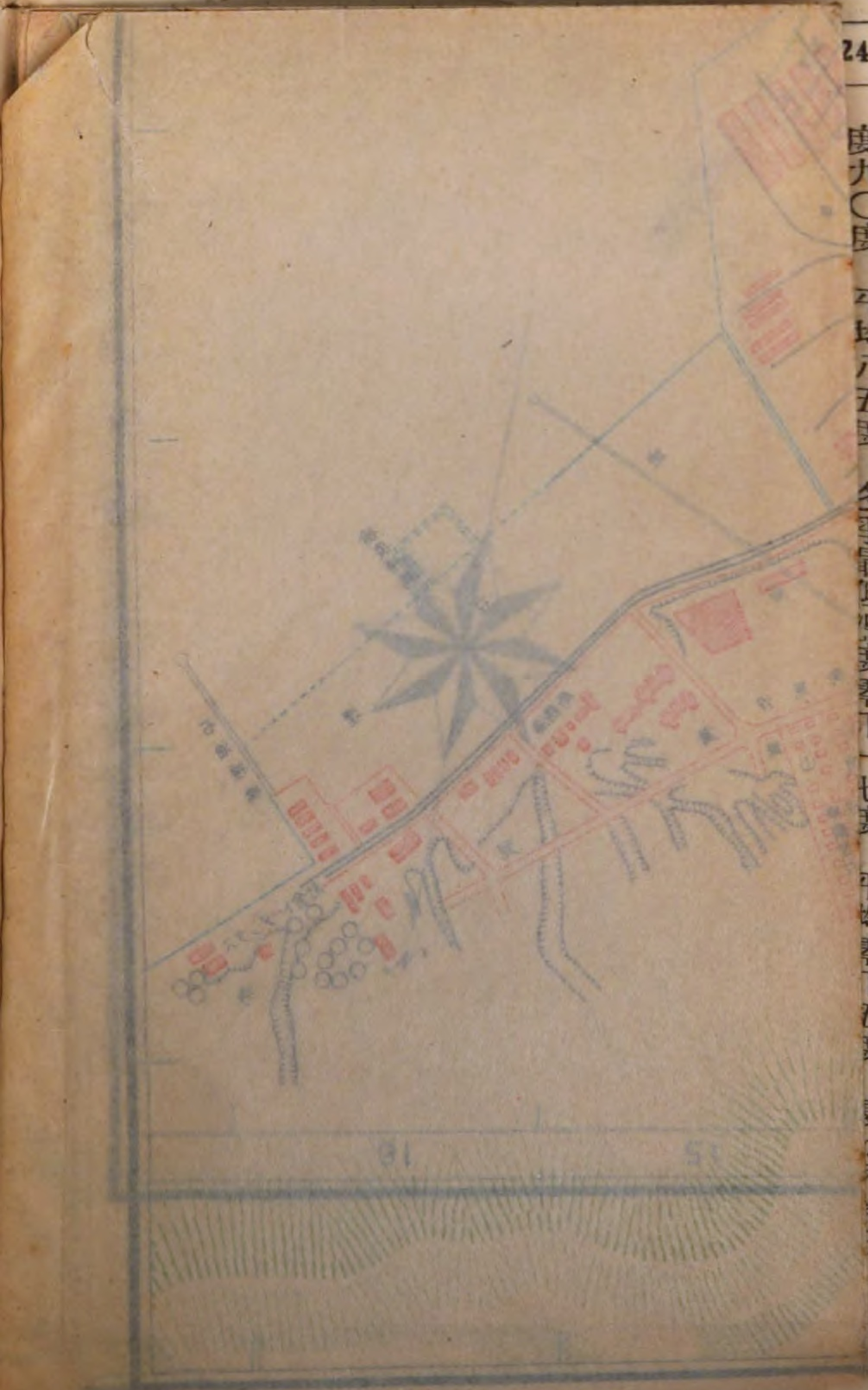
大連は、遼東半島の南端黃海に臨む咽喉に北三山及南山の兩島を橫へ、太沽山半島の突角に深く抱かれた大連灣內に所在し、南方に丘阜南山一帶を負ひ、西南は沙河口に續き、東方は灣に從つて伸び、灣を隔てゝ北は海上六哩對岸柳樹屯と正面し、更に遼東の最高峯大和尙山に面し、其の魁偉の山容は春秋の季に從つて、市民の詩囊と日常とを豊かに惠むでゐる。

市街は東西二里、南北二十七町に亙り、其の街衢の區劃は槪ね露國の設計のまゝを踏襲し中央に圓形の大廣場を設け、東、西、南、北各樞要の地點にも夫れ夫れ適宜の廣場を置き、放射の大街路は之れより馳せ、之れより出で、幾多

二

ケ浦の翠色に導く。





酒田、小牛田邊りと緯度を同うし、臺灣と經度を等しくしてゐる。夏季最高溫度九〇度、平均八五度、冬季最低溫度零下一七度、平均零下五度。夏は内地三

の中小路と蛛網狀に經緯してゐる。

埠頭正面の大街山縣通りを西に眞直に行けば所謂大廣場である。大連驛から陸橋日本橋を渡つて眞直の大山通りを選むでも此の大廣場に出る。其處は圓形百餘間の面積を持ち、ホテル、民政署、市役所、銀行、郵便局等の大厦高樓を圍繞させ、花壇四季折々の花も愛らしく、綠蔭の色も濃い一小公園である。

埠頭から山縣通りを經て、大廣場を貫き、其處から西走する大街は西通りである。此の西通りは更に西廣場を縱貫し電車軌道の十字に交る常磐橋に導き、尙以西に行けば露治時代の兵營地區であり、現在住宅區の觀ある伏見臺一圓の高丘に續く。此の高丘の常磐橋に面して、翠色滴る如き處は電氣遊園であつて、遊園の存在は道路を二分し、右に北西すれば支那町小崗子から沙河口に達し、左に南西すれば聖德街、譚家屯等の住宅地を點在させつゝ、一路遙かに郊外星ケ浦の翠色に導く。

日本橋から南に大廣場を結ぶ大山通り、斜に其處から西南に走る伊勢町通り、同じく西に走る信濃町通り、その反對に斜に東南に走つて敷島廣場に至る監部通り、其等の大街を相互に經緯交叉する處の中小路は、大連の銀座街と呼ばる浪速町通りを範として、略々商業區を形成してゐる。

陸橋日本橋橋下に交雜する鐵道線路は、橋畔の大連驛から埠頭に出て、丘岡を兩分する。その北に殘された部分は、所謂露西亞町と俗稱さるゝ處であつて、電車の馳する北大山通りは戎克埠頭を最後に海に入る。兒玉町通りの一端には會社社長社宅滿洲館の宏大な建物がある。

此の露西亞町は露西亞の建築した建物多くその建築樣式は戶々相異なり、各各綠陰を繞らして溫雅靜寂、自ら住宅區に相應しい雰圍を作つてゐる。

大廣場から南、南山に向ふ緩傾斜の處も亦滿鐵社宅其他の住宅多く、其の廣場に面する市役所と未成の東拓の間を電車に沿うて東するものは東公園町通り

であつて、滿鐵本社を所在せしめ、表忠碑のある千代田廣場を迎へ、寺兒溝附近の支那町となり、埠頭苦力宿舍に續いて尙延びて行く。

埠頭附近東廣場以南には豆油、豆粕製造工場を隣次させて工業區の觀を有ち、大廣場附近から山縣通り・東公園町通りは滿鐵本社を首め會社官衙區を形成してゐる。

常磐橋から以南は一方は商店住宅を櫛比させ一方は長蛇の如き靑泥窪川に沿うて西公園の幽邃境を自然の形によつて展べ、その南端山と山との溪谿に春日池の仙境勝地を置き、春日町を最後に斷たれた家並は、斑らに文化村の名も美美しい住宅地を點綴して、郊外奇勝老虎灘を南端に置く。

常磐橋で縊れた市街は、再び伏見臺で膨れ、その西北海岸寄りに純然たる支那町小崗子を起し、歐風建築の殷賑境を再現して西端華人獨得の娯樂樂天境露天市場となつて、遙か彼方に會社工場區沙河口を丘岡下に展べる。

大連市は斯くて日支人戸數三萬三千二百餘、人口十七萬七千八百餘、その郊外を合せて戸數計四萬五千餘戸、人口二十四萬七千、內邦人七萬三千人を擁し(大正十二年六月末調査)、明治三十九年末に二萬に滿たなかつたものから、僅僅の歲月の間に十數倍の膨脹を遂げ、商業に工業に驚くばかりの發達を遂げたのである。それは軈て先人同胞の粒々辛苦の賜であり、海港としての大連が極東有數の價値を有し、此處を呑吐口とする背景の滿蒙の資源如何を語るものであらねばならぬ。

都市施設　大連は旅順と共に大正四年九月の都督府令に據つて自治都市となり、最近十三年五月改正の市制によれば、年齡二十五歲以上獨立の生計を營み二年以上其の市民として直接市稅を納むる男子を選擧有資格者とし、大連は四十名旅順は十六名を定員とする任期四年の市會議員の中共の四分ノ一を選任として他を民選し、市長は市會の推薦する三名の候補者より關東長官之を選任す



大連支那町西崗子

る事に定められてある。

市の行政は第一次に於て民政署、第二次に於て關東長官の監督を受け、市會及市參事會を組織する。其の管掌事務は、公衆衛生、小學校及公學堂の普通事務、高等女學校及商工學校の經營、社會事業の經營に關する事務等である。

道路は明治四十年より工を起して一見アスファルトの感あるマカダム式の鋪礫道とし、歩道はコンクリート方塊板を敷き、別に必要の箇所には花崗岩を敷いて荷馬車道を限定し、路側に胡藤(アカシヤ)、白楊の綠陰も爽かな美觀を添へてある。

上水道は沙河口、西北四里餘の王家店、及西方三里の小平島會欒家屯の三水源地より給水を受け、近く西方七里龍王塘の水源池完成を加へて二萬五千噸の給水設備となるのである。

下水道は雨水は直ちに海岸に放流せしめ、汚水は鐵管によつて岸を距る三百間の海中に放出せしめてゐる。

電氣及瓦斯は共に滿鐵會社の經營する所であつて、前者は二箇所に發電所を有し電燈、電力の外、市內外に亙つて電氣鐵道を營業してゐる。

【沿革】 大連は露西亞の見出す二十五六年前迄は、陽を迎へ陽を送る人も稀れに、丘岡は荒寥として叢生に委し、長汀曲浦空しく波濤の洗ふ處であつた。そして一帶を青泥窪と稱し、東西青泥窪と黑咀子の三部落から成り、東青泥窪は現在の東公園町附近に十六七戶の農家を、西青泥窪は西公園附近に河を挾むで、黑咀子は共同波止場に沿うて、共に漁戶十餘を數へてゐたに過ぎなかつた。

然し其處に深く抱き込まれた海灣は、明の嘉靖年間に沙河口、平島臺、青泥窪に倭寇臺を設けたと云ふのを有史上の最初として、西暦一八六〇年英、佛が支那と事を構へて、英の艦隊根據地としてビクトリア灣なる命名を與へられ、續いて對岸である柳樹屯が、李鴻章によつて金州半島の要港として防備を施したなどの歷史を有つてゐた。

露西亞が歐洲から目を轉じて東亞に著目し、一八九六年露淸條約によつて漸く素志を貫き、巨鷲の翼を此處に延べて、不凍港物色に上つた處は柳樹屯であつた。けれども水深は永い間蘆荻の茂生に隱れてゐた青泥窪沿岸の有望を物語り、此處に第一期の二千十八萬留



ジヤンクの集散（大連露西亜町埠頭）

は、遠く歐露から投下さるゝ事になつた。

第一期の工事は軈て終つた。更に三千萬留の巨資が投下されて、第二期に移る時、日露の戰雲が動いて、玆に我が國の支配する土地となつたのであるが、其れに就て我等は偉傑ウイツテの炬の如き先見と、炳として萬世に輝く人類愛の志に心からの感謝を擧げなければならない。何故ならば當時衆議を排し萬難と戰つて軍港を旅順とし、商港を大連として斷乎として兩者を一にしなかつた彼の勇と遠大の志とをである。更に又埠頭建設指揮者が退却に際して、愛兒の如く周到の用意と努力とを以て見守つて來た埠頭を微塵として世界の富から壞ち去るに忍びず、形式だけの破壞を以て我に致した事である。其の戰禍から免がれ、よしなき暴擧から守られて、大連が二旬年ならぬに東亞の覇たらむとする榮冠を贏ち得たるもの、此の二先覺に負ふ所多しと云はねばならぬ。

埠頭　大連港は大連市の中央より北東に面する一帶の海面を領有し、其の築港は一八九八年東淸鐵道會社に依つて創始され、一千萬留の巨資を投下して、半成の第一埠頭及防波堤とを我が手鉤の手形に完成せる第二埠頭及甲埠頭と、に委したのである。爾後滿鐵所屬の下に現在の如く三箇の突堤を完成し、尙近き將來に第四をも加へんとしつゝある。現下埠頭總延長一萬三千餘尺、四百尺

の繋船區三十四箇、水面廣袤九十五萬坪、水深平均三十尺、二萬噸の巨船もよく繋船し得、同時に三十四隻を容れ、第二の一部を定期客船の繋船區として、二階コンクリート建の待合所を設け名實共に近東第一の巨港として誇る處である。

海面設備に對し陸上貨物施設は、三十七萬噸を收容し得る七十五棟八萬五千坪の倉庫の外に、大陸の雨量の少いのを利用して、十五萬坪の野積保管地積を有ち、構內貨物收容能力八十萬噸に達し、其等には鐵道線路を縱橫に派出して荷客に便してゐる。

年度	著埠汽船數	輸入貨物噸數	輸出貨物噸數	營業收入
明治四十一年	一、三九七	三一二、〇七五	七五八、〇五六	一、〇三〇、八二八円
大正十一年	三、一七一	七二四、一五四	五、三二三、二五三	八、三二三、八七八

右表の如く五閱年間に於て輸入貨物は二倍三分二厘、輸出貨物は六倍八分九厘の增加となり之れを更に主要品に細別するならば左の如き噸數となつてゐる。

輸入品

年度	穀類	砂糖	麥粉	綿糸布	木竹材	石灰類（セメント）	金物類	社用品	其他	計
明治四十一年	一五、一四五	二、三九八	五、九一七	八、五〇三	七二、九五六	三一、三二八	一五、一四七	五二、二〇九	一一八、四七二	三三二、〇七五
大正十一年	三一、四三六	三一、九九五	五三、一九九	三六、八九二	八、〇三二	三一、七五八	七五、一六六	三二、七一四	四三二、九六三	七二四、一五四

輸出品

年度	大豆	豆粕	穀類	豆油	石炭 輸出	石炭 船用	其他	計
明治四十一年	三八六、四七〇	二八三、七七九	一七、八九二	五、七三六	二一、二三二	二九、一九五	一一三、七五三	七五八、〇五六
大正十一年	七三四、〇三〇	一、一七〇、四三六	八一三、九三二	一三二、七三五	一、二三五、二一九	七八〇、〇八八	三五七、八一四	五、二三三、二五三

此の大連港埠頭の他と比して特長とする所は一千噸以上の船舶に强制水先案内を附せしむること、發著手數料以外岸壁料乃至水先料は會社の負擔若しくは無料とし、埠頭荷役を直營としてゐること等である。

會社の倉庫營業施設　鐵道主要驛に貨物の貯藏に必要なる倉庫の設備を爲すべき事は、又政府の指定する所であつて、會社は明治四十一年十月埠頭保管なる名目の下に小規模の倉庫營業を開始し、主に船舶又は鐵道に由り埠頭に到著の貨物保管を行ひ、倉庫證券を發行し、沿線には明治四十二年十一月以來特產物の野積保管(無料)を行つて之れを發送貨物保管と稱し、一種の證券を發行して金融を得るの途を講じたのである。然し上記到著發送二種の倉庫業は小規模であつて制度も亦頗る不完全であるが爲めに、明治四十四年九月以來、大連埠頭と共に沿線二十九驛所にて正規の倉庫の倉庫營業を開始し、荷主に對する金融を得る途を容易ならしめ、又一方に於ては奧地各驛に於て發送の目的を以て貨物を寄託する場合には倉敷料を欲せず、以て冬季貨物の輻輳を緩和する策を立てたのである。

穀物に對しては大正元年囤積(トンヅミ)保管の制を開き、更に輸出大豆、豆粕、豆油及

小麥に對しては品質、重量の統一と保管の便宜を圖つて他者の貨物をも混合して保管する所謂混合保管の制を設けたのである。

現今會社の倉庫營業課目は普通貨物の受寄、發送及到著預、受寄物の會社の鐵道による運送、倉庫の賃貸、受寄物の運送取扱賣買代金の取立、通關手續、火災保險其他受寄物に關聯する事務等であつて、大正十一年度に於ける倉庫貨物の受拂成績を示せば左の如くである。

種別	受入噸數	拂出噸數	一日平均在庫噸數
大豆混保	一、八七六、八〇五	一、六三二、七四三	一一九、四四八
豆粕混保	一、二〇四、一九三	一、一〇九、三五七	六三、六四五
普通預	二六二、九〇三	二四一、三五一	四二、七二二
發送預	七〇二、九二三	六九四、一七〇	一七、四五五

到著預	一、八一〇、四二五	一、六七二、一九〇	一一四、〇七六
計	五、八五七、二四九	五、三四九、八一一	三五七、三四七

上記倉庫營業に關し會社の施設として特筆すべきものは（一）貨主の委任を受けず寄託物に對して火災保險を附し、其の保險料を會社に於て負擔する事と、（二）混合保管、野積保管等とを特殊事情に適應したものとして擧げ得る。因に大正十一年度末保險契約金額は二千九百五十二萬圓の高額に達してゐる。

◆南滿洲鐵道株式會社　大廣場から東する東公園町通に所在する（電車停留場本社前）。初め露國が一九〇二年に「パブロッフ」條約（一八九八年）に據つて權利を得た東淸鐵道の布設を終つて、之れを專ら其の軍事輸送に當てた事は、明かに機會均等を約した當時の條約と背馳し極東の平和を脅威するものである爲めに、玆に我が國との接衝を生じ、次いで一九〇五年「ポーツマス」條約の締結とな

り、東清鐵道南部線の一部長春以南の本支線竝鑛山及其他一切財産を我が國に於て繼承し翌年四月、植民會社の性質を帶びた會社の出現となつたのである。

斯くて會社は一億圓を政府の出資とし、既成の鐵道と、其れに附屬する一切財産及煙臺、撫順兩炭坑を以て其の出資に代え、他の一億圓は之れを日支兩國人間に公募し、計二億圓の一大會社を組織する事になつたのである。然るに明治三十九年、社業の發展に伴つて資金增加の必要を生じ、一億二千萬圓を政府にて引受け、別にそれと同額の新株を發行し、玆に現在の如く四億四千萬圓の巨資を擁するに至つたのである。

當初本社は任期を五年とし勅裁を經て政府の任命する總裁、副總裁を戴き、更に任期を四年とし、五十株以上を有する株主中から政府の命ずる若干名の理事と、任期を三年とし株主總會から選任する監事若干名とを主腦としてゐたが、大正六年に總裁、副總裁を廢して理事長を置き、更に八年に之れを社長、副社

長と改めて現在に及んでゐる。

會社の業務は其の名によつて單に南滿に介在し鐵道そのもののみを經營すると解釋するならばそれは皮相の見解である。何故なれば明治三十九年會社創立に際して與へられた政府からの命令書中には

其社ハ鐵道ノ便益ノ爲左ノ附帶事業ヲ營ムコトヲ得

として

一、鑛業殊ニ撫順、煙臺ノ炭礦採掘　一、水運業　一、電氣業　一、主要ナル鐵道貨物ノ委託販賣業（明治三十九年削除）　一、倉庫業　一、鐵道附屬地ニ於ケル土地及家屋ノ經營　一、其他政府ノ許可ヲ受ケタル營業（第四條）

と前記七項に亙る附帶事業の營業經營を行はしめ更に

其社ハ沿道主要ノ停車場ニ旅客ノ宿泊食事及貨物ノ貯藏ニ必要ナル諸般ノ設備ヲ爲スヘシ（第三條）

其社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地內ニ於ケル土木、教育、衛生ニ關シ必要ナル施設ヲ爲スヘシ（第五條）

と附帶業務の他に會社附屬地內に於ける公共の社會的諸施設をも施すべく命じ、其の爲めには

前條ノ經費ヲ支辨スル爲其社ハ政府ノ認可ヲ受ケ鐵道及附帶事業ノ用地內ノ居住民ニ對シ手數料ヲ徵收シ其他必要ナル費用ノ分賦ヲ爲スヘシ（第六條）

なる條項をも附加し費用の分賦權をも許容してゐるのであつて、是等に基準する會社の業務は必然に頗る多岐廣範となり、鐵道、炭坑、製鐵、倉庫はもとより電氣、瓦斯、海運、工場、港灣、旅館、教育、衛生等にも及ぶのである。

◆ヤマトホテル　別項の如く會社はその創立に際して政府より旅客の宿泊食事に便する施設を爲すべく命ぜられたのであるが、會社の鐵道は一面歐亞聯絡の幹線であり東亞交通の交叉路である關係から、直營の洋風旅館を大連、星ケ

浦、旅順、奉天、長春等に設け**ヤマトホテル**と命名してゐるのである。

大連の**ヤマトホテル**は大廣場に面する「ルネツサン」式の宏壯の建物であつて、大正三年から五箇年を費して竣功したもの、客室百十五を有し、三百を容るゝ宴會食堂あり、理髪、酒場に、球戯場に、讀書、應接室に設備至らざるなく、殊にホテルの管絃樂隊は優秀の譽れ高いものである。

◆中央試驗所　伏見臺に在る(電車停留場試驗所前)。元と滿洲に於ける殖産工業及衛生上の鑑定竝試驗に掌らしむる爲め、明治四十年十月關東都督府令に依つて設立され、翌年現在の伏見臺の地に事務所を新設して、其の業務を開始し、一般公衆の試驗依頼にも應じてゐた。そして四十三年に急速に設備を完成せしむる爲めに會社の有となり、爾來滿洲の物資を材料とする製造化學的試驗と一般公衆の依賴試驗に應じて今日に及んでゐる。そして其の間滿蒙殖産に寄與するもの多く、六箇の特許權を得、出願中のもの二件、完成の域に達し工業

として成立せるもの十件である。抽油式豆油及豆粕製法、脂肪酸グリスリン製造、サルバルサン製造、加里鹽類の製出、製絲、陶磁器、耐火煉瓦、高粱酒釀造等その效績の一端である。

◆窯業試驗工場　小崗子に在る（電車東關街停留場より北一町）。上記中央試驗所の研究の結果、工業として成立充分の見込あるものゝ一として、明治四十四年現在の支那町小崗子海岸に設置せられ、當初は陶磁器竝耐火煉瓦の試驗に從事してゐた。そして陶磁器は大正九年當初の目的を達成して其の經營を大華窯業公司に移讓し、別に大正六年より硝子製造試驗を加へて現在に及び、耐火煉瓦にありては、酸性に屬する珪石煉瓦及半珪石煉瓦、中性に屬する粘土質煉瓦及鹽基性に屬する菱苦土煉瓦の四種を、硝子にありては、獨墺品に劣らぬ曹達硝子、代表的の獨逸ヱナ硝子に劣らぬ硬質硝子を完成し、既に其の販路は支那、南洋、濠洲、印度等に及び、最近板硝子の製造を企劃し著々準備を急ぎつ

つあるを以て、其等の製造を達成する曉には、滿洲所在製造工業に尙一つの誇りを加へるであらう。

◆地質調査所　露西亞町の一角に在る。中央試驗所が應用化學的富限開發に資するに對し、此處は同じく會社傘下にそれと相俟つて組織的に地質竝鑛產物の調査を行ふ處である。其の當初は撫順の炭田地質調査に出發し、鞍山附近七鐵鑛區はもとより、蓋平海城縣下に優良なる菱苦土鑛を發見し、又加里、長石の產地を見出した事等其の效績の顯著なるもの、同時に滿蒙に於ける精細なる地質圖竝びにそれに附帶する仕事をも管掌してゐる。

◆油房　滿洲の生む驚異に價する大量農產物の一である大豆から、豆油と豆粕とを製出する工業を油房と稱してゐる。此の油房は滿鐵沿線に所在するのみだけでも二百八、九十會社に及び、就中大連は其の三分一を占むる盛況である。我が日本が此の豆粕肥料の最大消費國であり、大豆が此の滿洲天與の特產物と

して世界的の地歩を占むる限り、大連に所在する三泰（軍用地、電車埠頭終點より二町）、日清（同）、小寺（同）、鈴木（同）等の油房業は、其の代表的のものとして將に一顧に價する製造工業であらねばならぬ。そして其の製法には抽油式、水壓式其他在來傳統を逐うものとがある。

◆沙河口工場　會社所屬の機械工場であつて、四哩の西北北沙河口に在る（電車、沙河口神社前より約二町）。敷地面積三十萬坪を有し、其處だけの水道があり、其處だけの發電所があり、機關車二十六輛、客車三十六輛、貨車百三十輛を同時に製造修理し得る尨大の設備と能力とを有し、使用職工約二千、日華人相伍して勞作に從事する師範とすべき工場である。隣接約十七萬坪は從業者の住宅地として、病院、學校、郵便局を擁し其他の商家等を併せて一大工場地を形成して居る。

◆苦力收容所　無自覺不攝生なる者の多數の存在は、都市生活者にとつて一

大脅威である。恐るべき流行病は常に彼等から發生し、唾棄すべき行爲は常に公衆を不安に導く。そうした見地から組織的に、秩序立つて一廓に收容した處のものは、埠頭に寧日立働く一萬の苦力を收容する東南隅の寺兒溝と、市内各地の辻に待つ人力車夫を一括して收容する若狭町に位するものとの二つを有つてゐる。其等に就て彼等の生活の一端を窺ふも亦文化生活高調の時代に應ずる資料であらうか。

◆西公園　市の西部常磐橋以西から以南に伸び、面積五十萬坪南は南山の丘陵を負ひ、一名を虎公園とも云ふ大連最大のものである。元と西靑泥窪村の點在してゐた處であつて、天然の地の利を巧みに配し楊柳、桃李、胡藤等鬱々として晝尙暗く幽邃閑寂である。園内には市民の體育保健を圖る爲めの保健浴場あり、馬場あり、野球、其他の完備した競技場を有ち、旗亭休息所を散在させて春から秋へかけて全市民の絶好遊樂場となつてゐる。



大連星ヶ浦

◆北公園　露西亞町の北大山通りの一角に在つて、露治時代のものを踏襲せるもの。園内は比較的に小規模である憾があるが、圖書館、氷滑場、テニスコート、大弓場、器械運動場、小動物園、花園等よく完備し、小國民の爲めには理想鄕の處である。

◆電氣遊園　伏見臺の一角に市街竝港灣を一眸に收め得るの處、溫室、花園、簡易閱覽室、小動物園、メリーゴーラウンド、ローラースケート場、ボーリング、活動寫眞館等を配備して、會社の管理下に不夜場の盛觀を呈しつゝある。

◆星ケ浦　膠州灣の青島と共に支那在留外客乃至は北滿西比利亞地方の人々から樂園とまで唱はれて愛惜さるゝ星ケ浦は、市の西南二里餘、電車行程三十分の距離に、西北は別名大連富士の緩傾斜を負ひ、南を海に面せしめて避暑にも避寒にも樂天境たる讃辭を辱かしめぬ處である。露治時代にはまださうした處も黑石礁なる地名の下に　世間から埋沒されてゐた一小漁村であつて、明治

四十二年、會社の見出す處となり、境域十餘萬坪に對し歳々人工の布置按配は加へられ、カテージ風、支那風、洋和風の色とり〴〵の大小別邸其處此處の樹蔭に建ち、蔦葛の這ひ上る様も蕭洒としたホテルはあり、背後丘地七萬坪にはゴルフ運動場はあり、テニスコートはあり、白砂も清い水際には更衣場から各種の運動具あり、かくて無名の一仙境は大陸無双のヱデンとしての出現を整へて、毎歳遠近から集ふ人々に至樂清興、深くも印象を與へてゐるのである。

試みに紺碧の海を望めば島影四五姿面白く、掻き抱く兩翼の山の曲線は力强く美しい線を張つてなまなかに植林を缺けるが尊く、其の山形の大膽に海に沒する邊りから双方に引く銀波の線は、力線凝つて掌の如き圓形の隆起斷崖を起し、巨口を怒濤に向つて開く奇景の中央小半島となり、黒石礁は右弦の端に、帽島、二砣子島は海の單調を破り、幽幻境傳家庄を隱す山々の美しい曲線は左弦の端に、其の間方何里かは、渾然として佳景を作る爲めに展開してゐる。

星の家、樂天閣等の旗亭はあり、數箇の休憩所あり、市内から坦々と續く四哩のハイウエーは、近く旅順を結び晩春から初秋へかけての自動車のドライブは爽快無比のものであり、本當にそれは大連の星ケ浦でなく、近東屈指の避寒避暑行樂の名勝地である。

星ケ浦**ヤマトホテル**は會社の直營歐風旅館であつて、宿泊は米式を採り十圓以上である。**ホテル**所屬の貸別邸は二十七を有し一箇月百二十圓以上の賃貸である。

◆老虎灘　市外一里餘（電車老虎灘終點）星ケ浦と竝び稱せらるゝ名勝であつて、又往昔一小魚村の寂寞たる處であつた。星ケ浦が曲線の名勝であれば此處は屹兀とした岩礁の勝である。右には老虎の空に嘯くが如き一大岬角を突出させ、左には斷崖の奇礁點々と遠く張り、W字形の灣の中央小嘴は奇岩怪礁斷崖の丘岡となつて總ての展望を支配し、星ケ浦が自然の雄大なるに對して、此處は寧ろ盆景の勝に近く海灣を深く抱き、扁舟を泛べて一日を娯しみ、魚族を

追ふて釣魚も面白く、人煙は繁く、山には旗亭別莊層々隣次してゐる。扁舟を賃して悠々一日を團欒の娯しみを味はうとする爲めには、星ケ浦より此の勝を採るべきであらう。旗亭に嘯月園、千勝閣、扇屋等がある。

◆小平島　星ケ浦より尙行く事二里餘の處、黃海に突出した一小半島である。星ケ浦から黑石礁附近の岩礁の奇を勝しつゝ小舟乃至はモーターボートを賃するも面白く、旅大道路を自動車の快走を試みるもよい。

半島の盡きて海に沒する處を王皇頂と云ひ海拔三百尺の絕壁を作り、奇巖屛風の如く、白波脚下を嚙むで痛快勇渾の趣がある。もとは遼東の要津であつて、山東への要路に當り殷賑を極めたと云はれてゐるが、今はその面影もない閑寂の處であるが、將來を相して附近に別莊を計劃するものが多い。

◆凌水寺　大連の西南三里、星ケ浦から西一里半、欒家屯派出所の西二十餘町の地點に在る。金州老爺寺の百餘年前に分立したものと稱せられ、溪間の小高



き處に立ち、山を負ふて南面してゐる。堂宇の規模小さく、輪奐の美は缺けてゐるが、古雅掬すべく、唐人の開基とも傳へられ、凌水河口地中から發掘した年代不詳の佛像を本體としてゐる。毎年陰暦四月八日を緣日として遠近から賽する者が多い。

◆傅家庄　老虎灘行電車を李家屯で下車し、南方二十餘町(軌道馬車)で達する、東南は蒼海渺漠の海を抱へ、三方高丘に據り、四圍の風光自ら仙境閑寂、未だ蓬屋百餘戶の漁村の境にあつて、地の利の不便は、都人の來往を阻み、雅客粹人に喜ばれ、其の名聲は常に市井の口に上りつゝも尙深く隱れて惜しまる所以である。近年貸席「アカシヤ」設けられ、遊覽に便されてゐる。

【土産物】　小森匋雅堂製品、窯業試驗工場製品、支那產物、貴金屬竝毛皮毛織物類。

⊠周水子 (Chou-shui-tzu)

	粁	哩		粁	哩
大連	八・九	五・五	奉天	三八七・七	二四〇・九
南關嶺	六・六	四・一			
夏家河子	一二・二	七・六	長春	六九二・五	四三〇・三

●公衆電報取扱驛 ●赤帽 ●旅順線乘換驛 ●携帶品一時預驛

【會社】小野田セメント工場、周水土地建物會社、柳元桃芳園。

西北二十五町餘に小野田セメント工場があつて年二十萬樽百萬圓以上の生産を爲しつゝある。五町餘に遼東乘馬倶樂部の大競馬場があつて、春秋の二季の競馬には大連より臨時列車を發し、頗る盛況を呈する。柳元桃芳園は驛附近に在り。優良の果實を市場に提供してゐる。

【勝蹟】驛の東北二里に老龍頭砲臺がある。李鴻章が大連灣の經營に當つて

海岸砲臺を築いた處、嘗て嘉靖年間倭寇臺を設けた處でもある。

回南關嶺 (Nan-kuan-ling)

周水子	六・六粁	四・一哩	大連	一五・五粁	九・六哩
			奉天	三八一・一	二三六・八
大房身	一二・二	七・六	長春	六八五・九	四二六・二

●公衆電報取扱驛

金州城から旅順に通ずる要路に當り、東清鐵道時代には金州旅順間の重要驛として、此の驛より夏家河子、旅順と結んで之れを本線とし、大連に到るものは支線となつてゐたのである。

【勝蹟】驛の西方十町餘線路に沿うて廢殘の狼煙臺がある。明代倭寇に備へたもの。東方里許の海岸には大煙臺砲壘がある。周水の老龍頭と共に李鴻章の

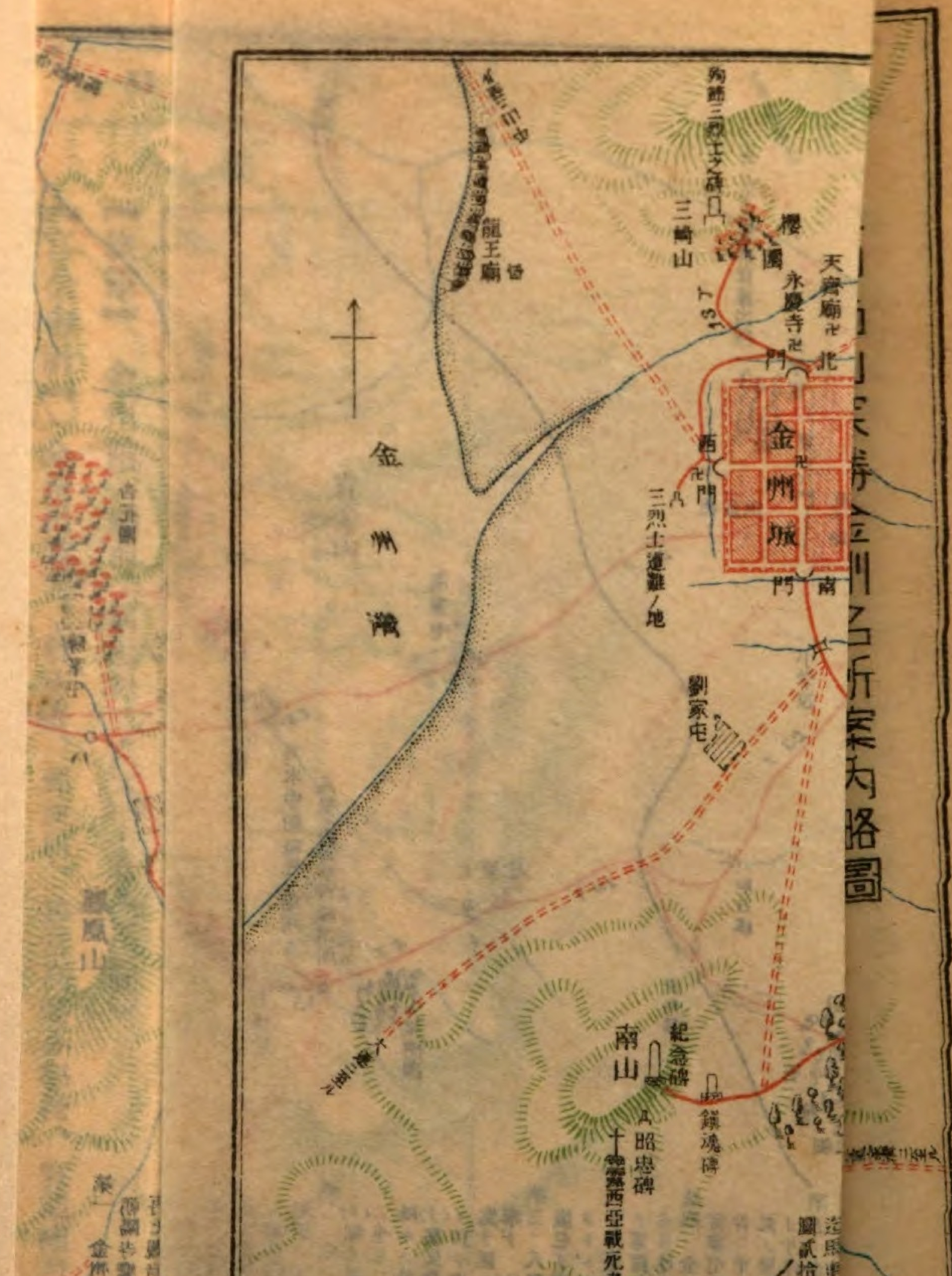
遺物であつて、亦嘉靖年間の倭冦臺のあつた處だとも言はれる。

◇大房身 (Ta-fang-shen)

南關嶺	一三・二粁	七・六哩	大連	二七・七粁	一七・三哩
金州	四・八	二・九	奉天	三六八・九	二二九・二
			長春	六七三・七	四一八・六

大連灣の更に灣入した小連灣底に位し、南山の東南麓に在る。此處から金州に至る間は、金州、大連兩灣南北に相迫り所謂金州地峽の最峽窄部を作り、三十七八年戰役に旅大の背面陣地として重きをなした所以である。

東南に走る鐵道線路は、大連の對岸柳樹屯に達するもので、現在兩區間にトロを運轉して旅客に便してゐる。


金州名所案内略圖
殉難三烈士之碑
三崎山
櫻園
龍王廟
天齊廟
永慶寺
北門
金州城
西門
南門
三烈士遭難ノ地
金州灣
劉家屯
南山
紀念碑
鎮魂碑
昭忠碑
露西亞戰死者墓地

遺物であつて、亦嘉靖年間の倭寇臺のあつた處だとも言はれる。



◇金州（Chin-chou）

大房身	四・八粁	二・九哩	大連	三三・五粁	二〇・一哩
			奉天	三六四・一	二二六・三
二十里臺	一三・七	八・六	長春	六六八・八	四一五・七

●公衆電報取扱驛　●赤帽　●携帶品一時預驛

年度	乘降客數 乘車	乘降客數 降車
明治四十年	二四、四五一	二四、二七四
大正十年	一〇四、八八一	一〇六、三四八
大正十一年	一一九、八八五	一二一、五四六

【旅館】金州館（驛前、宿泊料三・〇〇—五・〇〇圓）

【官公會社】金州民政署、警務署、郵便局、尋常高等小學校、實業補習學校、公學堂、

發電所、滿洲銀行支店、公議會、內外綿花工場、海關分關。

概觀 金州は東に峨々と聳ゆる大和尙山を控へ、南に南山及大連灣の北隅と對し、北に渤海の金州灣に臨んで、黃、渤兩海里餘の地峽に位する半島の咽喉に當る。驛の西北三十町を隔つる處にある舊市街は十字形の大街を主として商家櫛比し、曾て物資集散の中央市場であつた名殘を止め現在地方向商工業に餘喘を保ちつゝある。然し子弟の多くは大連其他に出て、各種事業に掌はり、彼等の習慣上家族を其の儘とするが爲めに此處は住宅地として發展の傾向多く逐年人口增加を示してゐる。

驛附近一帶は久しく廣漠の土地を存してあつたが、新市街建設の機運漸く濃厚を加へ、近く工程の二三紡績等の大會社の完成するあらば、一變すべき形勢の下にある。

現下城內外華人の人口九萬二千餘、戶數一萬四千、同胞七百二十餘である。



【沿革】金州城は遼陽以南第一の古き歴史を有ち、歴代半島の重鎭となつてゐたが、明の洪武年間衛城を置き、永樂年間には今尙遺蹟となつてゐる倭寇防備の首城となり、清朝になるに及んでからは寧海縣を置き、乾隆三十九年には州城と改められ、副都統が置かれ其の後露治時代には撫民府となつてゐた。

◆南山　驛の西十五町（馬車十五錢）。明治三十七八年戰役に旅大半島攻守策戰上の天王山となつて、激戰數時に亙つた事は記憶も新たなる處、丘上に記念碑及忠魂碑がある。山麓には果樹園の大なるもの三四あつて、秋結實の候には歲々大連より臨時列車乃至往復割引を行つて、果實デーを催し、兼ねて當年將卒の英靈に賽し、都人一日の行樂に賑ふ處である。

◆聖廟（孔子廟）金州城內東南隅に文廟がある。此處は元明朝の金州衛學、清朝の寧海縣學及南金書院等の置かれた處であつて、廟の創立年代は不明であるが、金州衛學が明の洪武十七年に創成されてゐるので聖廟も或は其の頃の創立であらうか。明末になつて居民は兵火の難を避くる爲め此の地を去り、聖廟

も亦荒廢し其の遺跡を止めるに過ぎなかつたが、清朝の乾隆年間寧海縣治を置いて學宮を再建し、其の後屢々修復を加へて今日に至つてゐる。今殘存してゐるものは大成殿、東西兩廡崇聖祠、文昌宮竝泮池等で、毎歳陰曆二月と八月の第一丁日に祭りをする。泮池の傍にある重修金州衞儒學碑は我が秀吉の征韓役後十年を出でない萬歷三十五年の建立にかゝり、其の文中には當時の遼東の形勢を述べ、文祿の役は鷄林八道のみならず、遠く遼東を震駭せしめた狀況竝其の損害の模樣をも記され、得難い史蹟である。

◆天齊廟　金州城の北門を出て、石橋を渡り右へ約一町の處に在る（驛より三十四町馬車三十錢）。其の創立年代は詳かでないが境内に明の武宗正德二年（西曆一五〇七年）の古碑があるのを見れば創建は古いに相違ない。明の初めに山東方面より移住するもの多き爲め、山東泰山の神靈東嶽、天齊帝を主神とし、正殿、寢宮、東西兩廡を設け、別に藥王、大山聖母等を祀り、山門には四天王

を安置してある。其の東西廡には冥府の十王を初めに勸善懲惡の塑像を列べてあるので、俗に地獄極樂と稱してゐる。毎歳陰暦三月十八日を緣日とし參拜者夥しい。因に此の廟は元と道教に屬するも今は禪宗の一派である潙仰宗雲棲派の佛寺となつてゐる。

◆三崎山　金州城、北門外崔家屯後方の一高地を三崎山と呼んでゐる（一里十五町馬車三十錢）。日清役殉節の三國士通譯鐘崎、山崎、藤崎の姓に因んで命名されたもの。明治二十八年二月三氏の遺骸を西門外の畑中に發見して大日本忠士捨生取義碑を建て、遼東還付後之れを泉岳寺に改葬した。後四十五年金州官民の發起にて殉節三烈士碑を建てた。山上は金州城及南山を前にして大和尙山迹渤海を左右にし山水の美、海陸の秀を聚め、城外第一の絶景である。殊に碑石後方の山腹は櫻の名所として著名である。

◆大和尙山（ターホーシヤンシヤン）　別名大赫山（ターホーシヤン）又老虎山（ラオホウシヤン）と云ひ、驛の東方二里にある。鳳凰山、肖

金山と共に一脈三峯を爲し、主峯大赫山は海拔二、一〇〇尺半島最高峰である。山上には高勾麗時代の古城趾があつて、唐太宗高麗征討の途次駐蹕の遺蹟として名高い。山中響水寺、朝陽寺、觀音閣、唐王廟等の古刹を有ち、南半は突忽の赫山であるが、西竝東北の山腹は松樹蔚蒼と繁茂し、奇岩起伏して山容賞するに足る。山頂からの顧望は關東半島の大半を瞰下して頗る佳である。

◆響水寺　和尙山西北麓に位し境内に一小泉あり、共の水淸冽掬すべく、屋後の岩窟から湧出して一條の細流となり、潺湲として溪間を流れて四時斷えない。四境幽靜である。

◆朝陽寺　響水寺を距る南五町（驛より一里十六町馬車一圓）。曾て伏見大將宮殿下が明治三十七年五月の南山攻擊に羽旆を駐められた處、後方山に據り、前は溪流に臨み、老樹鬱然として夏秋の候最も遊行に適してゐる。

◆觀音閣　一に勝水寺と云ふ。和尙山の東腹海拔千尺の處に在る。一洞巨口



を開いて廟宇の半を呑み、蔚然たる老樹は斷崖絶壁の間に參差し、關東州第一の勝地として知られ、遠近より賽する者が多い。

◆唐王殿　朝陽寺から暫く山を登つた西南腹に在る。今尙古城壁を存してゐるが、高勾麗時代の堅城として隋唐の征討軍の屢々苦戰した遺蹟である。城內に石鼓寺と名づくる一宇がある。

◆果樹園　佐々木、福昌、天和、安永、川上、南山、原田等の果樹農園があつて、金州林檎の名頗る高いものがある。

◈二十里臺　(Erh-shih-li-tai)

	粁	哩		粁	哩
金州	一三・七	八・六	大連	四六・二	二八・七
三十里堡	九・六	六・〇	奉天	三五〇・四	二一八・四
			長春	六五五・二	四〇七・一

金州の北方二十支里の處に位してゐると云ふ處から此の名が生じたと言はれる。西南約二里に平山を控へ、大和尚山遙かに其の南に屹立し、西方一帶は海濱であつて風強く水に乏しい。元と淸朝旗人の有であつたと言ふ事であるが今は其の餘噬が口碑となつてゐるだけである。驛の西方十支里の大魏家屯海岸には邦人經營の大規模の田園圃がある。

三十里堡　(San-shih-li-pu)

	粁	哩		粁	哩
●二十里臺	九・六	六・〇	大連	五・八	三四・七
石河	一〇・三	六・三	奉天	三四〇・八	二一一・四
			長春	六四五・六	四〇一・一

●公衆電報取扱驛　●洗面所



東西北三面は山を繞らし、西方僅かに開けて海となり、遙かに復州と對してゐる。地味よく氣候溫和であつて、所在の林檎園からは四季絶えず果實を驛ホームに呼賣して四時絶さず金州、熊岳城のそれと共に著名である。

◎石　河 (Shih-ho)

	粁	哩		粁	哩
三十里堡	一〇・三	六・三	大連	六六・一	四一・〇
普蘭店	一一・一	六・九	奉天	三三〇・五	二〇五・四
			長春	六三五・四	三九四・八

千山々脈東南に連亙し西北に近く渤海のアダムス灣と對してゐる。石河城趾は千三百餘年前高麗朝の遺物として古色蒼然たるものがあり、又曾て倭寇の警備に充てられた處である。日露の役に鹽大澳に上陸した我軍が鐵道破壞を行つて、旅順の守りを孤立のものとした龍口の小戰場は驛の南方に在る。

普蘭店 (Pu-lan-tien)

	粁	哩
石河	一一・一	六・九
田家	一六・九	一〇・六
大連	七七・二	四七・九
奉天	三一九・四	一八九・五
長春	六二四・二	三八七・九

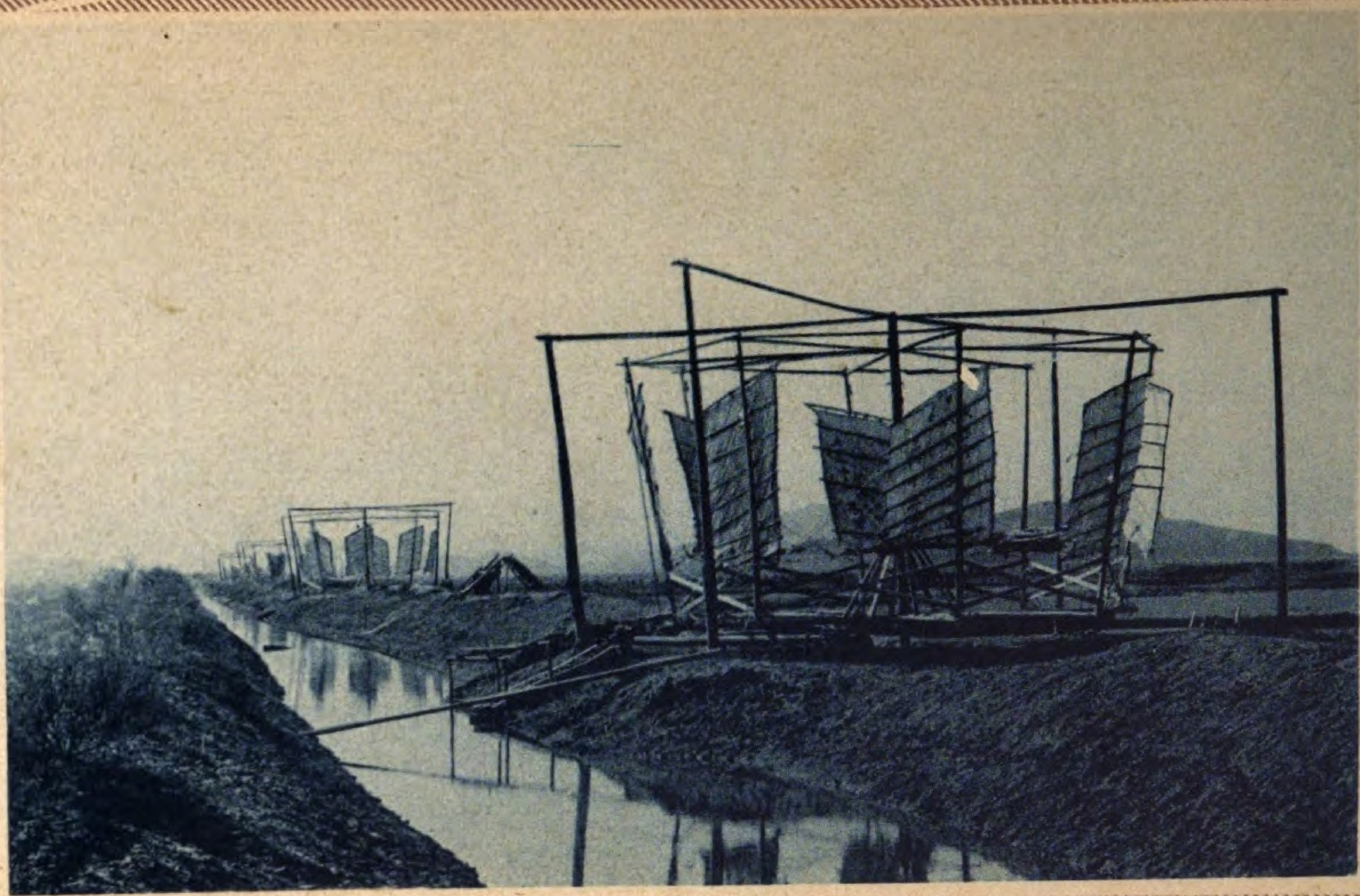
●公衆電報取扱驛 ●赤帽

年度	乘降客數	
	乘車	降車
明治四十年	一五、一八九	一六、四七〇
大正十年	九二、六一七	九二、一〇九
大正十一年	九六、〇六七	九四、七四〇

【旅館】三島屋（驛前宿泊料四・〇〇―六・〇〇圓）松山館（同上、二・〇〇―三・五〇圓）

【車馬賃】自動車―貔子窩迄片道二・五〇圓―馬車一日三・〇〇圓半日一・八〇圓、一時

普蘭店附近
鹽田潮汲風車



間、二五錢、人力車なし。

【官公會社】民政署務支署、郵便局、鹽業會社分局、小學校、公學堂、滿洲銀行支店、電燈會社、商務會、滿洲バリウム工業會社、恒春茂、福興、錦元、益興、同德成、德興東、東興昌各油房。

西は渤海のアダムス灣に面し、東に大和尙山の支脈を負ひ、氣候比較的に溫和である。南方金州からの國道は此處から二路となり、右すれば東約十里で貔子窩(乘合自動車あり)に達すべく、左すれば北約十三里で復州に達する岐路要都である。驛から北數哩は卽ち關東租借地の境界であつて黃海々岸の貔子窩と此の普蘭店とは相共に境界近接の都邑となつてゐるのである。

此處は鐵道の開設以前迄は張家爐と稱した寒村であつたのだが、驛の設定と共に樞要の土地となり次第に繁盛を加へ、附近低濕地及河川を整理改修して敷地の擴張を計り、市區も整然とした一新都邑を形成するに至つたのである。

市街の東北十餘町には索蘭鋪舊城址がある。元來明初の頃倭寇臺を築いた遺

蹟であつて、城址附近を舊普蘭店と云ひ、奉天街道の一驛站として商賈客舍の軒を竝べた處であつたが、新市街の出現と共に宿驛の面影を留めぬやうになつた。西北一帶の海濱、三官廟から長店堡に至る間數里は製鹽地として尊ばれ大日本鹽業會社分局のみにて年額二十萬圓を稱へてゐる。

關東州内は數年前から煙草と酒類に課税を始めた爲めに、驛以南の車室内で税關檢査が行はれる。又車窓の鹽田に帆の如き特異のものを見出すがそれは風に從つて海水を汲む仕掛けの風車である。

◆貔子窩　關東州の東南黄海に面し、普蘭店の東十里に位してゐる。港口廣く展開して灣形を爲さないが市街背部は高丘東西に連互して北風を防ぎ州内第一の戎克貿易港と註され毎年四、五、六の三箇月殊に五月を最盛とし、戎克の多き時は四、五百隻以上に上る。運送荷物は主に穀類雜貨を芝罘、上海より輸入し、大豆、豆粕、鹽、柞蠶を輸出する。

市街は海岸を拓いた傾斜地に立ち坂路多く市況活發であつて、大連（每月八回）と長山列島間に定期航路を有ち、陸は貔子窩管內より海は長山列島、莊河、大孤山、安東、新義州、鎭南浦、大連、芝罘等を其の主なる市場としてゐる。從つて商工業の外農業、漁業、製鹽業等よく備はり州內地方に比して住民の生活豊かな土地である。

口碑によると當地方の海港は元と貔子窩の東方里餘の賛子河口西岸に在つたが、河口鹽田の開設とともに土砂堆積して繋船に不利となり、現在の海濱に遷つたとある。又南方の望海堝は明の正德年間に明將劉江が倭冦を擊破したと言ひ傳へてゐる。日淸、日露兩役ともに我が軍は此處に上陸したのである。

◇田家 (Tien-chia)

普蘭店	一六・九粁	一〇・六哩	大連	九四・一粁	五八・五哩
			奉天	三〇二・五	一八七・九
瓦房店	一〇・九	六・七	長春	六〇七・三	三七七・三

關東州外第一驛の此處は拉子山其の西北に繞り、田家川南流して海に注ぎ、寒暑とも甚だしくないと言はれる。驛の南方四哩の處が關東租借地境であつて、其處には標石がある。

◇瓦房店 (Wa-fang-tien)

田家	一〇・九粁	六・七哩	大連	一〇五・〇粁	六五・二哩
			奉天	二九一・六	一八一・二
王家	七・七	四・八	長春	五九六・四	三七〇・六

●公衆電報取扱驛 ●辨當驛 ●赤帽 ●洗面所 ●兩替店
●携帯品一時預驛

年度	乗降客數	
	乗車	降車
明治四十年	一五、六六二	一五、五九五
大正十年	八一、一〇一	七九、一二〇
大正十一年	八八、四三八	八六、九八九

【旅館】 綠旅館（驛前、宿泊料一・五〇―四・五〇圓）

【車馬賃】 附屬地內俥一〇錢、馬車二〇錢。

【官公會社】 郵便局、警務支署、小學校、實業補習學校、電燈會社、家政女學校、滿洲銀行支店、南滿信託會社、復縣警察隊、鹽務局、税捐局、郵政局、公議會、常關税局。

復州縣管內の略中央に位置を占め、復州と貔子窩の街道要路に當り、四圍山を繞らして土地高燥である。東清鐵道時代に全線を略四等分して大驛を置いた結果、公主嶺、遼陽と共に附屬地尨大である。

復州並貔子窩の中間に位して、驛站設定と共に次第に人口を加へ、殷賑を増して、將來縣署の所在を復州から此の地に移さるゝ曉には支那街歳々の膨脹と相俟つて當地の發展は一新生面を展くべく期待されてゐる。

會社附屬地内戸數千百餘、人口三千七百、内千六百は同胞である。

◆炸子窰炭坑　驛の東方一里半の山間に、乾隆年間遼陽石炭商李鴻順なるもの奉天將軍より特許狀を得て採炭を始めた炭山がある。東清鐵道は此の李家の礦區を買收し、三哩の鐵道を通じて大規模の採炭を企圖したが、炭質粗惡、斷層多いので其のまゝ中止し、現在滿鐵は之れを貸與して採掘させてゐる。

◆復州城　瓦房店の西方六十支里、海を距る四十五支里の處に在り。附近は丘陵起伏して交通頗る不便であつて産物又少く市況次第に萎靡しつゝある。隋唐時代から高勾麗征伐の軍路となり、遼の時始めて復州と稱し現在管内の首都として縣知事公署を置いてゐる。城内東南隅に唐代の建築に係ると云ふ古塔永

豊塔がある。乾隆三十年建設の復州城壁と共に歴史を飾る處のものである。

王　家 (Wang-chia)

瓦房店	七・七粁	四・八哩	大連	一一二・七粁	七〇・〇哩
得利寺	一一・四	七・一	奉天	二八三・九	一七六・四
			長春	五八八・七	三六五・八

復州管内の稍東北に位し附近山岳重疊し、回頭河は北流して第二復州河に注ぐ。

【勝蹟】驛の西北約十二町、回頭河の左岸に大明山甘泉寺がある。明時代の建立に係り藥王の神像を祀つてゐる。寺背は龍王廟山であつて山姿奇態風光清雅愛すべき處、毎歳舊曆四月二十八日には附近から會式に集るもの參廟夥しい。

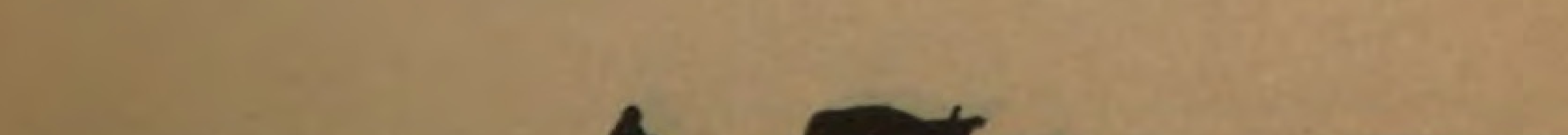
得利寺 (Te-li-ssu)

王家	一一・四粁	七・一哩	大連	一三四・一粁	七七・一哩
松樹	六・六	四・一	奉天	二七二・五	一六九・三
			長春	五七七・三	三五八・七

●公衆電報取扱驛

復州河の右岸流れの屈曲に従つてゐる。附近は連峰重疊して地勢峻險、僅かに復州河に沿ふて一帶の平野に連るだけである。最初は張家屯と呼んで居たが得利寺嬴城の古址と同名の古刹とから其の邑名に改まつたと口碑に傳へられてゐる。

【勝蹟】驛背後の龍潭山は、山頂に得利嬴城の古址を存し、蒼龍の棲むといふ碧水千古に湛ふる池あり。更に池畔に淸雅捨て難き龍虎寺があつて、灌木茂



生の間躑躅多く然も山上から脚下を俯瞰すれば、得利寺の會戰の記憶も新たなるものあるべく、春秋の行遊に適する處である。得利寺は驛の西方約一里に在る古刹であるが、其の創建は詳かではない。

松樹 (Sung-shu)

得利寺	六・六粁	四・一哩	大連	一三〇・七粁	八一・二哩
萬家嶺	一五・六	九・七	奉天	二六五・九	一六五・二
			長春	五七〇・七	三五四・六

●公衆電報取扱驛

【官公會社】郵便局、龍口銀行出張所。

松樹嶺の小丘を負ひ復州河其の前に灌流してゐる。元と寂寞の小農村であつ

たが曾て當地に任命された一無名の驛長の永い努力から次第に人口を加へ、產業の發展を見、目覺ましき進展の途にある。そして從來產出を見なかつた米、繭は、現在大正十一年度には前者は發送噸數に於て全線中第六位の千七百噸を、後者は首位を占めて二千八百噸を出してゐる。其他華人經營の五油房業を加へ、僅々の歲月に一小市街を形成するに至り、一兩年前公學堂すら設置された注目に價する處のものである。

繭發送噸數（大正十一年度）

松樹（本線）	鳳凰城（安奉線）	開原（本線）	鷄冠山（安奉線）	熊岳城（本線）
二、八四四	一、九〇二	一、五二七	一、三九六	一、二二〇

◎萬家嶺 (Wan-chia-ling)

松樹	一五・六粁	九・七哩	大連	一四六・三粁	九〇・九哩
			奉天	二五〇・三	一五五・五
許家屯	一四・二	八・八	長春	五五五・一	三四四・九

●公衆電報取扱驛

山間の僻地に位し、東方一帯の山形奇にして勝に富むでゐるが、交通不利の爲め探勝客を殆ど見ないのは惜しい處である。驛の東方里餘の處からは稍好良の花崗岩を出し、建築用材として廣く用ひられてゐる。

◎許家屯 (Hsu-chia-tun)

萬家嶺	一四・二粁	八・八哩	大連	一六〇・五粁	九九・七哩
九寨	七・五	四・七	奉天	二三六・一	一四六・七
			長春	五四〇・九	三三六・一

山岳四圍に繞り石頭河其の間を流るゝ境地に介在する。もと無人の境であつたが二百年前山東の移民許家の一族此處に移り住むで山野を開墾し一部落となつて、其の名を生じたるものであると。

【勝蹟】驛後の官馬山は往時唐の太宗東征の時軍を此處に駐め馬を山麓に放つて休養させたと云ひ、山頂から望めば水天の間に渤海を髣髴させ白帆隱見する眺望のいゝ處である。南山は驛の東方約一里にあつて潺々たる溪流其の麓を

洗ひ亭々たる老松滿山を翠りに包み、松籟を互る風音にも故國を偲ばす佳景の處である。龍門溫泉は東南里餘石頭河中處々に溫泉の湧出を見、其の點に於て熊岳城溫泉と好一對である。昔蛟龍此處に降下して河中に暫く潛むだといふ傳說から龍門湯の名を與へられてゐるが、惜しむらくは交通の便、旅宿の便を缺く事である。

⌺九　寨　(Chiu-chai)

許家屯	七・五粁	四・七哩	大連	一六八・〇粁	一〇四・四哩
			奉天	二二八・六	一四二・〇
熊岳城	一〇・二	六・三	長春	五三三・四	三三一・四

東に雙頂山を控へ、南に馬安山と對し、北方に黃旗山を經て遙かに熊岳城に

隣接する。鐵道線路は此の驛附近から漸く洞開して渤海沿岸の平野に出る。附近は地味豊澤果樹の栽培に適する。

◇熊岳城 (Hsiung-yao-cheng)

	粁	哩		粁	哩
九寨	一〇・二	六・三	大連	一七八・二	一一〇・七
			奉天	二一八・四	一三五・七
蘆家屯	一〇・〇	六・二	長春	五二三・二	三二五・一

●公衆電報取扱驛 ●赤帽 ●洗面所 ●携帶品一時預驛 ●兩替店

【旅館】溫泉ホテル（驛より二十町、室料本館二・五〇―六・〇〇圓、二號館一・五〇―二・〇〇圓、食事料一・五〇―二・〇〇圓）熊ケ谷旅館（宿泊料二・〇〇―四・〇〇圓）

【官公會社】小學校、幼稚園、公學堂、農業學校、實業補習學校、警察官吏派出所、郵便局、熊岳城殖產會社、稅捐局分卡、鹽務局、郵便局、商會。





熊岳城温泉砂風呂浴

東方一帶は摩天嶺の支脈に依つて遮られ、遠く長白山脈と連り、西方は全く開けて沃野千里の境となり渤海に面してゐる

驛附近附屬地には相當の民屋を見るが、西方十餘町熊岳河に沿ふて熊岳城がある。周圍二十五町の城壁內には戶數九百、人口三千餘を有し、古來蓋平城と共に渤海の重鎭として聞え、今は經濟上の市場として漸く其の面目を保ち、特產物としては黃花魚其他の魚類で大漁の時は年よく二百萬斤に上り、此の外生果千噸、柞蠶千二百噸を發送貨物として托送してゐる。附屬地に於ける人口五萬、內四百餘は邦人の數である。

◆溫泉　城市と反對に東南二十餘町の處、熊岳河中に亞爾加里性無色の溫泉を湧出し、僂痲質斯、濕疹、歇私的里、神經衰弱、貧血諸病、婦人病、腺病等に效驗がある。溫泉ホテルの內湯は河底から溫泉を導くのであるが、河中の一部隨所に湧出してゐる爲めに、天涯を仰いで砂風呂に浴する者多い。附近の環境

は稀れに多くの樹林翠欝に圍繞され、河水は清澄に、紙の如く淺く平らに悠容として流れ、溫浴に適する河砂を處々に現はにして、宛然たる畵圖の裡に自然の惠を恣に享受し得る一樂天地である。滿鐵では每歲夏季休暇を利用し、沿線各地小學校生の虛弱者を此處に收容して、溫泉林間學校を催ほしてゐる。驛から此の溫泉迄はトロリー馬車を通はせ（片道二十錢）、其他日歸り浴客の爲めに公衆浴場を設け、休憩所を置き、茶菓辨當の用意も常に準備されてゐる。

◆農事試驗分場　會社公主嶺試驗場の分場は此の地にある。園藝、種藝、林產、養蠶の四科に分れ、園藝にあつては果樹の品種、栽培法に關する試驗、竝蔬菜の品種栽培貯藏試驗と果實、豌豆の罐詰製造試驗などを行つてゐる。

熊岳城附近から以南地方に近年梨、葡萄、苹果の產著しく增加したのは、取りも直さず斯物試驗の應用に外ならないのである。種藝科にあつては水稻の品種栽培法竝肥料試驗を行ひ、優良品種の普及に努め、將來滿洲水田の勃興と成

果は此處から生ずるであらうと云はれてゐる。

【勝蹟】　咸家の梨園は驛の西南鐵道線路に沿ふ處に在る。其の祖を奉天將軍とすると云ふ豪農の所有する梨園は、春萬朶の紛黛を施し、秋紅果累々皷腹の樂しみを得せしむる處である。後丘黄旗山は老松、奇松茂生し、遠く渤海の碧りを見せ、顧れば東山の峰巒屹々として風趣愛すべき境地である。山上に關帝廟あり。東山千峯の裡古來最も名高いものは青龍山である。驛を距る東二里、坂路盤まつて洞天開き來る處蒼苔巖を染め、老松龍の如く蟠居して、泉聲其の間に咽ぶが如き仙境である。山頂に古刹望海寺がある。一名を望海山と稱するものはその故であつて、顧望雄大の處、山中には伺喇嘛洞、羅漢峯、將軍石等の奇勝がある。望小山は車窓から望み得る一大奇岩であつて、岩頭に浮屠を持ち旅客の一瞥を必ず牽く處のものである。傳へて曰ふ。昔一寡婦、其の一子を京に上せ月を經るも還らず、思慕の情は彼女を此の岩頭に立たせ寧日歸帆を眺め

倦むことなく、遂に悶死したと云ふ。奇岩は傳説と結んで更に妙である。

蘆家屯 (Lu-chia-tun)

	粁	哩		粁	哩
熊岳城	一〇・〇	六・二	大連	一八八・二	一一六・九
沙崗	一〇・八	六・七	奉天	二〇八・四	一二九・五
			長春	五一三・二	三一八・九

●公衆電報取扱驛

四方山を以て繞らし平地に乏しい。遠く渤海大氏の頃から知られた蘆州の地である。今は見る影もない荒寥たる寒村であるけれども附近の地下には往々高勾麗時代の刄錢、五銖錢、埴輪などを古塚の棺中に見出すさうである。

⊠沙崗 (Sha-kang)

盧家屯	一〇・八粁	六・七哩	大連	一九九・〇粁	一二三・六哩
			奉天	一九七・六	一二二・八
蓋平	一〇・六	六・六	長春	五〇二・四	三一二・二

●公衆電報取扱驛

東北と西南とは山脈連亙し新開河其の麓を流れてゐる。花崗岩と螢石とを産出する寒村である。

⊠蓋平 (Kai-ping)

沙崗	一〇・六粁	六・六哩	大連	二〇九・六粁	一三〇・二哩
			奉天	一八七・〇	一一六・二
太平山	一八・七	一一・七	長春	四九一・八	三〇五・六

●公衆電報取扱驛 ●赤帽 ●兩替店

年度	乗降客數	
	乗車	降車
明治四十年	二四、七六五	二七、八二一
大正十年	九七、一九一	九五、五五五
大正十一年	一〇五、八六六	一〇七、七二八

【官公會社】 警察官吏派出所、郵便局、小學校分敎場、幼稚園、公學堂、實業補習學校、縣公署、警察署、稅捐局、電報郵政局、師範學堂、中學堂、日語科夜學校。

東北一帶には山脈連互し、西南は開け、蓋平川は千山々脈から發して城北を流れて渤海に注いでゐる。驛から東南里餘に蓋平城がある。東西五町、南北八町の市街を成し、南東北の三大街最も殷賑である 古くから柞蠶を生命とする市場であつて海岸一帶からは所謂蓋平鹽の產額頗る多い。蓋平城內外の戶數三千、人口約一萬五千、附屬地の同胞約百六十人である。

【沿革】 蓋平は古への蓋州城で、高勾麗時代には蓋平城と稱した處である。唐の太宗東征の時唐將李世勛の攻陷した天險として聞え、爾來星霜一千年、當年の激戰場であつたと云ふ靑石關、撒謊糧等の地名も懷古のものである。遼代には奉國軍に陞せられ、元は蓋州路と改め、明の洪武九年に蓋平街となり、遼東都指揮使に隷し、清朝に至つて始めて今の蓋平縣となつたのである。現在停車場のある邊りは曾て海山寨と稱した村落である。

滿洲の柞蠶 滿洲の柞蠶飼育の起源は文獻の徵すべきものがないが、清朝の嘉慶年間に山東の移民に依つて、當時交通の最も頻繁であつた蓋平縣に傳へられたものゝ如く、時の官憲は丘陵の起伏する管內地勢に鑑みて保護奬勵法を講じ、從つて農閑を利用して飼育するもの多きを加へ、いつか蓋平は盟主先覺となつて現今では縣下の岫巖、安奉線の安東其他寬甸西豊等に廣く斯業の發達を來したのである。

繭の生產は又當然柞蠶糸業の糸房擡頭を招き、原始的の紡機から、現今は獨逸ケンネル式製糸器を模した足踏器により、以前芝罘に搬出されたものは、經

濟的見地から蓋平、安東兩地に製糸工場の目覺ましい發展となり、前者は二十八工場、一箇年生産概數一千梱、後者は六十工場、一箇年生産概數一千萬兩に達してゐる。

太平山 (Tai-ping-shan)

	粁	哩		粁	哩
蓋平	一八・七	一一・七	大連	二三八・三	一四一・九
大石橋	一一・二	六・九	奉天	一六八・三	一〇四・五
			長春	四七三・一	二九三・九

●公衆電報取扱驛

渤海に瀕する一寒村であつて地味鹽分を含むで農作に適してゐない。東方里餘の孤峯太平山と驛の北方約一哩の牛心山と對し、共に最近二度の交戰に名を

止めてゐる。西方二里渤海岸にある黃旗、藍旗の二鹽廠は所謂蓋平鹽の過半の產出を占め、此の驛を經て各地に仕向ける處である。

奉天省の鹽業　奉天省沿海各縣では孰れも鹽田即地人の鹽灘が行はれ、營口、蓋平、復縣附近が最も旺んである。沿海の海水は鹽分に富み地質が天日製鹽に適し雨少く、加へて所謂蒙古から吹き來る大氣は乾燥してゐるが爲めに、斯業には最も有利な天惠の蒸發を盛んならしめるのである。

鹽は支那政府が吾が邦に傚つて專賣法を執つてゐるが各省形式を異にし東三省では官運の形式を採り沿岸の製鹽を買收して一定價格でもつて賣り下げ、滿洲以外から鹽を輸入し、乃至は滿洲熱河蒙古以外に搬出を許さず、之れを犯せば重罪に處してゐる。

鹽田の面積は信憑すべき材料を缺いて正確に知り難いが、產額から見れば七千町步を下らぬと見做されてゐる。大正十一年度會社主要驛の發送噸數は左の

如くであつて、太平山驛の搬出は營口に亞いでゐる。

營口（支線）	九九、九一九
太平山（本線）	四〇、九四七
蓋平（本線）	二一、二五八
普蘭店（本線）	七、五三五
營城子（旅順線）	四、三八〇
大石橋（本線）	四、一三八

⊠大石橋 (Ta-shih-chiao)

太平山	一一・二粁	六・九哩
分水	七・六	四・七
大連	二三九・五粁	一四八・八哩
奉天	一五七・一	九七・六
長春	四六一・九	二八七・〇

●公衆電報取扱驛 ●赤帽 ●携帶品一時預驛 ●構內食堂
●營口線乘換驛 ●辨當驛 ●洗面所 ●兩替店

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	五〇、六六八	四四、五二五	一九、七二五	三一、〇七三
大正十年	一三四、四〇一	一三三、四五三	八八、六四一	一〇五、六一七
大正十一年	一三四、八〇六	一三一、五二九	一三四、二七七	一一九、九四八

【旅館】梅迺家（宿泊料、二・五〇—五・〇〇圓）末廣屋（同上、二・〇〇—五・〇〇圓）廣島館（同上、二・〇〇—四・〇〇圓）

【官公會社】警務支署、衛戍病院、郵便局、電燈會社、南滿鑛業出張所、菱苦土工業會社、幼稚園、小學校、實業補習學校、家政女學校、郵政局、鹽務局等。

蛛龍山を北に、盤龍山を東に背負ひ、紅旗、太平、迷鎮等の諸山を西南遙かに、岳州、遊泥の二川を附近に灌流させ、昔時の大石橋灣底に當つて濕潤の土地である。大石橋の名はもと遊泥川に石虹を架したのに原因すると云はれ、鐵路開通前は營口岫巖間の一宿驛以上のものでなかつたが、營口支線を派出する

接續驛となつてから次第に今日の繁盛を加へた處である。

菱苦土鑛　驛の西南十支里の官馬山附近からは世界稀れに見る無盡藏の菱苦土鑛（マグネサイト）を產出する。此の菱苦土鑛は耐火煉瓦の材料となり、リノリウム代用のソーライト塗料ともなり、その工業的利用途頗る多い處のものである。驛附近附屬地からは又優良の珪石を產し硝子製造の原料として搬出されてゐる。

【勝蹟】　驛西南三十餘町の迷鎭山は山上に海雲寺の古刹があつて、耀州城頃から有名のもの、裡に娘々（にやんく）の三神を祀つた一廓がある。此の三神とは趙公明の三妹雲宵、避宵、瓊宵の三體で、福壽、治眼、授兒の女神である。每歲舊曆四月十六、七、八の三日間の會式には遠近から參籠するもの堵を作り全山を埋め、各種の露天小屋、飲食店蝟集して驚くばかりの盛況を現出する。然も其等は民俗の通習として慨ね荷馬車に寢具等を設け祭典中を此の移動式家臺に送るもので

あつて一奇觀のものである。盤龍山は驛の東方に峙立する小丘であつて日淸役の古戰場である。山腹に大石橋神社を安置し、一小公園となり、山の一半には八十八箇所巡りが按配してある。山頂からの顧望は茫漠の平原を支配して雄大である。紅旗山は驛の東南一里の處にある。山腹に杏樹多く春一日の淸遊に喜ばれる。

◎分　水　(Fen-shui)

	粁	哩		粁	哩
大石橋	七・六	四・七	大連	二四七・一	一五三・五
他山	八・〇	五・〇	奉天	一四九・五	九二・九
			長春	四五四・三	二八二・三

●公衆電報取扱驛

渤海沿岸平野と、遼河流域平野とを小丘脈で分界するので此の名ある處である。

◇他山 (Ta-shan)

分水	八・〇粁	五・〇哩	大連	二五五・五粁	一五八・七哩
海城	一六・五	一〇・二	奉天	一四一・五	八七・九
			長春	四四六・三	二七七・三

◇海城 (Hai-cheng)

他山	一六・五粁	一〇・二哩	大連	二七一・六粁	一六八・七哩
南臺	九・一	五・七	奉天	一二五・〇	七七・七
			長春	四二九・八	二六七・一

●公衆電報取扱驛　●赤帽　●兩替店　●携帶品一時預驛

年度	乘降客數 乘車	降車
明治四十年	三九、八九九	四〇、五〇一
大正十年	一二四、五一九	一二一、八四三
大正十一年	一三五、三九七	一三五、八六三

【旅館】勝田館（驛前、宿泊料三・〇〇—六・〇〇圓）翠香花壇（驛より三町、宿泊料四・〇〇—七・〇〇圓）

【官公會社】警察官吏派出所、郵便局、屠畜會社、公會堂、大海信託、商工銀行支店、幼稚園、小學校、實業補習學校、縣公所、警察公所、官銀行分局、稅捐局、電報郵政局、商務會、師範學堂、中學校等。

海城驛は東淸時代大いに重視され、驛を起點として石門子、折木城、大孤山を經て鴨綠江岸に至る支線を企圖し、既に四十哩に及ぶ築堤を設けたのであつた。附屬地の人口八百餘を數へてゐる。

海城は驛の東方十町、遼代既に海州と云ひ、渤海の波は當地附近に波打つてゐたと云ふ事である。大沙河が城側を流れて渤海に注ぐ。城郭は略正方形をなし、四門の他に小西門を開き、天然の丘陵を廓内に入れ海城河の流れを利用して自然の塹を作つてゐる。此の丘は暦石山と稱し一帯は今公園となつてゐる。中央の十字街は最も繁盛の大街とし、往昔江に臨むでゐた時代の隆昌を物語つてゐる。

〼南臺 (Nan-tai)

海城	九・一粁	五・七哩
湯崗子	一二・一	七・五
大連	二八〇・七粁	一七四・四哩
奉天	一一五・九	七二・〇
長春	四二〇・七	二六一・四

●公衆電報取扱驛

図 湯崗子 (Tang-kang-tzu)

	粁	哩
南臺	一三・一	七・五
千山	九・四	五・八

	粁	哩
大連	二九二・八	一八一・九
奉天	一〇三・八	六四・五
長春	四〇八・六	二五三・九

●公衆電報取扱驛 ●携帶品一時預驛

【旅館】 旅館には一、二泊客の爲めに設備最も完き**對翠閣**（室代三・五〇―五・〇〇圓、定食朝一・五〇圓、晝夕二・〇〇圓、洋室あり）滯在自炊客の爲めの**玉泉館**（同上、一・五〇―二・五〇圓、定食朝一・〇〇圓、晝夕一・五〇圓、自炊一日一圓）日歸り客の爲めの**清林館**（一人一日五〇錢、辨當五〇―八〇錢）民國人の爲めの**龍泉別墅**の四館から成つて何れも完備の内湯を持つてゐる。

古來から溫泉湧出地として知られ、此處の旅館は輓近その規模と設備の充實とに伴つて、滿鐵沿線隨一であるばかりか、内地諸溫泉場と比しても敢て多く

比肩する處なく、其の誇りはいや高きものがある。

溫泉は驛より東北八町、平圃の間に忽然として湧き、泉質無色透明、亞爾加里性泉であつて、僂痲質斯、濕疹、ヒステリー婦人病、腺病等に效能がある。現在湯崗子溫泉株式會社にて溫泉旅館の外飲料水をも經營してゐる。

【沿革】 附近に湯河甘泉堡の地名あるに徵すると、此の溫泉の發見は古いものと察せられる。邦人が此處に入浴したのは日清戰爭當時であつて、露西亞も亦大規模の療養所を經營し、現在の淸林館は當時の名殘りである浴漕を殘してゐる。日露の役には陸軍の療養所を置き、滿鐵繼承後更に施設を加へ、後に溫泉會社の組織されると共に、其の經營を委ねたのである。

◆**千山**　滿洲に冠たる名山であつて、湯崗子の東五里、鞍山より四里の處にある。そして湯崗子、鞍山兩驛の孰れよりするもよく、萬端の準備を整へる便はあり、上石橋よりする道程は最も容易であつて湯崗子より登る者が多い。鞍山よりする場合は滿鐵の運鑛線にて大孤山迄貨物列車を利用する事を得るが、それには相當の手續きを要し、且登路急である。



婦人風俗

【湯崗子よりの順路】未明に溫泉を發し、上石橋子より山に入る。そして峠を越して谿谷を行き、祖越寺、無量觀に至つて歸路に就く（往復約十里）。乘り物には上石橋子迄チエヤ、馬、馬車の便がある。（馬、馬車約三圓、チエヤ約五圓、案内者邦人二圓）、山中一泊の場合は、寺觀に一泊を乞ひ、食料と寢具を適宜用意する事を要す。

春は滿山の梨花霞の如く、夏は新綠滴るが如き、秋は錦繡に包まれ、冬は白雪皚々雄大無比、四時佳ならざるはないのである。山中の溪谷は四十八、奇勝百景と云はれ、奇岩怪石相擁し相據り、巨刹僧房翠微に懸り、自然塵外の仙境となつてゐる。溪山勝景—最も賞すべきは蓮花、月芽、獅子、彌勒、淨瓶、孟鉢、海驟、漱瓊、松苔、上夾、下夾、筆架等の諸峰であつて每溪必ず寺觀がある。佛寺は概ね宋の景德年間（從一〇〇四年至一〇〇七年）の創建に係り、他の道教宮觀二十餘墓は淸朝乾隆年間（從一七三六年至一七九五年）の建立である。歷代皇帝の聖壽無窮を祈願する處、又鎭守の祭壇でもある。五大禪寺—香巖、祖越、龍泉、中會、大安の五寺を云ひ、龍泉寺がその中の巨擘であつて、建築の古雅は大安、中會の二寺であ

る。大安、中會の間には懸涯羅漢洞の奇勝があり、祖越寺の背後斷崖には「獨鎭群狹」の刻字がある。香巖寺畔には唐の太宗の建てた古碑があり、仙人臺は千仞の斷崖上に在る千山最高頂であつて神仙傳中九仙圍棋の石枰がある。宮觀—無量、圓通、青雲、普安、慈祥、風朝、雙龍、保珍、三淸、立淸の十觀、洪谷、南泉、龍泉、木魚の四庵、五龍、朝陽、太安、泰和、東極、斗姆、聖淸の九宮がある。就中無量觀は規模最も宏壯であつて居然巖頭を壓し、山水の景趣雄大千山中無双の處である。

◎千山 (Chien-shan)

	粁	哩
湯崗子	九・四	五・八
鞍山	五・一	三・三
大連	三〇二・二	一八七・七
奉天	九四・四	五八・七
長春	三九九・二	二四八・一

一一

立山　五・三　三・二

長春　三九四・一　二四四・八

一





る。大安、中會の間では懸崖犇莫同の奇勝があり、祖越寺の背後斷崖では「蜀

●公衆電報取扱驛　●赤帽　●兩替店

現在の千山驛はもと鞍山站と稱してゐたのであるが、次驛に鞍山を新設してから千山と改めたのである。

◆鞍山站　鞍山と鳳龍山との間を流るゝ鞍山河の右岸、鞍山々麓に在る小城市であつて、地形から遼陽城南方の關門となつてゐたのである。驛は此の古城市の北方舊堡の處にある。

◎鞍山 (An-shan)

	粁	哩		粁	哩
千山	五・一	三・三	大連	三〇七・三	一九一・〇
立山	五・三	三・二	奉天	八九・三	五五・四
			長春	三九四・一	二四四・八

●公衆電報取扱驛 ●兩替店 ●赤帽 ●携帶品一時預驛 ●手荷物配達驛

【旅館】 近江屋（驛ヨリ三町、宿泊料四・〇〇—八・〇〇圓）紅葉館（北二條町、驛より三町、宿泊料二・〇〇—五・〇〇圓）

【官公會社】 振興公司採鑛總局、警務支署、郵便局、營口電氣營業所、滿洲銀行支店、龍口銀行支店、鞍山窯業、鞍山商事、滿洲興業、鞍山不動信託、吉川組、鞍山木材、旭煉瓦、鞍山建物、鞍山證券、幼稚園、小學校、中學校、實業補習學校、家政女學校、巡警局、振東公司、德興公司等。

會社が鞍山製鐵所を此の地に企劃すると共に大正七年に此の驛を新設し、西に製鐵所の市街を建設したのである。

◆鞍山製鐵所　當初會社は將來銑鐵百萬噸を製出する計劃を以て鎔鑛爐二基、並其れに必要の骸炭工場其他附帶設備を行つたが、經濟界の急變に遭遇して、より以上の擴張計劃を止め、先決として大部分を占むる五〇％以下の鑛石に對する貧鑛處理に就ての研究を行ふ事にし、最近還元焙燒法の實際試驗に成功して、漸く貧鑛處理に對する曙光を認め、その復活の爲めに著々努力を拂ひ

つゝあるのである。

會社が此地に製鐵所を計劃するに至つた道程は、明治四十二年、湯崗子の西方小丘の鐵石山なる名稱に興味を惹いて、その實査を行つた處鐵鑛山である事を發見し、爾來附近に亙つて調査を進め、東西鞍山、大孤山、櫻桃園、王家堡子、關門山、小嶺子等の鑛區を發見し、その埋藏量二億噸と稱せられたのである。玆に於て會社は之れを開掘する爲めに支那官憲に交渉したが同意を得る能はず、大正四年日支條約締結と共に始めて鞍山一帶の開掘利權を得、大正五年中日合辦振興公司を設立して採鑛機關を起し、同公司より原鑛の供給を受けて會社自ら製鐵所を經營するに至つたのである。

◎立山 (Li-shan)

	粁	哩		粁	哩
鞍山	五・三	三・二	大連	三一二・六	一九四・二
首山	九・一	五・七	奉天	八四・〇	五二・二
			長春	三八八・八	二四一・六

●公衆電報取扱驛 ●兩替店 ●赤帽 ●携帶品一時預驛

◎首山 (Shou-Shan)

	粁	哩		粁	哩
立山	九・一	五・七	大連	三二一・七	一九九・九
遼陽	一〇・六	六・五	奉天	七四・九	四六・五
			長春	三七九・七	二三五・九

首山はもと馬伊屯驛と稱してゐたのを改名したものである。

◆首山堡　平原の間に獨立する高さ僅か七十米の小丘に過ぎないが、遼陽城

を瞰制する要地として兵家に重視された處である。卽漢末には魏の司馬懿が太子河を渡つて此れを占領し公孫淵の居城襄平（遼陽）攻撃の據點とし、唐初には太宗皇帝馬を首山に駐めて白巖城（遼陽）の高麗軍を親征し駐蹕山の別名の所以となり、日露の戰には交戰三日漸く首山を陷して、遼陽攻撃の根據となつたのである。

山中には清風寺の古刹があり、丘上の狼煙臺は千古の記念として驛前近く立つてゐる

遼陽 (Liao-yang)

	粁	哩
首山	一〇・六	六・五
張臺子	一二・九	八・一
大連	三二二・三	二〇六・四
奉天	六四・三	四〇・〇
長春	三六九・一	二二九・四

●公衆電報取扱驛 ●赤帽 ●携帶品一時預驛 ●構內食堂 ●兩替店
●手小荷物市內配達 ●洗面所

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	七六、二七一	七三、一六八	三七、六六三	六六、七三六
大正十年	二七二、七四一	二七三、四八一	一三一、七九三	一四七、〇六六
大正十一年	二八七、四三六	二八五、〇五三	八五、四〇一	一九八、六七五

【旅館】遼塔ホテル（驛より五町、宿泊料四・〇〇—六・〇〇圓）油屋（驛より八町、宿泊料三・〇〇—五・〇〇圓）福屋（驛より六町、宿泊料二・五〇—四・〇〇圓）

【官公會社】領事館、警務署、郵便局、遼鞍印刷、滿蒙綿花紡績、美孚石油公司、亞細亞石油、取引所、取引所信託、遼鞍信託、電燈、鮮銀出張所、商工銀行、大昌銀行、幼稚園、小學校、公學堂、商業學校、實業補習、家政女學校、縣知事公署、警察事務所、地方審判廳、地方檢察廳、郵政電報局、商務會、師範學堂、女子師範學堂、中學校等。

概觀 市街は之れを城內と附屬地とに分け、城內は驛を距る十町、東西六支

里、南北四支里の城壁を廻らし、六門を開いて通路としてゐる。城内中央に十字街があつて之れを中心として東西南北の四大街に大別され、東西兩大門街には大小の商賈軒を連ねて、最も殷賑を極めてゐる。

附屬地は西門外と停車場との間で、會社は明治四十年から市街經營に著手し、道幅四間乃至十二間の道路を築造し、太子河に至る排水路を設け、水道を埋設し、現在あるが如き整頓の市街としたのである。城内人口約三萬五千、附屬地及領事館下にある邦人四千七百である。

【沿革】遼陽は滿洲第一の古都である。湯虞の時代（紀元前千四、五百年）に禹貢靑州の城と稱され、漢代に遼陽縣となり、南北朝の際は朝鮮の領土となつて宏大な高麗城の建造があつたと曰はれ、唐代には遼州となつて再び支那領となり、遼代の東京も此の地であるし、淸朝の奉天遷都前の舊都であつた。そして今の遼陽縣は民國二年の改稱である。

【勝蹟】忠魂堂は驛の南方約十餘町の處にある。日露役に於て蓋平から煙臺の間で戰歿した人々の英靈を祀つてある。白塔公園は東漢時代に建立した廣祐

寺の遺跡であつて、著名の白塔は高勾麗以後のもの、塔の高さ二百三十餘尺、八菱形十二層樓を成し周圍に佛像が刻まれてある。廣祐寺の伽藍は東清鐵道敷設の際地所建物共に買收され爾後佛像佛具概ね壞たれ今は大小二座の銅佛空しく公園内に曝されてある。園内には又遼陽神社を祀つてある。東京陵は城外にあつて墳上とも稱し、清祖帝業の功臣の墳墓であるが、今は見るべきものもない。上記の外城内外には關帝廟、東會寺、西會寺、孔子廟、玉皇廟、城隍廟等があつて何れも明代以前の建物と云はれてゐるが風致に乏しい。

図 張臺子 (Chang-tai-tzu)

	粁	哩		粁	哩
遼陽	一三・九	八・一	大連	三四五・二	二一四・五
			奉天	五一・四	三一・九
煙臺	九・四	五・八	長春	三五六・二	二二一・三

●公衆電報取扱驛

東方一帶は山丘起伏し石灰石等の礦物を產し、西北は平原である。驛附近里餘には皇姑墳があり、此のあたり古墳多く土器古錢を發見する事がある。その東北十餘町太子河右岸上には高麗城と云はれる燕巢城の舊蹟がある。

図 煙臺 (Yen-tai)

	粁	哩		粁	哩
張臺子	九・四	五・八	大連	三五四・六	二二〇・三
			奉天	四二・〇	二六・一
十里河	八・三	五・二	長春	三四六・八	二一五・五

●公衆電報取扱驛

煙臺は往時警を傳へる狼煙臺のあつた處で此の名があり、東淸時代に炭坑採掘の爲めに開驛した處である。

◆煙臺炭坑　今を距る一千餘年前高勾麗人李某始めて開掘し、老君廟は卽炭坑の祖神として彼を祀つた處である。煙臺驛を距る十哩の地點にあつて支線を派し、炭田は東西約十三町、南北五十町に亙り埋藏量二十萬噸と計上されてゐる。炭質は半無煙炭で特殊の需要に應じ、明治四十三年から營業坑として撫順の支坑となり、現在一日三百噸內外の出炭能力を持つてゐる。坑口の磨臍山と相竝んで石硐山、三塊石山があつて沙河戰の重要鎖鑰地として知られてゐる。

⊠十里河 (Shih-li-ho)

	粁	哩
煙臺	八・三	五・二
沙河	八・八	五・四

	粁	哩
大連	三六二・九	二二五・五
奉天	三三・七	二〇・九
長春	三三八・五	二一〇・三

●兩替店

◇沙河 (Sha-ho)

十里河	八・八粁	五・四哩	大連	三七一・七粁	二三〇・九哩
			奉天	二四・九	一五・五
蘇河屯	九・三	五・八	長春	三三九・七	二〇四・九

●公衆電報取扱驛

日露兩軍相對して嚴冬を送つた戰線の中央であつて、驛現在の建物は當時彼我砲火の集注點となつたが、能く大破を免れ、多少の修理を加へた記念すべきものである。

驛の北方を西流する沙河は、天與の塹壕であつたもの、その河北の雜木林は當時地獄林と稱され、其處に落命の勇卒頗る多く、今尙當時の激戰を語る思ひ出の處である。驛東里餘の萬寶山、黑溝臺等は皆著名の戰蹟である。

◇蘇河屯 (Su-chia-tun)

沙河	九・三粁	五・八哩	大連	三八一・〇粁	二三六・七哩
渾河	七・〇	四・三	奉天	一五・六	九・七
			長春	三二〇・四	一九九・一

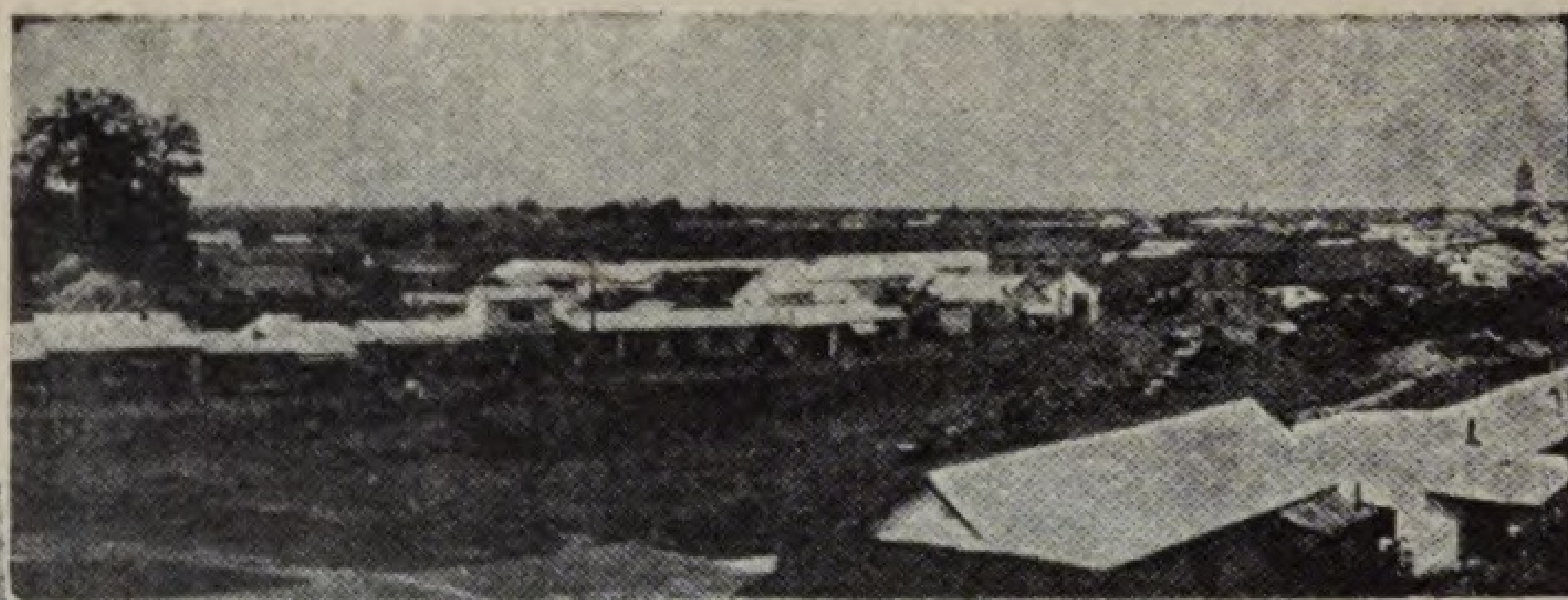
●公衆電報取扱驛 ●安奉線乘換驛 ●携帶品一時預驛 ●赤帽 ●兩替店
●洗面所

曾て撫順支線は此の地から分岐し、安奉線は次驛渾河から射出してゐたが、後現在の如く改め、其の乘換驛とし設備を整へたのである。

◇渾河 (Hun-ho)

蘇河屯	七・〇粁	四・三哩	大連	三八八・四粁	二四一・〇哩
奉天	八・六	五・四	長春	三一二・五	一九四・八







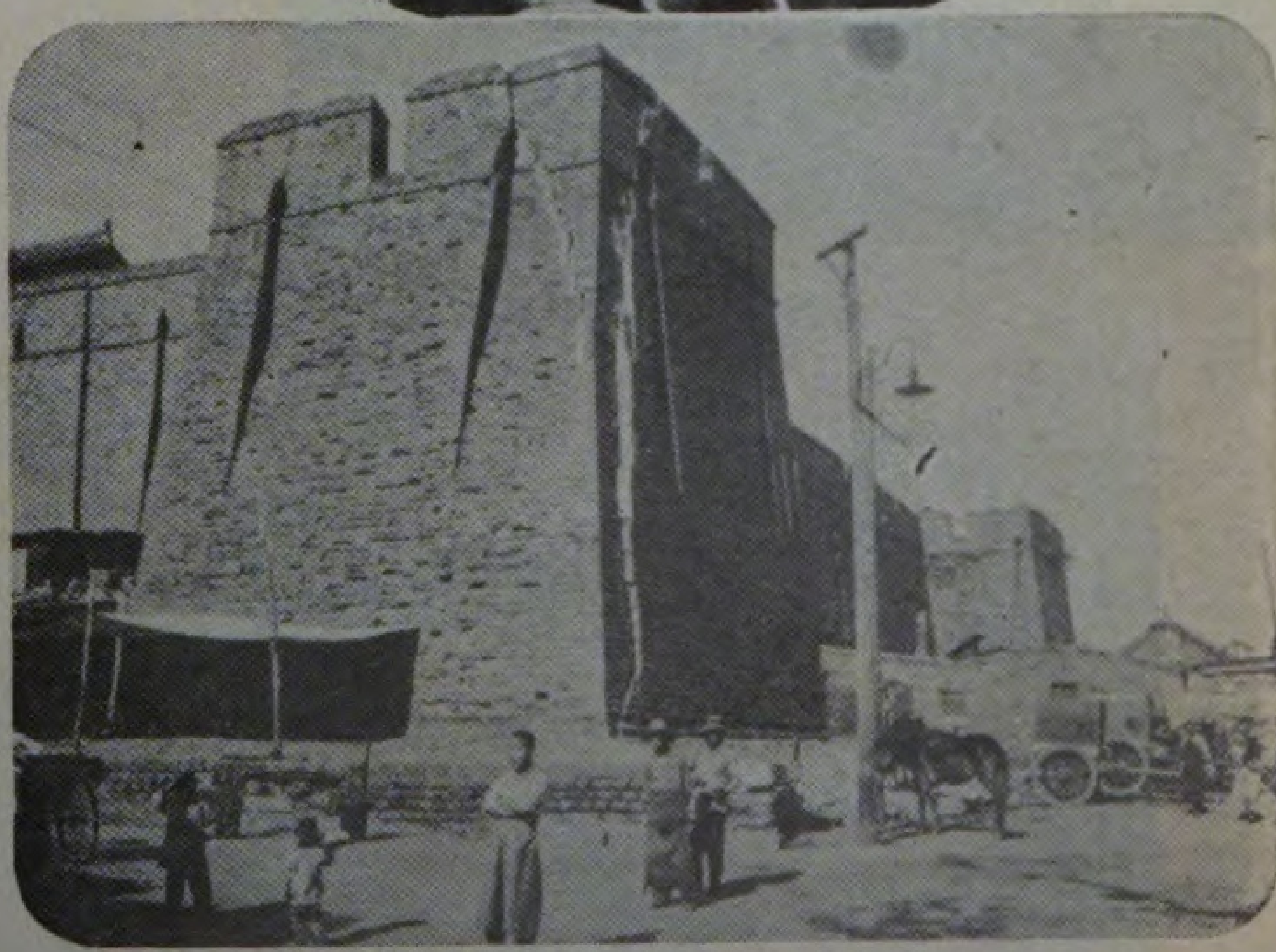
遼陽市街と白塔



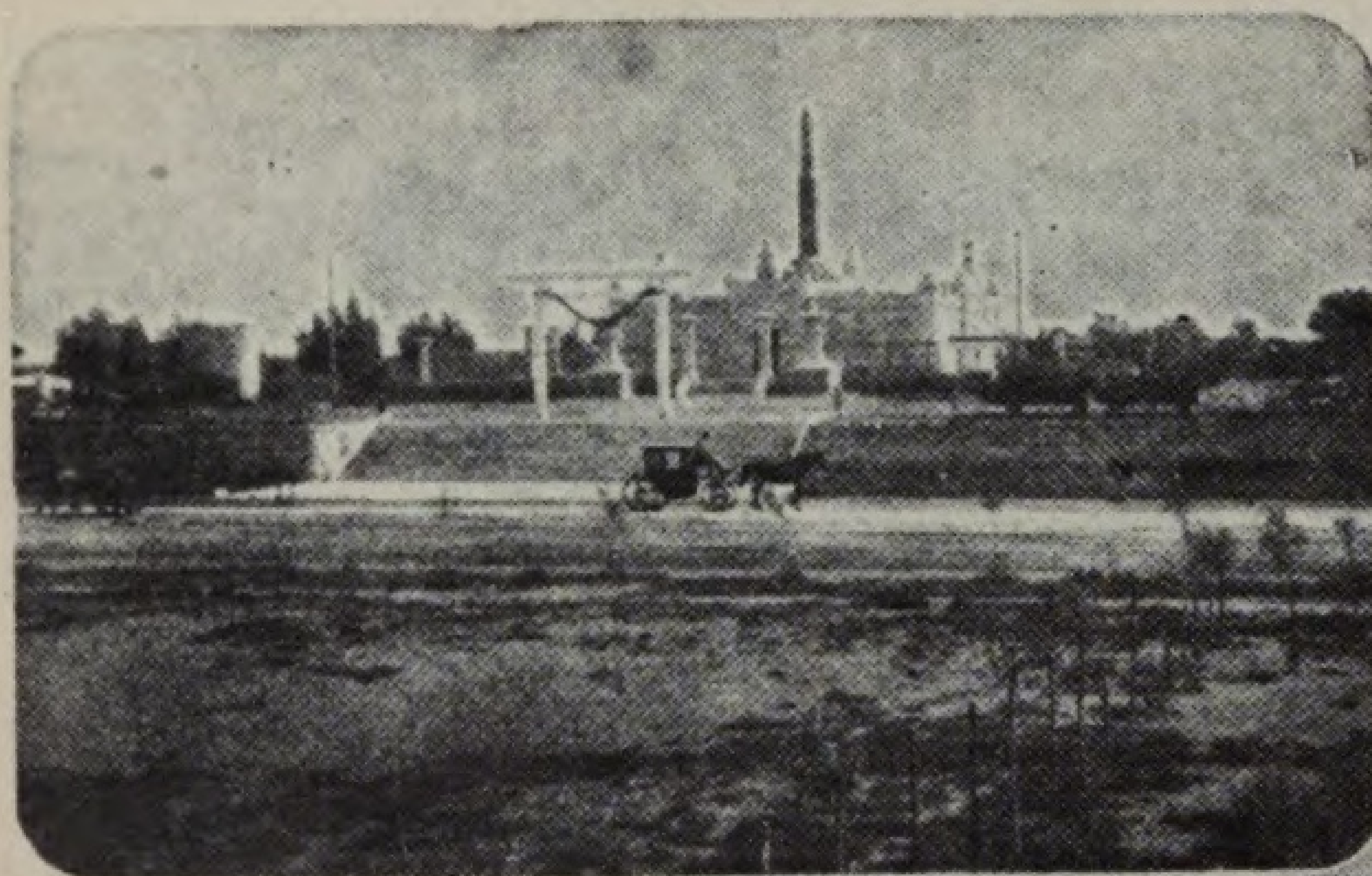
太子河鐵橋







（上）奉天驛　（中）特產物の集積　（下）奉天城壁

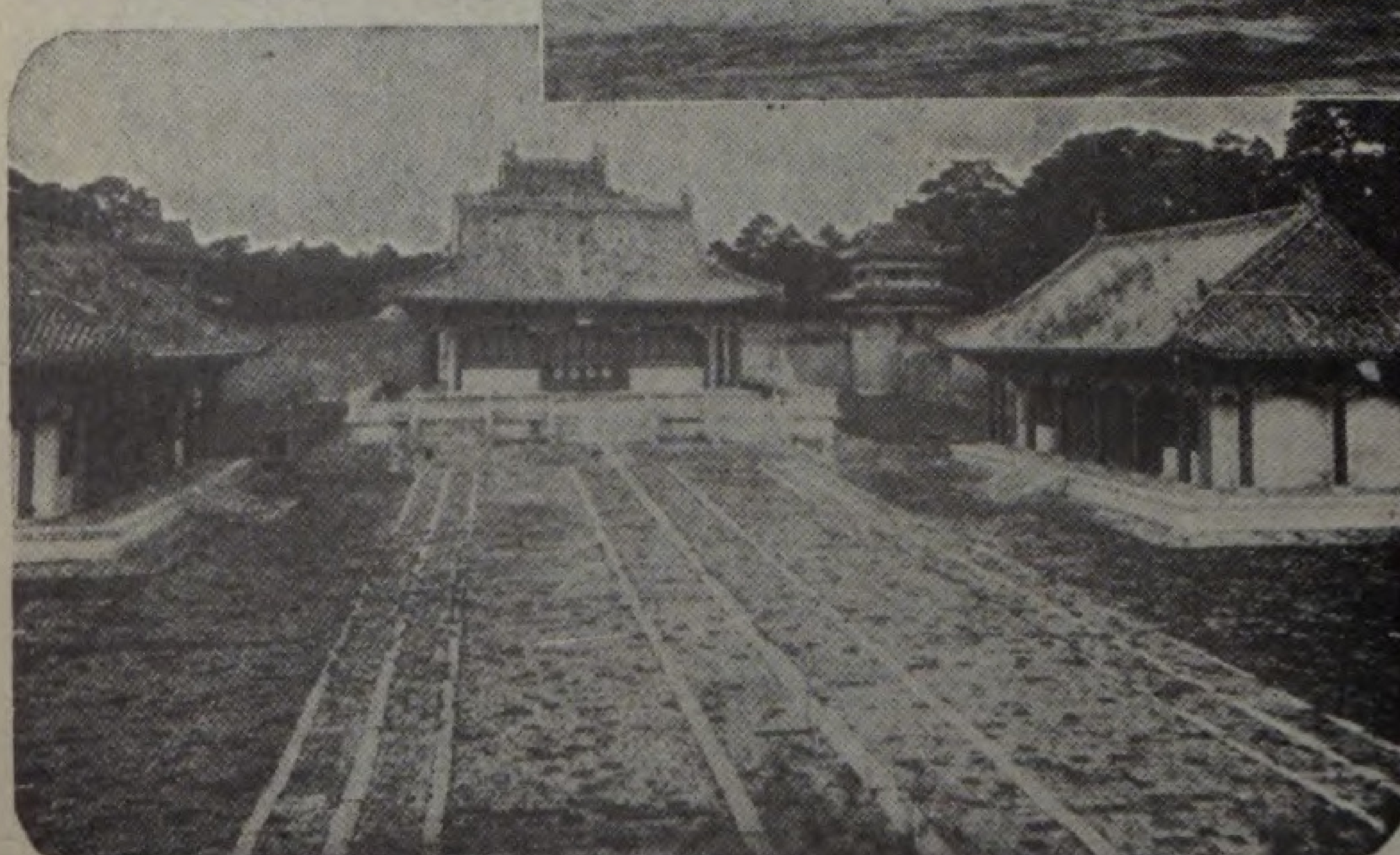


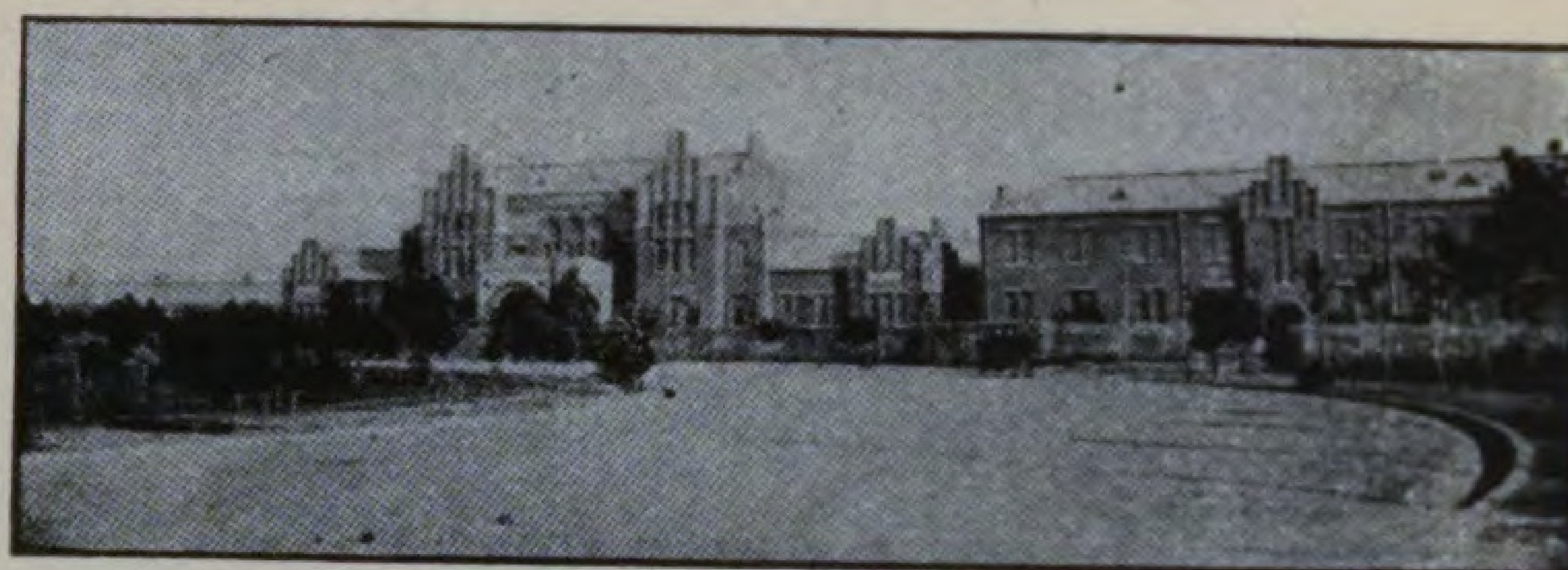
忠魂碑



東陵樓門

北陵

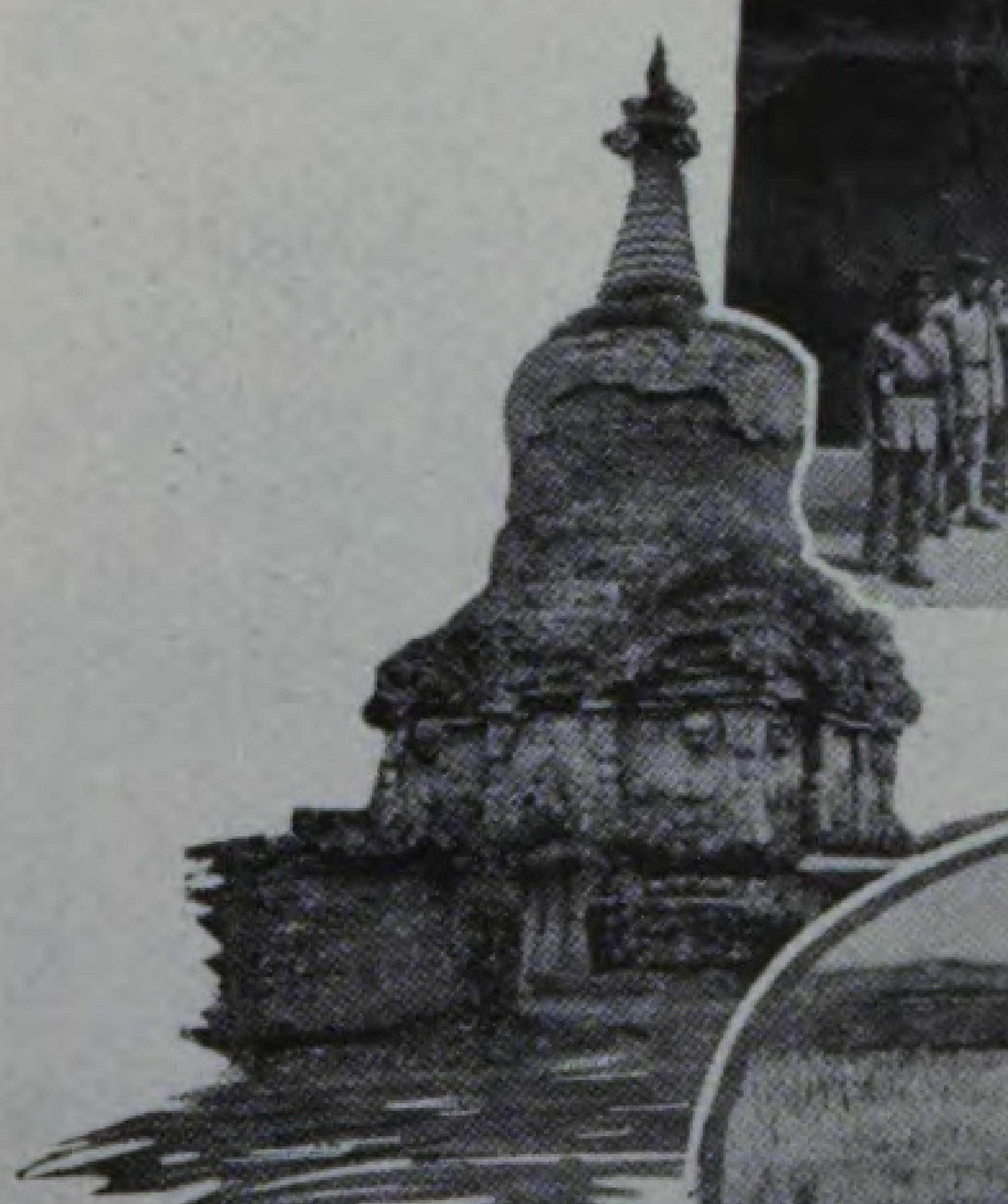




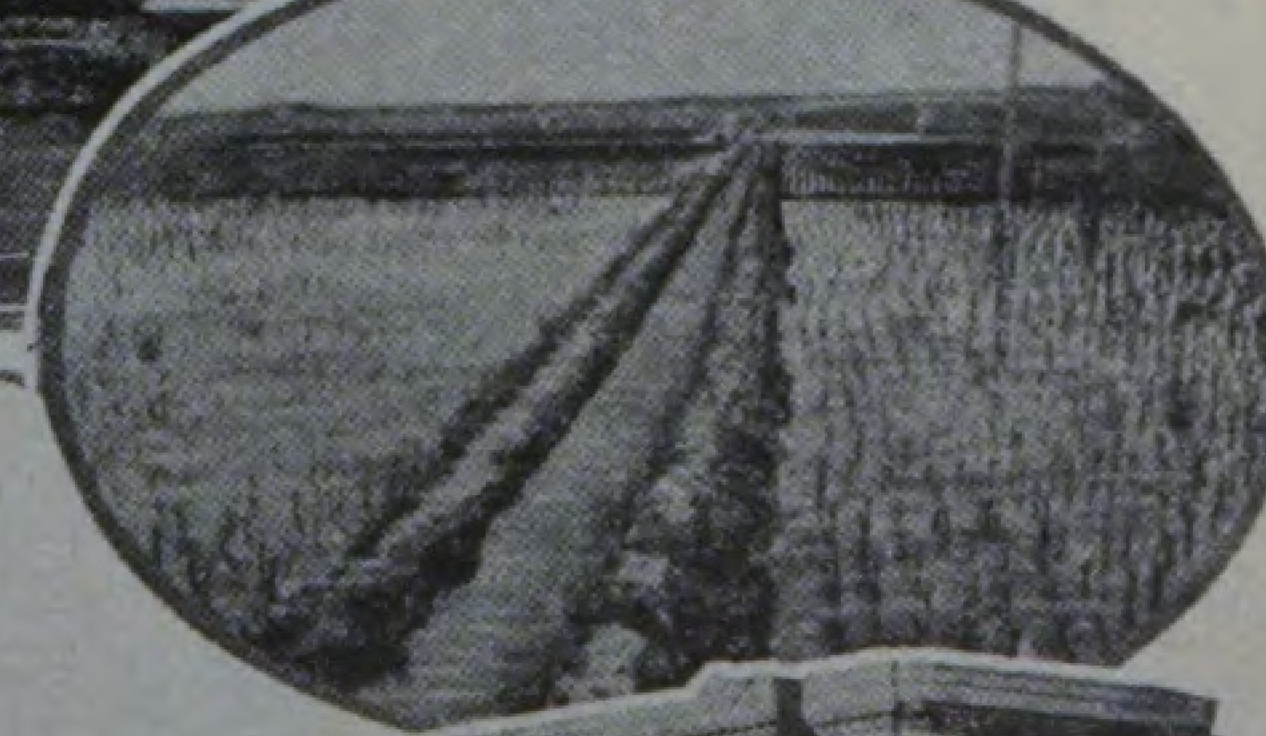
奉天病院



督軍居宅



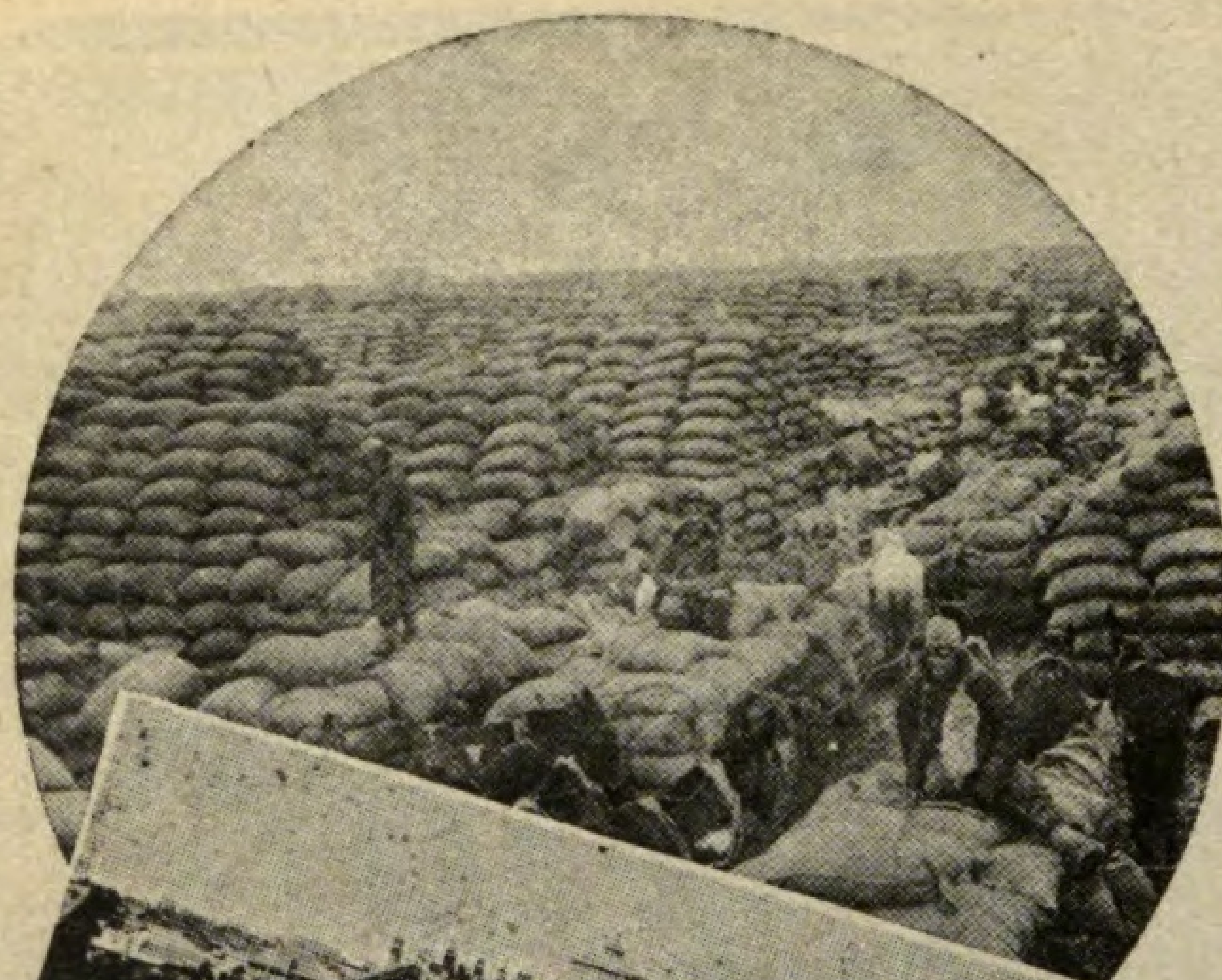
ラマ塔



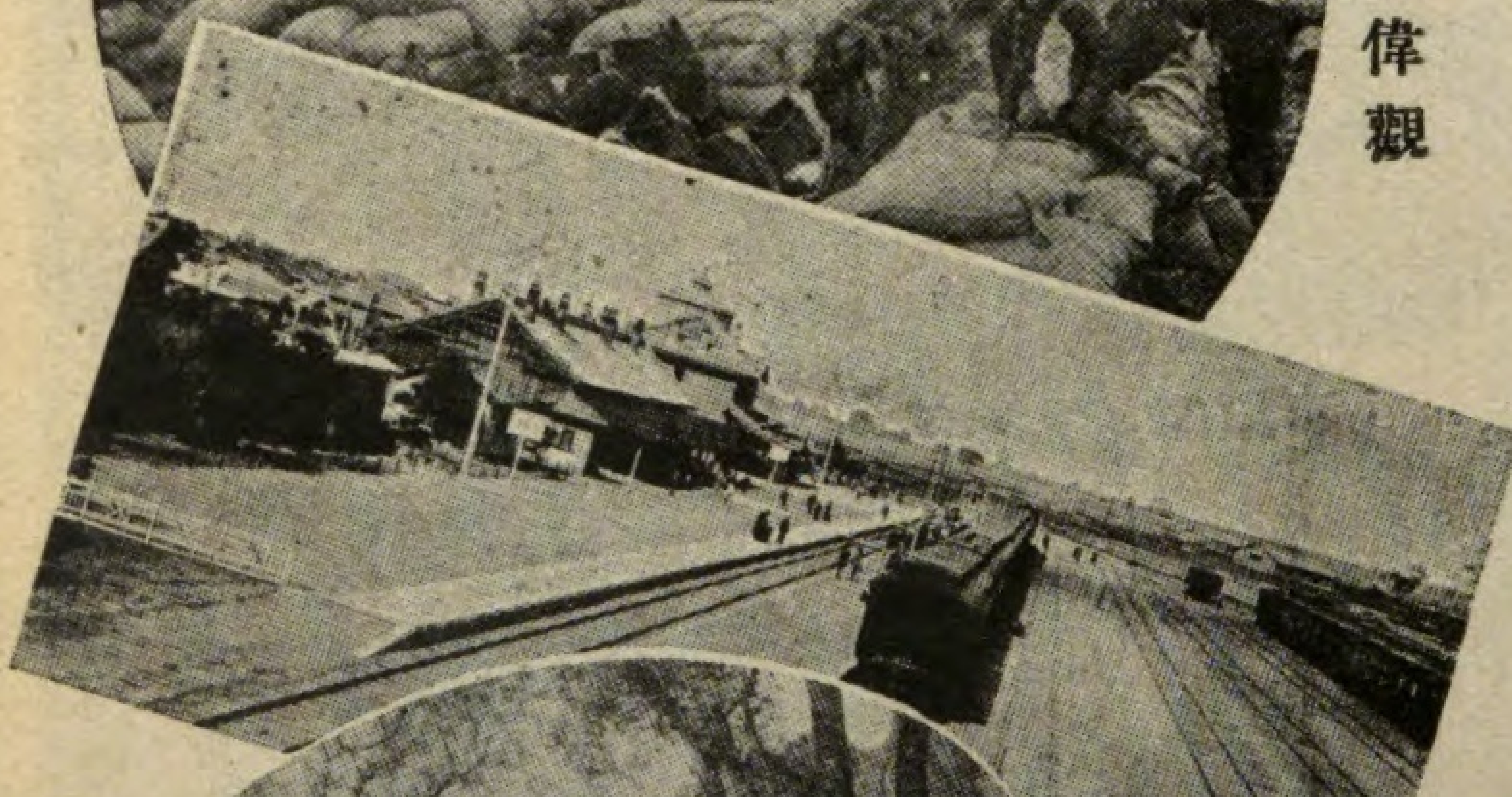
奉天附近稻田



東拓奉天支店



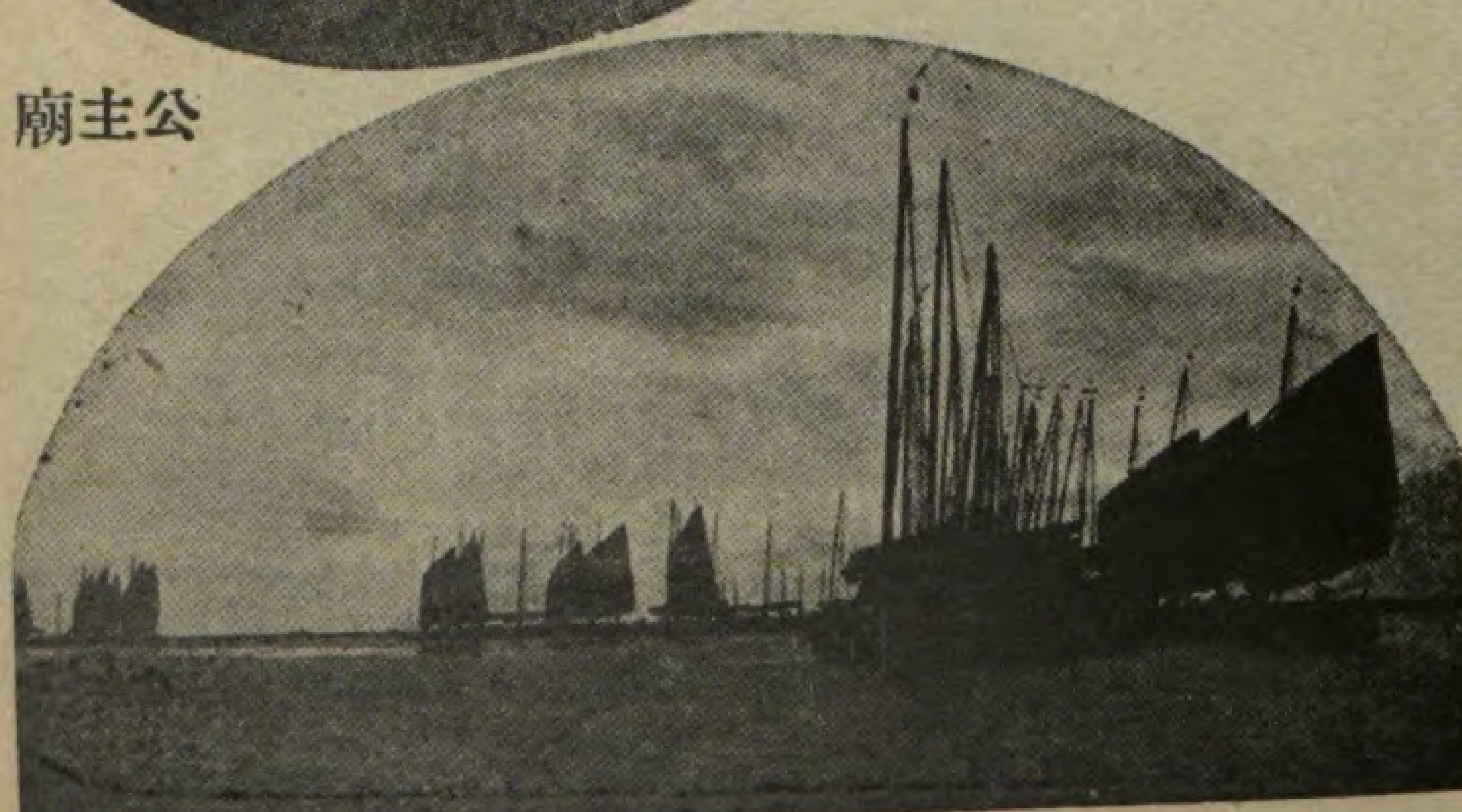
開原冬季の偉観



公主嶺驛



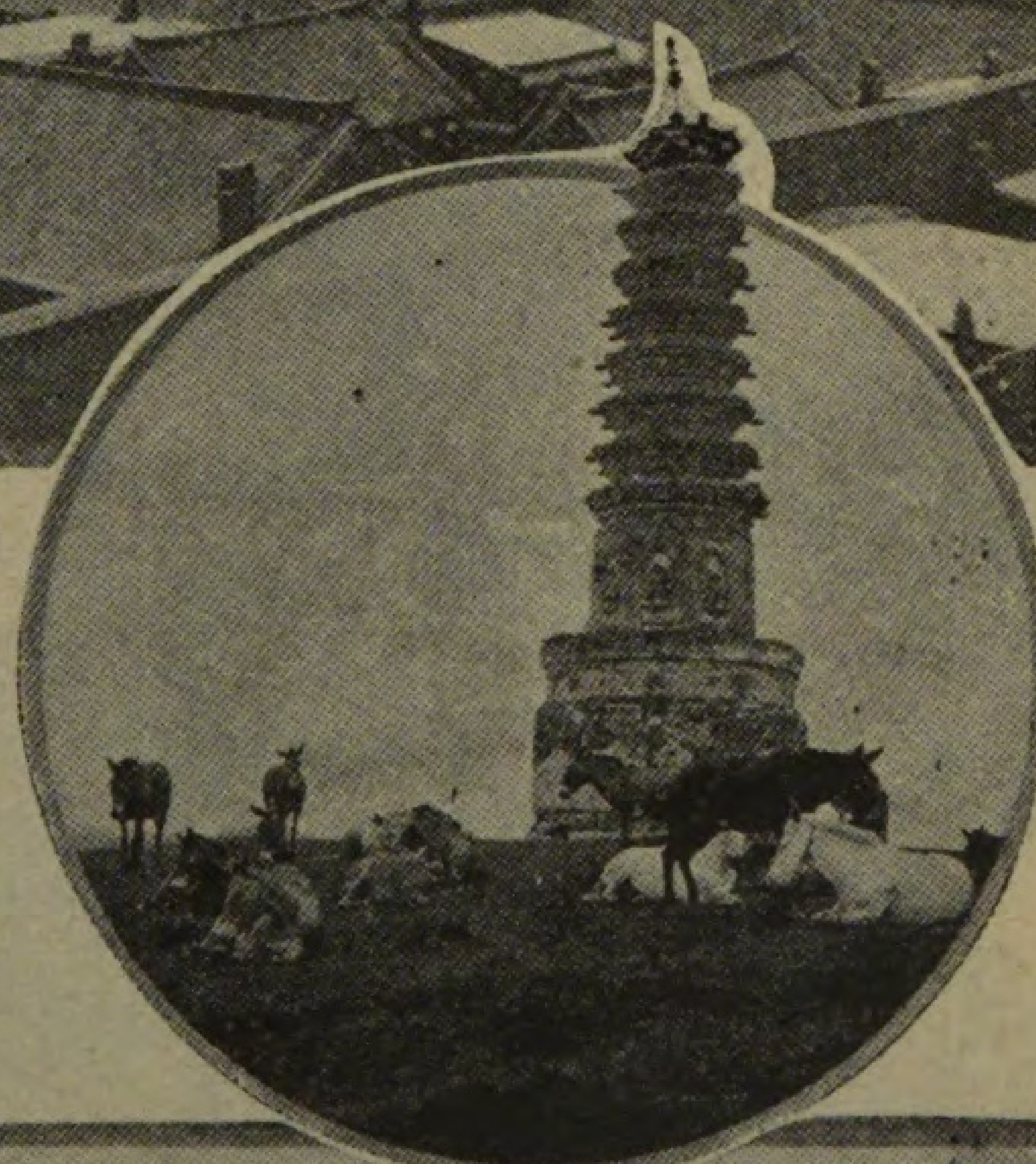
公主廟



遼河



開原市街



鐵嶺龍首山塔



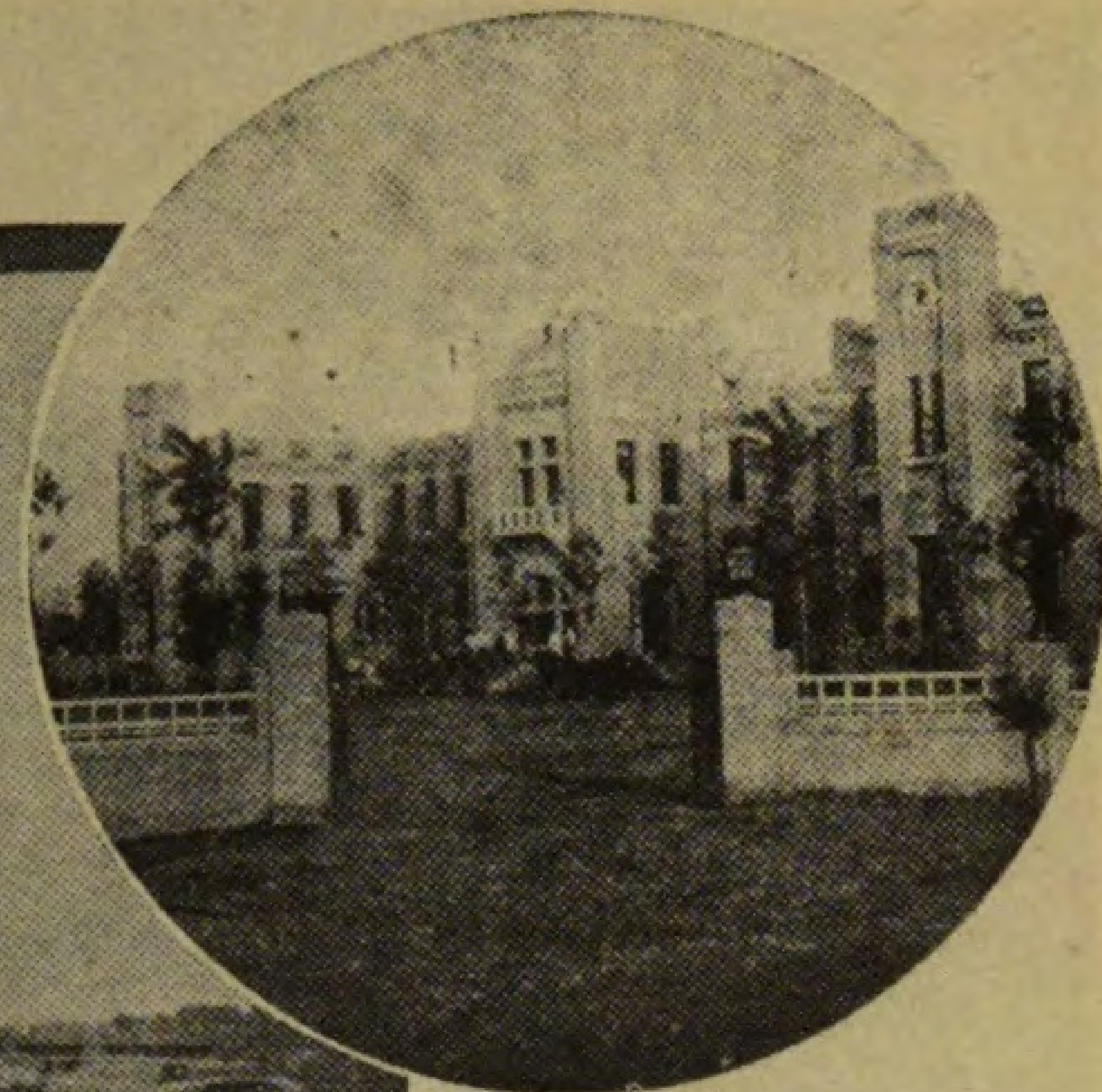
鐵嶺市街



箋簍子(酒・油容器)



東支聯絡ホーム



長春ヤマトホテル

●公衆電報取扱驛　●赤帽　●洗面所　●撫順線乘換驛

もと渾河は河名であつて、東清時代は單なる分岐點として驛名を與へてなかつたが、會社は取つて驛名とし、撫順支線の乘換驛としたのである。渾河は北方三哩の地點を流れ、曾ては瀋水、遼水等と命名されてゐた。

奉天 (Feng-tien; Mukden)

	粁	哩		粁	哩
渾河	八・六	五・四	大連	三九六・六	二四六・四
文官屯	一三・一	一・八	安東	二七五・八	一七一・四
			長春	三〇四・八	一八九・四

●公衆電報取扱驛　●携帶品一時預驛　●京奉線乘換驛　●構內食堂

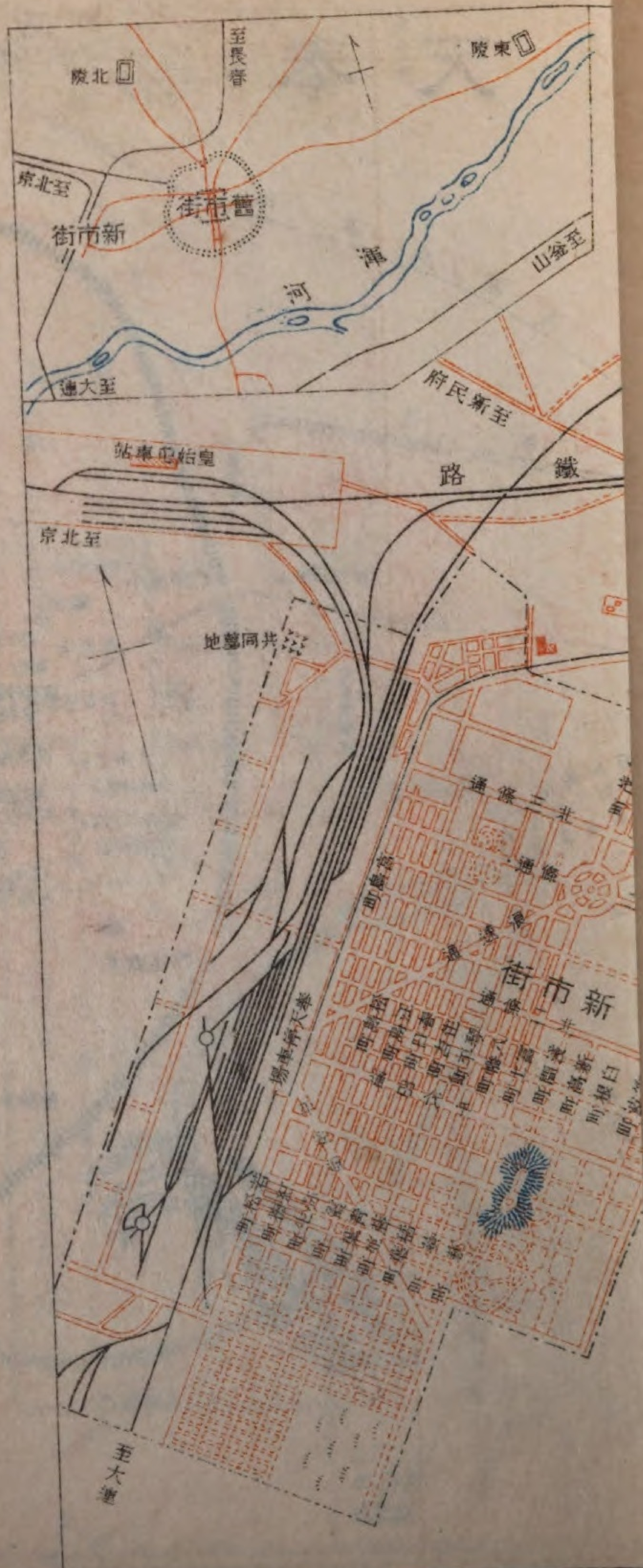
●兩替店　●赤帽　●辨當驛　●手小荷物市內配達

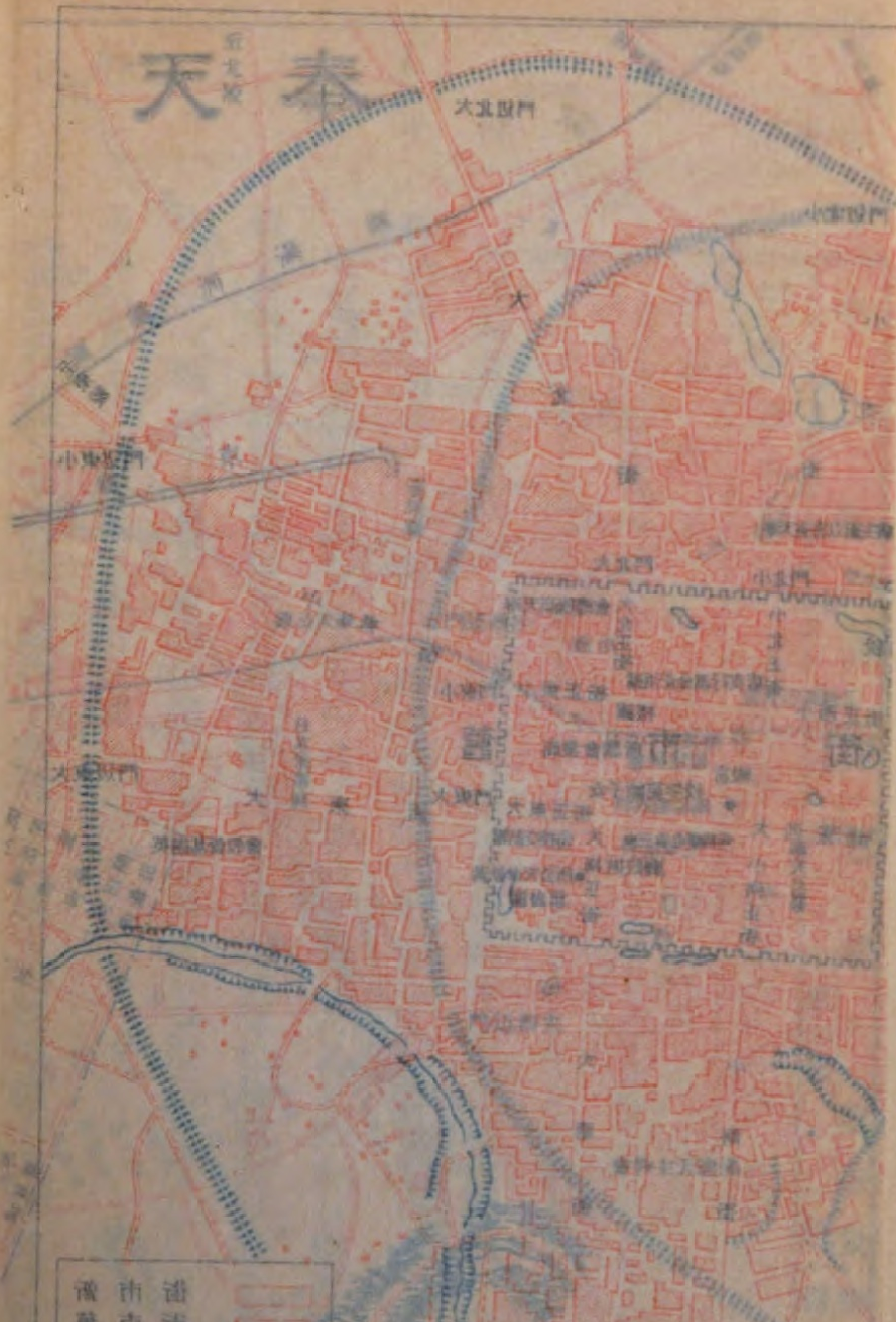
年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	二五三、一九六	二七六、三〇一	八七、七九三	一〇三、二〇四
大正十年	九四九、〇二九	一、〇〇二、六九三	二九二、四一七	九三七、一九五
大正十一年	九六七、一八三	一、〇三四、五一七	二九〇、七一三	一、〇〇八、四八〇

【視察に便宜を供與する處】 ○滿蒙文化協會奉天支部（淀町）○奉天驛、其他一流の旅館にて、便宜各種の手配案内等をしてゐる。

宮殿、北陵、東陵の觀覽には、豫め日時、人員を指定し奉天驛長、城内滿鐵公所、十間房本邦領事館等を經て、中華交渉署の拜觀許可證を帶行するを要するが、同一事を數ケ所に依賴する爲屢重複して相互甚だしく迷惑混亂を生ずる事がある。注意して欲しい。

【視察行程】 十間房—城内—宮殿—北陵—滿蒙毛織—南滿製糖等。


北陵
至長春
東陵
至北京
舊市街
新市街
渾河
至釜山
至大連
至新民府
皇姑屯車站
鐵路
至北京
共同墓地
北三條通
新市街
奉天停車場
至大連


奉天
大北邊門
小東邊門
大東邊門
大南邊門
小南邊門
小北門
大北門
大東門

大略一日の行程で足りるが、代表的工業會社の前記二箇所の觀覽には豫め時間等を打合はせ置かるゝが便宜である。

【車馬賃】北陵、宮殿、城内一週馬車三・五〇圓、驛前十間房間乘合自動車がある。

箇所	里程	馬車 片道	馬車 往復	人力車 片道	人力車 往復		自動車	馬車	人力車
日本領事館	約二五町	〇、八〇円	一、三〇円	〇、二五円	〇、三五円	一時間	五、〇〇	一、〇〇	〇、三〇
宮殿	約一里半	一、四〇	二、〇〇	〇、四〇	〇、六〇	半日	二〇、〇〇	三、五〇	一、〇〇
滿鐵公所	約一里半	一、四〇	二、〇〇	〇、四〇	〇、六〇	一日	三五、〇〇	五、〇〇	一、八〇
北陵	約二里	一、五〇	三、〇〇	〇、四〇	〇、七〇	東陵迄約四里往復馬車五・五〇圓			

【旅館】奉天ヤマトホテル（驛構内、室料三圓以上、食事料朝一・五〇圓、晝二・〇〇圓、夕二・五〇圓、米式一泊一〇・〇〇圓以上）都ホテル（琴平町、驛より五町、室料四・五〇—七・〇〇圓、食事料朝一・五〇圓、晝二・〇〇圓、夕二・五〇圓）瀋陽館（同上、

宿泊料五・〇〇―一五・〇〇圓） 大星ホテル （浪速町、驛より二町、五・〇〇―一二・〇〇圓） 大丸旅館 （驛前、五・〇〇圓―一二・〇〇圓）

支那旅館 悅來棧 （驛前、三食付一・五〇圓、二・〇〇圓、八・〇〇圓、普通一食一泊一・二〇圓）福順棧（三食付一・五〇―四・〇〇圓、同上一・二〇圓）

【旗亭】 金六 （十間房、驛より二一町） 金龍亭 （同上二〇町） 金城館（同上二三町）粹山 （加茂町、驛より一六町） 菊文 十間房、驛より一〇町）蔦屋（同上二一町）

支那料理公記飯店 （千代田通） 志城飯店 （春日町） 松梅軒 （千代田通） 天華園（加茂町横） 四海春 （城內大南門裡） 等。

【官公署】 帝國總領事館、領事警察署、英、米、露、佛領事館、警務署、郵便局、觀測所支所等。東三省保安總司令部、督軍公署、省長公署、外交部交涉署、政務廳、財政廳、教育廳、實業廳、造幣分廠、警察廳、省城商埠局、東三省郵務管理局、電報電話局、高等竝地方審判廳、高等竝地方檢察廳、遼瀋道公署、瀋陽縣知事公署等。

【學校圖書館】 滿洲醫科大學、南滿醫學堂、高等女學校、中學校一、中學堂一、補習學校一、初等學校三、（以上日本側）高等師範一、專門學校、工業學校、商業學校、第一師範、女子師範、中學、農業學堂、初等教育二七等。滿鐵圖書館、支那側圖書館等。



【銀行會社】奉天銀行、正金、正隆、滿銀、鮮銀、滿洲商業各支店、南滿製糖、奉天製麻、滿蒙殖產、東省實業、奉天窯業、秋田商會材木、滿洲土地、南滿倉庫、滿洲農產、奉天取引所信託、滿蒙牧場、滿蒙證券、滿洲畜產改良、奉天證券、東亞勸業、信陽貿易、公債信託、滿洲公益社、中華電氣、奉天醬油、中央證券、滿洲取引所等、（資本百萬圓以上）東拓、東洋肥料、東亞證券商品信託、滿洲製粉、東亞煙草、滿洲興業、國際運輸、丸京吳服店、日本醬油、滿洲起業、岡崎洋行、和歌山皮革、三井物產、朝鮮皮革、大信洋行、滿洲產業、英米煙公司、花旗煙公司、テキサス石油公司、スタンダード石油、亞細亞石油會社等、（以上支店及出張所）

【商業機關】商業會議所、商務會、其他各同業組合等。

【新聞雜誌】盛京時報社、內外通信、滿洲通信、奉天新聞、奉天每日、大陸日日、新滿洲社、東三省公報社、健報社等。

【病院】日本赤十字社奉天病院、滿鐵奉天病院、私立醫院五、衞戍分病院等。

【娯樂】奉天劇場、第一奉天館、彌生座等。中華、會豐、慶羊、天仙、德福、天勝春、鳴盛各茶園等。

概觀 奉天は南方渾河に臨み、一望千里の沃野中にある。市街は城內、城外

に二大別され、城外は更に之れを商埠地と附屬地とに區分される。城內—は周圍五千米の內城と、一萬六千米の外邊土壁とに圍まる。城壁は天聰五年の築造に係り洪武二十一年の重修であつて高さ三丈餘、上壁は裕に野砲の放列を布くに足る。內城は四平街、鐘樓南大街、鐘樓北大街とが井字形に交叉し、邊城と內城との間は大小東關、大小西關、大小南關、大小北關の各大街と數多の胡同とから成る。城の中央衆屋の上に聳えて黃甍朱壁相映ずる殿堂は清祖の古宮殿であつて崇德二年の建築、康熙十一年及光緒年末の修復である。督軍公署其他主要官衙廳舍は此の宮殿附近に隣次してゐる。四平街其他大街は城內殷盛の中心地であつて、北關、南關が之れに亞いでゐる。附屬地—鐵道附屬地は市の西郊一帶驛附近の所謂新市街を云ひ略長方形の一廓である。道路は驛を起點として放射狀の浪速町通り平安通り其他を基幹大街とし、之れに大小路を縱横に碁布し、マカダム式の鋪道に、上下水道其他諸般の設備完く、間然した文明市

街である。商埠地―は附屬地と城內との中間を連接する十間房大小西關一帶の地所謂居留地の謂ひであつて、各國領事館、支那交涉局其他內外商賈相隣次してゐる。

奉天城の人口はその適確の數字を得難く、支那警察其他を綜合して戶數約三萬、人口十八萬と見做せば大差はなく、此の中には商埠地內の民國人をも含むでゐる。そして附屬地竝商埠地內の邦人は二萬五千餘、戶數六千四百餘である。

行政概設 奉天竝會社沿線の行政は附屬地と其他に分れ、附屬地は會社が政府の命を受けて、土木、敎育、衞生等に關する必要の施設竝之れに伴ふ行政權を執行し、公費を徵集し諮問委員會を置き若干の委員を公選の上任命してゐる。然し警察權は全然關東廳にて行ひ各地警務署之れが當事者となつて全く民國官憲の干涉を許さないのである。商埠地開埠地は、民國省長に隷屬する警察廳が警察行政を、商埠局が民治行政を分擔してゐるが、然し日本人に對してはその

總領事館の管轄の下に領事警察署及居留民會があつて、若干の經費を徴收し、その他の外國人も同様各其の領事館で之れを取締つてゐる。

【沿革】附屬地一帶の平野は渤海時代の瀋州であつて、城東の福陵（東陵）は渤海大氏祚榮の居城を築いた東牟山の舊蹟である。瀋水（渾河）の名は此の時から始まり、瀋陽の名は元朝より始まつてゐる。明は此處を瀋陽中衛とし、清の太祖は遼陽から此處に遷都して盛京とし、後に北京に都を遷した爲めに留都（陪都）となり、順治十四年始めて奉天府となつたのである。現在の瀋陽縣は民國三年の改正であつて、東三省の行政竝軍政の樞軸首府である。

◆宮殿　奉天驛より約三哩、城内の中央に在る。（後說北陵と共に拜觀許可證を前以て得置く事を要す。滿鐵公所、帝國領事館、奉天驛長に申請すべし）清の太宗皇帝及太宗文皇帝の宮居であつて距今二八〇年前の建造に係り、東西五十五間、南北百四十八間の一廓をなし、宮門三あり。東門を文德坊、西門を武功坊、南門を大淸門と稱して正門である。門を入れば東龍閣、西に翔鳳閣の二層

樓があつて、曾て清朝の古珍重寶を藏めてあつた處である。大凊門の正面は彫龍の階段を上ると皇帝の政を聽いた正殿で崇政殿と云ふ。東西に日華樓、霞綺樓があり、正面には鳳凰樓がある。その後は淸寧宮と云ひ皇帝の寢殿であつて、太宗文帝は此處で崩御し、後世祭宮と稱して大祭の禮を行つてゐる。

更に宮殿に隣して東に大官議政の大政殿があり、西に今は北京武英殿に移された四庫全書六七五二函を藏した文溯閣がある。

◆北陵　驛より一里半の處にあつて一名を照陵と云ひ、丘を隆業山と名付けてゐる。寶域の周圍は約十五町の土塀を繞らし、入口に華表と類似の一大碑樓がある。進めば左右に豹、獅、馬、駱駝、象等の石像があつて碑閣になる。內には康凞帝の選文照陵、聖德、神功の牌がある。其の西に當つて隆恩門あり隆恩殿がある、後丘は卽照陵であつて淸の崇德八年(距今二七五年前)に成り、翌順治元年八月、太宗文皇帝の靈柩を葬つたのである。

◆法輪寺　北陵と奉天城北門との中間村落にあつて、觀光客の多くは北陵の歸路立寄るを例としてゐる。護國塔即喇嘛塔高く立ち、内に天地佛がある。

◆東陵　一に福陵と云ふ。奉天の東方三里餘、太祖皇帝の神靈を祀り、北陵永陵と共に滿洲の三陵と稱してゐる。そして風水の勝は此の東陵を冠とし、規模は北陵と相似てゐる。門内左右に石獅、石駝、石豹等を配置し、磚道の彼方には康熙帝の勅撰に係る聖德碑がある。祭殿の後方には二層の隆恩殿があつて、高皇后の神位を奉安してある。

◆忠魂碑　附屬地の東南に聳立し直徑二尺八寸、高二十三尺餘小銃彈形鑄鐵の碑であつて奉天大會戰々死の將卒を祀る。納骨堂は二萬二千八百餘名の遺骨を納め、毎年三月十日招魂祭を執行する。

◆小河沿　城東南部の蓮池であつて夏季の清遊に悅ばれる處、岸に酒樓、喫茶店等がある。

◆公園　附屬地公園は會社の經營するもの、園內綠蔭濃かに、花壇、芝生地、運動器具等備はり、市民の散策、行樂の地である。小西邊門外の奉天公園は支那巡按使の直轄する處、夏季天幕式の假劇場を設け、多衆の會する處である。

二大生產工業　滿蒙は豊穰の農產地であると同時に、それと伴つて多額の畜產地でもあるが、その中羊牧の頭數は約五百萬頭、內緬羊四百萬頭と推算され、從つて羊毛の產出は年約六百萬斤に上つてゐる。滿蒙毛織會社は卽我が羊毛の自給自足の見地から大正七年十二月、資本一千萬圓、日支合辦の下に創立され、每歲關東廳の保護を受けつゝ、現在五十萬碼の生產をなし、將來百萬碼の生產に達せしめん目的であつたが、最近工場の一部を燒失せり。

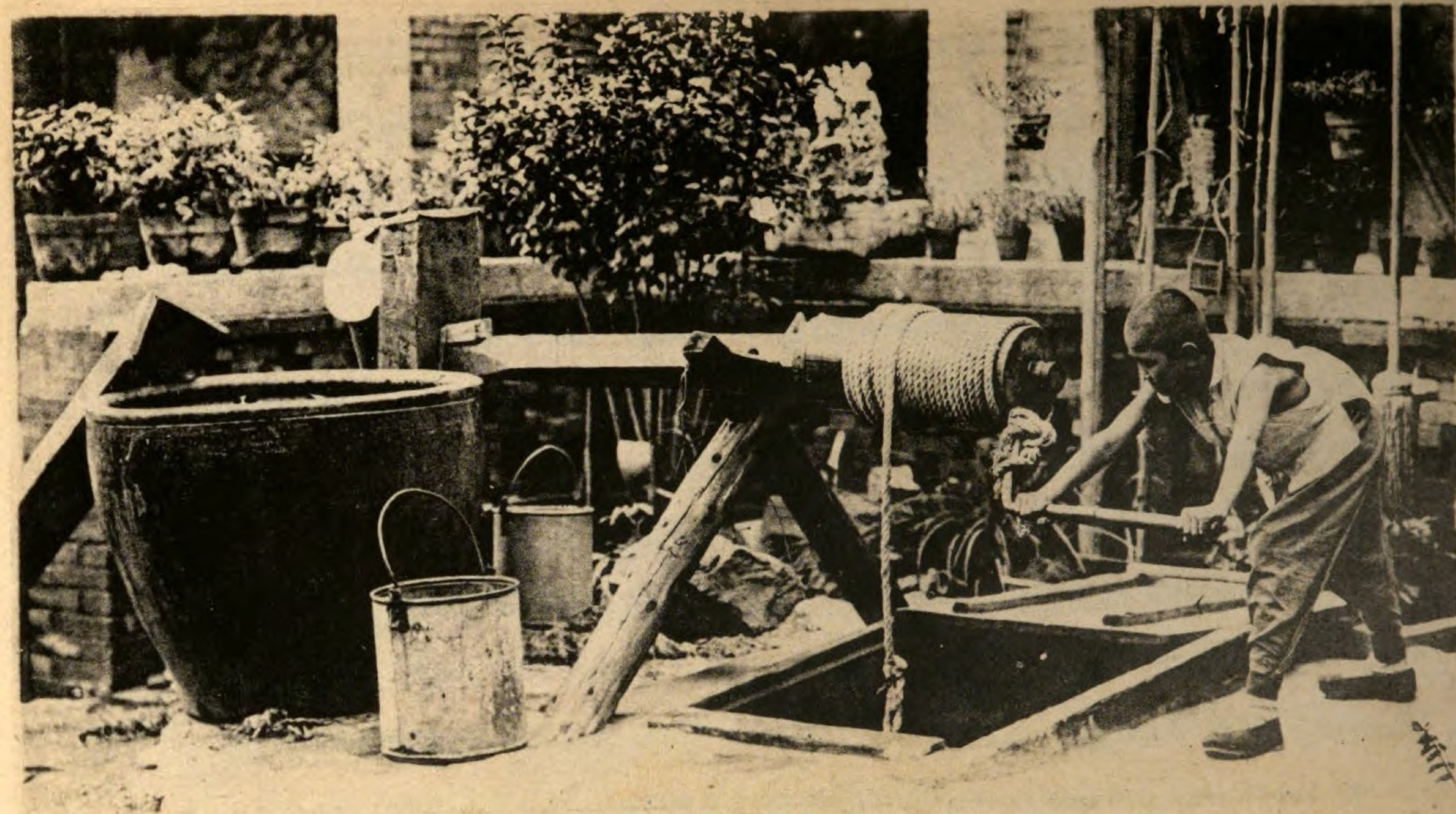
次ぎにその地質、氣溫、雨量等の條件から滿洲は甜菜の栽培に好適であるとして、會社は大正三年以降、その公主嶺農場に於て試驗に著手し、果して豫期

以上の成果を擧げ得たる爲めに、爾來その栽培を奬勵し、玆に大正五年十二月、支那官憲の了解の下に、資本一千萬圓の南滿製糖會社の出現を招來する素因となつたのであるが、上記二會社は現在滿洲を代表する生産工業として奉天の有する誇りとなつてゐるのである。

在滿朝鮮人の敎化施設　南滿所在朝鮮人の數幾何なるかは、其の調査至難であるが、關東州、鐵道附屬地、及領事館管內に於けるものは、大正十一年六月末現在左の如くである。

	戸數	人口
州內	二一〇	五九一
附屬地	四六一	二、一六三
領事館內	三一、七九二	一五二、三三一

關東州管內及鐵道附屬地內は、施設制度整備して、概ね正業に就き、保護取締も內地人に對するものと同樣にて、何等顧慮を要しないが、一歩其等管外に



水汲み

出づると、支那官憲の節度切實を缺き、誅求迫害屢起り、折角水田の開墾達成すれば、借地契約破棄されて死地に追求する事多く、彼等は一定地に安住し得ぬ狀態に在つて、近き將來に何等かの手段を講じて支那官憲の確乎たる反省等を求むる必要があるのである。

移住鮮人の殆ど全部は農業に從事し、資產を有するものなく、商租上常に不利益の立場に立つて農事閑散期は徒らに逸樂を旨としてゐる狀況にあるが爲め、彼等の生活の安定を保證する事は急務中の急務であらねばならぬ。と同時に奧地僻陬に散在して、醫療機關を有するもの少く、赤貧者も多く、嘗て行へる滿鐵乃至大阪每日新聞社の巡回施療の如きは最も當を得たる美擧と云はねばならない。

現下鮮人自治機關は附屬地に二、領事館內十四に及び、保民會、朝鮮人會等の名稱を附してゐる。そして附屬地竝領事館內に於ける彼等の敎育施設は、鐵

道附屬地に三箇所、領事館內に十八箇所の初等教育學校を置き、其の經費は會社、總督府、乃至は居住鮮人會等からの出資補助によつてゐる。

上記會社の經營又は補助を爲しつゝある鮮人教育機關は、大正九年奉天に設立された奉天普通學校（生徒約二百名）と、大正六年鐵嶺に創立した育英學校（生徒約百名）と、大正十年創立の陶鹿東山學校（生徒約六十名）及大正十一年設立の長春扶餘學校（生徒約四十名）とであつて、十一年度にて二千圓乃至九千圓の補助金を出資し、教師の派遣を行つてゐるのもある。

【土產物】毛皮類、支那菓子類

⊠文官屯（Wen-kuan-tun）

	粁	哩		粁	哩
奉天	一三・一	八・一	大連	四〇九・七	二五四・五
虎石臺	七・五	四・七	長春	二九〇・七	一八一・三

虎石臺 (Hu-shih-tai)

●公衆電報取扱驛

文官屯	七・五粁	四・七哩	大連	四一七・二粁	二五九・二哩
新城子	一二・一	七・五	奉天	二〇・六	一二・八
			長春	二八四・二	一七六・六

新城子 (Hsin-cheng-tzu)

●公衆電報取扱驛

虎石臺	一二・一粁	七・五哩	大連	四二九・三粁	二六六・七哩
新臺子	一二・〇	七・五	奉天	三二・七	二〇・三
			長春	二七二・一	一六九・一

甜菜の栽培　從來滿洲には支那産の赤糖、香港糖、日本糖、爪哇糖を輸入してゐたのであるが、露人は十數年前より既に氣候、地質、雨量等から北滿地方に甜菜を栽培して製糖に從事してゐるのに鑑みて、會社は之れを公主嶺農事試驗場で大正三年からその試驗を行つて、豫期以上の成績を得、大正五年南滿製糖が奉天に創立せらるゝ頃から、官憲の了解の下にその栽培を奬勵し、之れを買收して製糖の原料に充てゝゐるのである。鐵道に依つて發送せらるゝ甜菜の噸數は大正十一年度に於ては左の如く本驛を筆頭としてゐる。

新城子	八、四六八
蘇家屯	八、一二五
新臺子	四、〇四三
首山	二、二二八
遼陽	一、五九三
虎石臺	一、五九三

⊠新臺子 (Hsin-tai-tzu)

	粁	哩		粁	哩
新城子	一三・〇	七・五	大連	四四一・三	二七四・二
亂石山	七・五	四・七	奉天	四四・七	二七・八
			長春	二六〇・一	一六一・六

●公衆電報取扱驛 ●兩替店

元驛附近は全く平原であつて、一の矮屋すら見得なかつたのであるが、貨物出廻りの際、都會地を通過すれば、通關稅を徵せらるゝ等の關係上漸次に發展を來たしたのである。驛の東方山脚には現時寂漠たる寒村であるが古へ扶餘國の都市であつたと云ふ懿路市がある。

亂石山 (Luan-shih-shan)

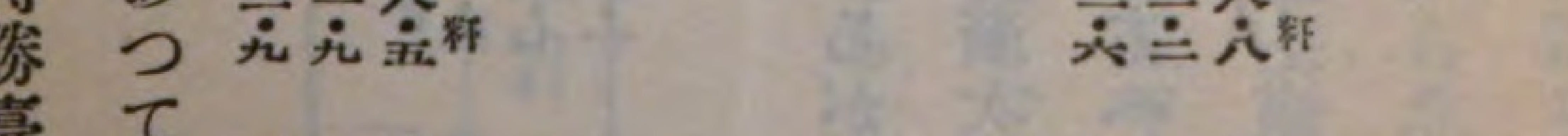
新臺子	七・五粁	四・七哩	大連	四四八・八粁	二七八・九哩
得勝臺	九・七	六・〇	奉天	五二・二	三二・五
			長春	二五二・六	一五六・九

●公衆電報取扱驛

得勝臺 (Te-sheng-tai)

亂石山	九・七粁	六・〇哩	大連	四五八・五粁	二八四・九哩
鐵嶺	九・五	五・九	奉天	六一・九	三八・五
			長春	二四二・九	一五〇・九

附近帽峯山は唐の太宗親征の當時高勾麗軍を擊破した古戰場であつて、又近く我が黑木軍の鐵嶺攻擊準備戰のあつた處、古へより兵爭の地、得勝臺の名勝



も決して偶然ではない。

◇鐵嶺 (Tieh-ling)

	粁	哩		粁	哩
得勝臺	九・五	五・九	大連	四六八・〇	二九〇・八
平頂堡	一〇・七	六・六	奉天	七一・四	四四・四
			長春	二三三・四	一四五・〇

●公衆電報取扱驛　●携帶品一時預驛　●赤帽　●構內食堂　●辨當驛
●洗面所　●兩替店

	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	八四、七五三	八一、七四三	八三、七〇四	七一、四七八
大正十年	二一三、八八五	二〇七、七二八	一四五、九八六	二三四、五六八
大正十一年	二三六、三八五	二三三、四一三	一三七、一六〇	一三八、六三四

【旅館】松花ホテル（驛前宿泊料四・〇〇—七・〇〇圓）彌生館（同上二・五〇—五・〇〇圓）

【官公會社】帝國領事館、警務署、旅團司令部、郵便局、商業會議所、商品陳列所、電燈局、滿洲製粉、取引所、取引所信託、南滿製糖製糖所、國際運輸出張所、滿洲畜産、大倉土木出張所、泰隆合名、滿洲製麻、大矢組、滿洲牧場、居留民會、鮮銀出張所、滿洲織布、鐵嶺證券信託、至誠洋行、恭山洋行、鐵嶺證券金融、鐵嶺公益信託、奉天銀行支店、東洋綿花出張所、日本綿花出張所、公會堂、幼稚園、小學校、實業補習學校、家政女學校、日語學堂、審判廳、檢査廳、縣公署、交渉局、敎育會、郵政電報局、税捐局、商務會、中學堂、高等女子學堂、師範學堂、中國銀行竝交通銀行出張所等。

市街は柴河の南に連り鐵嶺城市を中心としてその内外に亙り、鐵道附屬地は廣袤百八十七萬坪に達し、特殊地鞍山、撫順を除き公主嶺に次ぎ第二位にある。市街の東背面には龍首山が聳えてゐる。

鐵嶺城市は渤海時代の富州、遼代の銀州の地、城廓は周圍二十四町、高二丈、明の洪武年間の築城であるが近來西門と北門附近は取毀たれて、その甎瓦を以て道路排水の工事が行はれたのである。市街は東門外にも延び、巨商多く、市況は鐵道開通後沈衰しつゝある。

滿洲の水田事業　民國の農民は從來水田耕作を嫌忌して來たが、移住朝鮮人の水田經營次第に勃興して、採算有利であるのに促され、模倣するもの簇出し、財力と勤勉の二特徴は著手の日尚淺いに拘はらず彼等を壓倒し、其の品質も內地乃至は朝鮮米に比して大なる遜色あるなく、滿洲米の聲價漸く上りつゝあつて、將來刮目に價する處のものである。

鐵嶺附近は低濕であつて灌漑の便多き爲めこれを利用して水田を拓くもの多く、滿洲產米地として屈指の出產額を有つてゐる。大正九年度末水田面積、籾生產高及會社主要驛十一年度發送米穀噸數は左の通りである。

	關東州	奉天地方	撫順地方	安東地方	開原地方	松樹地方	海城營口地方	長春地方	公主嶺地方	其他	合計
水田面積	三〇一・〇町	五、一〇〇・〇町	六、七〇〇・〇町	四、八八〇・〇町	九、九五〇・〇町	五、八〇〇・〇町	一、二三〇・〇町	四五〇・〇町	八〇〇・〇町	一三、七〇〇・〇町	四八、九九一・八町
籾生產量	五、六二四石	一五三、〇〇〇石	一六七、五〇〇石	一三六、六四〇石	三四八、七五〇石	一五〇、八〇〇石	三一、九八〇石	一一、二五〇石	二一、六〇〇石	三〇六、九二〇石	一、三三四・〇六四石

鐵嶺（本線）	撫順（支線）	奉天（本線）	開原（本線）	遼陽（本線）	松樹（本線）	公主嶺（本線）
七、六七〇	五、六四四	五、五二三	四、二二四	二、二四三	一、七一三	一、〇六三

（註　奉天驛米穀到著噸數は七、二〇二噸で、其の點は他六驛と事情を異にする）

製粉工業　北滿は原料の小麥に富み、露國の滿洲侵出當時一九〇二年哈爾賓に三箇の工場を設立したのを濫觴として發達したものであるが、南滿に於ける代表的のものとしては、明治三十九年に創立された當市に本社を有する滿洲製粉を擧ぐべきである。

同社は資本一百萬圓を以て創め、邦人製粉界の嚆矢となり、後に北滿製粉、

朝鮮製粉、大陸製粉の三社を併せて資本を五百七十五萬圓に增資し、長春、哈爾賓、濟南、奉天、鎭南浦等に工場を置き、一時は獨占的地步にあつたものであるが、市況に連れて稍活氣を減殺されてゐるが、斯業に永き經驗を有し、最新の設備の下に、將來刮目に價する南滿屈指の特產工業會社の一である。

【勝蹟】城東門外十二町に龍首山がある。山上は遊園地となつて、三淸觀又は慈淸寺と稱する古刹がある。頂きに聳ゆる一塔は古色深く景趣を添へてゐる。山からの顧望は脚下に城市を見せ、柴河、遼水透迤として遠く漠々の平原の間に一抹の銀線を作つてゐる。圓通寺の白塔は城內西北隅の寺境にある。十三層の白塔であつて唐の太和二年（距今一〇九〇年前）の創建になり鐵嶺最古の建造物である。

◆螞蜂溝　鐵嶺の水運は古來から著名の交通路であつて、鐵道の開通はその價値を半減せしめたかの感がある。驛から西方約一里の螞蜂溝は卽ち鐵嶺の水

運口であつて、光緒三十年通江口の開埠さるゝ前迄、約二十年間遼河の貨物を獨占してゐたのである。現今とても尙三分は之れにより大豆、雜穀類を主として、營口へは水路八百六十支里、四晝夜乃至五晝夜を要してゐる。

◇平頂堡、(Ping-ting-pu)

鐵嶺	一〇・七粁	六・六哩	大連	四七八・七粁	二九七・四哩
			奉天	八三・一	五一・〇
中固	一〇・八	六・七	長春	二三三・七	一三八・四

往時戍兵を置いて開原から三萬衞に至る國道を守備した處であるが、清朝は其の南方二十餘町の高力站に驛丞を置いて兵丁を備へてゐた。驛から西北に當る遼河々岸に英守屯がある。昔は二十萬石の特産物を集散した碼頭港であるが今は衰退して俤がない。

◎中固 (Chung-ku)

	粁	哩		粁	哩
平頂堡	一〇・八	六・七	大連	四八九・五	三〇四・一
開原	一二・〇	七・五	奉天	九二・九	五七・七
			長春	二一一・九	一三一・七

曾ては明の城趾として重要地點であつたが、今は寂寞の一村落となつてゐる。附近東方の梅家寨は、名の如く梅樹多く遊園地となつてゐる。

◎開原 (Kai-yuan)

	粁	哩		粁	哩
中固	一二・〇	七・五	大連	五〇一・五	三一一・六
金溝子	一〇・八	六・七	奉天	一〇四・九	六五・二
			長春	一九九・九	一二四・二

●公衆電報取扱驛 ●携帶品一時預驛 ●兩替店 ●赤帽 ●洗面所

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	四三、五〇四	四三、二〇六	三一、八六七	一五、六五八
大正十年	二五七、〇七六	二四八、九三三	五二六、六五〇	一四三、三四八
大正十一年	二八二、四〇五	二七一、三八一	五五六、一四八	一六一、二一一

【旅館】開原ホテル（驛前、宿泊料、五・〇〇—一二・〇〇圓）花屋旅館（同上、二・〇〇—四・五〇圓）合明旅館（同上）

【官公會社】警務支署、郵便局、取引所、開原市場、開原窯業、開原取引所信託、開原錢業、滿洲電氣、開原中和、開原實業信託、亞細亞製粉、正隆、正金、鮮銀、日華銀行各支店、日清製油、鈴木商店、南滿融通貯蓄各出張所、幼稚園、小學校、公學堂、實業補習學校、開原縣公署、稅捐局、農務會、中學堂、師範學堂、電報分局、電話局、中國銀行並交通銀行出張所、亞細亞石油貯油場、スタンダード石油貯油場、英美煙公司出張所等。

驛附近は曾て小孫家店と稱する一村落のあつた外は荒寥とした原野であつた

大豆の圍積保管



が、鐵道開通に從つて、奥地海龍城、掬鹿地方の一大大豆集散地を控へてゐる爲めに、長足の發展を遂げ、鐵嶺を壓して附近の中心市場となりつゝある狀況のものである。附屬地現在人口一萬四千餘、戸數二千五百餘を數え、中邦人二千二百餘に達し、油房、精米業の增加著しきものがある。

大豆 滿洲の大豆は大別して黃、靑、黑豆の三種とするが、細別すると二百餘の種類に細別する事が出來る。最も普通なのは黃豆で元豆とも云ひ、含油量多く食用、搾油共に好適である。滿洲大豆は今日では世界的主要農產物として名高いが、從前は農家の食用と搾油して燈用とに當て、副產物の粕は馬糧としてゐたに過ぎなかつたが、輓近我が國の肥料として粕の需要を喚起し、同時に豆油を精製したものは棉實油、落花生油、亞麻仁油等の代用品として需要多く、石鹼、人造牛酪、塗料其他工業原料として用途廣く歐米に輸出するやうになつてから、急速に驚くべき數字的發達を來したのである。

會社十一年度各驛取扱の發送大豆總噸數は、石炭に亞ぎ百八十六萬噸に上り、別項の如く海龍、掏鹿の一大集散地を控へた當驛は、玉蜀黍と共に發送噸數上覇を稱へ、特産物の發送驛として長春に亞ぐのである。

各驛主要特産物發送總噸數

石炭	大豆	高粱	木材	豆粕	玉蜀黍
五、一二三、六七八	一、八五九、八九六	九二一、一九九	三三五、四五一	二七一、一〇八	二二九、〇二九

六大大豆發送驛及噸數

開原	長春	公主嶺	范家屯	四平街	撫順
二六〇、八三二	一三九、六一四	一一七、〇六〇	八七、五七二	六四、九四九	四六、九四九

五大玉蜀黍發送驛及噸數

開原	長春	四平街	公主嶺	海城
八五、五一七	三〇、三四〇	二九、二四九	八、七八〇	八、七六六

開原驛發送主要貨物噸數

大豆	米	高粱	玉蜀黍	小豆	豆粕
二六〇、八三二	七、五五八	一三三、七九四	八五、五一七	一七、三三八	二一、九五二

◆開原城　驛の東北十八支里の處にあり。南に淸水河を控へ、龍岡に跨り、周圍十二支里の城壁を繞らし、城内中央の十字街附近を繁盛の商區とし、就中東大街、南大街最も殷賑である。十字街の交叉點に鐘樓があり、城の西南隅に崇壽禪寺あり、俗に石塔寺と稱し門前の白塔は古色蒼然たるものがある。

當地は渤海時代から既に著名であつて、元代には開元路と云ひ、明の太祖は開原路と改め三萬の衞を置いて最北の重鎭とし、清朝以後開原縣とし、地方の邊塞として備へたが、現時鐵道附屬地の發展に伴つて、次第に市況衰退しつゝある。

◆開海鐵道豫定線　開原より東方約百二十哩海龍城に至る沿道は地味豐沃、

の途上には掏鹿、（開原より約四五哩）大疙瘩（同七五哩）大肚川（同一〇五哩）等の市邑あり。そして終端海龍城から倚東方十二哩には朝陽城もあつて、其等地方の農産物は其の量彪大に上り、滿蒙五鐵道の一である開海鐵道の開通を見るならば、滿鐵の營養線として價値大なるものがあると期待されてゐる處である。

〼金溝子（Chin-kou-tzu）

	粁	哩		粁	哩
開原	一〇・八	六・七	大連	五一二・三	三一八・三
			奉天	一一五・七	七一・九
馬仲河	一〇・一	六・三	長春	一八九・一	一一七・五

●公衆電報取扱驛

◇馬仲河 (Ma-chung-ho)

金溝子	一〇・一粁	六・三哩	大連	五二三・四粁	三二四・六哩
昌圖	一〇・二	六・三	奉天	一二五・八	七八・二
			長春	一七九・〇	一一一・二

開原縣の北境に位し、柳條邊寨の馬千總臺門の外にある。從つて此處は蒙古王達爾罕王旗下の領內である。邊寨の跡は今溝濠となつて存し、東西に走つて法庫門及威遠堡門に達してゐる。附近一帶は往時漢人の都して殷賑を極め、元代に悉く追討されて驛の南方約二町の邊りに城壁の殘影を止めるに過ぎない。

昌圖 (Chang-tu)

	粁	哩		粁	哩
馬仲河	一〇・三	六・三	大連	五三三・六	三三〇・九
滿井	七・四	四・六	奉天	一三六・〇	八四・五
			長春	一六八・八	一〇四・九

●公衆電報取扱驛 ●構內食堂 ●携帶品一時預驛 ●辨當驛 ●赤帽
●兩替店 ●洗面所

年度	發著貨物噸數 發送	發著貨物噸數 到著
明治四十年	一六、五四二	一八、七九一
大正十年	八三、一九二	一八、三五五
大正十一年	八七、九六〇	一九、三三九

【官公會社】警察官吏派出所、郵便局、小學校、實業補習學校等。

馬淙河の左岸にあり。曾ては寂寞たる寒村であつたが、鐵道開通に伴つて來住するもの多く、附近の昌圖府の衰頽に從つて膨脹し行く現勢である。驛附近は日露の最後陣地として著名である。附屬地の人口千餘、内邦人二百餘に達する。

◆昌圖縣城　は驛の西方二里餘の處にあつて、蒙古博王の旗界である。市街は城壁を以て圍まれ、街路は不規則であつて、商舖のある處を東西街として此處を中心としてゐる。嘉慶年間（百十數年前）漢人に對して開放地としてから漸次發展し、光緒二年に知府を設けて民國の行政權を布き、蒙古王は地局を置いて地税を徴してゐる。城市と驛との間は手押輕便鐵道を敷き交通に便してゐる。

⊠滿　井 (Man-ching)

	粁	哩		粁	哩
昌圖	七·四	四·六	大連	五四〇·〇	三三五·五
			奉天	一四三·四	八九·一
泉頭	七·〇	四·四	長春	一六一·四	一〇〇·三

滿井は日露役休戰の最前戰とし驛の北方二哩、西沙河子の塔塚を兩軍休戰條約會見所として著名である。

⊠泉　頭 (Chüan-tou)

	粁	哩		粁	哩
滿井	七·〇	四·四	大連	五四七·〇	三三九·九
			奉天	一五〇·四	九三·五
雙廟子	一〇·六	六·六	長春	一五四·四	九五·九



☒雙廟子 (Shuang-miao-tzu)

	粁	哩
泉頭	一〇・六	六・六
桓勾子	九・一	五・六
大連	五五七・六	三四六・五
奉天	一六一・一	一〇〇・一
長春	一四三・八	八九・三

●公衆電報取扱驛

年度	發著貨物噸數 發送	發著貨物噸數 到著
明治四十年	九、五〇二	五、六〇〇
大正十年	三七、一九〇	一四、六〇六
大正十一年	四一、三六〇	二二、六一二

【官公會社】警察官吏派出所、地方民會、實業補習學校、商務會、國民學堂等。

以前は一村落として一顧に價しなかつたが、鐵道開通後、蔦鷺樹等の大邑を附近に散在せしめてゐる爲めに、逐年發展し貨物の集散も相當に多く、昌圖を壓せんとしつゝある。

◇桓勾子 (Huan-kou-tzu)

雙廟子	九・一粁	五・六哩
虻牛哨	六・五	四・〇
大連	五六六・七粁	三五二・一哩
奉天	一七〇・一	一〇五・七
長春	一三四・七	八三・七

⊠虻牛哨 (Meng-niu-shao)

	粁	哩		粁	哩
桓勾子	六・五	四・〇	大連	五七三・二	三五六・一
四平街	一二・六九	七・九	奉天	一七六・六	一〇九・七
			長春	一二八・二	七九・七

⊠四平街 (Ssu-ping-kai)

	粁	哩		粁	哩
虻牛哨	一二・六	七・九	大連	五八五・八	三六四・〇
楊木林	六・六	四・一	奉天	一八九・二	一一七・六
			長春	一一五・六	七一・八

●公衆電報取扱驛　●携帯品一時預驛　●四洮線乘換驛　●辨當驛
●赤帽　●兩替店　●手小荷物市内配達　●洗面所

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	一八、六〇二	一八、三七二	二九、三〇三	一〇、四八六
大正十年	一四五、八八七	一五二、二二五	三五〇、二六六	一六一、〇八七
大正十一年	一八五、七七四	一九九、二七八	四六二、八二五	二〇二、五三八

【車馬賃】**自動車**（一日五〇・〇〇圓、半日二五・〇〇圓、一時間五・〇〇圓）**馬車**（一日四・〇〇圓、半日二・五〇圓、一時間〇・五〇圓）**俥**（一日一・五〇圓、半日〇・七〇圓、一時間〇・二〇圓）

【旅館】植半（驛前、宿泊料四・〇〇―一〇・〇〇圓）小松屋（同上）

【官公會社】警務支署、郵便局、電燈會社、取引所、信託會社、富士合名、商業組合、鮮銀、正隆、各銀行支店、四平街銀行、國際運輸出張所、幼稚園、小學校、公學堂、實業補習學校、四洮鐵路局、電報局、郵政支署、梨樹縣第五中等國民學堂、交通銀行分行、中國興業銀行分莊、稅捐局、美孚石油貯油場、亞細亞石油貯油場等。

驛所在地は全然鐵道開通に依つて導かれた新市街であつて、四洮鐵道開通と共に一層其の發達を促し、加へて驛東には民國の上司に於て、移住を奬勵するあり、毎歳の膨脹率よりすれば、奉天以北に於て覇を稱ふるも近きにあるべく想像せられてゐる。

◆四洮鐵道　滿蒙五鐵道の一であつて、此處を起點として蒙古の通遼（白音太來）及洮南に至る線を支配してゐる。その鐵路局は鐵道附屬地北側にあり、同鐵路の次驛直前に位してゐる。

楊木林 (Yang-mu-lin)

	粁	哩
四平街	六・六	四・一
十家堡	九・一	五・六
大連	五九二・四	三六八・一
奉天	一九五・八	一二一・七
長春	一〇九・〇	六七・七

◎十家堡 (Shih-chia-pu)

	粁	哩		粁	哩
楊木林	九・一	五・六	大連	六〇一・五	三七三・七
郭家店	一〇・八	六・七	奉天	二〇四・九	一二七・三
			長春	九九・九	六二・一

●公衆電報取扱驛

◎郭家店 (Kuo-chia-tien)

	粁	哩		粁	哩
十家堡	一〇・八	六・七	大連	六一二・三	三八〇・四
蔡家	一〇・七	六・七	奉天	二一五・七	一三四・〇
			長春	八九・一	五五・四

●公衆電報取扱驛

當地も亦鐵道開通後荒寥の一小村から發達した處であつて、西に奉化、東に伊通州を控へて特產の搬出多く、商業に從事するもの漸次に增加したのである。

⊠蔡家 (Tsai-chia)

	粁	哩
郭家店	一〇・七	六・七
大楡樹	八・五	五・三
大連	六二三・〇	三八七・一
奉天	二二六・四	一四〇・七
長春	七八・四	四八・七

⊠大楡樹 (Ta-yü-shu)

	粁	哩
蔡家	八・五	五・三
公主嶺	七・九	四・九
大連	六三一・五	三九二・四
奉天	二三四・九	一四六・〇
長春	六九・九	四三・四

公主嶺 (Kung-chu-ling)

大楡樹 七・九粁 四・九哩　大連 六三九・四粁 三九七・三哩
奉天 二四二・八 一五〇・九
劉房子 一〇・八 六・七　長春 六三・〇 三八・五

●公衆電報取扱驛 ●構内食堂 ●赤帽 ●辨當驛 ●兩替店 ●洗面所

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	三三、六五一	三三、二七四	四八、二三五	四四、〇九三
大正十年	一四三、七〇六	一四二、六三八	二四二、二〇三	一三三、一〇二
大正十一年	一七三、二八八	一七三、七六三	二四四、〇八一	一一八、五八四

【車馬賃】 馬車（一日四・〇〇圓、半日二・〇〇圓、一時間〇・六〇圓） 俥（一日二・〇

〇圓、半日一・〇〇圓、一時間〇・三〇圓）

【旅館】 丸福旅館（花園町、驛より四町、宿泊料三・〇〇—八・〇〇圓） 玉家旅館（同上） 喜久屋旅館（柳町、驛より四町、宿泊料二・〇〇—五・〇〇圓）

【官公會社】 郵便局、警務支署、取引所、取引所信託、龍口、滿洲、商銀各支店、公主嶺精米、淺野釀造、大矢組出張所、佐藤組、日華公司、電燈會社、農事試驗場、公會堂幼稚園、小學校、公學堂、農業學校、實業補習學校、家政女學校、稅捐局、警務局、郵便局、電報、電話局、中國銀行、交通銀行、興業銀行、公濟銀號各分行、亞細亞石油及スタンダード石油各出張所等。

公主嶺は蒙古達爾罕（タラハン）王旗下の所領であつて、懷德縣の行政管下である。驛の西北二十餘支里に公王陵がある處から公主嶺の名稱が起つたと云はれる。此の地方は南北滿洲の分水界となつて、海拔最も高く、寒氣も烈しく、南流するものは遼河に注ぎ、北流するものは松花江に入るのである。鐵道敷設前は七八戶の矮屋が散在してゐるのみであつたが、東淸時代に南部線三大驛の一として、廣大の附屬地を置き、停車場、機關庫、劇場、寺院、兵營、病院、ホテル其他數

百戸の住宅を建築して、新生面に導いたが、懐徳、伊通州、兩地に通ずる大道があり大豆その他雜穀の出廻り多く、市街は其等に促されて現在の發展を成し、特產物の輸出市場として屈指のものとなつたのである。市街は中央の小溝を境として、河南街となり、河北街とされ、後者は鐵道線路の爲めに更に又南北に兩斷されてゐる。その河南街は支那街を形成し、河北街は附屬地内に在つて、線路の北は官衙住宅區となり、南は支那街と接して商業區となつてゐる。現下附屬地戸數千五百、人口七千四百、中邦人二千三百餘である。

◆農事試驗場　附屬地内にあつて會社の經營するもの、大正二年の開設に係り、總面積二一三町歩餘、中作物試驗用地四二町、放牧地及飼料作物栽培地一六五町歩を占め、種藝、病理昆虫、畜產、林產及庶務の五科を置き、熊岳場分場に園藝、養蠶、林產、種藝の四科を分けてゐる。その業績の一班には、大豆、小麥、陸稻の改良、甜菜品種の育成、緬羊改良法、豚の改良試驗其他であつて、



公主嶺牧場の緬羊

滿蒙に對しては最も有意義な努力を盡しつゝあるのである。

會社の産業施設　滿蒙の地は廣い、千古人跡未到の大深林もあれば一望平蕪際涯のない沃野もある。土地の利用高度に達した集約農業地帶もあれば、水草を追ふて移る遊牧の民によつて僅かに利用さるゝ沙漠もある。北滿の平野と、南滿のそれと、蒙古のそれとの間には氣候、土質、經濟狀態必ずしも一ではない。東山地方と南山地方とは又風土、文物必ずしも大なる徑庭がないとは云へぬ。

一億七千萬圓の會社十一年度收入の半以上は鐵道營業から收得し、その鐵道收入の殆どは特産物の輸送によるを見るならば、要素を異にする地方の生産物の研究を行つて、之れが改良增殖を圖る事は、それが滿蒙産業の大宗であり、經濟基礎である限り、最も緊喫のものであらねばならぬ。

會社は斯くて會社の營業の根本を培ふばかりか與へられた一使命として滿蒙

の農牧林業を開發の爲め廣く各地に農事試驗場、試作場、畜産試驗場、林業試驗場、模範農牧場等を設置してゐるがその主なるものは

公主嶺　農事試驗場本場
熊岳城　同　分場
鄭家屯　農事試作場
湯崗子　**アルカリ**試驗地
鳳凰城　煙草試作場（大正八年東亞煙草會社に依託）
得利寺　同
海龍城　試作農場
黑山屯　委託種羊牧場
長春、遼陽、鐵嶺地方事務所苗圃

等であつて、上記箇所に於て諸種の比較研究、改良乃至は適應性等を試み、或は種畜の無料貸與を行ひ、或は農耕具の運賃割引を企て、或は獸疫豫防の爲めに各地に獸醫を配置し、或は植樹造林に努め、時には又講話、講演を試み、時

に品評會を開く等公衆の指導助成に努め專念斯業の發達に力を盡しつゝあるのであつて、既に其の效績として數へらるゝは大豆、小麥、陸稻、緬羊、豚の改良、水稻、果樹の育成等であつて、殊に我が國の食料問題の脅威に對し滿蒙水田事業の有望を確證してその解決策を宣明したこと等は、その內容の充實と抱負の如何を語るものであらう。

⊠劉房子 (Liu-fang-tzu)

	粁	哩		粁	哩
公主嶺	一〇・八	六・七	大連	六五〇・二	四〇四・〇
陶家屯	一〇・八	六・七	奉天	二五三・六	一五七・六
			長春	五一・二	三一・八

●公衆電報取扱驛

傳說によると、數十年前の移住民は凡て窩棚生活を營んでゐたが、山東の劉

某と云ふ者大家を建てゝ永住の基礎を固め、移民を愛撫した爲め、皆其の德を慕ひ、劉大房子と敬稱し、遂に村名となつたと。

◇陶家屯 (Tao-chia-tun)

	粁	哩		粁	哩
劉房子	一〇・八	六・七	大連	六六一・〇	四一七・〇
范家屯	一〇・二	六・三	奉天	二六四・四	一六四・三
			長春	四〇・四	二五・一

◇范家屯 (Fan-chia-tun)

	粁	哩		粁	哩
陶家屯	一〇・二	六・三	大連	六七一・二	四一七・〇
大屯	一〇・四	六・五	奉天	二七四・六	一七〇・六
			長春	三〇・二	一八・八

●公衆電報取扱驛　●兩替店

年度	發著貨物噸數	
	發送	到著
明治四十年	三八、三二一	三五、七七五
大正十年	二二二、二〇三	五二、六一六
大正十一年	二四四、〇八一	四二、三六七

以前驛舍、兵營の他何等建物の存在なく廣潤の高原に過ぎなかつたが、雙陽、八家子方面よりの大豆其他の出廻り漸く繁く、店舗を構へて特產物の取引に從事するものを續出し、市區も次第に整備を見現在公主嶺に亞ぐ集散地となるに至つたのである。驛の北方三哩の處に新開河鐵橋がある。その橋畔監視家屋の傍らに「田中中尉」の碑が建つてゐる。日露の役、奉天會戰に先つて、挺進隊

三箇中隊の一部を率ゐて、寒氣と戰ひつゝ哨線を避け、深く敵地に突入し、鐵橋を破壞して退路を絕たんとしたが爆發效なく戰死を遂げ、露軍も其の勇に感じて之れを橋畔の監視家屋附近に葬つたのである。碑は會社前總代後藤子爵の撰書で明治四十一年四月我が獨立守備隊によつて建てられたものである。

⊠大屯（Ta-tun）

	粁	哩
范家屯	一〇・四	六・五
孟家屯	一一・一	六・九
大連	六八一・六	四二三・五
奉天	二八五・〇	一七七・一
長春	一九・八	一二・三

●公衆電報取扱驛

驛の東南と西南に白龍竝駒石山がある。東清時代からの採石山であつて、現時會社に於ても採石を行つてゐる。

◎孟家屯 (Meng-chia-tun)

	粁	哩
大屯	一一・一	六・九
長春	八・七	五・四
大連	六九二・七	四三〇・四
奉天	二九六・一	五・四

●公衆電報取扱驛

◎長春 (Chang-chun)

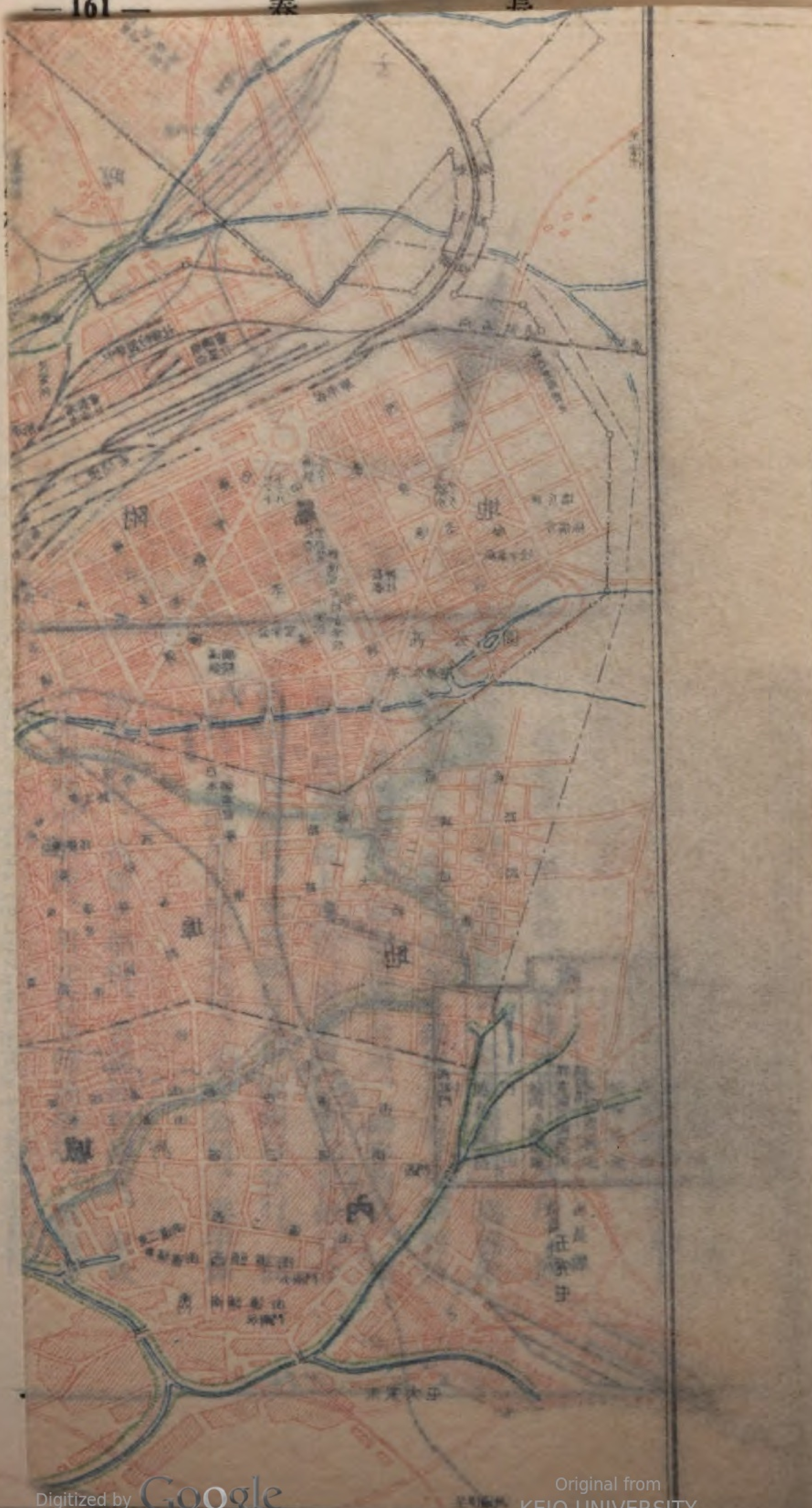
	粁	哩
孟家屯	八・七	五・四
奉天	三〇四・八	一八九・四
大連	七〇一・四	四三五・八
安東	五八〇・六	三九八・四

●公衆電報取扱驛　●携帯品一時預驛　●構内食堂　●兩替店　●吉長、東支線乘換驛　●手小荷物市内配達　●洗面所　●辨當驛　●赤帽

年度	乗降客數		發著貨物噸數	
	乗車	降車	發送	到著
明治四十年	一三三、一一〇	九七、六八七	六八、七七六	四五、九四四
大正十年	五二五、七八六	五六四、九一三	一、九〇二、三九九	九三八、一四一
大正十一年	五五四、五五九	五一八、九一三	一、九〇八、六六〇	八五九、五九三

【車馬賃】自動車（一日三五•〇〇圓、半日二〇•〇〇圓、一時間五•〇〇圓）馬車（一日四•〇〇圓、半日二•五〇圓、一時間四五錢）俥（一日二•〇〇圓、半日一•二〇圓、一時間三五錢）

【旅館】ヤマトホテル（驛前、室料三•〇〇圓以上、食事料朝一•五〇圓、晝二•〇〇圓、夕二•五〇圓、米式一泊八•〇〇圓以上）名古屋旅館（驛より二町、宿泊料五•〇〇—一二•〇〇圓）長春ホテル（驛ヨリ二町半、室料二•〇〇—七•〇〇圓、食事料一•〇〇—二•〇〇圓）西村旅館（驛より二町半、宿泊料四•〇〇—八•〇〇圓）北滿旅館（同上）南洋館（同上）コンメルチエンスキーホテル（露西亜ホテル、驛より一町半、





乘降客數 發着貨物噸數

室代二•〇〇—三•〇〇圓、晝一•二〇圓、夕一•〇〇圓、食事付五•〇〇—七•〇〇圓）

支那旅館 悅來棧（驛前、宿泊料三食付一•五〇—八•〇〇圓、普通一食一泊一•二〇圓）

【旗亭】八千代（吉野町）開花（富士町）丸芳（日本橋通）支那料理賓宴樓（東三條通—支店、吉野町） 鴻慶飯店（吉野町） 益豐樓（北門外三馬路）

【官公會社】 帝國領事館、領事館警察署、警務署、郵便局、觀測支署、取引所、商業會議所、公會堂、實業銀行、滿洲製油、裕昌源製粉公司、日清製油、長春運輸、滿洲木材、雙和棧製粉等（資本一千萬圓以上）。正隆、鮮銀、正金、滿洲、商業各銀行支店、中華煙公司、國際運輸、日清製油、三井物產、日本綿花、滿洲製粉、富寧造紙公司、鈴木商店、東省實業、滿洲共益社、大陸窯業、中華製粉、東亞煙草（以上支店、出張所）。東三省銀行分行、東三省官銀分行、奉天公濟平行銀行、黑龍江省官銀行、交通銀行及中國銀行分行、商業銀行、吉長水火保險公司、德士古煤油公司分行、南洋兄弟煙草分行、太古公司、美孚煤油公司、亞細亞石油、英美煙公司各分行等。

【學校病院】 幼稚園、小學校、公學堂、商業學校、高等女學校、實業補習學校、家政女學校、圖書館、長春醫院、傳染病隔離所等。民國側中學校、男女省立師範學校、職業學校、小學校等。

概觀　長春は伊通河の左岸に瀕し、東經一二五度、北緯四三度、（北海道旭川と同緯度）に當つてゐる。奉天と同じく城內と城外とに分れ、城外は更に商埠地、鐵道附屬地及寬城子の三とする。城內—長春城は近代の築城に係る磚城であつて周圍十五支里、不規則長方形をなし、南門から北門まで約十八町東門から西門迄約三十町ある。市街は南北を通ずる北大街、南大街を最も繁盛の街衢として此處を中心として東西に貫く四條の大街を派し、馬號門內西四道街の間を官衙區、爾餘は巨舖、大棧打連なる商業區としてゐる。此の地は恰も松花江竝遼河流域に跨る沃野の樞軸をなし、東に吉林、西に懷德、北に農安、伯都訥、南に伊通州を控へて、南滿北部の最大農產市場を形成し、輓近百餘年間に著しき發達を遂げた處である。明治三十八年北京條約によつて互市場として開放され、東淸鐵道は二道溝の土地二百萬坪を買收して寬城子驛一帶を開いたが、會社は長春寬城子間中央の頭道溝を選んで附屬地としたのである。開埠地—北京

條約に依つて城內外を開いて互市場としたのであるが、往年時の道臺、顏氏の計劃に從つて北門外より附屬地に至り、附屬地を圍繞する廣大の土地を開埠地とし、開埠局を置き壯麗の道臺衙門を設け、道路を修築し發電所を設け洋風貸家を新築し大路を縱横に派して支那に於て稀れに見る歐風都市を現出したのである。附屬地日本橋通りを貫き、城內北門に通ずる北門外大街は商埠地の目貫であつて、道尹公署、開埠局の洋風巨館がある。邦人人口二千六百餘。附屬地—即新市街は驛前の廣場より放線形に射出する日本橋通、中央通、敷島通を骨子とし、之れに中小路を縱横碁盤形に交叉し、壯麗宏壯の歐風都市を形成してゐる。日本橋通りは、舊市街を一線に貫く大街であつて各種の商舗櫛比し、往來絡繹織るが如き樣を呈してゐる。附屬地戶數四千四百、人口二萬六千、內邦人八千二百餘である。寬城子—長春驛の北方一哩餘、現在東支鐵道の終端驛となつて、曾て東淸時代には鐵道車站として繁盛の地たらむ形勢であつたが、

滿鐵長春驛の出現の爲めに昔日の面影すらなく、附近僅に歐風建物を散在せしめてゐるに過ぎない。

特産物上の長春 名勝舊蹟等から大連、奉天の如き魅力のない長春は、滿洲の特産物上からは見逃がし得ない土地である。即大正十一年度發著貨物總噸數に就て見ると、到著にて獨歩の地位を占めた大連と、發送にて特殊條件を有する撫順には抗し得べくもないのであるが、第三位として二百七十六萬噸に上り、之れを主要貨物別とするならば、

高粱	大豆	木材	麥粉	粟	玉蜀黍	豆粕	小豆	小麥
一六三、八九六	一二九、六一四	五三、八一四	四八、九九六	四五、五三〇	三〇、二四〇	二一、三六〇	八、五〇九	四、四四〇

であつて尚云ふならば、高粱、粟、材木、麥粉の發送にては各驛中の首位を占め、大豆、玉蜀黍は開原に亞いでゐる。



五大高粱發送驛及噸數

長春	開原	四平街	范家屯	公主嶺
一六二、八九六	一二三、四九四	九〇、九一六	八六、三〇一	七六、一四八

四大粟發送驛及噸數

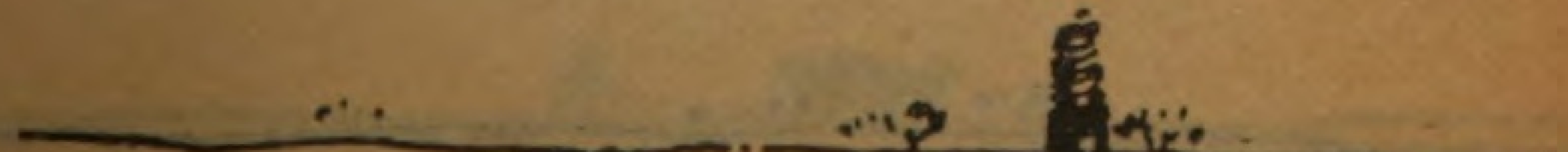
長春	四平街	昌圖	遼陽
四五、五三〇	三〇、六七三	二〇、七六三	一〇、七六〇

次ぎに製粉業は北滿地方殊に哈爾賓に最も盛んであつて、南滿にては長春を以て最とし、滿洲製粉工場、裕昌源、天興福、雙和棧、同源、亞州、東信等の製粉會社を有つてゐるのである。

【勝蹟】附屬地内には東西兩公園がある。西公園は西南隅にあつて、頭道溝

の流れを引き風致に富むでゐる。關帝廟は南門內東北側に壁廓を高く繞らした一構であつて、朱門石狗の配置も嚴めしく輪奐宏壯である。此の他城內には尙城隍廟、聖人廟、九聖廟等がある。



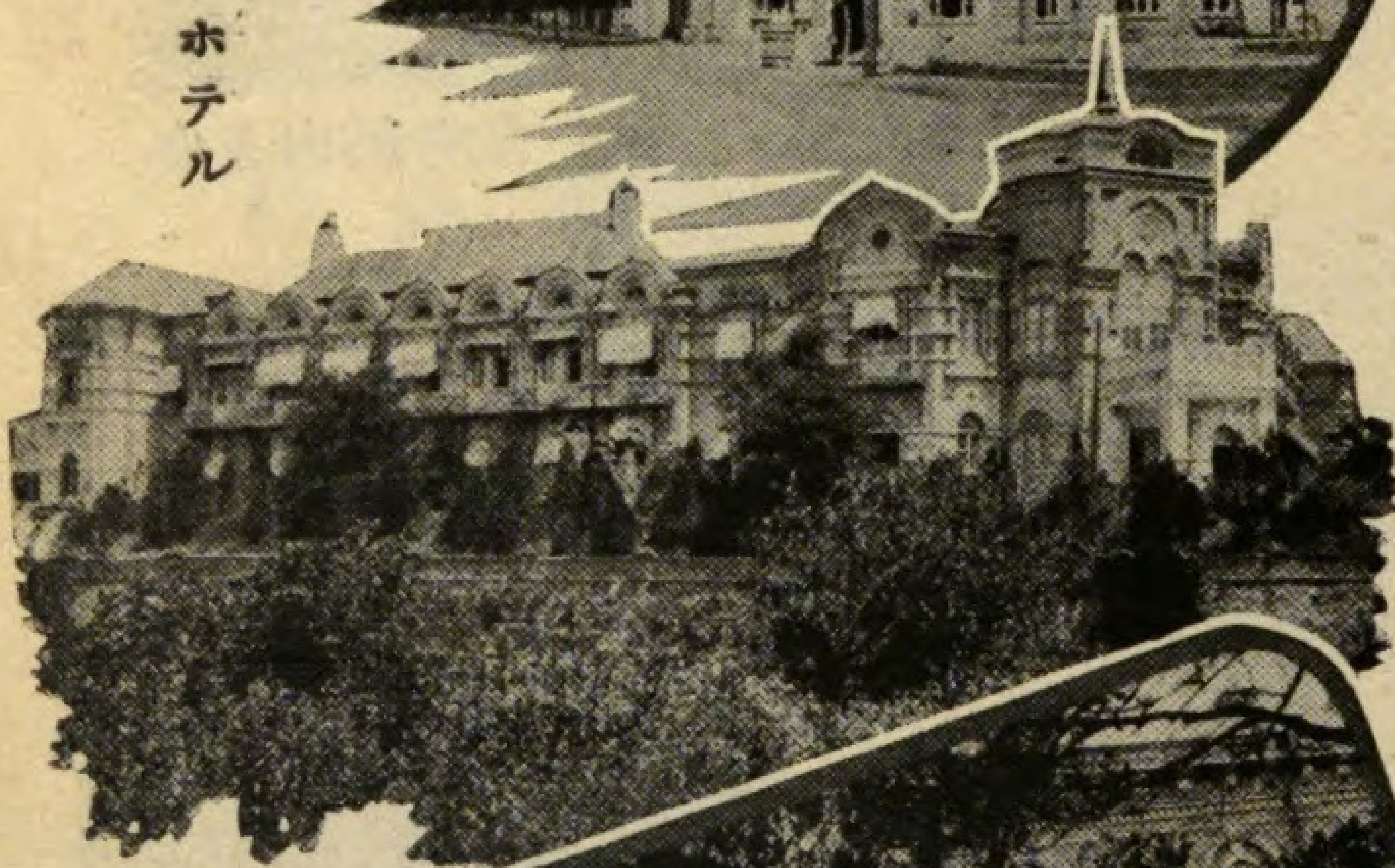


旅順關東廳

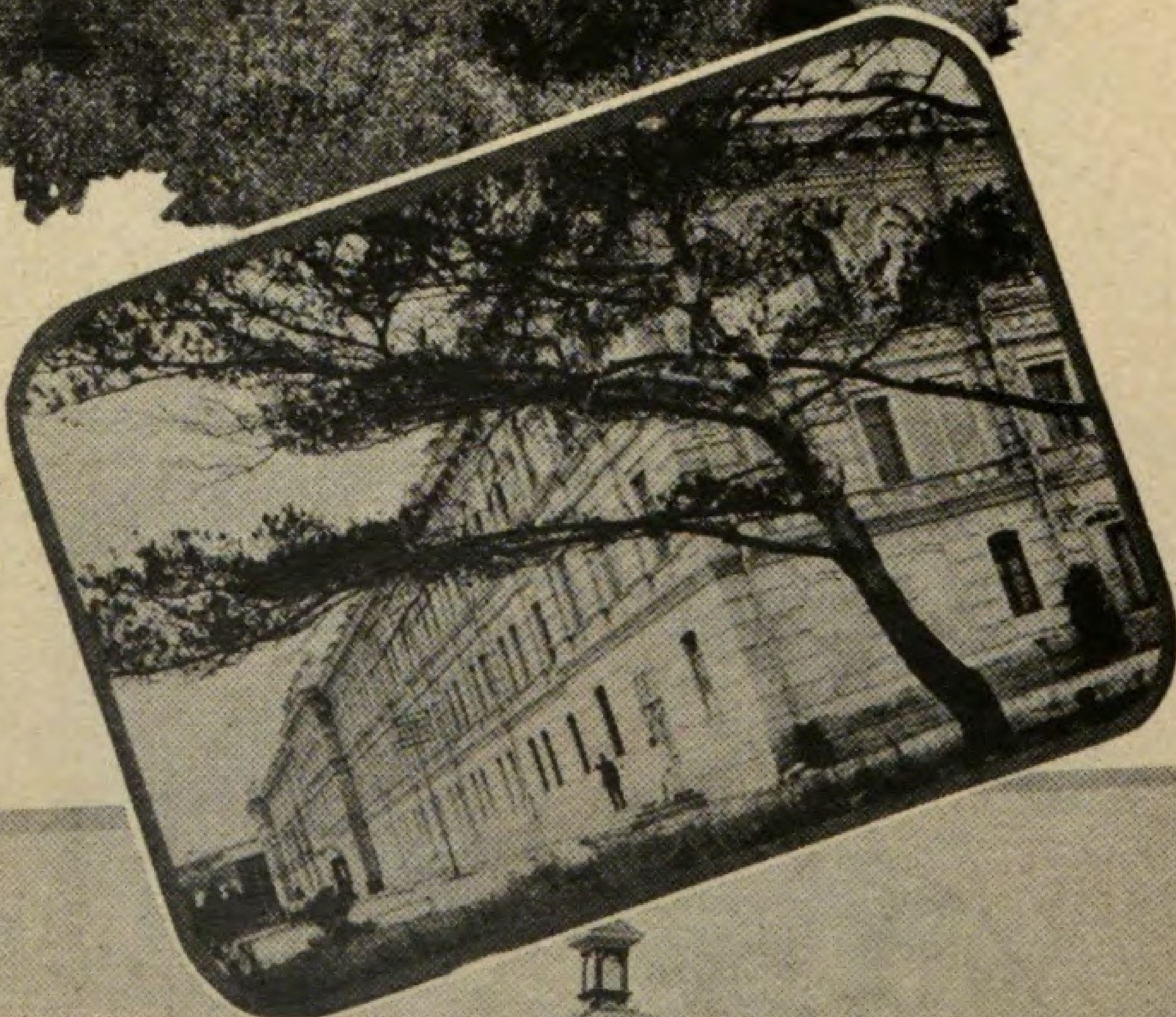




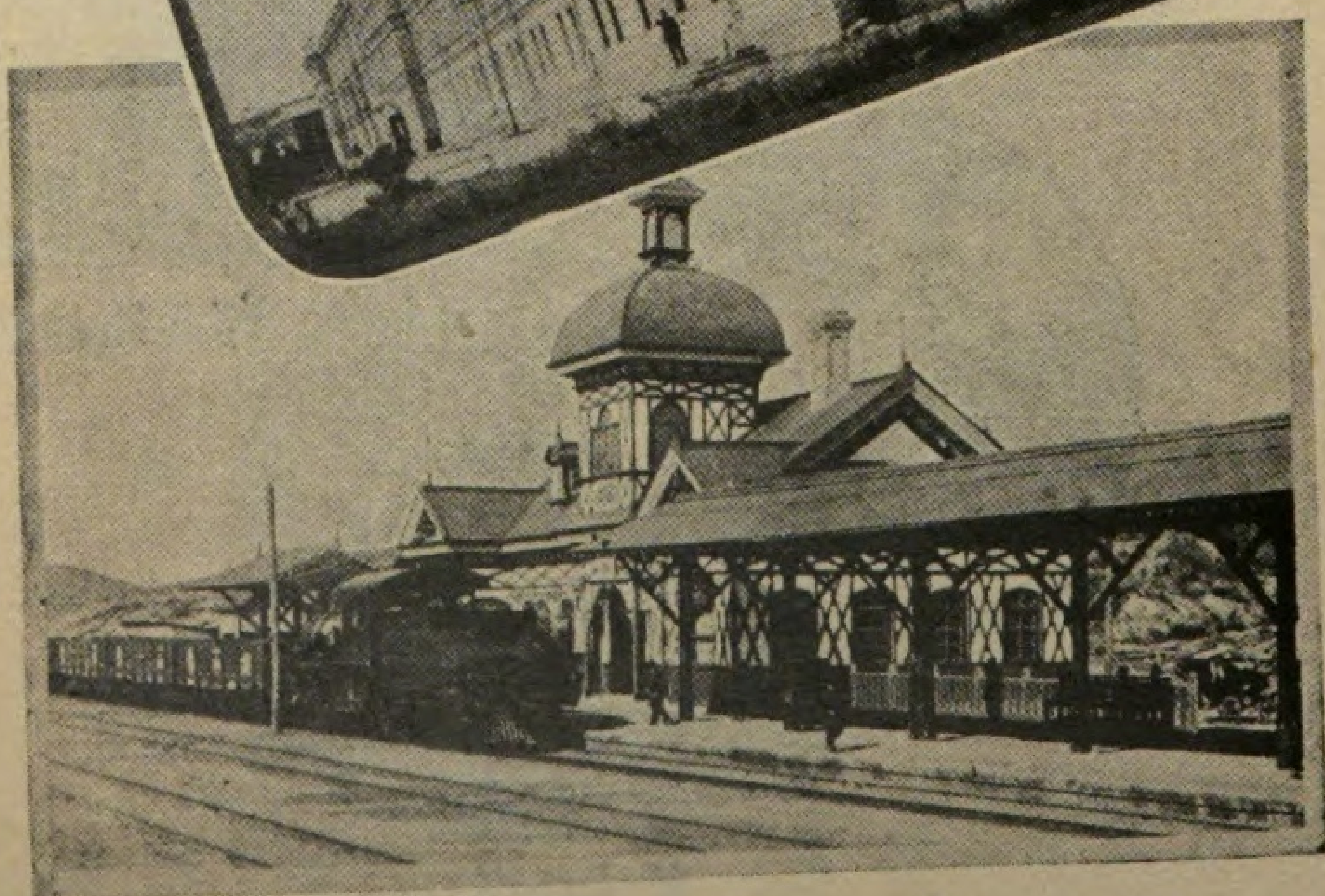
旅順ヤマトホテル



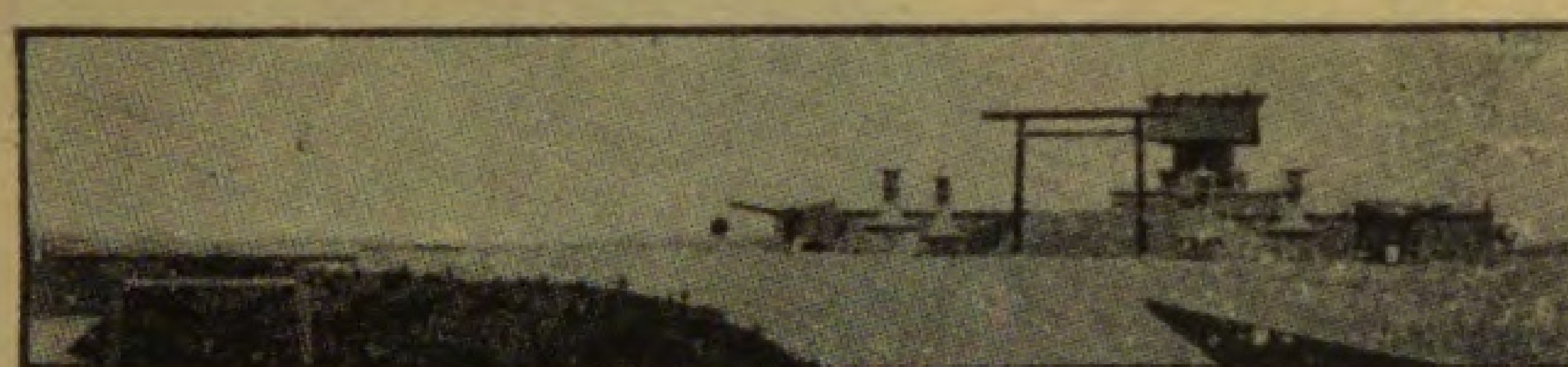
旅順病院



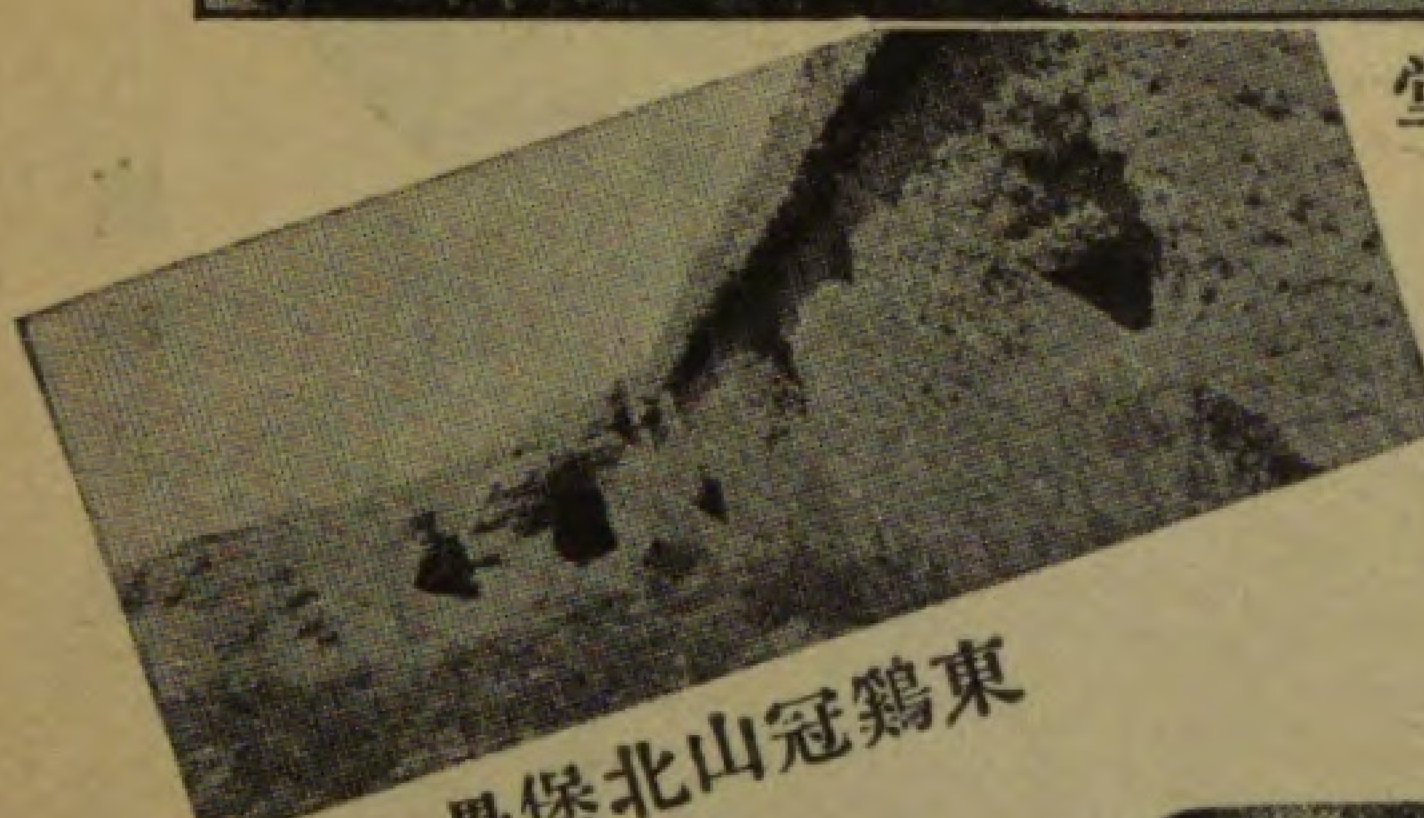
工科大學



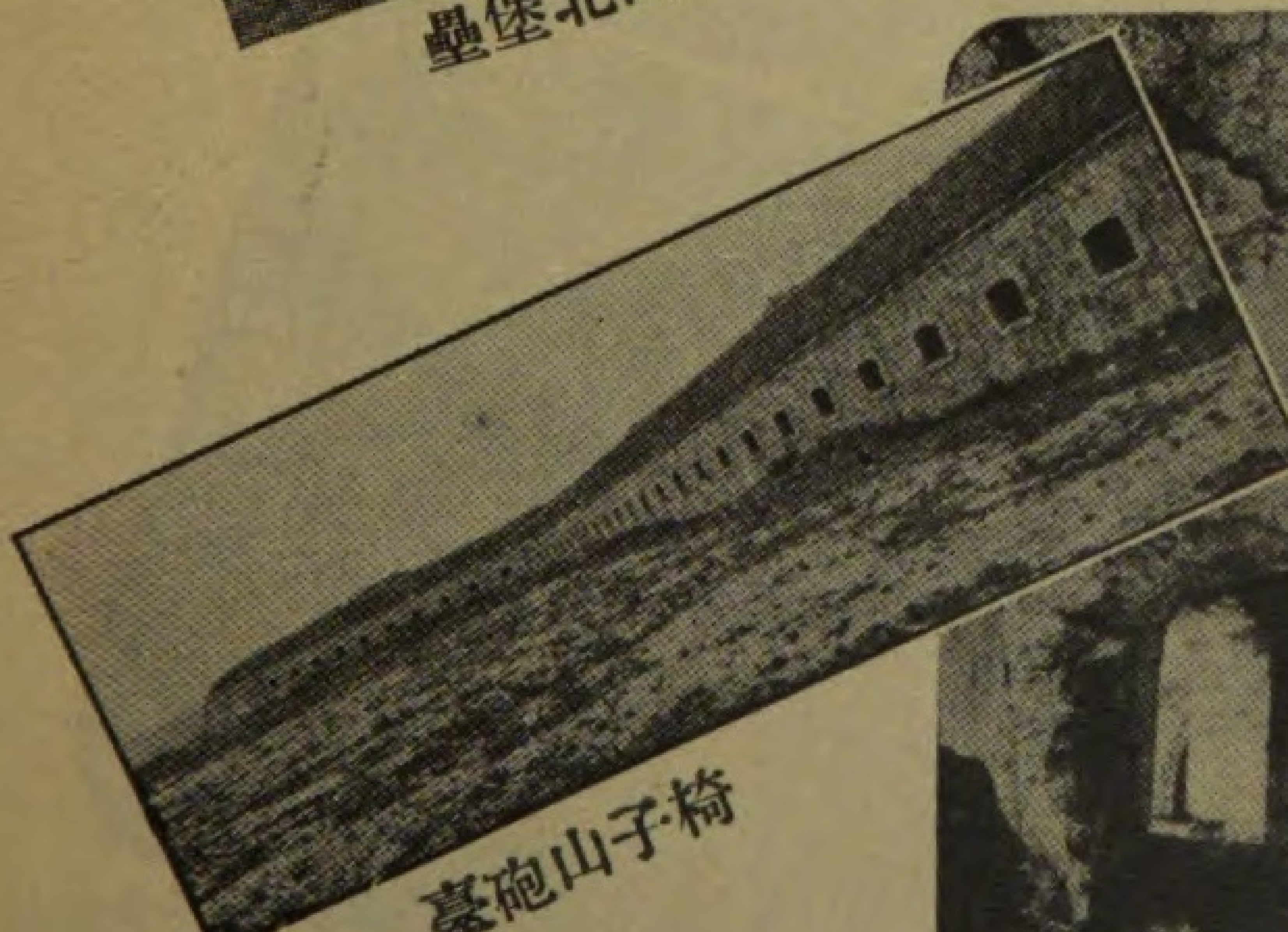
旅順驛



白玉山納骨堂



東鷄冠山北堡壘



椅子山砲臺



北堡壘掩兵部



二〇三高地遠望

旅順支線

大連の次驛周水子から分岐して旅順に到るものは旅順支線である。東清鐵道時代は南關嶺から旅順に出でゝ之れを本線とし、大連へ出るものを支線としてゐたのである。

大連を仕發驛として一日七回の旅客列車を運轉し、一時間乃至一時間十五分を要してゐる。夏家河子驛で半島の北側渤海沿岸に出で龍頭から南折して黃海に口を開く旅順に達し、周水子からの全延長三十一哩六分、其の間小丘多く營城子驛の鹽以外に見るべき地方特産の出貨はない。

◎夏家河子 (Hsia-chia-ho-tzu)

	粁	哩		粁	哩
周水子	一二・二	七・六	大連	二一・一	一三・一
營城子	一〇・五	六・五	旅順	三八・六	二四・〇

金州灣に流下する夏家河の河口に在る小漁村に位してゐる。南方一帶は山岳重疊して耕地少く、北方は卽ち波靜かに稀れに見る遠淺の海である。從つて盛夏の候には連日大連より臨時列車を仕立て來浴するもの多く、逐年諸設備を加へ、婦人小兒の絶好遊樂場として、釣舟あり、ボートあり、休憩所あり、會社直營簡易旅館(水明館)を設け公衆の爲めの諸施設を加へ近年益々民衆的の海水浴場として在滿同胞間に缺くべからざる夏季の魅力となつてゐる。

⊠營城子 (Ying-cheng-tzu)

	粁	哩		粁	哩
夏家河子	一〇・五	六・五	大連	三一・六	一九・六
龍頭	一六・七	一〇・四	旅順	二八・一	一七・五

驛所在地は營城子村を距る西南十六町の處に位し、附近村落の主要地となつてゐる。後方一帶は山岳連衡し、北方里餘の處に營城子灣を抱き景は凡でない。もと高勾麗時代の古城趾があつた爲めに營城子の名の因となつたと言はれ、東方に當る牧城驛には明時代倭寇防備の本營であつたと云はるゝ廢墟がある。附近は鷸鴣其他の小禽多く、遊獵地として迎へられ季節には獵具を擔はんする小孩毎列車に殺倒して屡車窓の人々を驚かす處である。日本鹽業會社は此の地附近に鹽田を置いてゐる。

⊠龍頭 (Lung-tuo)

營城子	一六・七粁	一〇・四哩	大連	四八・三粁　三〇・〇哩
旅順	一一・四	七・一		

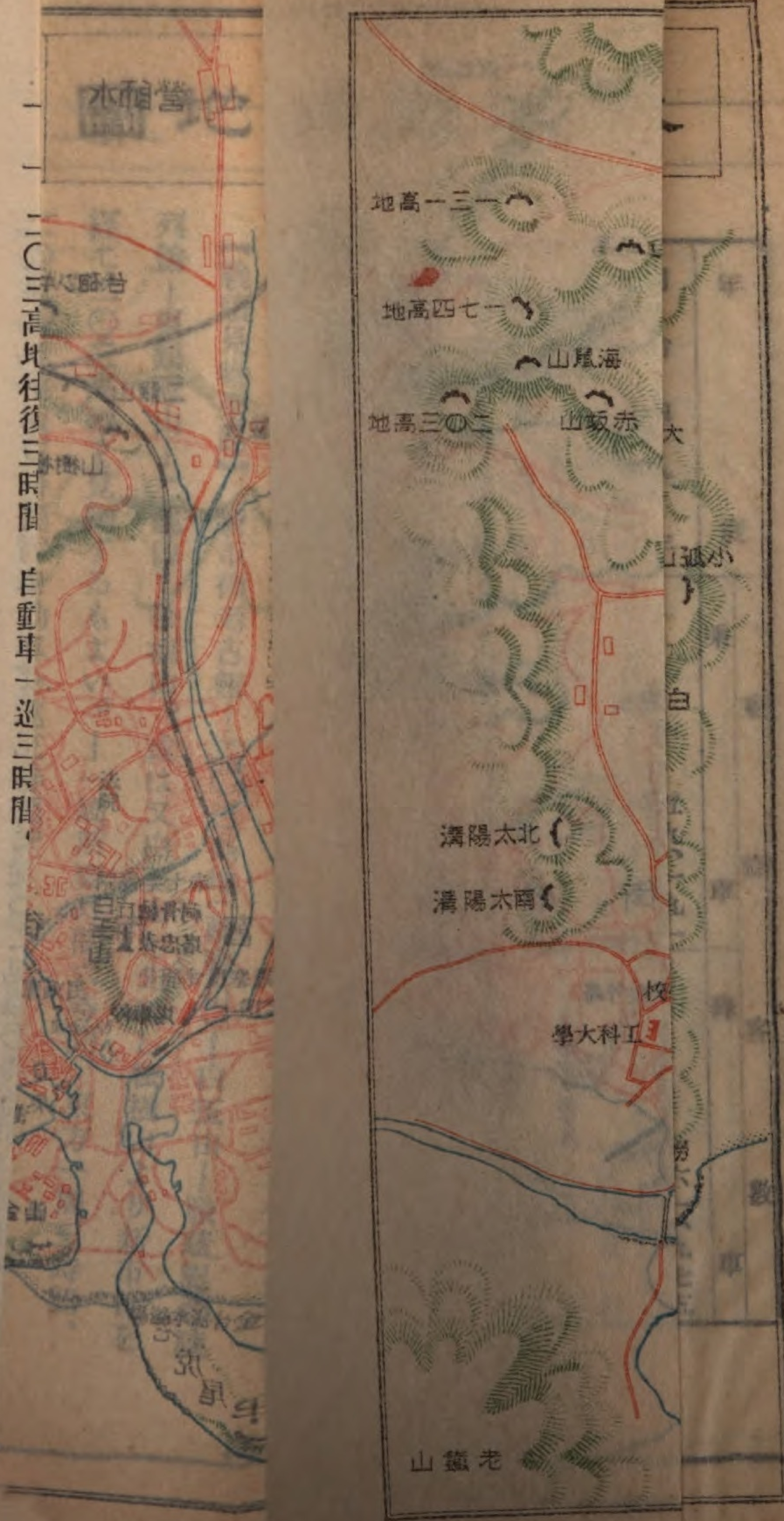
一帶は山岳疊積し、附近圍山子、王家屯等の丘背は日露攻防戰に重砲陣地となつた處である。車窓旅順に近づくに從つて凄慘を極めた當時の記憶を新たにする丘岡上の記念碑車窓に往來し回想も盡きぬ處である。

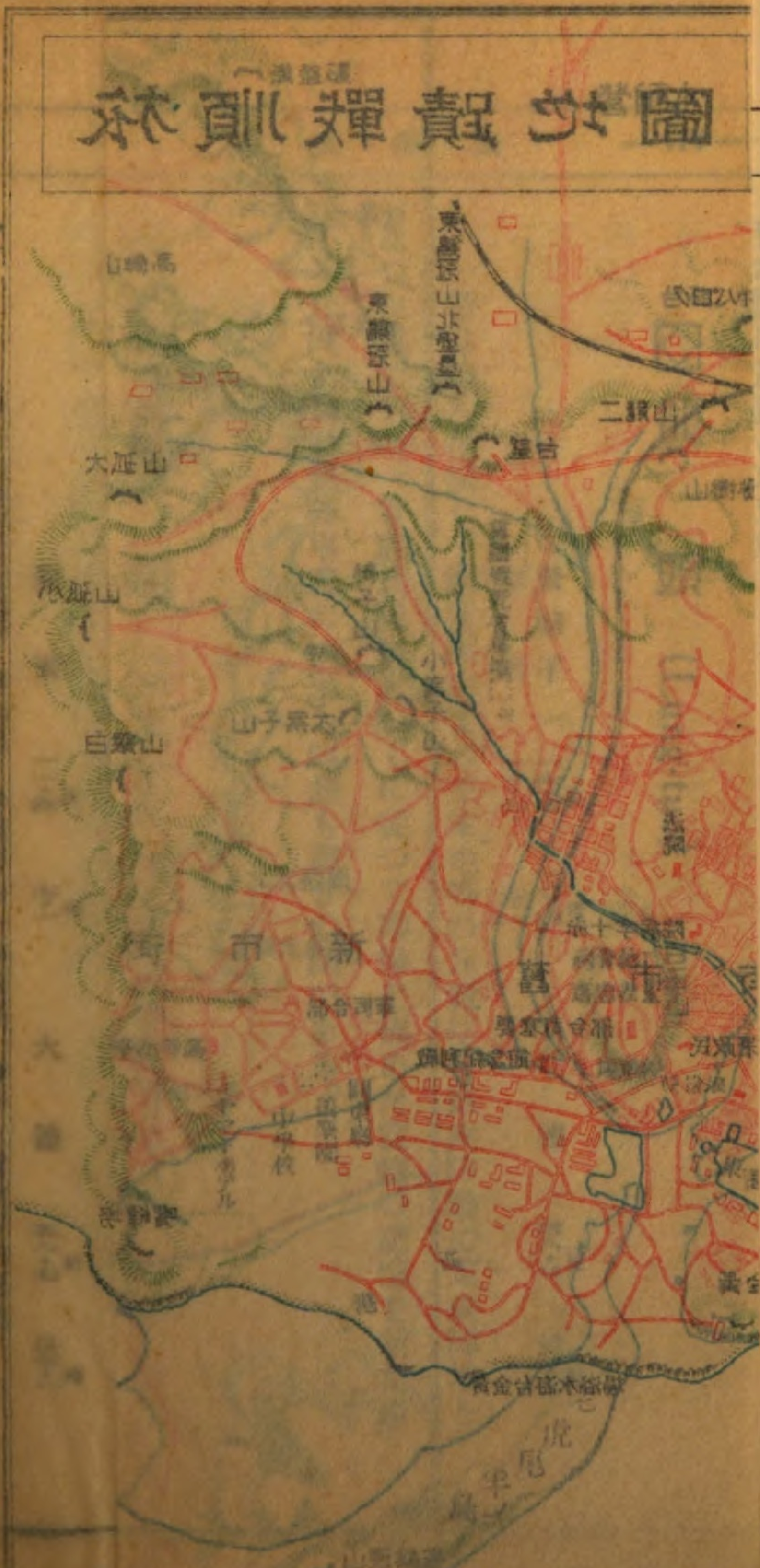
⊠旅順 (Ryo-jun ;Port Arthur)

龍頭	一一・四粁	七・一哩	大連	五九・七粁　三七・一哩

●公衆電報取扱驛　●赤帽　●携帶品一時預驛　●手小荷物市內配達

一一二〇三高地往復三時間　自動車一迄三時間





年度	乗降客數	
	乗車	降車
明治四十年	五九、一九一	六一、九七五
大正十年	一三五、一七三	一三四、九一六
大正十一年	一四四、四三九	一四四、二〇二

【戰蹟案內】驛の一隅に戰蹟案內所がある。巡覽者の爲めに一日一名より六名迄二圓、六名—十名三圓、二十名迄三圓五十錢、二十一名以上四圓を以て案內をする。

【戰蹟見物巡路】新市街考古館—二〇三高地（爾靈山）—白玉山—戰蹟記念陳列館—東鷄冠山—二龍山—松樹山。或は又白玉山を先にし松樹山より新市街を經て二〇三高地を見物するもよい。—一周所要時間六時間、東方一周三時間、二〇三高地往復三時間、自動車一巡三時間。

大連より早朝の一番列車なれば上記巡路に從つて見學し得るが、二番列車後なれば、新市街より二〇三高地方面を略して、東鷄冠山一帶を撰ぶがよい。

上記戰蹟は大體に於て驛を中心として、8字形に左右に分れ、右に二〇三高地、考古館其他案子山、工科大學、關東廳博物館と經て驛に戻る事となり、左に白玉山を振り出しとして舊市街、記念館、東鷄冠山、望臺、磐龍山、一龍山、松樹山より驛へと一と廻りする事になるのである。

【車馬賃】俥、馬車の料金は略大連と等しく、自動車は一時間六・〇〇圓である。

地名	里程	俥	馬車二人乘	同四人乘	地名	里程	俥	馬車二人乘	同四人乘
博物館	一五町	一三銭	二〇銭	三〇銭	青葉町	一六町	一三銭	二〇銭	三〇銭
考古館	一八町	一三	二〇	三〇	記念館	二七町	二〇	二五	三五
ヤマトホテル	二〇町	一三	二〇	三〇	黄金臺海水浴	三四町	二五	三五	四五

戰蹟一巡馬車賃

		二人乗	三人乗	四人乗
白玉山より爾靈山	往復	円1・八〇	円2・一五	円2・五〇
白玉山より背面砲臺一部又ハ一巡	往復	2・〇〇	2・四〇	2・八〇
白玉山背面砲臺爾靈山一巡		四・〇〇	四・八〇	五・六〇

【旅館】ヤマトホテル（新市街、驛より二十町、米式一〇・〇〇圓以上、室料五・〇〇圓以上、食事料朝一・五〇圓、晝二・〇〇圓、夕二・五〇圓）旅順ホテル（青葉町、驛より三町、宿泊料二・五〇―八・〇〇圓）防長館（同上、宿泊料二・〇〇―四・〇〇圓）賓來館（乃木町、驛より三町、宿泊料二・〇〇―五・〇〇圓）

【旗亭】彌生（乃木町三丁目）瓢亭（同上）青葉（青葉町）新花月（敦賀町）文迺家（橋立町）壽（敷島町）津野（忠海町）君ノ家（青葉町）

【官公署】關東廳、警務局、內務局、參謀部、經理部、要塞司令部、關東軍司令部、重砲兵大隊、憲兵隊本部、陸軍倉庫、水交支社、偕交社、警務署、高等法院、地方法院、海務支局、郵便局、民政署、市役所、公議會、海關分關等。

【銀行會社】滿洲銀行、鮮銀出張所、正隆銀行出張所、旅順殖產會社、滿洲貯金信託

支店、內外商事會社、旅順機業會社、染料會社、鹽業會社、滿洲ビール工場、醬油會社、窯業會社、水產會社等。

【學校社寺】　工科大學、中學校、高等女學校、小學校二、實業補習學校、幼稚園、東洋協會旅順語學校、師範學堂、附屬公學堂、公學堂、本願寺、淨土宗、新高野山、天理教會、日本基督教會等。

【病院】　婦人病院、旅順療病院、關東廳醫院、私立病院二、醫院二。

概觀　旅順は關東州內市制に準據する自治都市の一であつて遼東半島の最南端に位し、山岳四方に連互圍繞し、西老虎尾半島と東黃金山とによつて一條の港口水道を扼してゐる。港內は東西兩港に分れ、西港は東西二哩、南北一哩を劃し、古來海南から朝鮮方面に航行する戎克の天然良港として順路寄港地となり、旅順の稱呼も其處より起つたと言はれる。東港は軍港として使用され、水深きも港內面積は頗る狹い。市街は龍河と白玉山とによつて二分され、東部を舊市街とし西部を新市街と呼んでゐる。舊市街は教場溝を狹むで布置し、東港に

面して船渠、兵營、商賈を櫛比させ自ら商業區を形成してゐる。新市街は龍河に臨む將軍山を超えて西方に伸び一半は露西亞の建設に係り、官衙、學校、公園相連り、四境閑寂である。

市街の四顧は造林に成功して風致頗る佳く、綠の山は、抱く湖の如き海灣に映えて明眉言ふばかりもなく、宛然市街そのまゝの公園の如く、遊覽地、敎育地として次第にその特徵を好愛されつゝあるが、港外浪荒く經濟的要素は反對に遠く大連に及ばず市況次第に沈衰しつゝある。

【沿革】　內に良港を擁し、四圍高丘を繞らし、一路龍河に沿ふて開くのみである旅順の地勢は要塞地として近海に冠絕する處である。從つてその歷史も極めて古く、唐代に於て既に靺鞨征討の上陸遺跡を存し、元、明の頃には山東との往來漸く繁く、淸朝に至つては夙に戰艦の守備する處となり、水師營はその遺蹟を文字通りに語つてゐる。其後一八五七年英佛聯合軍の太沽攻擊の根據地に選ばれ、一八八〇年には李鴻章の建議に依つて對岸威海衞と共に渤海防備の軍港となり、水陸二萬の兵を駐屯せしめたので遂に一市街を形

成するに至つたのである。日清の役後露西亞が此の地を租借するに及んで純然たる軍港埠頭として鋭意施設を加へ、巨費を投じ難攻不落と密かに誇つてゐたのである。

◆關東廳　新市街後樂園の東隣に、東淸鐵道時代にホテルとして營造中のものを繼承して完成した白堊の巨大な二層樓が關東廳の建物である。

當初明治三十九年八月に關東都督府が設けられた際は、關東州を管理し、南滿の鐵道線路保護取締、竝陸軍諸機關を統御する制度であつたが、大正八年之れを改めて關東廳とし、陸軍の統轄權を除いて、民政事務のみに當らしむる事になり、即關東長官の職權は、(一)關東州の管轄、(二)鐵道線路の警備取締、(三)滿鐵の業務監督となつたのである。

次ぎに廳の歲計は特別會計であつて、管內の租稅、稅外收入竝一般會計よりの補充金を以て財源とし、創始後の成績は收入に於て十倍し、歲入に四倍し、歲出の同じく四倍する現勢である。

年度	歳入				歳出
	收入	補充金	繰入金	計	
明治四十年	一、二七三、四七二円	三、〇〇〇、〇〇〇円	―円	四、二七三、四七二円	三、四五一、四八七円
大正元年	一、八八七、一四一	三、一二三、五〇〇	一、一五三、一二九	六、一六三、七七〇	五、三五九、五〇三
大正十年	一〇、二八五、二八七	四、〇〇〇、〇〇〇	二、五一八、五五三	一六、八〇三、八四〇	一三、七九二、七八九

關東廳の地方制度は市制と舊來の習慣を參酌した不文の其の數五百に近き會屯を置く會屯制の二種とし、後者は駐在の警察官吏の監督を受けしめてゐる。
又警察行政に在つては廳の一部は警務局を置いて之れを總括し、州內及鐵道沿線主要地に警務署同支署を配置し、州外は長官が官制上委任を受けた鐵道線路警務上の事を掌つてゐる。
州內及州外領事館區域の司法制度は、前者は單獨判官を以て民事刑事の第一審を爲し且非訟事件に關する事務を取扱ふ地方法院と、判官三人を以て組織し

合議制を以て終審とし地方法院に對する上訴を審理する高等法院の二とから成り、後者は法令條約及慣例に抵觸せぬ範圍に於て當該領事が訴訟事件竝非訟事件に關する事務及登記事務、即地方裁判所及區域裁判所の職務を行ふのであつて、重罪の公判は豫審のみにて關東廳法院に移され、終審は其の高等法院の管轄と定められてある。

關東州の市及會は、前者は戶別割を課し、特に大連市は遊興税、自動車使用税及廳の不動産移轉に對する附加税等を徵し、後者は大部分戶別割、反別割の二會費を附加して、夫れ〴〵の經費に充當してゐるが、州外鐵道附屬地は會社が居住民に公費と手數料とを分賦し、不足分を補給してゐるのである。

州內産業と關東廳の施設

（一）農産　關東州の面積は內地四國の殆ど半の二百二十方里あつて、最近四箇年間の耕地面積の進展狀況は左の如くである。

	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
田	五、四一五畝	六、四三八畝	七、〇六四畝	七、一八一畝
畑	一、五一六、七二八	一、五五二、九九〇	一、五五二、七四六	一、七二三、四九四
農家一戸平均 田	〇・一一五畝	〇・一三七畝	〇・一四五畝	〇・一四六畝
農家一戸平均 畑	三三・二八五	三三・一五六	三二・〇〇二	三四・九五九
農産物作付面積	一、八三三、一三三	一、九六二、八〇七	一、九六五、五六四	二、二三七、四一一
收穫量	六九六、二八一石	四八七、九〇五石	五七〇、二一九石	七三六、七七五石

備考 支那一畝は我六畝餘(一八三坪七五)
支那一石は我約一石七斗に當り地方により小異がある。
作付面積には二毛作混作も凡て全面積を計上す。

穀類の主なるものは、全收穫高の半に達する玉蜀黍を首めに、高粱、粟、豆類であつて、前二者の作付は就中最も多い。

穀類の外州內は風土氣候から、苹果、梨、桃、葡萄、櫻桃等の果樹の栽培に適し、邦人の經營者增加に連れて、住民も亦之れに倣ひ、左表の如く四年間に其の面積倍せるを見ても判然すべく、現今に於ては州內特產の一に數へられてゐる。

	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
面積	三、五三八畝	九、三六三畝	一〇、三四九畝	一七、三九八畝
收量	一一六、九三〇斤	八四一、〇五五斤	二、二〇六、一六四斤	二、六四一、九三四斤

現下大連市外沙河口に廳管理の農事試驗場を有して各種の改良增殖試驗に努力しつゝある。

農事試驗場に對して關東廳は蠶業試驗場を旅順明治町に設け、蠶種を配付すること既に二萬八千枚、講習生を出す事八十餘名に達し、地方農家には實地講

習講話を試み、特に野蠶事業中柞蠶、天蠶の試驗に見るべきものがある外、州內蠶業に對しては我が始政の寄與するもの多く、大正二年州內養蠶(家蠶)戶數僅か一戶のみであつたものが、十年には一千餘戶となりその收量三十二貫より二千九百貫に上るに至つたのである。

(二) 畜產　大正十年末農家一戶當り平均大動物一・八頭、小動物二・二頭、家禽五・九羽の割合を示し、家畜改良の第一著手として、明治四十四年以降、關東廳にてはバークシヤ種豚の配布を行ひ、既にその雜種は三萬七千頭に達し、全豚數の半以上に及び、その金州種畜場にて是等種豚の外種牡牛、種禽を置いて專ら州內家畜改良に資してゐる。

	牛	馬	騾	驢	緬羊	羊	豚	家禽
大正七年末	三四、七一五	二、七二九	一二、一二四	二八、六四四	四六八	七、三四五	七八、五四五	二六二、八九九
大正八年末	三五、〇二二	三、一三八	一三、一七二	三〇、二八五	一、二三三	七、六七七	八五、四八七	二六七、〇九九
大正九年末	三四、五二五	三、六八八	一四、六四四	二九、五一四	三八五	七、五五五	九一、二五〇	二六九、四七四
大正十年末	三三、二〇四	三、八一七	一五、一三七	二八、二八六	三四七	七、八一五	九〇、四九五	二六三、六一二

（三）林產　日露戰役當時軍司令部に於て既に植林の必要を認め、爾來鋭意造林に著手し、風致林、水源涵養林、魚附林、經濟施業林の區別を立てゝ計劃を進め、大正十一年度末官行造林面積六千町步に上り、一方に於ては旅順、大連、金州に苗圃を設け、造林奬勵規則を公布し民業奬勵の爲め官有地の無償貸付を行ひ、種苗を無料下附し保護取締りを行つてゐるのである。

（四）工業　州內工業の情勢は工場數逐年增加し大正二年に二〇二を數へて

ゐたものが、十一年には四九七工場となり、數の上のみでなく質に於ても次第に各種製造工業へと進展しつゝあるが、就中明治三十九年以後大連に發達した油房業は全滿洲に覇を稱へ、全生產の七割以上を占め、其他將來好望とされ既に二三の製造會社の企業せるものには油脂、鐵工、煉瓦、釀造（殊に醬油）、石鹼、粉干製造、柳行李類、精米、陶磁器、硝子、塗料、セメント、製紙、柞蠶糸紡績等である。

（五）水產　地勢上面積狹小であつても海岸線の延長五百浬に及び、舟楫の便よく、漁撈の利は天惠とし北支那唯一の水產地である。漁業に於ては黃海と渤海の二區に區別し、冬季を除いて大正十一年度漁獲高は三百萬貫、二百萬圓に上つてゐる。その主なるものは、

	數量	價格
鯛	一、九七九、四一四貫	四一六、七二八円
鰈・	九二、六二一貫	六六、二一七円
鰆	三二、二五八貫	四五、〇五三円
鱸	二二、三九三貫	九、三七八円
グチ	一七〇、九一八貫	七三、一一〇円
鯖	一、〇三六、一六三貫	四六一、三三五円
太刀魚	三〇二、四九六貫	一五八、二四四円

關東廳にては、大連市外老虎灘西口に水產試驗場を設け、各種の試驗並調査を行ひ當業者の指導に當り 別に水產組合を組織せしめて漁業、製造業、販賣業の三者を强制加入せしめ、日支人を平等に組合員とし、現在日本人千百餘、支那人四千五百を擁してゐる。

次ぎに州內の鹽田は一八六六年貔子窩地方に開設されたのに端を發し、過去の二大戰役に發達を阻害され、一時は荒廢見るに堪えぬものがあつたが、明治三十八年我が國租借後邦人の企業勃興し、現在延長五邦里に亘つて其の廣大偉觀は驚異なしでは見學出來ぬ貔子窩地方の鹽田を首め、旅順、雙島灣、普蘭

店地方、五島鹽田等之れに亞ぎ、明治四十年州内鹽田延坪四百五十萬坪であつたものから、大正十一年には一千四百萬坪、卽四千八百町步、約三倍半の進展を遂げ尙適地として將來鹽田の有效地四千九百町步を有してゐる。

滿洲の敎育施設　滿洲に於ける我邦の敎育事業は關東州の敎育、滿鐵附屬地の敎育、領事館管内の敎育の三大系となり、更に之れを經營別にすれば、關東廳の經營するもの、都市自ら之れに當るもの(大連市のみ)、居留民團の支配するものの東洋協會、日露協會に所屬するもの、及會社の設置するものゝ六大別となる。

關東州の敎育は主として關東廳の管掌する處であつて其の學校には日本人敎育に屬する小學校、中學校、高等女學校、支那人敎育に屬する公學堂、師範學堂、日支人敎育の爲めに設置せる旅順工科大學等があつて關東廳之等を直轄し、別に大連市の經營による高等女學校及商工學校、東洋協會滿洲支部の經營に係る商業學校、會社の經營する工業學校及工業專門學校、實業補習學校、及幼稚

園等があつて其他は各種私立學校、私立幼稚園である。

次ぎに在滿各地帝國領事館內に於ける在留邦人子弟の教育は總て領事館の管掌する所であるが、當初專ら居留民團又は居留民會で設立維持し來つた小學校は漸次之れが經營を會社に繼承せしめ、現今では僅かに二三校となり、其他日露協會の經營に成る日露協會學校及會社直接又は補助經營に係る小學校、補習學校等數種を算してゐる。州外鐵道附屬地の教育は以下掲記の如く會社之れが掌に當つてゐる。

會社の教育施設　元來滿蒙の開發の完きを期し、從つて又日支親善の要諦を普く解せしむる爲めには、教育の隆昌普及に俟たねばならぬ事は云ふまでもなく、會社は創立以來其の重責遂行の爲めに夙くから努力を惜まず、現在會社沿線の其等施設は、縱に在留邦人の教育に資するもの、中國人のそれ、移住朝鮮人のそれの三となり、橫に幼兒保育、初等教育、補習教育、中等教育、高等

教育、社會教育、督學機關竝教員養成、教育調査竝教科書編纂等に亙つてゐる。之れを更に細別するならば、在留邦人小學校三十一（分教場五）、實業補習學校三十三（内分教場一）、中學校三、高等女學校四、家政女學校十、幼稚園二十四、中國人に對して公學堂十一、日語學校一、中學堂一、商業學校二、鑛山學校一、農學校二、專門高等教育である醫學堂（日支人共學）、工業專門學校、醫科大學、及朝鮮人初等教育機關等であつて、其等の經費も始めは四千五百圓であつたものが、十六年後の大正十一年度には二百二十萬圓を超え、最初よりの累計は千百萬圓になつて、累年非常の膨脹を來し、之れを沿線在留邦人に對して割合するならば、附屬地總戸數二萬三千戸に對し初等學校三十一即約七百七十餘戸に一校の割當となり、平均二十哩に對し一校の散在率となるのである。

次ぎに社會教育機關としては完備せる圖書館二の外、沿線主要地十八箇所に通俗圖書館を設け、別に巡回圖書貸付所二十八箇を設け、教育の普及に努めて

ゐるのである。

督學機關としては、會社の地方部に視學及視學委員を配備し、視學規程を設け所管の視學監査に當らしめてゐる。

教育調査機關は、內地と事情を異にする滿蒙の地である爲に、特設したものであつて教育研究所の所員をしてその調査に當らしめ、別に教授訓練、教科教材、教育施設其他實質內容の充實に就て專ら其事務に鞅掌せしめつゝあるのである。

◆博物館　博物館は考古館、記念館、本館の三部からなり本館は新市街にある。露西亞が陸軍將校集會所として築造中のものを大正五年から二箇年で修築したものである。近世復興式を參酌し工費二十七萬餘圓を費し、其の輪奐の美は滿洲建築物中の異彩である。內容の陳列品は滿蒙の產物工藝品を主とし、傍ら各地の參考品を蒐集してある(入場劵考古館と併せ十錢)。

◆考古館　博物館と共に新市街にあつて其の附近に所在してゐる。大谷光瑞

伯の出品になる數箇の完全に近いミイラ(新疆地方發見)を始めとして、古典史學上優秀の逸品珍什頗る多く、戰蹟巡覧者の必ず一顧すべき處である。

◆記念館　博物館の一部として舊市街の東端にある。旅順の要塞戰を記念する爲めのものであつて、此處に就て當時使用の軍器、軍服乃至は模型砲臺、砲壘、會戰寫眞、參加將軍寫眞等を見、當時の苦戰の一般を偲び、亟いで各戰蹟に就て實地に之れを窺ふならば、當時の戰ひの陰慘困苦人力を絶する樣を如實に想到し得るであらう。當時戰時に際して臨時の將校集會所であつた此の館には、彈痕を其の儘存して、記念館として最も相應しい感を與へる處である。(入場券十錢、小兒、軍人半額)。

◆公園　新市街の南腹、海岸通りに沿ふて長方形の後樂園がある。もと露國の創設したもので、滿蒙各地の花卉草木を蒐めてあるのを特色としてゐる。東隅に奏樂堂、中央に噴水盤、西隅に池沼があり、溫室もある。今は我が手に移

植した櫻咲く公園となつて、滿開の頃には雅宴を樹下に張る者が多い。

新市街の東北隅小案子山南麓の高地に大正公園がある。北は松樹蓊鬱の自然の高丘となり、峽間には橋を架し池を置き、眺望に富みその布置結構は樹齢を加ふると共に公園として行樂遊杖の地として、旅順市民唯一のものとして迎へらるゝに相違ない處である。

◆黃金臺海水浴場　舊市街の南端、黃金山の東麓一帶の海濱は砂白く波靜かに、白帆徂徠の情調も豐かな海水浴場として知られてゐる。專用共同の脫衣場の設備もあつて、背後の丘上には會社經營の貸別莊、旅館、洋食堂があり、遠く支那各地より來浴する外客を以て每歲賑つてゐる。

◆白玉山納骨祠　驛の直側に屹立する白玉山(高さ四一五尺)頂上にある。日露攻圍軍戰歿將士二萬七百名の遺骨を納め、春秋二季に招魂祭を催し參拜者頗る多い。



東鷄冠山北堡壘の鳥瞰

◆表忠塔　攻圍軍戰歿將士の英靈を千歲に傳へむ爲め、乃木、東鄕兩將の發起して建てたもの、圓筒形鐵筋コンクリート、高さ二百十八尺の塔であつて、一は納骨堂永代の燈明となり、一は附近航海の照明燈となつて、將士の不滅の功を輝かすかの如くである。

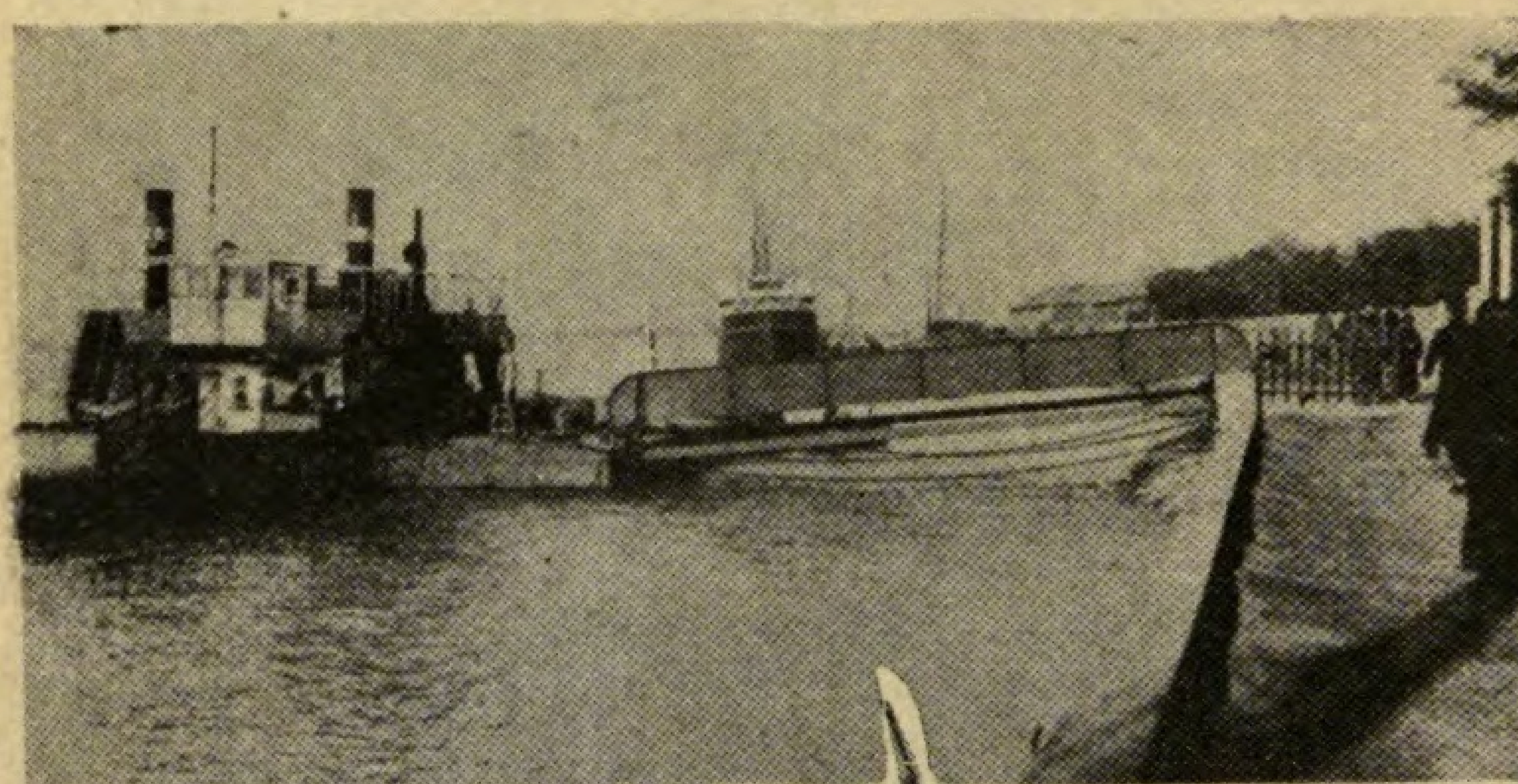
表忠塔に登る爲めには、豫め旅順驛長に就て許可（無料）を受ける必要がある。

◆櫻山新公園　白玉山南麓にあり、第三回閉塞隊に壯烈の戰死を遂げた湯淺少佐外三十一名を、露軍に於て厚く埋葬した處、數千の櫻桃は市民有志に依つて移植され、義烈の不滅の印としてゐる。

◆主要戰蹟　東鷄冠山北堡壘、驛より東北方一里十五町、永久砲臺の一であつて、有名な地中戰を行ひ、敵味方數尺の間に見えて旬日の土嚢戰を行ひ、又彼の驍將コンドラチエンコ將軍戰死の處として、戰蹟中の代表砲壘である。望臺は北堡壘の西にある。二〇三高地と對する最高陣地であつて海軍砲二門は今

倘山頂に殘留してゐる處、攻圍戰最後の活劇場であり、櫻井忠溫著肉彈の現場である。二龍山は驛の北方二里二十町、永久砲壘中の最大なるもの、外壕を占領して二十有五日後に大爆發を行ひ辛くも占領し敵の殘兵僅か三名であつたといふ處である。松樹山堡壘は驛の西北方一里十町の處に在つて、西方椅子山、案子山砲臺と對する金州街道鎖鑰の永久砲臺である。二龍山占領後三日、十二月三十一日に陷落せしめ、砲壘爆破の理想的に行はれたものである。

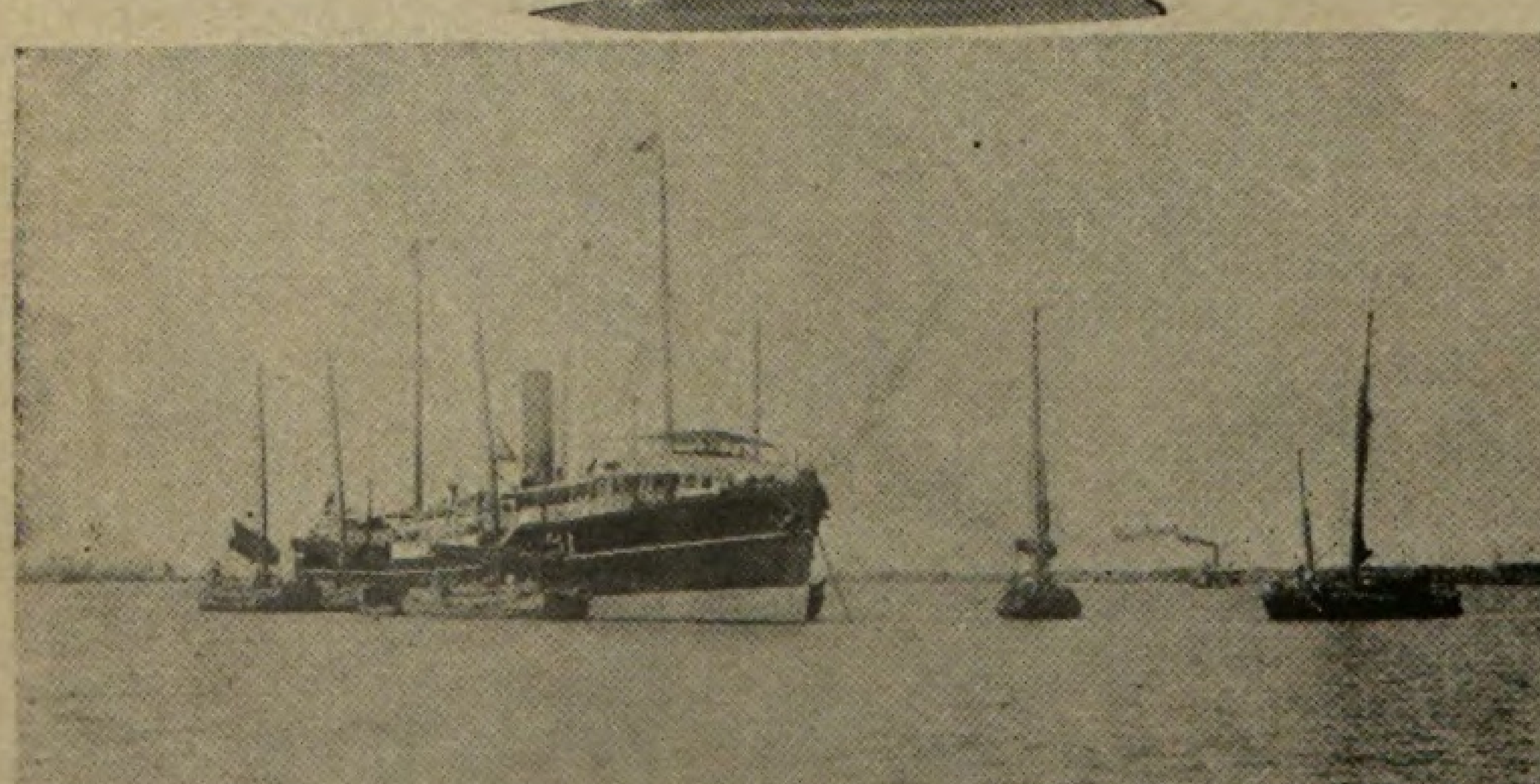
二〇三高地は上記各砲壘の驛の東北方にあると反對に西に一里二十五町、名の如く標高は二〇三米、旅順四圍の連巒中最高である。山麓迄馬車を通じ、山頂よりは、新市街、西港を一眸に收め、當時西港深く隱遁の敵艦を全滅せしむる爲めに激戰九晝夜に亙り、交互に爭奪する事六回に及んで、漸く占領を確實にし得たる記憶も新たな處である。乃木將軍の吟詠鐵血山を覆し、山形改まるはそのまゝを表現し爾靈山の名も亦故將軍の心裡を寫すものであらうか。



營口埠頭



遼河氷上ヨット



營口遼河



祭禮

營口支線

本線大石橋驛から岐れて西下し、遼河の渤海に注ぐ稍上流に位する開港場營口に到達する十三哩九分は之れを營口支線とする。旅客列車は兩驛間を一日七往復するが中一箇列車は本線の終端驛長春と直通運轉を行つてゐる。

明治四十年會社創設當時、營口は乘降客數にて全線中の第二位を、發送貨物噸數にて第三位の成績を占めてゐたが、他驛の増加進展率に伴はず、當今にては乘降客數にて第六位、發送貨物にて第八位と落ち、僅かに到著貨物順位に於て依然たる第四位を保つてゐる。

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	一二八、七六七	一三九、五七八	一〇三、二三四	六八、四四四
大正十年	二五一、二二六	二三五、五五五	二六〇、八〇四	六三二、七七五
大正十一年	二六二、〇四〇	二五二、九七四	二七五、三四三	七〇一、四四九
進展率	二倍	一倍八分	二倍六分	一〇倍二分

營口 (Ying-kou)

大石橋	二三・四粁	一三・九哩	
奉天	一七九・五	一一一・五	
大連	二六一・九粁	一六二・七哩	
長春	四八四・三	三〇〇・九	

●公衆電報取扱驛 ●携帯品一時預驛 ●手小荷物市内配達 ●赤帽
●洗面所

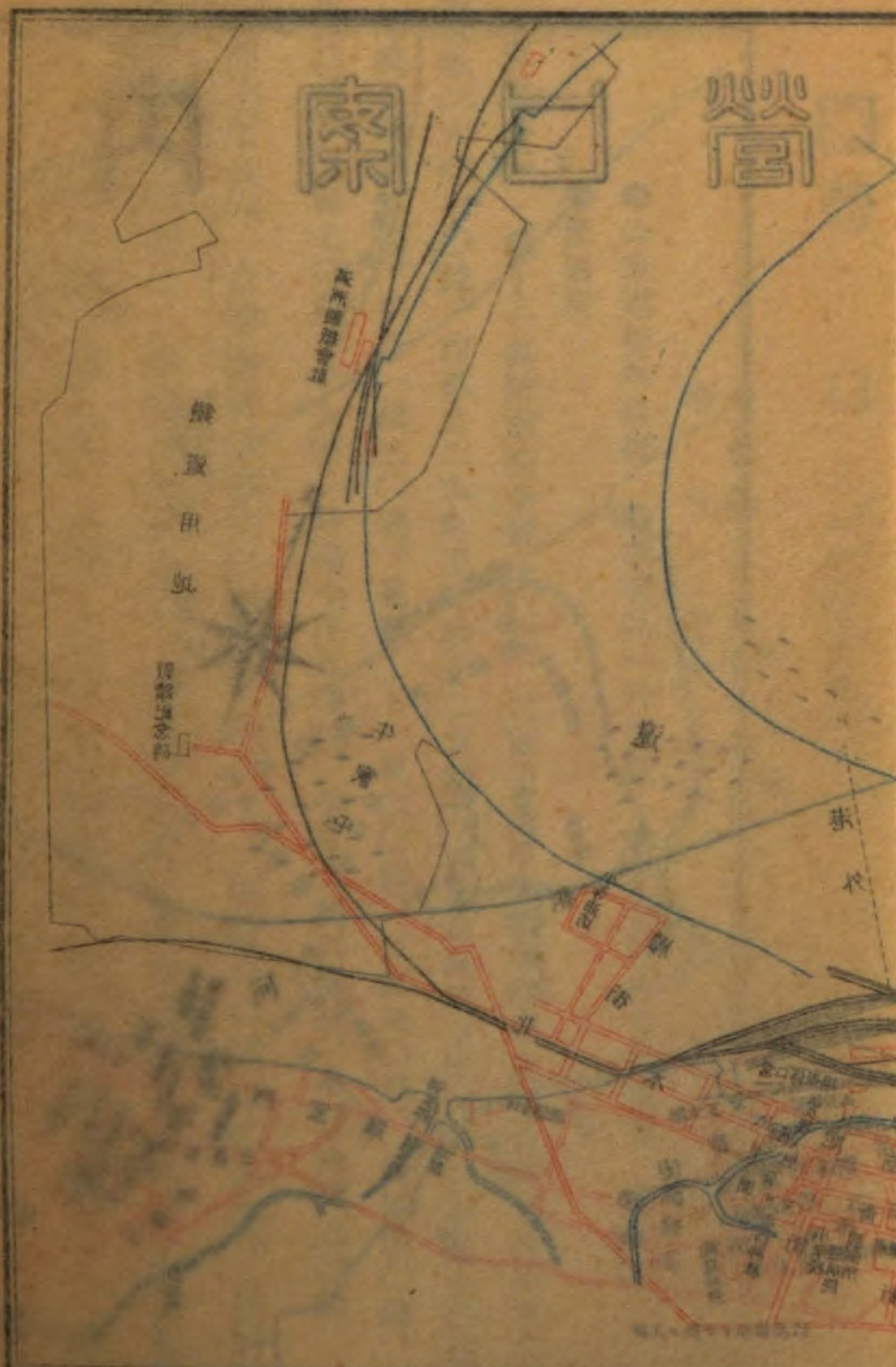
【車馬賃】俥—一區新市街全般一〇錢、二區自新市街至元神廟街一五錢、三區自元神廟街至二本町二〇錢、四區自二本町至四橋子二五錢、五區自四橋子至西營口全般三〇錢、一時間小洋三五錢、半日一圓三〇錢。馬車—一區二〇錢、二區三〇錢、三區四〇錢、四區五〇錢、五區七〇錢、二人乘一時間小洋五〇錢、半日二圓二〇錢、一日四圓五〇錢

【河北車站】京奉線營口車站の謂ひであつて、西營口の對岸にある。京奉線溝帮子との間毎日二回列車便がある。營口經由にて北京方面に來往する者は、その東海關（トスハイクワン）埠頭（俥十五錢）より車站前迄聯絡小汽船によるを要す。此の東海關までの間人力車、馬車の便を借るの

概観

一に牛莊とも云て遼河河口より約十四浬の上流左岸に在る。市街は




營口圖

で頗る不便である。航程約二十五分、賃金階上十仙、階下五仙。

【旅館】 淸林館（驛より二町、宿泊料四・〇〇―九・〇〇圓）

【官公衙】 帝國領事館、警務署、電信局、郵便局、商業會議所、英國領事館、英國商業會議所、露國領事館、丁抹、瑞典、和蘭、諾威各名譽領事館、瀋遼道尹公署、縣公署、警察公署、地方審判廳、海防練軍營、鹽運使公署、海關、商務會等。

【銀行會社】 營口銀行、振興銀行、正隆、正金、朝鮮各銀行支店、小寺油房、東亞煙草工場、國際運送支店、三井物産支店、交通銀行、東三省銀行分行、中國銀行分行、道勝銀行、亞細亞煤油公司、美孚洋行等。

【學校社寺】 幼稚園、小學校、家政女學校、實業補習學校、營口商業學校、基徒敎中學校、圖書館、營口神社、稻荷神社、本願寺、淨土、眞言、曹洞宗、天主敎會、天后宮、海神娘々廟、老爺廟、其他。

【病院】 滿鐵醫院、西營口分院、避病院等。

【娯樂場】 營口座、裕仙茶園、小紅樓茶園等。

概觀 一に牛莊とも云ひ、遼河河口より約十四浬の上流左岸に在る。市街は

灣曲の河岸に沿ふて西から東北に伸展し、東西里餘に亙つてゐる。東半部は新、市街であつて我が軍政下に開いたもの、爾來我が居留民團と會社にて經營し、整然とした街衢を作つてゐる。驛近く邦人官公署を首め、商賈櫛比し南本街の西端、綏定橋で舊市街と接してゐる。舊市街は自然の發達に委せられ雜然とした區劃を爲し、路面の凹凸殊に甚だしい。此の舊市街の中央には有名なる老爺閣があつて、自ら東西に市街を分界してゐる。東營口の東邊卽東海關の所在する附近には外人居留地があり、綏定橋より老爺閣に至る一路は最も殷賑の箇所であつて、百貨輻輳し亙商連綿として流石に往時遼東の大商埠を躍如想起せしめてゐる。人口は鐵道附屬地と領事館內併せて五千三百人、內邦人三千餘である。

【沿革】營口は遼河流末の沖積層から成り、曾ては海面下であつたが前清道光の初年頃から陸地を形成し、地形の利は自ら住民を招いて窩棚（ウオーポヌ）又營子（イヌツー）と呼び、漸次牛莊城、田庄

臺の商勢を奪ひ、西暦一八五八年天津條約の結果牛莊城の開港を見、英國領事の達眼は其の下流五十支里にある現在の營口に駐在し、之れを牛莊として條約上の通商地と聲明し、一八六〇年清國政府も亦其の開港を認めて此處に鎭海營を置き營子口と稱したのである。營口の名はその略稱から出、外人間に牛莊として知られてゐるのも亦故あるのである。

◆埠頭　營口埠頭は二區に分れ、一を汽船及西洋型帆船の碇泊區域とし、一を民船戎克の碇泊區としてゐる。汽船碇泊區域は延長一、七〇〇呎、河幅約二、五〇〇呎であつて、海關の許可を得れば港外に碇泊して荷役を爲し得る。そして汽船は東稅關が管掌し、汽船碇泊區の下流から河北驛に至る間の戎克碇泊區域は西稅關の管掌である。

港內の水深は頗る深く干潮時四〇尺、最深部七五尺、干滿の差甚だしく冬季十一月から三月迄は結氷して出入不能となる。棧橋は全部浮標箱を用ゐ三十餘箇所を有つてゐる。下流河口に門洲ある事は出入に支障多く、營口の發達を阻害する癌である。一箇年出入港汽船帆船五百隻四十萬噸內外で、統計表は逐年

低下しつゝある。

輸入の主なるものは綿糸布棉花であつて支那本土、日本、香港の順位の輸入高となり次いで砂糖、紙類、茶　石油、染料及塗料等である。輸出品は大豆、高粱、豆粕を最とし、酒類、搾油、藥材、石炭及コークス等である。

遼河の水運　內蒙古興安嶺に源を發し、西喇倫河、老哈河を合せ、四洮線三江口にて東山地方から西流し來る東遼河と合して玆に遼河の本流を作つて南し、昌圖、康平、法庫門、開原の諸縣を劃し、開原附近にて淸河を、鐵嶺縣下で柴河を加へ、海城縣下にて太子河、渾河の二大支流を併せ、營口縣に入つて田莊臺、營口を經て渤海に入る。其の延長は三千八百支里と稱せられ、舟楫の便あるは三江口より上流の鄭家屯、營口間千四百四十支里、支流の河は合流點三叉河上流四百支里迄、渾河は三叉河上流四百十支里計二千餘支里に及び、曾て滿蒙交通の中系を爲し、特產の搬出に貢獻寄與せる事は云ふまでもない事で

ある　其の水勢は極めて緩漫であつて一時間六哩、潮水の影響は河口より遠く上流二百五十支里の三叉河以北にも達してゐる。河口を距る十四哩の營口の上流二、三哩迄は滿潮時海洋航海の船舶を浮べ得べく、その邊りより急に淺くなり、田莊臺より上流は河床常に變じて正確の水深を計り難いが鐵嶺までは五、六尺の深さを保つてゐる。遊江最端鄭家屯からは下り十四日、上り二十二日、鐵嶺からは下り五日、上り十五日を要し、上りは營口から內外雜貨を歸り荷としてゐる。現今に於ては上流鄭家屯、三江口等は四洮線に、中流開原、鐵嶺等は會社本線に出貨を奪はれて、河流利用の搬出は昔日の盛況を見る能はぬ狀態であつて、營口の繁榮消長も從つてこれと共に衰頹した所以なのである。

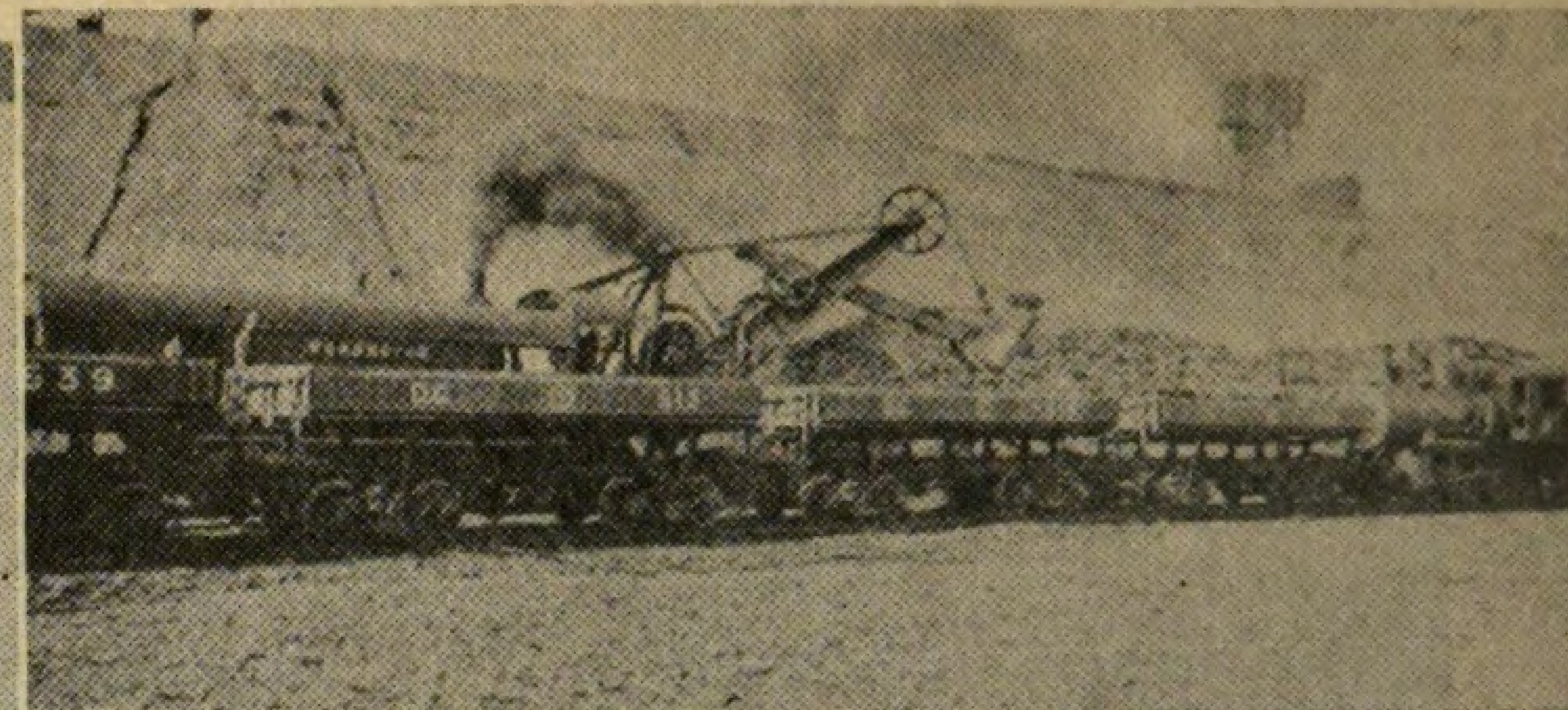


撫順支線

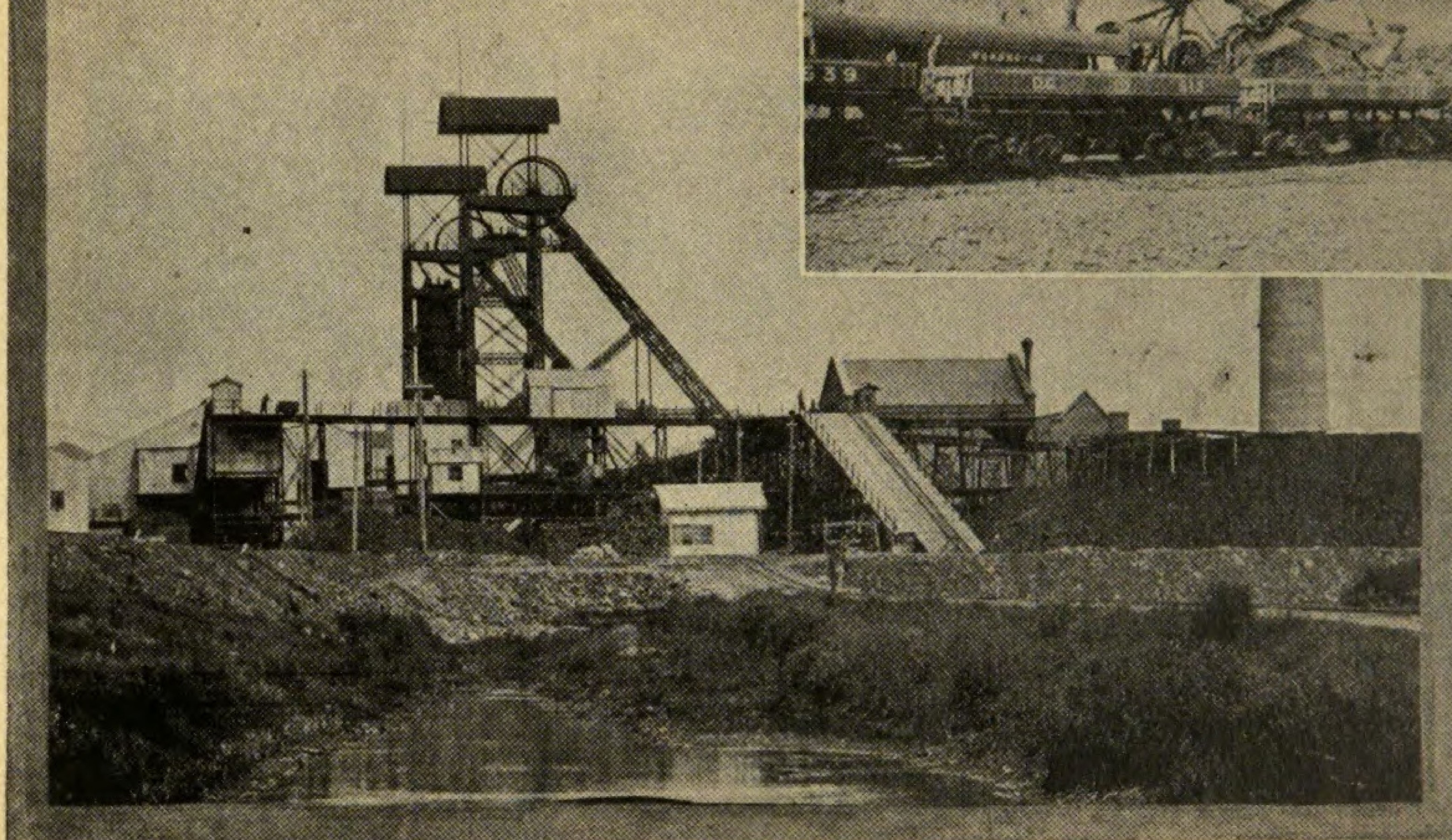
本線渾河驛から岐れ、渾河左岸に沿ふて東し、撫順に出づるもの、全長二十七哩九分、奉天を旅客列車の仕立驛として一日六往復の列車を運行してゐる。

東清鐵道時代は、撫順炭坑に至る運炭専用線として戰時中に急設し、橋梁の如きも枕木を井桁狀に組み、拙速を專らとして竣工せしめたものであつた。

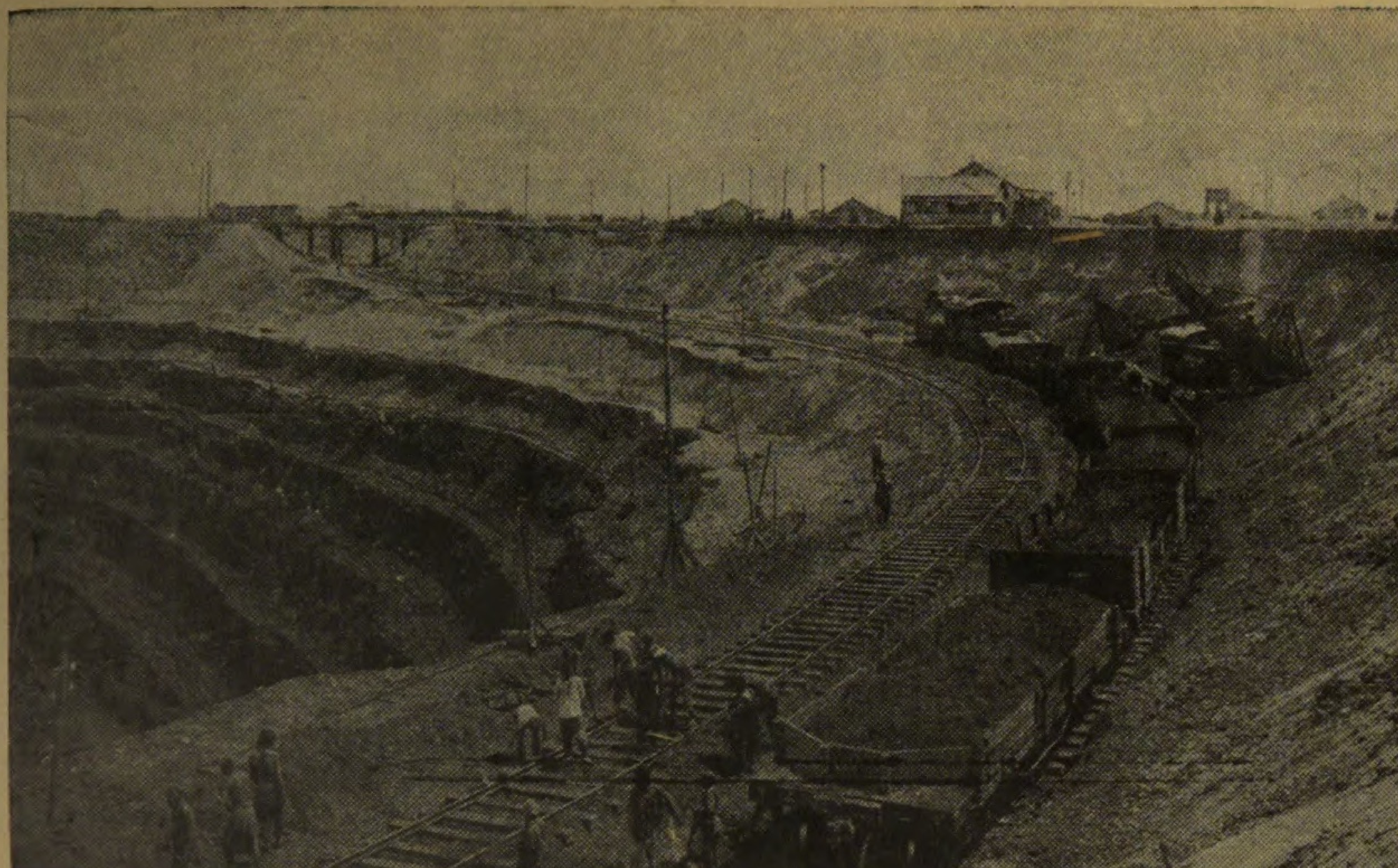
舊と安奉線は此の驛から、本支線は蘇家屯から岐れ、撫順線、安奉線の兩名から撫安と命じた驛の所在地で十字に交叉した一見奇異の三角線路狀態であつたが、當然に改良されて現在の如くなり、撫安驛も過去の繪卷のものとされたのである。



スチームショベル



東郷坑



撫順露天掘

⊠楡樹臺 (Yu-shu-tai)

	粁	哩		粁	哩
渾河	四・一	二・五	奉天	一二・七	七・九
孤家子	五・八	三・九	撫順	四三・五	二五・四

●公衆電報取扱驛

⊠孤家子 (Ku-chia-tzu)

	粁	哩		粁	哩
楡樹臺	五・八	三・九	奉天	一八・五	一一・八
深井子	一四・八	九・二	撫順	三七・七	二一・五

渾河右岸の大邑であつて、奉天南大門から十支里の道程である。奉天より撫順に往復する地方客は、此の驛に乘降するものが多い。

◎深井子 (Shen-ching-tzu)

孤家子	一四・八粁	九・二哩	奉天	三三・三粁	二一・〇哩
李石寨	七・二	四・五	撫順	二三・九	一三・三

東陵に約十支里であつて、最短距離の下車驛であるが、車馬の便がない。

◎李石寨 (Li-shih-chai)

深井子	七・二粁	四・五哩	奉天	四〇・五粁	二五・五哩
撫順	一五・七	七・八			

◎撫順 (Fu-shun)

李石寨	一五・七粁	七・八哩	大連	四三五・六粁	二六八・九哩
奉天	五六・二	三三・三	長春	三六一・〇	二三二・八

【官公會社】警務支署、郵便局、炭坑事務所、正隆、滿洲商業銀行支店、興業會社、





●公衆電報取扱驛　●携帯品一時預驛　●赤帽　●構内食堂

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	一八、六四一	二六、三八三	一七一、七〇四	四七、六九一
大正十年	二三〇、二四四	一九八、九五七	三、三七一、三三一	一一三、六四九
大正十一年	二三〇、三四六	二〇八、五五七	四、八〇七、四八五	九三、三二六

【視察箇所】露天掘、東郷或は大山坑、モンド瓦斯工場、舊市街、電車にて各炭坑一巡。

【電車】驛より各炭坑に至る間電車あり。運炭の外一般乘客を取扱つてゐる。賃金一區特等十錢、並等五錢。

【旅館】炭坑ホテル最も完備し（米式一〇・〇〇圓以上）、外に筑紫館、撫順館あり。（宿泊料三・〇〇―一〇・〇〇圓）

【官公會社】警務支署、郵便局、炭坑事務所、正隆、滿洲商業銀行支店、興業會社、

製鍊會社、窯業會社、信託會社、滿洲產業會社、滿洲刷子工業、福昌公司鹽酸加里工場、大陸窯業、知縣衙門、農、商、工務會、稅捐局、郵政、電報局等。

【學校社寺】幼稚園、小學校、公學堂、高等女學校、中學校、實業補習學校、圖書館、東西兩本願寺、天理教、高野山、曹洞宗、日蓮宗、淨土宗、黑住教、金光教各布教所、東洋宣教會、基督教會。

概觀 元千金寨と稱して、日露戰役當時迄は戶數五、六戶の小部落に過ぎなかつたのであるが、石炭の採掘と共に市街は長足の進步發展を遂げ、附屬地現在戶數六千餘戶、人口四萬七千二百を數へ、內一萬四千人の同胞を數へるに至つたのである。最近露天掘の擴張とともに從來の市街全部は永安臺一圓に移す必要を生じ、著々其土木工事進涉中であつて、舊來の停車場も永安橋附近に移轉し、面目を新たにした文化市街は茲兩三年ならざるに必然生るべき運命のものである。

◆撫順炭坑　奉天城を距る東北十三里の地に在る。長白山の支脈渾河の左岸

に溢み、撫順城と相對して一帶の丘阜を成してゐる處に炭田は發育してゐる。全礦區渾河に沿ふて東西に走ること四里、河身に向つて平均三十度の傾斜を爲し副員約一里、面積一、八二〇萬坪に及び、炭層厚き處は四二〇尺、平均一三〇尺、埋藏量十億噸と注されてゐる。今を距る凡六百年前既に高麗人に依つて採掘され陶器製造の燃料とされたと推されてゐる。清朝乾隆年間炭坑の所在が清祖歴代の陵墓に近く、風水に害があるとされて採掘を嚴禁されたが、光緒二十七年(明治三十四年)五月、政府の允許を受けて採掘の許可を受け、後二三の變遷があつて光緒三十年一月　露西亞は無斷に鐵道を敷き、兵力を以て炭坑を占領して採掘してゐたのである。—現況—政府から繼承を受けた滿鐵はその規模を擴大し千金寨、楊柏堡、老虎臺の外に大山、東鄕兩坑を開鑿し、次いで四圍の事情上更に萬達屋斜坑の開鑿、古城子露天掘、注砂充塡法の實施、**モンド**瓦斯發電所の建設、運炭線、砂線の電化、龍鳳斜坑、新屯斜坑と開鑿、千金寨露天掘著

手等を行つて一日九千噸、年三百二十萬噸内外の出炭增加を行つたのである。

然るに一方支那住民の燃料が漸次高粱殼から石炭に移り、各種の工業は勃興し、新たに鞍山製鐵所の開設等の事があり、一時は多量の石炭を輸入する狀況となつたのに鑑みて、龍鳳坑に大竪坑を開き、尙古城子以東の炭層全部を開掘する所謂大露天掘の計劃を企て、之等全部の完成を告ぐる曉には年八百萬噸の出炭能力となるべく、又一方に於て、炭層上層部を爲す多量の油頁岩を乾溜して素油を採取し我が國の油田に一新生面を開かんと計畫しつゝあるのである。—運炭設備—重要運搬坑道には「**エンドレスロープ**」運炭機を設置し、坑内各所の斜坑には電氣捲上機を備へて揚炭し、更に斜坑或は竪坑捲上機に依つて坑外に搬出する。—選炭設備—運炭車を廻旋し「**チプラー**」に受け入れ、之れより落下する石炭は篩目を附した「**マーカス、スクリーン**」にて塊、小塊、粉、切込の四種に篩分け、更に手選を加へて床下の鐵道貨車に積載する。—注砂設備—各

炭坑に於ける設備は楊柏堡川畔其他にて「**エキスカベーター**」及「**スチームショベル**」にて採取した土砂を電車にて各注砂場に運搬し、注砂喞筒によつて鐵管內に注入して所要の場所に送砂充塡する。現今一日の使用砂量約九千立方米である。—通氣設備—「**ウオーカー**」型其他機械通氣法による。—排水設備—坑內喞筒室に水溜を設け、電氣喞筒に依り搬出せしむ。—燈火設備—坑內主要坑道及事務室は電燈であるが、他は總て安全燈を用ひ、露天掘には多數の投光燈を用ひてゐる。—動力設備—動力は總て蒸氣又は電力に據り發電所には第一、第二があつて、壹萬九千**キロワツト**の發電能力を有し、第一は石炭を直接燃料とするものにて、第二は**モンド**式及**リム**式瓦斯發生爐竝副產物採取裝置を備へ石炭を氣化し之を清淨して汽罐の燃料に供して電力を得、又瓦斯中の含有窒素分を採取して硫酸**アンモニア**（製造能力一日三十噸）と**タール**を副生してゐる。電力は主として鑛業、電氣、鐵道竝市街一般の動力及電燈用に供給する。尙目

下微粉炭燃焼式による第三發電所（發電能力壹萬二千五百**キロワット**）の建設中である。―硫酸工場―瓦斯發電所に於ける硫安製造用其他各地に供給の硫酸を製出する爲、**バンケー**式及**マイヤー**式鉛室各二組を備へ、鉛室硫酸一日百噸の製造能力を有してゐる。原料は硫化鐵鑛及閃亞鉛鑛を用ひ外に硫酸煮詰爐があつて強硫酸を製造する。―骸炭工場―副生物採取式骸炭爐三十基（骸炭製造能力一日約百噸）、附屬洗炭場（洗炭能力一時間三十噸）を有し、亦**タール**蒸餾釜（一日**タール**六十噸を處理し得）を備へ、**ベンゾール**（**ガソリン**機關用）**ナフタリン**（防蟲用）**クレオンソート**油（木材防腐用）**ピッチ**（煉炭製造用）等を製出してゐる。尚同工場裝置の一部を改造し石炭低溫乾餾を試驗中である。―撫順炭の特徴と販路―撫順炭は若き瀝靑炭であつて揮發油分に富み火著良く焰長く窒素分多く、硫黃分と灰分の僅少である事を特徴とし、其の用途も廣いのである。會社は滿鮮に於ては會社の興業部販賣課出張所又は販賣所を以て、

北滿一帶は鈴木商店の手を經て、內地臺灣は撫順炭販賣會社により、支那各地は三井物產其他二、三の手を通じて之れを販賣してゐるのである。

會社の鑛業事業　會社沿線に散在する有用鑛物の主なるものは、金屬のそれに鐵、金、銅及鉛等があり、非金屬のそれに石炭、菱苦土、白雲石、石灰石、硅石及粘土等があるが、就中鐵、石炭、菱苦土及粘土の鑛量は頗る多く、孰れも南滿鑛產物の大宗となるものである。

「其社ハ鐵道ノ便益ノ爲メ左ノ附帶事業云々」と這うして與へられた附帶事業の第一項には卽撫順及煙臺の炭坑採掘を指示してあるが、此の兩炭坑以外にも、他に經營を委任しある非金屬鑛山二三と、炸子坑、石碑嶺、陶家屯炭田等亦會社の所有する處であるが、此等よりする會社の鑛業收入は、會社の主體である鐵道事業に次ぐ收入であつて、前者は會社總收入の五一・七に當り、後者は三一・三の比率を示し、大正十一年度に於て五千三百餘萬圓を計上し、始業年度

の二倍六分弱の進展率となつてゐるのである。

◆撫順城　永安橋を渡れば、渾河右岸に舊城市がある。城は明代の築造にかかる小規模のものであつて、南北二門を開き、曾ては旗民の居を占むるもの多かつた處でかる。城北を繞る山は淸人の所謂龍脈であつて、東の方薩爾滸山に連互し、明淸の戰役も、亦日露の役にも屈竟の天嶮として攻防陣地の敷かれた處、今尙殘壘がある。

【勝蹟】城北門外丘頂に白塔がある。高數十尺内に觀音像を安置し、明代の建築と曰はれ古色愛すべく、その一角は曾て我砲彈を受け、永安橋と共に我が戰捷の記念物である。

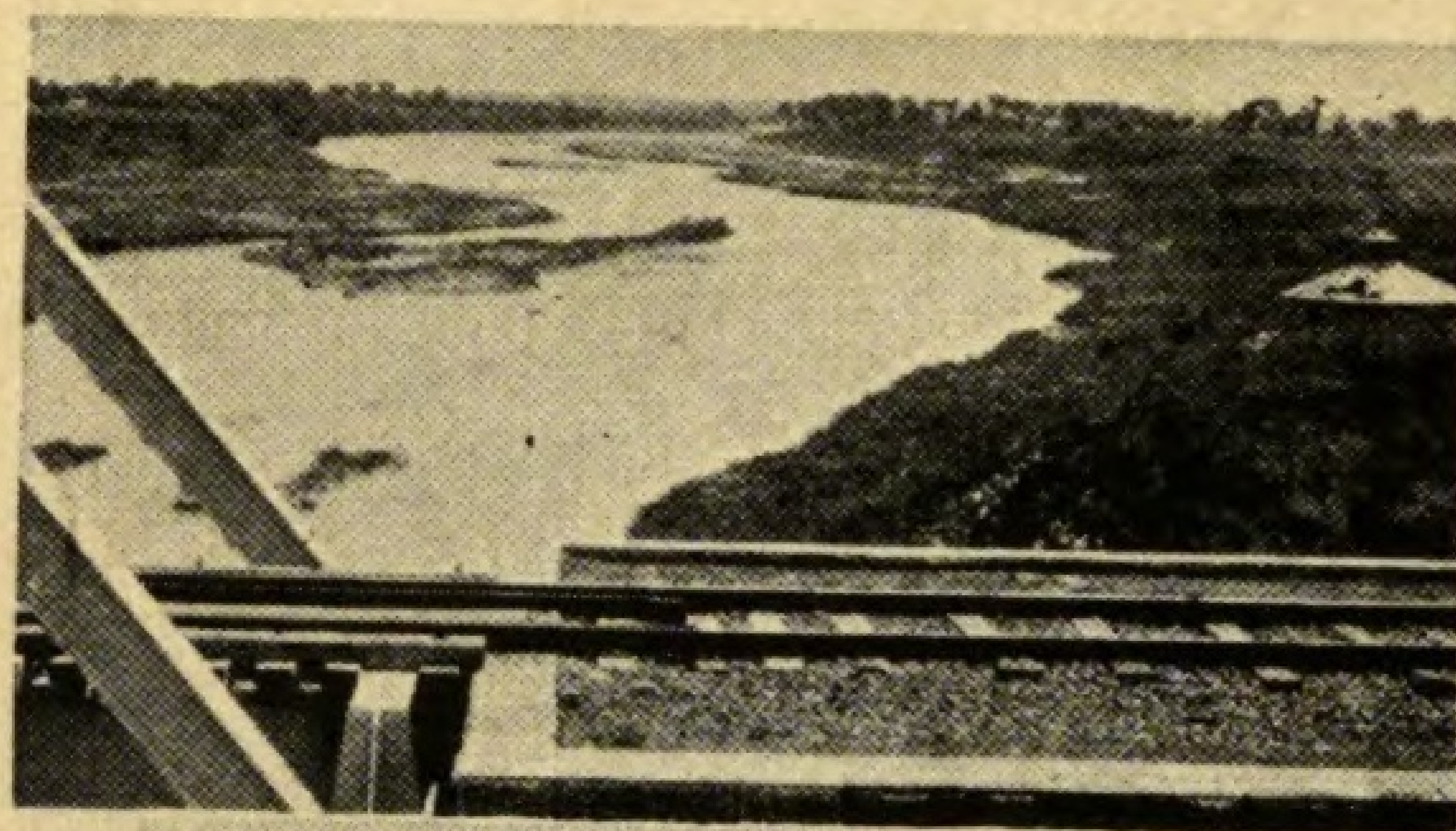
安奉線

安東を起點とし、本線蘇家屯を經て奉天と結ぶものは卽安奉線である。全長百八十八哩、本線が坦々たる平原を行き、懸崖千仭の奇なく、轍に連れて山は山を生み、河より河を縫うて走る變化なきに反して、此の線は分水の峯巒に分け入り、彼れと乾坤を異にするもの丶如く、紆餘曲折時に蜿蜒山雲に沒し、時に轣轆懸崖に降り、溪流は時に旅情を豊かに惠み、車窓迎接の風物自ら故國を偲ばしむる處のものがある。

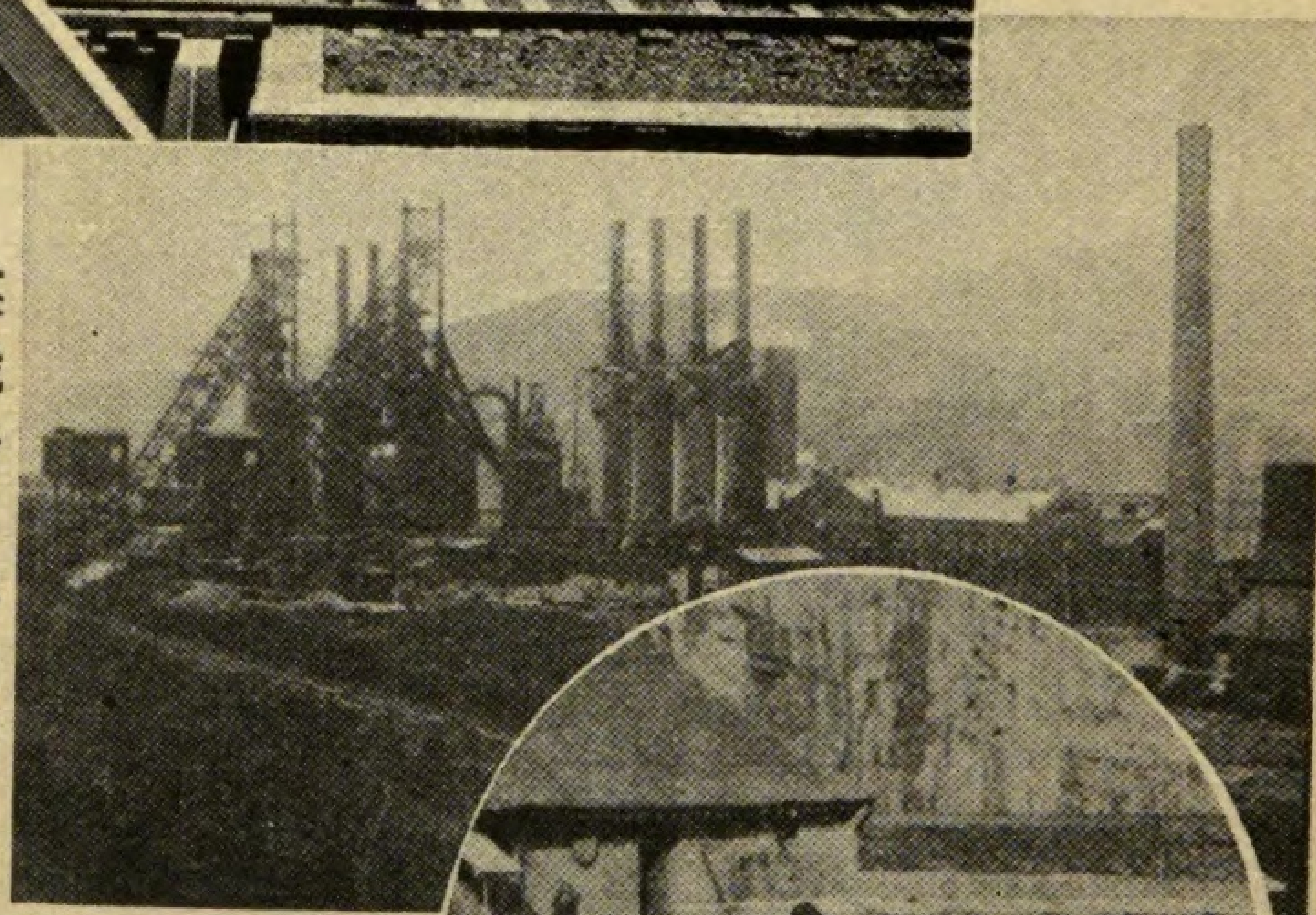
安東奉天間急行一回、直通二回の列車を運行し、前者は六時間、後者は八時間乃至九時間を要し、他は區間列車である。

日露戰爭時代に第一期工事として安東より下馬塘間七十二哩を急設し、第二期工事は遼陽を目標としたのであつたが、戰線の推移から撫順を結ぶ事となり、更に三轉して本線渾河（後に現在の蘇家屯に變更）へと連絡するものとなり、明治三十八年十二月漸く全線敷設を終へて安東奉天間に最初の列車を運行するに至つたのである。

明治四十二年八月、滿蒙の開發上の重要條件として支那當局の了解を得、廣軌改築工事に著手し、翌々四十四年十月にその工を終へ、國境を緊締する鴨綠江の閘門式鐵橋も竣成を告げて、玆に滿鮮を一貫する東亞交通の機關として中外に誇り得る施設を整へたのである。左は卽本交通機關の改築に從うて顯はれた一部統計數字である。其處には土地の進展から增加を來たした幾分も含まれてゐる事は勿論であるが、又以て運輸機關整備の寄與の大なることを語ると云ふも不可はないであらう。



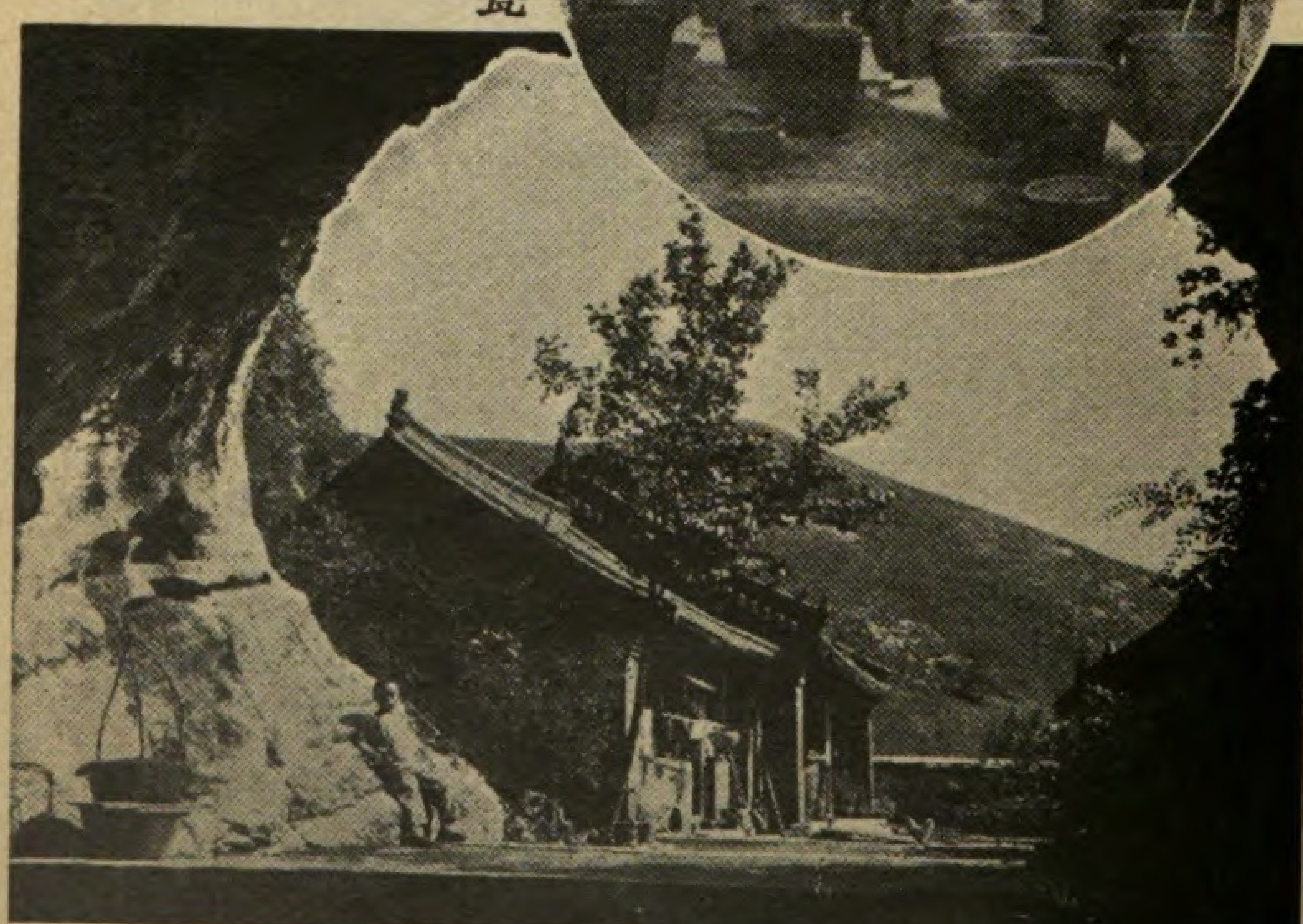
沙河戰蹟



煤鐵公司熔鑛爐



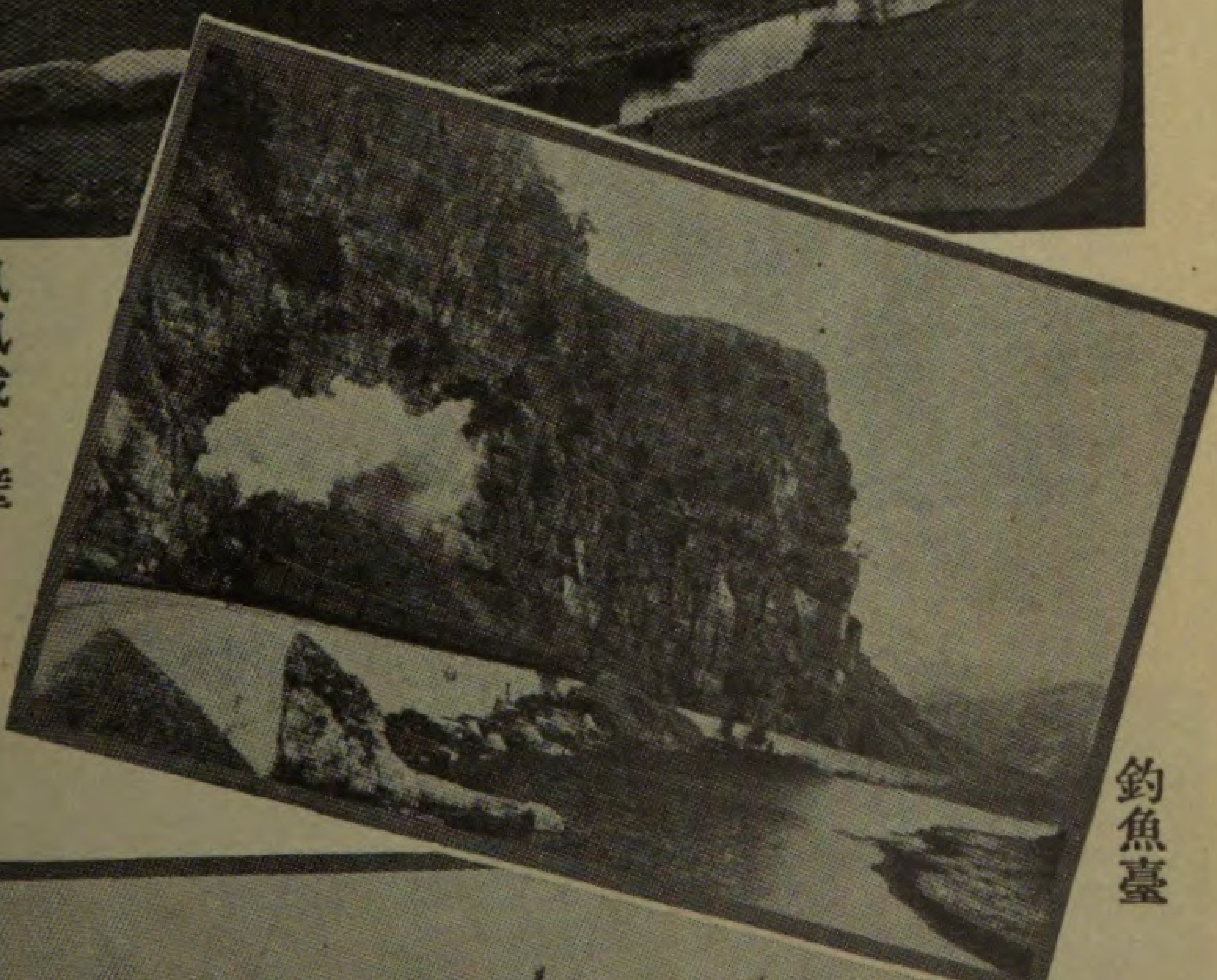
水甕



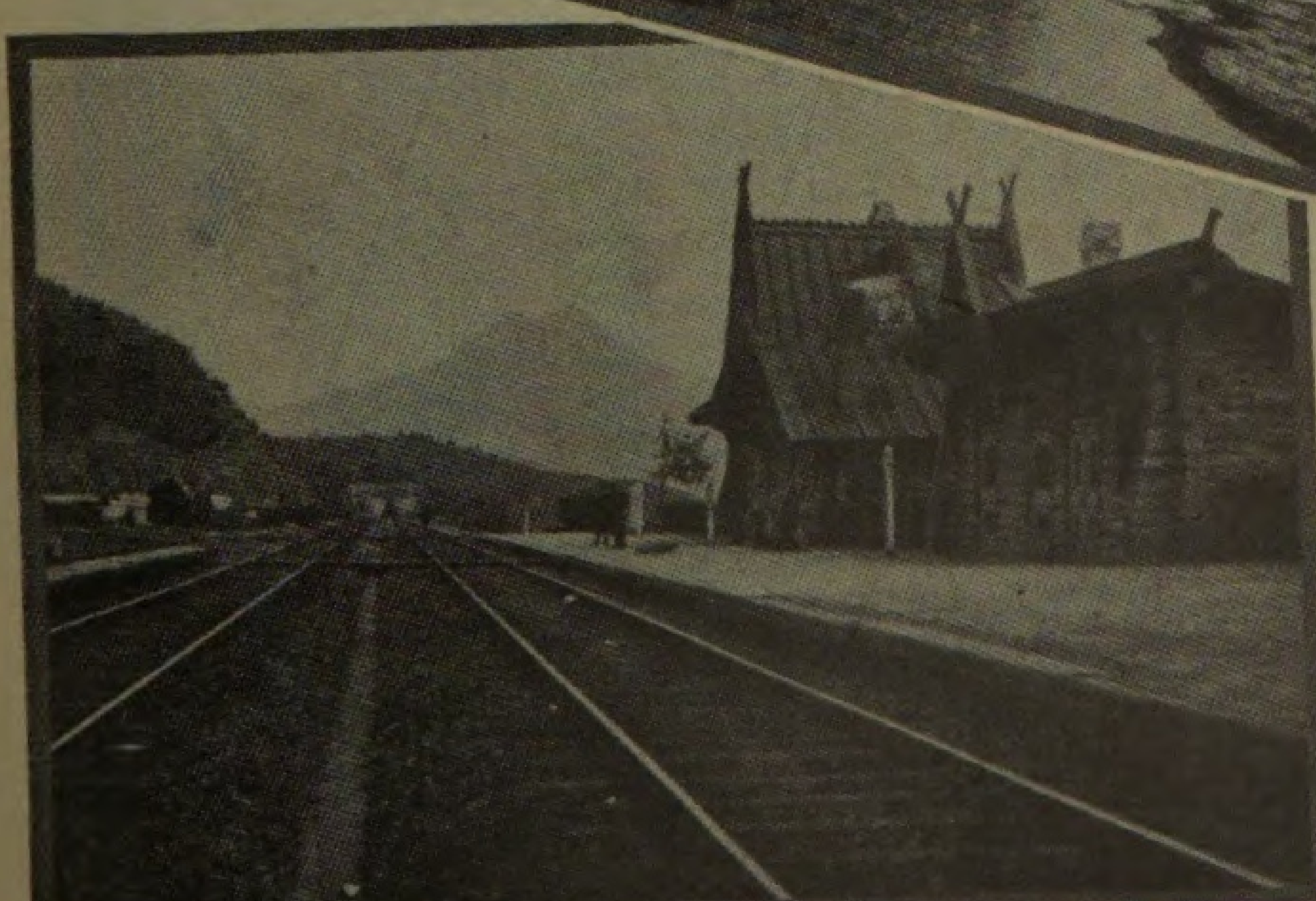
本溪湖龍洞



鳳凰城々壁



釣魚臺



秋木莊驛



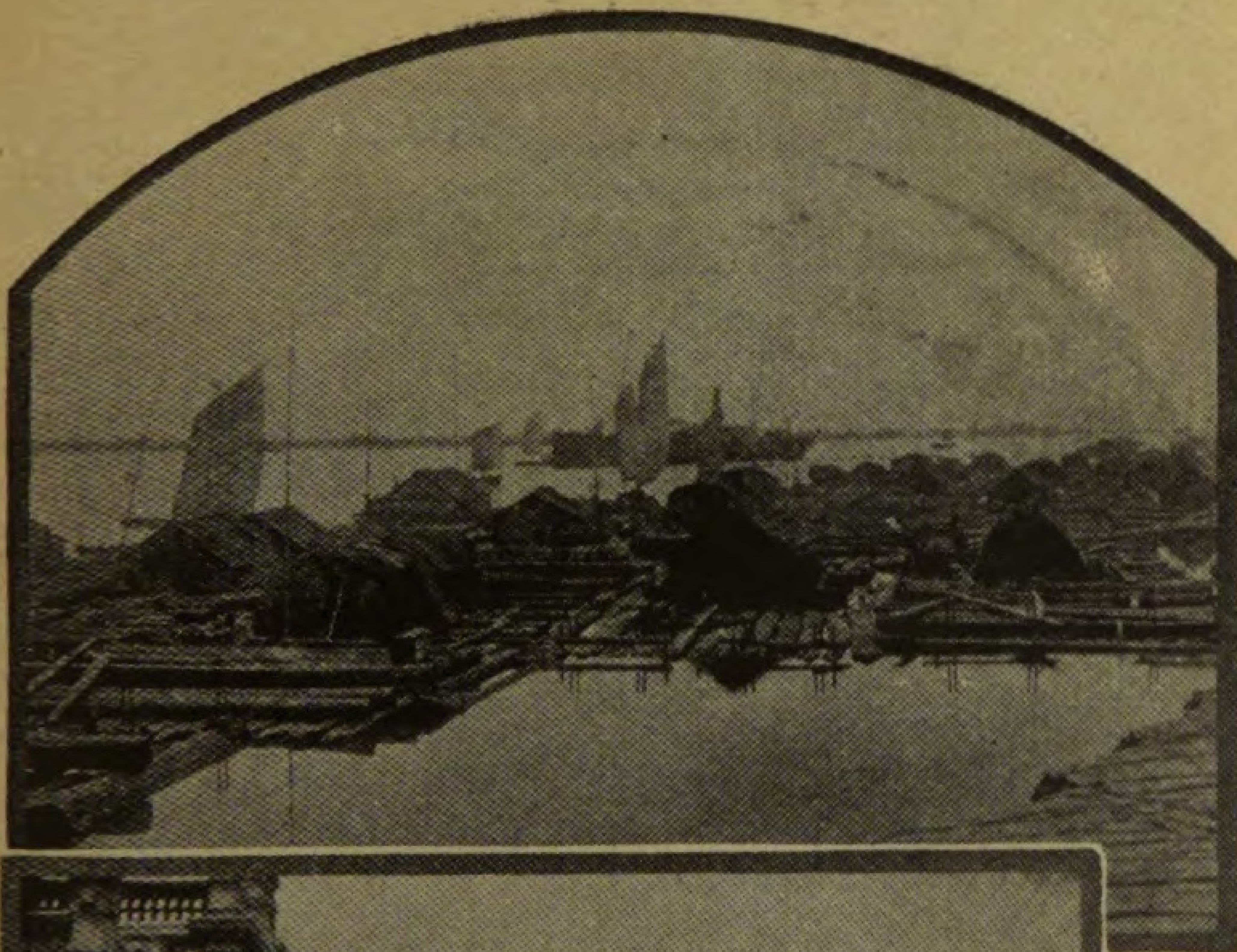
五龍山遠望



五龍背温泉旅館



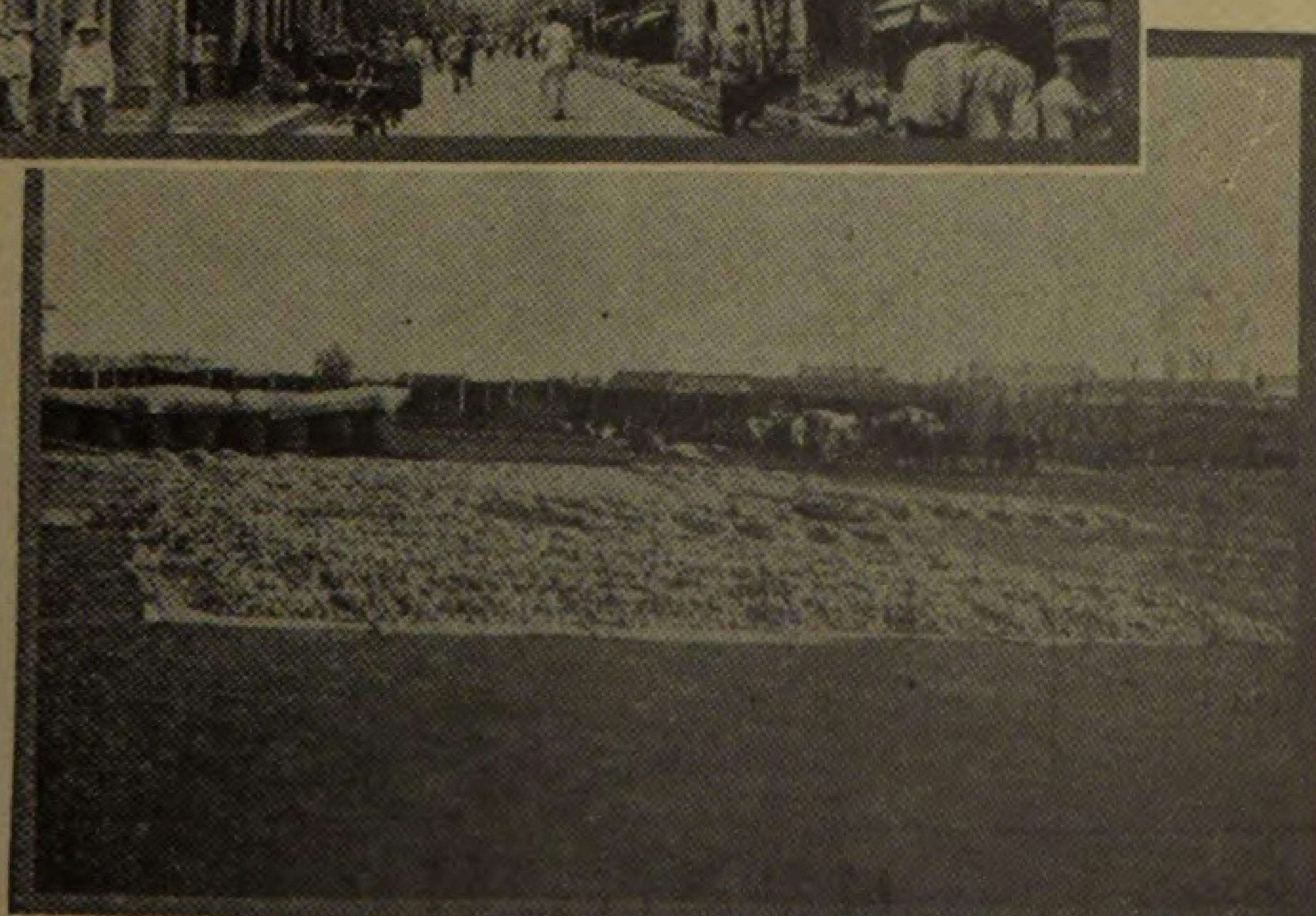
蛤蟆塘附近水田



鴨綠江の筏



安東新市街



柞蠶繭

年度	乘降客總數			發著貨物總噸數		
	安東	鳳凰城	本溪湖	安東	鳳凰城	本溪湖
明治四十一年（輕鐵時代）	九、九二八	三二、〇七三	一四、六五〇	一一、三三四	一三、七三〇	六四、四八二
明治四十四年（廣軌竣成後）	八六、八九九	九三、〇八七	九二、九七八	一〇三、九一三	二〇、〇二六	二七九、九三一
大正元年	一四四、六三一	一〇一、三一七	一一八、二八五	一七四、四二〇	二〇、三一三	二四二、二八七

當今此の安奉線は本溪湖の鐵と石炭を別として山地である爲めに一般に木材、薪炭と柞蠶の生産に富んでゐるが、國境隣接地方は鮮人の移住を受けて水田の發達を見水稻の産出も侮り難く、殊に柞蠶に至つては各驛共に托送を見て、生産地として益々將來を矚目さるゝ處のものである。

◎吳家屯 (Wu-chia-tun)

	粁	哩		粁	哩
蘇家屯	九·〇	五·七	奉天	二四·六	一五·四
陳相屯	八·七	五·三	安東	二五一·二	一五六·〇

◎陳相屯 (Chen-hsiang-tun)

	粁	哩		粁	哩
吳家屯	八·七	五·三	奉天	三三·三	二〇·七
姚千戸屯	一二·〇	七·五	安東	二四二·五	一五〇·七

●公衆電報取扱驛

沙河の左岸にある村邑で、河を隔てゝ對岸丘上に聳ゆる古塔は安寧寺の佛塔である。奉集縣時代の遺影であつて、丘陵を塔山とも云ひ沙河對戰の當時相對する北方の小丘荒山と共に露軍の防禦陣地とされ、此の二山と鼎足の勢を示す西方の小丘萬寶山は日露交戰の激戰地として丘上には旌忠碑が建てられてある。

姚千戸屯 (Yao-chien-hu-tun)

陳相屯	一三・〇粁	七・五哩	奉天	四五・三粁	二八・二哩
石橋子	一三・一	八・二	安東	二三〇・五	一四三・二

西に狄々山を背にし北に沙河の清濤に臨み河水を隔てゝ唐家屯石山に對してゐる。唐家屯石山山腹の旌忠碑は、露國第一軍の左翼陣地となつた天嶮で、驛の南方の歪頭山と共に當時の激戰を語るものである。

石橋子 (Shih-chiao-tzu)

姚千戸屯	一三・一粁	八・二哩	奉天	五八・四粁	三六・四哩
火連寨	一三・四	八・三	安東	二一七・四	一三五・〇

●公衆電報取扱驛

沙河の作る平野の蹙つて峽谷とならんとする其の谷口に當る。日露戰史上著

名の王墳は驛の東方響山子にあつて、老松墓陵を圍み、後山には柞樹、榛樹茂生して三陵に供饌の榛子を産し、照山は蜿蜒として土門子嶺に連るもの、そして王墳は淸の太祖の帝業を興した際に軍功拔群であつた杜度貝勒の寢園である。驛を出て最初の、安東よりすれば最後の隧道となる大嶺の東口には山縣公、西口には井上侯題字を刻む。東口には叉娘々廟の堂廟があつて沙河大會戰の際梅澤少將の支隊が、堂廟の僧敵に內應したゝめ苦戰に陷入つた思ひ出のものである。

◈火連寨 (Huo-lien-chai)

	粁	哩		粁	哩
石橋子	一三・四	八・三	奉天	七一・八	四四・七
本溪湖	五・八	三・六	安東	二〇四・〇	一二六・七

●公衆電報取扱驛

遼陽街道の大邑で村內瓦房多く、商舖は磚壁を繞らして往時殷賑であつた都

市の殘影を留めて居る。邑民の多くは回教徒で、風俗自ら沿線村落のものと異にしてゐる。附近良質の石灰を産し、本線鞍山所在の日支合辦振興公司が其の採掘に從事し、鞍山製鐵所に供給してゐる。

◇本溪湖 (Pen-hsi-hu)

火連寨	五・八粁	三・六哩	奉天	七七・六粁	四八・三哩
福金	五・四	三・三	安東	一九八・二	一二三・一

●公衆電報取扱驛　●赤帽　●兩替店　●携帶品一時預驛

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	七、三〇九	七、三二八	六、七〇一	二、六八〇
大正十年	一〇一、五二四	九四、一六二	三七二、八二〇	八四、〇五一
大正十一年	一〇七、三九〇	一〇三、〇四三	四三五、九二二	三八、九〇三



【旅館】 三吉館（驛前、宿泊料四・〇〇―八・〇〇圓） 福住館（驛より五町、宿泊料二・〇〇―五・〇〇圓）

【官公會社】 警務支署、郵便局、溪城鐵路公所、本溪湖杭木會社、本溪湖石灰會社、滿洲石灰商事、本溪湖運輸倉庫、奉天信託支店、奉天銀行支店、滿洲商業銀行支店、煤鐵公司電燈、煤採合公司、煤礦裕信公司、幼稚園、小學校、實業補習學校、家政女學校、圖書館、滿鐵醫院、東西兩本願寺、知事衙門、審檢廳、稅捐局、警察事務所、商務會、教育會、勸業所等。

本溪湖は一名を窰街とも稱し、昔から著名の紅窰産地である。外觀は常滑燒に似て其の質硬く水缸其他の土器を製作し、地人に賞用されてゐる。窰街の名は雍正以前からあつたもので、往時は煤鐵の産地であつたものゝ如く、今に民家の牆垣に鐵冶の坩堝を其の儘山と積み上げた處もある。同時に又多量の石灰を産出してゐる。

市街は火連寨河の太子河に注ぐ交會點から支流に沿うて龍洞に至る間を占

め、支流右岸は煤鐵公司從事員乃至は紅窰業者多く、左岸は自然商業區を形成してゐる。

◆煤鐵公司　本溪湖は撫順、煙臺と共に古來から炭坑所在地として知られ、清の乾隆年間には龍票(特許狀)を發して旺んに採炭し、滿韓人士の間に主要財產として尊ばれた水甕の製作に使用したものである。そればかりでなく附近散在の鐵鑛を採掘して、前記乾隆乃至同治年間には鐵器の供給を行つてゐたが、其後外國品の移輸入に連れて衰頽し、光緒年代に至つて全く廢滅に歸したのである。

大倉組が此處に著目して炭坑開掘を始めたのは明治三十九年であつて、四十三年廟兒溝の鐵鑛を開き、次いで四十四年製鐵事業を企圖して、時の奉天總督錫良氏と交涉し、此處に資本七百萬元の日支合辦本溪湖煤鐵公司の設立となつたのである。

炭田は本溪湖市街の東北端から鐵道線路を橫斷して南西に走り面積一、三六四萬坪を有し、炭質は半無煙炭であつて製鐵用コークスの製造には最適のものであるばかりか、埋藏量も二億噸と稱せられ、炭層は三尺から九尺に及び、大正十一年の統計では一日八百噸前後を出炭してゐる。

鐵鑛は南坟驛の東北五哩の廟兒溝鐵山より採掘するのであるが、其の含鐵量は富鑛七〇%に及び、鑛區一五〇萬坪、鑛質磁鐵鑛、鑛量約八千萬噸と稱せられてゐる。

製鐵施設は百三十噸爐二基、他に一時應急策として好況時代に二十噸爐二基を加へ、大正五年約五萬噸、大正九年約八萬二千噸を製銑し、不況時代は之れを中止してゐたが、最近再び火入れを行つてゐる。

▲牛心臺炭坑　日支合辦彩合公司の經營に係り一年約五萬噸を出炭し坑區二十五萬五千餘坪、炭質は無煙粉炭である。附近には約十三萬坪の礦區を有する日

支合辦華興煤礦公司及下牛心臺炭坑がある。

▲溪堿鐵道　本溪湖と堿廠間百八十支里の中、牛心臺迄九哩、炭坑支線五哩に對して開業の日支合辦鐵路である。軌幅二呎六吋の輕便鐵道であつて、坑木と石炭輸送を主とし、旅客は殆ど勞働者である。

【勝蹟】　四圍の山腹には奇洞多く、觀音寺の龍洞も亦其の一つである。白龍嘗て洞中に棲むでゐたと云ふ傳說と、洞中の一宇胡仙廟に就て「今は昔寺僧夢に老狐を見る。曰く我が爲に一宇の廟を營まば此の地長へに榮えんと、依つて之れに從ひしに果して殷賑の市街となり、其の奇瑞を感じて洞上に本溪湖の三大字を刻むで不滅の扁額とした」といふ傳說がある。相對する丘上には又深さ約一町の鐘乳洞がある。龍王廟は古き由緒を有つて、太子河々畔に立ち、寺僧は嘗て沙河大戰の際に我が守備軍の爲めに便宜を圖つたと云はれてゐる。山形に因んだ兜山、桂山は東北二面を屏繞する山脈の二頂を假稱するものであつて、沙河對

陣の戰蹟目標であつたもの。顯王墳は、肇國の際太祖高帝を翼けて軍功があつた顯親王の陵で、遼陽郊外東京陵から遷されたもの、風水最もよく、附近は閑院宮殿下轉戰地であつて、「宮の原」と稱し當時の殿下の武勇を千古に傳へる處のものである。

◎福 金 (Fu-chin)

本溪湖	五・四粁	三・三哩	奉天	八三・〇粁	五一・九哩
橋頭	一〇・三	六・四	安東	一八二・五	一一九・八

●公衆電報取扱驛

◆福金嶺隧道　安奉線中第一の隧道であつて全長四千八百八十尺に及ぶ。舊輕便鐵道時代は嶺上を紆餘曲折したものであつて、今尚當時を語る殘堤がある。



釣魚臺

橋頭細河



◇橋　頭 (Chiao-tou)

	粁	哩		粁	哩
福金	一〇・三	六・四	奉天	九三・三	五八・〇
南坟	一四・九	九・三	安東	一八二・五	一一三・四

●公衆電報取扱驛 ●携帶品一時預驛 ●洗面所 ●辨當驛

【旅館】 富田屋（驛前、宿泊料二・〇〇―五・〇〇圓）鎭西館（同上）

【官公會社】 郵便局、幼稚園、小學校、實業補習學校等。

一名を細河沿と云ひ、附近村落を併稱して白雲寨とも云ふてゐる。山峡中の形勝地を占め、驛南の小丘に登れば老松奇岩に據り、細河の清水は天涯より銀帶を展べ、福金の支脈壁立して斷崖を作り、重々の遠山には白雲去來し、白雲寨の稱呼も理りと頷き得るのである。

橋頭附近は鐵道開通前迄は峯巒中の寒村として馬賊の巣窟であつたと稱され、廣軌改築當時は、それに關係の商賈多く入り組んで繁盛を極めたものであ

るが今は再び以前の如き眠れる村に立ち戻つてゐる。

◆釣魚臺　橋頭から分水嶺に至る間、鐵道線路は細河の峽谷を縫ふて走る。延長二十一哩、或は卽き、或は離れて、仰げば千仭の懸崖岌乎として立ち、翠松紅蘿其の岩角を點彩し、俯せば泉流奇岩に踊り、素練となり碧紋となり、深潭となる。釣魚臺は細河の屈曲する水涯に一塊の巨岩立ち、岩上に普濟寺を構へたものを稱し、宛然蜃樓の如く峽中の幽媚優景の間に孤立し、廟に上れば碧潭脚下を繞つて双眸に納り、懸崖屏立して心膽に迫るの境、自ら耶馬溪を思ひ、木曾の寐覺を思はせるものがある。

峽中の金坑村は往時溪中に砂金を産して此の名を發生したと傳へられ、赤間硯に似た良硯を産出して居る。

◇南坟 (Nan-fen)

橋頭	一四・九粁	九・三哩	奉天	一〇八・二粁	六七・三
下馬塘	一〇・二	六・四	安東	一六七・六	一〇四・一

●公衆電報取扱驛

驛以南細河西岸山中には柞樹密生し、枕木用とする外水車にかけて粉末にし線香材料ともする。溪流の屈曲してゐる地點乃至は急湍の處々に見ゆる水車小屋はそれであつて「タービン」式機械を据えてゐる。そして此の原料柞樹は十五六年を經たものが最も適當し、數十年の老木は不適である。

◆廟兒溝鐵鑛　驛から南東五哩の地點に廟兒溝鐵鑛がある。坑口から山麓迄約一哩の間は「エンドレスロープ」により、山麓からは輕鐵でもつて驛に搬出し、本溪湖煤鐵公司に供給してゐる。

◎下馬塘 (Hsia-ma-tang)

	粁	哩		粁	哩
南坟	一〇・二	六・四	奉天	一一八・四	七三・七
連山關	八・八	五・四	安東	一五七・四	九七・七

●公衆電報取扱驛

◆摩天嶺　驛西方に摩天嶺の嶮がある。五頂相竝んで筍立するので墨客は五峯嶺とも名づけてゐるが、日清日露兩役の戰蹟地として記憶に上る處である。

◎連山關 (Lien-shan-kuan)

	粁	哩		粁	哩
下馬塘	八・八	五・四	奉天	一三一・二	七九・一
祁家堡	九・二	五・七	安東	一四八・六	九二・三

●公衆電報取扱驛

【旅館】連山關（驛前、宿泊料二・〇〇—五・〇〇圓）

【官公會社】郵便局、小學校、實業補習學校等。

朝鮮街道の古關であつて、淸朝時代には驛站を置き佐嶺を站長として站丁驛馬を備へたものゝ遺影である　當時朝鮮街道の驛站とは大安平、浪子山、甜水站、連山關、通遠堡、雪裡站、鳳凰城、湯山城の八を數へ、此處は其の中央に當る山間の僻地である。

祁家堡 (Chi-chia-pu)

	粁	哩		粁	哩
連山關	九・二	五・七	奉天	一三六・四	八四・八
草河口	一〇・七	六・七	安東	一三九・四	八六・六

●公衆電報取扱驛

海拔千二百六十餘呎、安奉線第一の高處となり、分水界を爲してゐる。

◆分水嶺　延長約二千呎の隧道を通ずる分水嶺は、たゞに細河と草河の分水界となるばかりでなく、又鳳城縣と本溪縣の行政區界となるばかりでなく、沿線農民の副業をも自然の環境に順じて分割してゐる。細河沿岸が急流を利用し

て線香製造に從事する時に、草河沿岸の村民達は柞樹に山蠶を放養してゐるのである。此の山頂には最近兩役の戰蹟となる殘影堡壘を遺してゐる。

☒草河口 (Tsao-ho-kou)

祁家堡	一〇・七粁	六・七哩	奉天	一四七・一粁	九一・五哩
通遠堡	一二・一	七・五	安東	一二八・七	七九・九

●公衆電報取扱驛

☒通遠堡 (Tung-yuan-pu)

草河口	一二・一粁	七・五哩	奉天	一五九・二粁	九九・〇哩
劉家河	一五・八	九・八	安東	一一六・六	七二・四

●公衆電報取扱驛

【旅館】都屋（驛前、宿泊料二・〇〇―三・〇〇圓）

【官公會社】滿洲木炭會社、商務會、稅捐分局等。

朝鮮街道驛站の一であつて、明代城壁を設けて戍兵を常駐させたが、今はその遺跡もなく、坑木、山繭を産出してゐる。

◇劉家河 (Liu-chia-ho)

	粁	哩		粁	哩
通遠堡	一五・八	九・八	奉天	一七五・〇	一〇八・八
秋木荘	六・五	四・〇	安東	一〇〇・八	六二・六

●公衆電報取扱驛

◇秋木荘 (Chiu-mu-chuang)

	粁	哩		粁	哩
劉家河	六・五	四・〇	奉天	一八一・五	一一二・八
鶏冠山	一四・一	八・八	安東	九四・三	五八・六

驛本屋は他と異つて丸太を組み、連山重疊の中瀟洒として立ち溪流峽谷の山村を下瞰し仙境の趣き横溢の處、附近に楸木の多い事から村名の因となつたと。

線路は此の驛から黒坑嶺の隧道を經て蜿蜒曲折し、輕鐵時代安奉線中の難關であつた事を偲ばせる處である。

◎鷄冠山 (Chi-kuan-shan)

	粁	哩		粁	哩
秋木莊	一四・一	八・八	奉天	一九三・六	一三・六
四臺子	一一・〇	六・八	安東	八〇・二	四九・八

●公衆電報取扱驛 ●携帶品一時預驛 ●洗面所 ●辨當驛

	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	七、三〇九	七、二三八	六、七〇一	二、六八〇
大正十年	一〇一、五二四	九四、一六二	三七二、八二〇	八四、〇五一
大正十一年	一〇七、三九〇	一〇三、〇四二	四三五、九二三	三八、九〇三

【旅館】 鷄冠旅館(驛前、宿泊料二・〇〇—三・〇〇圓)

【官公會社】郵便局、幼稚園、小學校、實業補習學校、地方巡警分局、商務會等。

驛名は南方の山名から起り、その山名は又文字通りの鷄冠に似た山形から起り、輕鐵時代からの新興村落である。附近地勢から次第に擡頭發達し現在八百餘の人口を算し、四百七十餘の同胞を數へる。附近柞蠶、木材、薪炭の産が多い。

◎四臺子 (Ssu-tai-tzu)

	粁	哩		粁	哩
鷄冠山	一一・〇	六・八	奉天	二〇六・六	一二八・四
鳳凰城	九・二	五・八	安東	六九・二	四三・〇

鳳凰城から遼陽に通ずる國道上にあつて、鳳凰城から數へ頭臺子、二臺子、三臺子となり、第四が此處となるのである。

◎鳳凰城 (Feng-huang-cheng)

四臺子	九・二粁 五・八哩	奉天	二一五・七粁 一三四・二哩
高麗門	一四・八 九・一	安東	六〇・〇 三七・二

●公衆電報取扱驛

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	一七、八一〇	一八、一〇八	一〇、五三三	四、六六二
大正十年	八四、〇〇七	八四、八五四	一六、九三三	一二、八五三
大正十一年	九四、八〇一	九七、四六〇	一八、三八三	一七、九九一

【旅館】柳田旅館(驛より二町宿泊料二・〇〇—四・〇〇圓)一力旅館(同上二・〇〇—四・五〇圓)

【官公會社】郵便局、安東商事、東亞煙草南滿黄煙組合及派出所、鳳凰城運送組合、鳳凰城窯業公司、小學校分教場、實業補習學校、東邊鎮守使署、税捐局、郵便電報局、電

話局、保甲局、水利局、商務局、縣公所、陸軍隨營學堂、師範學校、高等女學校、中學校、小學校、高等學校、農業學校、模範學校、貯蓄銀行等。

鳳凰城は安奉線屈指の都邑である。古來から東邊の要地として重視され、安奉線中第一の廣濶盆地を占め、前淸の光緒三年に獨立の行政區劃となつた處である。殷賑の街衢を成すものは城外南門通りである。そして淸朝に築かれたと云ふ城を圍み、南東の二門で堅めらるゝ城内は一部官衙と旗人の邸宅で占められてゐる。光緒の初めまでは商業極めて隆盛であつたが、安東の繁盛に從つて衰微する傾がある。

◆鳳凰山　城の東南二里、堅巖稜々として夏雲の蓊勃とした樣の山は鳳凰山である。山中に一大溪谷を抱いて、朝陽寺、逍遙寺、娘々廟、觀音閣等の古刹を溪谷から山頂へと點在させてゐる。山上には高勾麗時代の城墟があつて、永樂大王百八城の一であらうと言はれてゐる。傳説によると古へ鳳凰此の上に止

まつたが故に此の名の因となつたと。展望廣濶の處、紅葉の名所として、將た又好箇の銷夏仙境として附近から杖を曳くもの頗る多い。

◎高麗門 (Kao-li-men)

		粁	哩		粁	哩
鳳	鳳凰城	一四・八	九・一	奉天	二三〇・六	一四三・三
湯	湯山城	一一・八	七・四	安東	四三・二	二八・一

●公衆電報取扱驛

鳳城、安東兩縣界に當る。其の昔六邊々門の一で淸祖の建國當時、朝鮮方面に備へる爲めに長寨を築いた當時の遺跡邊寨の殘影を猶處々に散見させてゐる。

◇湯山城 (Tang-shan-cheng)

高麗門	二・八粁	七・四哩	奉天	二四二・四粁	一五〇・七哩
五龍背	九・一	五・七	安東	三三・四	二〇・七

●公衆電報取扱驛

一面城、寛甸城、桓都城、長甸城、圓甸城、九連城、娘々城と共に朝鮮國境九城の一として、僅かにその舊蹟を存してゐる。

◇五龍背 (Wu-lung-pei)

湯山城	九・一粁	五・七哩	奉天	二五一・五粁	一五六・四哩
蛤蟆塘	一四・七	九・一	安東	二四・三	一五・〇

●公衆電報取扱驛

【旅館】五龍閣（宿泊料四・〇〇―八・〇〇圓）

◆溫泉　驛東方二町沙河々畔に溫泉が湧く。日清役に我軍之れを發見して征

塵を洗ふ處となり、日露の役に療養所となつた處である。四顧の展望故國にあるを思はしめ、風致頗る典雅、後庭に丘阜を負ひ、前庭に池を擁し、田圃は清流に沿うて左右に展開し、巍々たる五龍山は山形の奇を添へ、遠く重疊の翠巒には伏義山一脈の魁姿をも加へて、仙境自ら深いものがある。

泉質無色透明のアルカリ泉であつて、痔疾、皮膚病、「リウマチス」等の諸病によく、近く都邑安東を控へ、一夕の雅客、數日を養はん長途の過客の好愛する處である。

溫泉旅館五龍閣には日歸り客の爲めの聚樂館（一日一人五十錢）と滯在自炊の爲めの養老館をも兼ねてゐる。

◇蛤蟆塘 (Ha-ma-tang)

	粁	哩		粁	哩
五龍背	一四・七	九・一	奉天	二六六・三	一六五・五
沙河鎭	六・三	三・九	安東	九・六	五・九

◇沙河鎭 (Sha-ho-chen)

	粁	哩		粁	哩
蛤蟆塘	六・三	三・九	奉天	二七二・五	一六九・四
安東	三・三	二・〇	安東	三・三	二・〇

●公衆電報取扱驛 ●赤帽 ●兩替店

◇安東 (An-tung)

	粁	哩		粁	哩
沙河鎭	三・三	二・〇	大連	五四一・二	三九八・四
奉天	二七五・八	一七一・四	長春	五八〇・六	三六一・一

●公衆電報取扱驛 ●携帯品一時預驛 ●洗面所 ●ホーム食堂 ●赤帽
●辨當驛 ●手小荷物市内配達

年度	乘降客數		發著貨物噸數	
	乘車	降車	發送	到著
明治四十年	三、三九五	二、九八五	二、九九三	二、三三〇
大正十年	九一、二九七	七五、八四六	九九、九八五	四八八、四八九
大正十一年	一〇五、七一三	八三、一五六	九〇、二九三	六九三、六二二

【車馬賃】

	自動車	馬車	俥
一時間	円 六・〇〇	円 〇・九〇	円 〇・三〇
半日	一七・〇〇	二・〇〇	一・〇〇
一日	三〇・〇〇	四・〇〇	二・〇〇

俥―驛より新義州まで三〇錢、市場まで八錢、鎭江山下まで一二錢

【旅館】 安東ホテル（驛前、洋式室料三・〇〇―四・〇〇圓、食事料朝一・五〇圓、晝一・八〇圓、夕二・二〇圓、和式宿泊料三・〇〇―六・〇〇圓） 富久壽美（驛より五町、宿泊料二・五〇―六・〇〇圓）元寶館（驛より四町、宿泊料同上）大和館（驛より二町、宿泊料二・五〇―四・五〇圓） 日乃出館（同上） 小林旅館（驛より二町半、宿泊料同上）

【旗亭】 由良之助（市場通） すみれ（六番通） 丸小（同上） 太陽樓（堀割北通） 東雲（驛前） 支那料理鴨江春（舊市街興隆街） 嶺南春（同上）

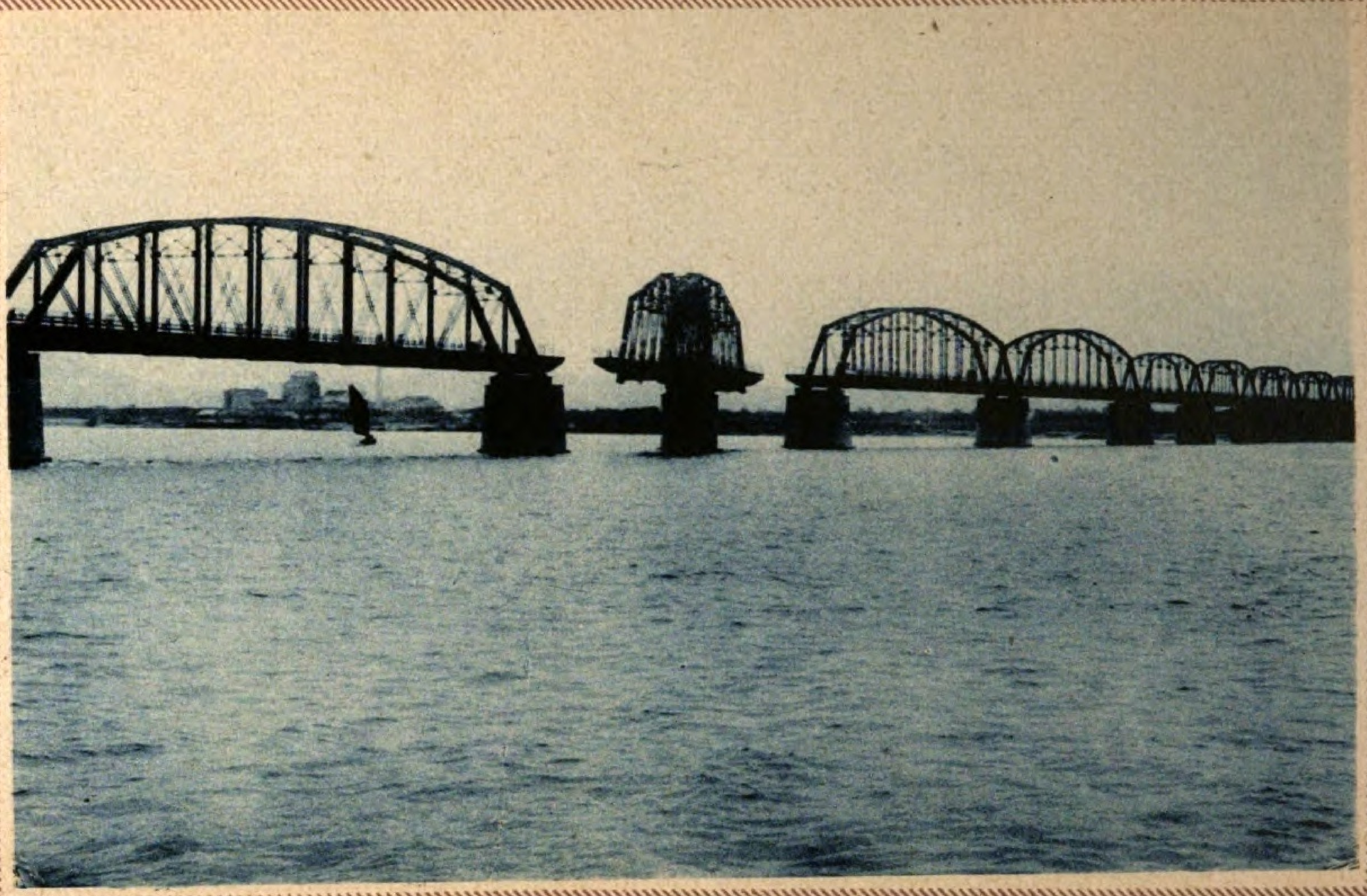
【官公署】 領事館、警察署、郵便局、民會、赤十字支部、商業會議所、商品陳列館、公會堂等、米國領事館、安東縣公署、警察廳、地方審判廳、地方檢査廳、海關監督公所、電報郵便局、電話局等。

【學校社寺】 幼稚園、小學校、實業補習學校、家政女學校、高等女學校、圖書館、中日懇親學堂、安東神社、臨濟寺、安東寺、東西兩本願寺、相音寺、法華寺、日本基督教會等、丹國女學校、安東勸學所、女子商業學校、國民學校、林科高級中學校、女子師範學校、森林學校、商科高級中學校、元寶山女學校、高等國民學校、安東教育會、天后宮、關帝、王宦、財神、城隍、藥王、娘々、火神各廟、清眞寺。

【會社銀行】滿洲商業銀行、安東實業銀行、協成銀行、鮮銀、龍口、鞍山各銀行支店、鴨綠江採木公司、安東興業、滿洲商工、滿洲鑛山、鴨綠江製紙、東亞木材興業、東拓出張所、東亞煙草出張所、大連汽船出張所、石崎商店、安東株式商品取引所。

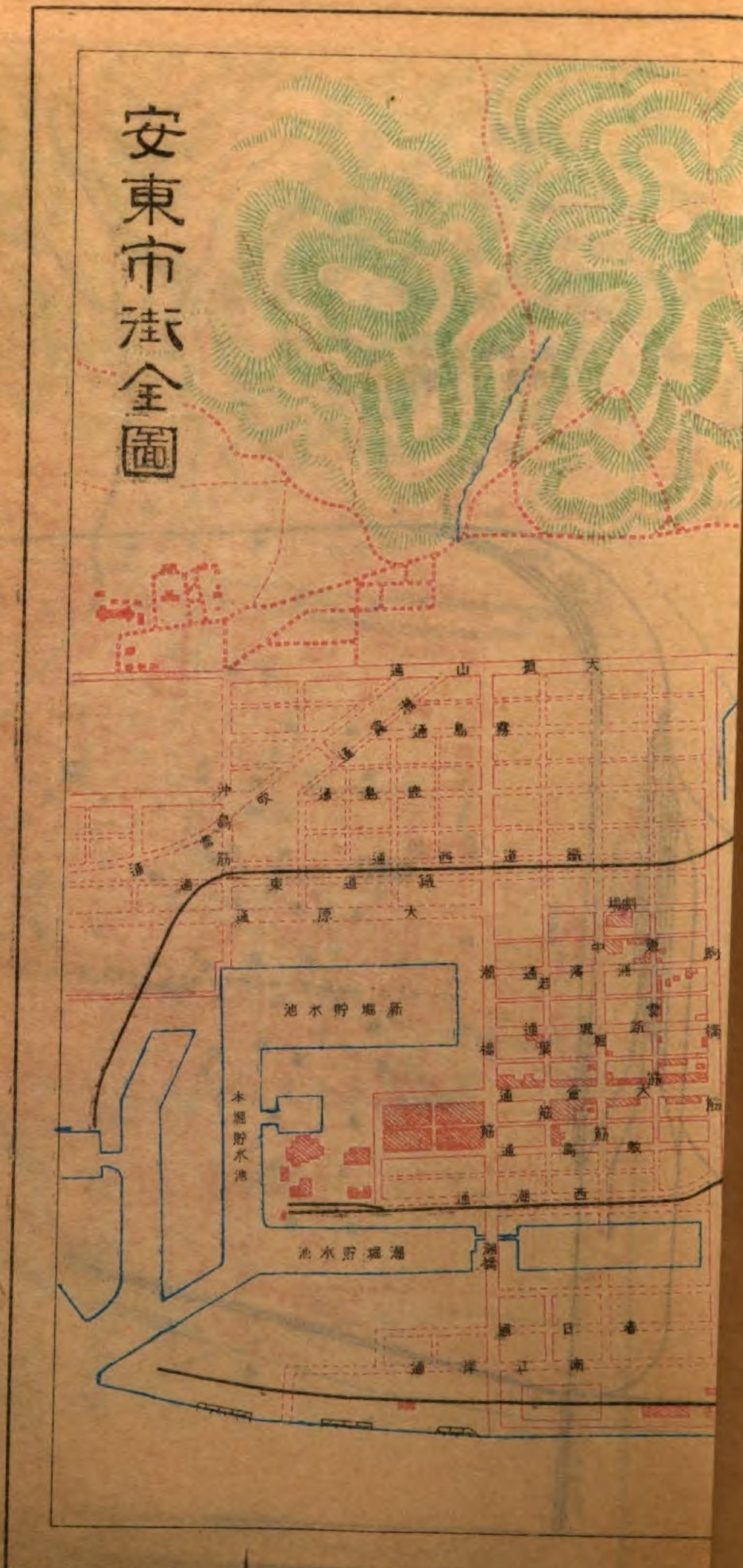
【新聞娛樂】安東新報、鮮滿時報、安東劇場、鳳鳴茶園等。

概觀　鴨綠江口を遡る十六哩の處、西に元寶、鎭江の諸山を控へ、東鴨綠江に臨む低凹狹小の平地に東北から西南に展開する市街を形成してゐる。元は邊外と稱せられて一帶は砂漠の平野であつたが、前淸の同治十三年に縣治を布き移住を奬め、商を招き農耕を奬勵してから漸く村落を成し、沙河子又は沙河鎭と稱へてゐた。然るに日淸日露の兩役は、此の寂寞の一小村に發展膨脹の機會を與へ、鮮滿縱貫鐵道の開通は更に又絕好の機會となつて當今の繁盛を導くに至つたのである。市街は新舊二に分かれ、舊市街は所謂沙河鎭であつて沙河の鴨綠江に注入する交流點附近から、西南に延びて新市街と連り、新市街は安東驛の左右に、近代式の縱橫井然の市街を形成し、その市場通り、大和橋通



鴨綠江鐵橋

江は全長百四十邦里に及ぶも河床の勾配急に激流奔下の箇所多く水量尠く。





り、舊市街の右堂前街、財神廟街は共に最も繁盛の街衢である。附屬地と民國居留地區に居住する人口は四萬四千餘、内邦人は一萬七千五百餘を算してゐる。

鴨綠江の水運 鮮滿の境界國境を成す鴨綠江は源を白頭山南斜面西麓に發し、咸鏡南道の惠山鎭にて南方から去來する虛川江を合せ、暫くして朝鮮から流下する長津江をも合はせ、白頭山脈の溪谷の小流をも呑んで西北流し、更に渾河靉河も加はり、一度九里島、拉赤島、黔定島、中江台等の沙洲の爲めに三水流に分れ、滿洲側は幅員約百米突あつて上江と曰ひ、中央は幅員約四百米突あつて中江と曰ひ、朝鮮側は幅員百米突あつて通天河と呼ぶが、沙河鎭に至つて三江は再び合して一江となり、威化島を築積し濶大の三角洲を作つて黃海に入る。

江は全長百四十邦里に及ぶも河床の勾配急に激流奔下の箇所多く水量尠く、

岩礁多く航運河として價値は少いのである。安東及沙河鎭附近に於て吃水四尺以上の汽船航行し難く、以上義州間は一尺六寸以上の吃水船を許さぬ箇所あるが、支那戎克はよく上流四十邦里附近迄溯江し得べく、筏、獨木船、艚子戎克、高瀨船の往來によつて貿易河として相當の價値を保つてゐる。上流は著名の大森林地帶を有し、山繭、大豆、痳苧、人蔘、砂金等の特產物がある。

著名の流筏の盛期は七八兩月間であつて、十一月下旬から三月中旬まで結氷し、內地、鮮滿間の貨物運送を主とする定期船の著發は小汽船の外は三道浪頭に繫船する。大正十一年度に於ける安東の貿易額は七千百萬兩（一億七千百餘萬圓）に上り、一般財界の推移と反して好況を持續してゐる。その主なるものは、輸出に大豆、粟、豆粕、繭、柞蠶、木材、石炭コークス（以上百萬兩以上）、輸入には綿織物、綿織糸、麥粉、毛皮革骨角牙類（同上）等である。

朝鮮鐵道の成績一般　大正六年七月廿八日、會社は勅令に據つて朝鮮總督府

の管理する國有鐵道の業務委託を應諾し、諸般の引繼を了して其の八月一日から同鐵道並附帶業務の取扱を開始し、玆に鮮滿の鐵道を統一する事となつたのである。最近大正十一年度の成績によれば左の如くである。

收入	支出	總督納付金	差引會社損益	旅客一日一哩平均收入	貨物一日一哩平均收入
三〇、六八六、一一三円	二三、八六三、二九六円	六、六〇三、八七一円	益 二一八、九四五円	三三、三七〇円	二九、八四〇円

◆鴨綠江鐵橋　鮮滿緊締の唯一交通路である鐵橋は朝鮮總督府の經營に係り全長三千九十八呎、十二橋桁の中央は開閉自在にして每日四回時を定めて船舶航行の便を計つて居る、橋上鐵道の兩側は幅八呎の步道となつて往來を許し、東洋一の鐵橋であると共に、幾多橋梁中の異色とする處である。

【勝蹟】　山形元寶銀卽馬蹄銀を倒置した樣でその名の因となつた元寶山は市の東北、沙河鎭舊市街驛站の傍側に立つ獨峙の丘陵であつて眺望無比、山麓に

關帝廟がある。新市街の背後に聳ゆるものは鎭江山であつて、山坡には忠魂碑がある。臨濟寺亦此の形勝裡に建ち、山上からの顧望は遠く白馬山より、鴨綠江岸龍岩浦、三道浪頭等の諸港を靄靆の間に點綴し、市民の行樂地となつてゐる。江の對岸朝鮮の統軍亭は舊義州の北東を擁する丘陵の上に立ち、展望濶大、日露戰蹟地とし、景勝を愛でゝ訪ふ者多い處である。

金剛山四題 ◇ ◇

春　金剛山春の眺めは正陽寺見渡す限り山々も
　　白妙衣ぬぎすてゝ綠よそおふ美しさ

夏　三千丈仰げば高き九龍の瀑の流れは轞々と
　　暑さ忘れて夢に入る夏ぞ涼しき金剛山

秋　山又山谷又谷の寒霞溪包む眞紅の紅葉葉に
　　うれし金剛山の秋景色

冬　冬來れば眞白に裝ふ金剛の峯に訪ぬる人もなく
　　萬籟寂たり悠々と響く揄括寺の鐘の音

（大公望詠）

附錄

東支鐵道線

我が日清戰後所謂三國干涉を行つて、恰も其の成功報酬の如く露淸銀行を介して東淸鐵道の布設權を掌握した露西亞は、明治三十年八月起工式を擧行すると同時に、先づ滿洲里、ポグラニーチナヤ、哈爾賓、及大連の四箇所から其の工を急ぎ、二億五千八百萬留を投じて全延長約一、六〇〇哩の大鐵道を五年五箇月でもつて完成した。然し如斯遠大の彼が極東政略も、其の動脈龍骨の如き鐵道開通後僅々兩年ならずに、一敗地のものとなつて、長春以南は我が國に割讓する事になり、其の以北の東淸卽現在の東支線に其の雄圖の片影をとゞむる事になつたのである。然るに此の片影である東

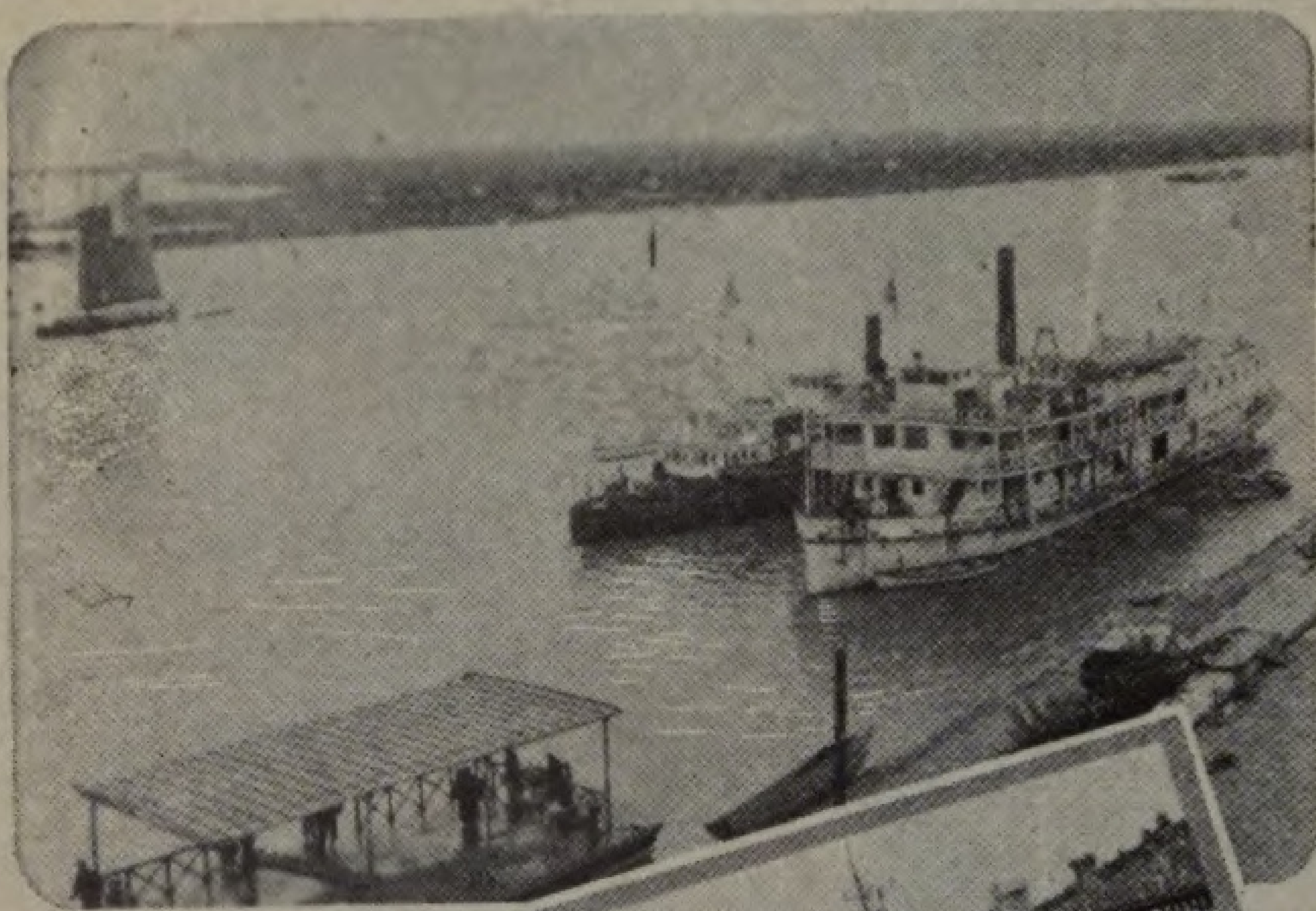
支線は、歐洲大戰から母國の大動亂を惹起し、其の動搖を極東にも波及する事となつた爲、民國政府に於て自已主權を侵害すると云ふ名目の下に大正六年十二月末から之れを回收し、一時列國の鐵道の共同管理下にあつたが、其の徹退後民國は名實共に東支の全權を掌握することになつたのである。

上記の如き曲折を經た東支線は、長春哈爾賓間を南部線と、哈爾賓、滿洲里間を西部線と、ポグラニーチナヤ間を東部線と稱し、南部線は百四十八哩、西部線は五百八十哩、東部線は三百三十九哩である。

滿鐵長春に接續する軌幅五呎の是等東支沿線に就て、之れを略記するには據るべき資料を缺き、此處には單に南部線の一部哈爾賓に就て記述することゝし、その以外は他日に讓ることゝする。



ハルビン驛



松花口



キタイスカヤ街



東支鐵道クラブ



氷上ホッケー（哈爾賓）



霜花



吉林の木材集積



吉林の松花江

◇哈爾賓（Harbin）

長春 一四八・〇　滿洲里 五八〇・〇哩
大連 五八三・八
釜山 一〇九九・八　浦鹽斯德 四八五・二

【車馬賃】乘合自動車があつて埠頭區新市街間を運轉する。

	自動車	馬車	俥
一時間	六・〇〇円	〇・八〇円	〇・三〇円
半日	二五・〇〇	三・〇〇	一・五〇
一日	四〇・〇〇	五・〇〇	三・〇〇

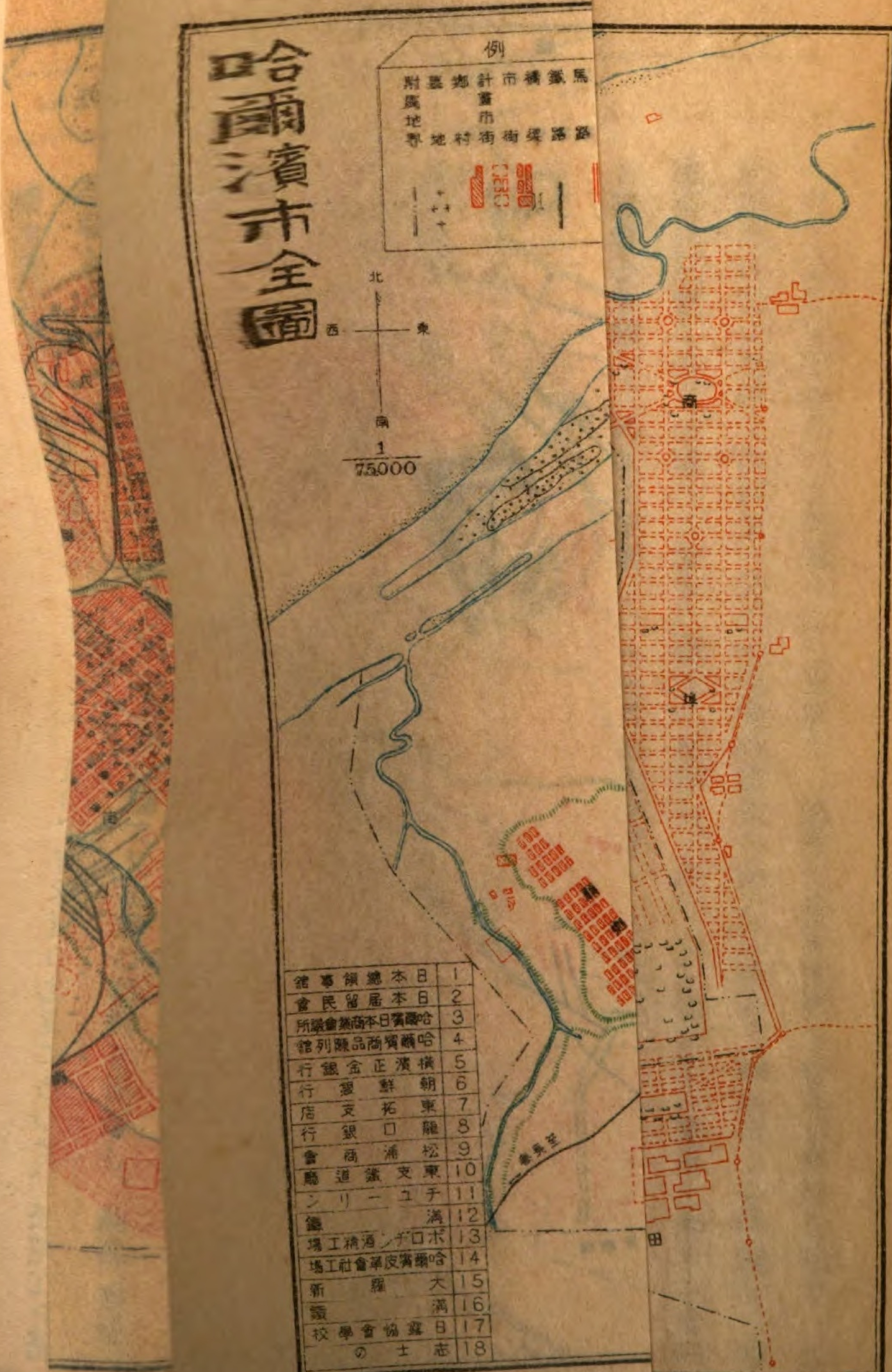
【旅館】北滿ホテル（モストワヤ街、驛より八町、洋式室料三・〇〇―一五・〇〇圓、食事料朝八〇錢、晝一・〇〇圓、夕一・二〇圓他に和食膳各種）名古屋館（モストワヤ街、宿泊料六・〇〇―一二・〇〇圓）露西亞旅館モデルン、オリエンタル、グランド各ホテル（室料各二・〇〇―一〇・〇〇圓）

【通貨】大正十年八月調査に據れば、哈爾賓の邦貨流通高は、露、支兩國貨を凌ぎ、金票の價値頗る普く、其の流通には何等支障はないのである。

【官公會社】日本領事館、商品陳列所、商業會議所、滿鐵事務所、正金、朝鮮、龍口、哈爾賓各銀行、東拓、東省實業、北滿倉庫、哈爾賓倉庫、日露實業、哈爾賓信託、三井、鈴木、小寺洋行、日本綿花、北滿電氣、東亞商業、滿洲製粉、東亞洋蠟、國際運輸、三菱商事、久原等。東支鐵道本社、賓江道尹公署、哈爾賓市役所、郵船局、黑龍江公署、賓江縣公署、護路軍司令部、中國海關、審判廳、郵務總局、勞農代表公館等。

概觀　哈爾賓の名稱は巷間には、露人が墳墓の土地として且又世界的都市たらしむる爲めのハオビン即大墳墓の轉化であると云ふ說と、滿洲語の網干場又は魚網から來て土民の魚場であつた處から起ると云ふ說と、ツングス語の渡場即ハルビンから來たものだと言ふ三說があるが、確とした考證は與へられてゐない。

露淸銀行の名に於て東支鐵道の起工に當り、當時滿目荒寥、蘆荻叢生のまゝであつた此の地を相し、松花江に沿うて四千八百八十露町步―一露町步は一町一反四畝八步


哈爾濱市全圖
例
馬路
鐵路
橋梁
市街
計畫市街
郷村
墓地
附屬地界
北
南
東
西
1
75000
1 日本總領事館
2 日本居留民會
3 哈爾濱日本商業會議所
4 哈爾濱商品陳列館
5 橫濱正金銀行
6 朝鮮銀行
7 東拓支店
8 龍口銀行
9 松浦商會
10 東支鐵道廳
11 チューリン
12 滿鐵
13 ボロヂン酒精工場
14 哈爾濱皮革會社工場
15 大羅新
16 滿
17 日露協會學校
18 志士の



の声価自ら高まり、露、支両国貨を凌ぎ、

—の土地を馬蹄銀の六百萬兩を以て買收し、現在の舊哈爾賓に建設事務所を置き、江岸西北に商業地區—埠頭區—其の背後舊哈爾賓の間に官衙區—新市街—を計劃し、四億留の巨費を投じて著々と都市の建設に從事し、斯くして松花江の驚異に價する水利と富源とを持ち、其れに相應しい一大都會は忽然として露西亞の刮眼の下に出現する事になつたのである。

當初東清鐵道は條約面に於ては露淸合辦の一營利會社とし、鑛業其他附帶商工業と水路航運を兼營する特權のものであつたが、其の內實は政治的性質濃厚であつて、日露役はそれに一頓挫を與へ、鐵道は經濟的のものとなり、軍政は民政となり、明治四十一年三月哈爾賓は自治都市となつたのである。そして明治四十年我が三井の手によつて大豆が倫敦に試送されて以來戰後の非況に沈衰してゐた此處は、果然北滿の特產市場として世界的のものとなり、其の趨勢は軈て又工業の勃興を促がし、油房、製粉、釀造業に著しく發展を見たのである。

哈爾賓は北緯四五度五〇、東經一二六度四〇、吉林省の北境にあつて、松花江を隔てゝ黑龍江省と對してゐる。西から北に江を控へ、南方新市街一帶は低い崗となつてゐて、四周は言ふ迄もなく際涯ない平原が打續いてゐる。

市街は舊哈爾賓（Star Harbin）を建設基點として、哈爾賓驛迄二哩、其の驛の直上南方一帶は新市街（Nobigorod）で租借地のほゞ中央となり、華人は之れを秦家崗（Chin-chia-kang）と稱し、驛の西北が埠頭區、其れに隣りして北部江岸が傅家甸（Fu-chia-tien）である。

新市街は碁盤形の街衢整然とし戶々建築の粹を集め、樹木多くあだかも歐露都市再現のものかの如く、曾て彼れの勢力の全盛期には華人の出入を禁じて居た處である。

埠頭區は周圍に鐵道の築堤を繞らして、自然に他から區劃されたかの如く、高層の店舖を櫛比させてゐる。キタスカヤは其の中心街路であつて巨賈富商相隣りし、新市街のチウリンと竝び稱せらるゝ邦商の松浦商會は、其一角に堂々の門戶を構へてゐ

る。

傅家甸は露西亞の租借地外に隣接した土地であつて、當時附屬地内に居住し得なかつた華人が自然此處に市街を築く事になり、現在では彼等の手によつて整備した範とすべき歐風市街となり、その繁盛は他區を凌ぐものがある。

上記市街區の他に新市街と舊市街との間に馬家溝があり、傅家甸より下流に土地會社の計劃しつゝある松花鎭があるが何れも他日の膨脹を待つ處である。

哈爾賓の人口は大正十一年一月末の調査によれば、露國人十五萬五千四百、華人十八萬三千七百、邦人は僅々三千八百餘で、全人口の一分一厘强にしか當該してゐない狀態である。そして此處には上記日、露、支以外約九百人の外國人があつて之れを人種別とすれば米、英、佛、白、墺等殆ど人種博覽會の如き多岐に亙る事である。

松花江の水運　黑龍江の一支流である松花江は、その流域北滿全域に亙つて、其の富限を培ひそして搬出の使命を全うする處のものである。

江の水量は頗る潤澤であつて、黑龍江が松花江を合流して俄かに航運上の價値を高めるを見ても判然する事であるが、共の水量は冬季降雪の量に正比し、解氷期と、八月の雨期とを最とし、初夏六、七兩月と終航結氷期前は減じて航行困難となるのである。

長白山に源を發し、頭道の名稱の下に北西し二道江と合する西江口の地から始めて松花江と呼び、二道江を合せた松花江は圍沙河、索落河、輝發河をも合流して吉林に至る間屈曲甚だ多く河水著しく增加し、河幅四十間乃至六十間水深旣に十二尺に及び流れ急である。吉林からは老燒鍋を經て南より來る伊通河を入れ、伯都納附近にて吉林省の西邊を縱貫し終ると共に大いに屈曲し、三江口又は三岔河の地に於て源を黑龍江省の北部伊勒呼里山に發し最大支流である嫩江と一となる。三岔河は北緯三五度五、東經一二四度五二、源流より約二百邦里、この邊り江幅は十五間より九十間、水深二丈から四丈に達してゐるのが、更に拉林河と合し、東支線を橫斷して哈爾賓に達す。

此處から三姓に至る間水幅約五町、水深は七尺に減じ北緯四七度四五、東經一三二度四〇の地點で始めて黑龍江と合するのである。三岔河の嫩江會流點から共處まで約三百四十邦里、源流より計五百三十邦里の延長に達するのである。

氣候の關係から概ね十月より四月に至る間約半歳は凍結するが、解氷後は小汽船の航行に適し、明治三十八年露國の汽船黑龍江より溯江してから水運に新生面を劃し、伯都納までの航運に從事する汽船會社の二三は組織され、殊に吉林より上流の輝發河の朝陽鎭、伯都納及嫩江に入つて齊々哈爾、黑爾根に達する航路の如きは最もよく利用され、從つて各地に著名なる河港の發達を導き、その主なるものは前記朝陽鎭、大鷹溝、小鷹溝寛河、長山屯、吉林、烏拉街、老燒鍋、伯都納南門外、哈爾賓、黑爾根、牡丹江、寧古塔等である。航行期間は約六箇月半、沿岸に小麥、大豆、煙草等の農産を見、可航區域中吉林、哈爾賓間は、南滿、東支、吉林の三鐵路介在して每歳貨客の爭奪行はれて航運は不振であるが他は獨占の地歩にある。航行帆船概數は詳かでな

いが二千隻に上り、汽船は二百五十隻（内露船主に屬するもの百六十二、支船主七十八、日船主十）ライター隻數二百四十（露船主百九十、支船主四十六、日船主四）帆船は伯都納、吉林間上航二十七日、下航十二日、伯都納、哈爾賓間上航十四日、下航七日、哈爾賓、三姓間上航十三日乃至十五日、下航七、八日。汽船伯都納、哈爾賓間上三日、下二日、哈爾賓、三姓間上三日、下二日、三姓、拉哈蘇間上三日、下二日であつて、哈爾賓、尼港間汽船上一〇—一四日、下七—九日である。

【勝蹟】新市街と舊市街とを結ぶ線と三角の位置に當る西方に志士碑がある。日露の役に志士横川沖兩氏が松花江鐵橋の爆破を企て、成らずして悲憤の涙を呑んで銃殺された處であるが、今は顧望千里の平原の只中の碑に刻む銘も鮮かに、訪ふ人々に深い印象を與ふる處である。哈爾賓驛頭不慮の死を遂げた伊藤公と共に、哈市の歴史を飾る二つのそして忘るべからざる舊蹟である。

市街處々にある公園は夏季最もよく利用され、多きは一日三千乃至四千人の市民の

慰籍場であるが、舊哈爾賓、東支倶樂部庭園、埠頭區公園、馬家溝遊歩場などはその主なるものである。

東支鐵道倶樂部は新市街に在つて、露國上流の交際場であるが、冬季オペラの上演を以て、夏季は綠蔭樹下の社交場を以て、同時に露西亞料理の粋を以て著名なるものである。

上記の外土耳古風呂と竝んで一時は世界の双璧と唱はれた露西亞風呂の名殘が處々にある。今は大牛華人の經營の下に屬し、貸切室の多きは二十有餘に及び歐風の浴漕、蒸し風呂、湯瀧等を備へたものもあり、一顧に價する。又北滿ホテルのカバレー式食堂の舞踊も、夏季の公園乃至は松花江の遊泳場などゝ共に、此處に來て始めて接し得る歐露風習として觀光客に欣ばれる處である。

吉長鐵道線

吉長鐵道線は四洮鐵道線と同様に民國交通部直轄の國有鐵道の一部であつて、明治四十年四月の日清協約に基く我が借欵鐵道であつて、翌年十一月其續約により二百五十萬圓を會社より借欵することゝなり、大正元年十月全線の開通を見、六年十月更に借欵契約を締結し、資金全額六百五十萬圓を會社より出資し七年一月一日より會社に於て委任經營をなすことゝなつたのである

全線營業哩は一二七粁・七（七九・一哩）であつて、當初は經營頗る困難であつたが、會社委任後漸次その收入の增率を見大略の狀況は左の如くである。

	收入	一日一里平均收入	乘車人員	貨物噸數
大正四年	九一一・一〇三円	一九・五五円	二六三、二二二	三七四、三三一
大正六年	一、〇八一・一七〇	二三・二〇	二八七、六一五	三〇七、一四〇
大正七年	一、七七六・一四四	三八・一〇	三八三、四三七	四四八、四四八
大正十一年	二、七七五・五五〇	六四・四七	五〇四、六〇五	七七三、五六六

本線の主要貨物は上り大豆、穀類、木材及葉煙草等の會社線に繼送さるべきもの、下り貨物は雜貨、食鹽、痲袋等であつて、即ち上り八割下り二割の片輸送である。

元來本線は僅々八十哩に過ぎないのみならず、首位貨物として其の三十八、九萬噸を占むる大豆及穀類は東支線へ出廻るものと同一地方の生産であり、次位十七、八萬噸を占むる木材は北滿材と常に競爭の立場にあつて、東支、烏蘇里線の政策に至大の關係を有するに拘らず、其等に呼應して運賃割引等の積極的吸集策を講じ得ぬ苦境にあるが故に、現在の成績を以て極限と推定されてゐる。

◎頭道溝 (Tou-tao-kou)

吉林 一三七・七粁

―滿鐵長春驛―

吉長線と滿鐵線との接續驛は滿鐵の終端驛長春であつて、吉長鐵道は其處を頭道溝站と呼稱し、次驛長春站と區別してゐる。蓋し、滿鐵長春驛の所在する地名が頭道溝である處から、その名稱を與へたものである。

◎長春 (Chang-chun)

頭道溝 四・五粁
吉林 一三三・二

吉長鐵道の本社は勿論、機關庫其他の基本を總て本驛に所在せしめてゐる。長春市街東門から三支里の地點にあつて、車馬の交通頗る不便の郊外に該當する。鐵路局、工場、病院、鐵道附屬小學校等、皆鐵道附屬地に抱擁されてゐる。

◎興隆山 (Hsing-lung-shan)

頭道溝 一五・五粁
吉林 一二三・二

◎卡倫 (Ka-lun)

頭道溝 二四・九粁
吉林 一〇三・八

卡倫は滿洲語であつて、支那語の邊臺を意味する。淸の初代山森の取締や課税の事務を司らしむる民官を派出したので東卡倫と云ひ、更にその康凞の代に三邊臺の一となつたのである。

長春縣下に配屬して、東北二支里に其の市街がある。地勢平坦、河流の灌漑よく、附近一帶肥沃である。鐵道開通後商業漸く繁盛に向ひ、農産にも富んでゐる。名勝舊蹟には凞眞寺、小城子がある。

龍家堡 (Lung-chia-pu)

頭道溝 三四·八 粁
吉林 九二·九

飲馬河 (Yin-ma-ho)

頭道溝 四三·一 粁
吉林 八四·六

曾ては驛馬河と稱して居たが、淸の高宗東巡の際馬に飲かつた事から這う改稱されたと古事に散見する。

長春縣下に在つて、河畔に臨む平坦な處地味も肥え農産物に富んで居る。南十八支里には商業の殷盛な南營城子がある。舊蹟としては東南十二支里に郭臺領僮墓があり、北八支里に昔高勾麗の駐兵したといふ大城子がある。

下九臺 (Hsia-chiu-tai)

頭道溝 五二·〇 粁
吉林 七五·七

昔晒嘛（シロへ）哈臺とも云ふて東六支里の上九臺と對して邊防の要地であつた。

德惠縣に配屬して、遠く江西の平野に連り、鐵道開通後に荒蕪の土地から現在の殷盛な都邑に發展したのである。糧棧店百有五十に近く、本線屈指の貨物出貨驛となつてゐる。舊蹟に柳條邊がある。元來吉林省は淸の初めに吉林の北方を起點として、開原の威遠堡邊門に及ぶ延長六百九十餘支里の間、柳を植え繩を結び、之れを柳邊と呼んで邊防の柵としてゐた。下九臺には今尙數十支里に亙つて楊樹叢生する柳邊の片影を止めてゐる。

◇營城子 (Ying-cheng-tzu)

頭道溝　粁 五九・一
吉林　六八・六

南二支里に土城の頽廢してゐる處があつて、其處は昔駐兵したと云ふので營城子の名が與へられたのである。

吉林縣下に在つて、北八支里に火石嶺、東北十五支里に馬家溝の二炭山がある。

◇土們嶺 (Tu-men-ling)

頭道溝 七三・八 粁
吉林 五四・九

現在次驛との間に延長千六百尺の隧道のある邊りは、層巒數十支里に亙つて重疊し吉長間往來の要害となつてゐる。嶺頂の路にあだかも岩石の門の如きが横はつてゐるので、土們嶺の稱呼が起つたと云ふ。

嶺の附近一帶は晩春に花咲き、初秋に紅葉するので名勝地として數へられ、時に臨時列車の運轉を見る。驛站から六支里の馬虎頭山頂には土民の旱魃に雨乞ひをする石廟數箇所に在る。其の建立年代は詳らかでない。

◇河灣子 (Ho-wang-tzu)

頭道溝 八五・五 粁
吉林 五二・二

樺皮廠 (Hua-pi-chang)

頭道溝 九三・〇粁
吉林 三四・七

附近に樺樹多く、それから弓箭又は馬鞍を造る爲め、清代の初め廠を置き、此の稱呼が與へられたのであつて、吉林省は此處から各年樺の樹皮數千枚を貢させた事がある。商業殷盛の處であつて、吉林縣下である。

孤店子 (Ku-ten-tze)

頭道溝 一〇四・二粁
吉林 二三・五

本鐵道敷設工事の頃には、此處に一小旅舍よりなかつたといふ事から、孤店子の名は起つたのである。

吉林縣の行政區下であつて、舊蹟に烏拉城がある。驛の北方三十支里松花江の東岸に在つて、遼金時代は寧江州に屬し明代扈倫四部の一である烏拉部の舊都である。今

は大半廢址となつてゐるが、城壁の土壘は外部圓形に内部四角、周圍約十四支里に亘つてゐる。

◇九　站　(Kiu-chan)

頭道溝　二四・四
吉林　一三・三

一名を舊站と稱し、吉林縣に配屬し、西北は山で覆はれ東南は松花江に臨み、舟楫の便ある爲めに廣才嶺附近から結筏の木材は多く此の市場に現はれる。東支沿線附近からも叉江を利用して集積される大豆の量も尠くはない。

舊蹟としては、淸の高宗東巡の際に駐蹕した行宮が南方二十支里の處にあつて、鐵道の未だ開通しなかつた頃、大官は多く此の地で送迎されたと云はれる。其他東方十支里の山道嶺の麓に光緒年間に建立した德將軍の墓があつて、頗る壯麗なものがある。此の三道嶺は叉山頂の亭からの顧望、江水連峯を併せて視界のものとし、夏季外人の好んで避暑するものゝ多い處である。



渡船（吉林松花江）

◎吉林 (Kirin)

頭道溝　一三七・七粁

【車馬賃】結氷期は橇を用ゐ其他は人車、馬車であつて、城内迄三十錢乃至五十錢である。

	馬車	傭
一時間	〇・五〇円	〇・二五円
半日	二・五〇	一・六〇
一日	五・〇〇	三・〇〇

【旅館】名古屋館（商埠地、驛より七町、宿泊料四・五〇―一一・〇〇圓）日清館（新開門外、驛より九町、宿泊料四・五〇―一〇・〇〇圓）

【通貨】吉林永衡大洋票官吊及小洋票が主に流通してゐる。邦貨金票も時に使用し得れども爲替相場を利用して官吊に兩替すると其の間に多少の損得がある。若し金票

を以て支拂ふ場合は豫め金票に對する價格を質す事を忘れてはいけない。

【官公會社】 日本總領事館、郵便局、滿鐵公所、鮮銀、東省實業、督軍公署、省長公署、高等竝地方檢察廳、高等竝地方審判廳、財政廳、交涉員署、吉林縣公署、軍機局、其他製粉、木材會社等。

【沿革】 渤海時代は涼州、遼金當時は寧江州、明初代は烏拉衛、其の後扈綸族の烏拉部、清の雍正年代は永吉州、光淸年代は府、最近民國となつてから縣と推移に從つて幾多の配屬を轉變して來たのである。

淸朝は始祖愛親覺羅が長白山中に生れた爲めに、此の地を特に合祥の地として尊崇し、そして康熙帝の代になつて山神の祭殿を此處に營んだ爲めに益々重要視さるゝやうになり、遂に將軍衙門は寧古塔から此處に移され始めて省城が設けられ、此處に軍政の中心地ともなつたのである。

概觀 吉林は三面に山を繞らし、松花江畔に在るが爲めに古來から水運の便に至大の恩惠を受けてゐる。別名の船廠も宣德八年水軍が組織されて船艦を造つたのに原因

を有つてゐる。市街は比較的清潔であり永い歷史に巨商老舖多く滿洲各地の都市と比して異彩を放つ堂々の店鋪居宅を櫛比させて居り、木材の集散地として一部を木道としてゐた片影すら遺してゐる。人口、約八萬三千、邦人一千八百餘。

吉林は邦人によつて滿洲の京都と呼ばれてゐる。其の環境なり顧望に京に近似したものはないけれども、周圍の自然の典雅淸麗なことゝ、舊都として古い歷史のある事は、滿洲の京都なる異名に恥ぢない處である。そればかりか滿洲も吉林の奥に這うした名眉の境を持つ事は齊しく嘆美する處である。

【勝蹟】 城東の江に沿ふて十二支里の間石壁が築かれ壁面には領兵が三度其處を通過して文を刻むだと言ふ四行の銘がある。小白山は南方九十支里に在り。山上に淸の雍正十一年に建立した望祭長白山神社がある。春秋二季に地方官を派して淸代には祭祀を怠らなかつた處、正殿五棟、祭器樓二棟、牌樓二座ある。殿の傍らには曾て望祭に犧牲とした神鹿が嬉遊して居る。北山・德勝門外に立つ丘岡で、關帝廟、藥王廟、

玉隍閣等の古廟を有ち、其處からの俯瞰の景も、山を行く爽快さも並びなく愛惜さる處である。龍潭山は北方十二支里、松花江を渡船で渡つた江岸に聳えた低い山である。四時涸れた事も溢るゝ事もないと云れる龍潭の碧水を中腹に持ち、春秋二季には花を樂しみ、霜葉を賞する者の見逃がす事の出來ぬ清遊行樂の處である。殊に山上の顧望は脚下に松花江の清流悠々天涯山影から帶の如くに曳かるゝあり、市街を超えて砲臺山、北山を近く招き、遠く連山の脈々と續くあたりを双眸に納めて、雄大佳絕、時人の行樂遊杖を欣ぶのも理りの名勝地である。江山公園は又松花江々南一支里の處にあつて規模壯大、花畝參差して農林試驗場はあり、一顧の價ある處である。

四洮鐵道線

會社の鐵道本線四平街から分岐して蒙古の洮南及通遼に到る鐵道は之れを四洮鐵道線とし、吉長線と共に民國々有鐵道の一つである。此の線は大正二年十月締結の滿蒙五鐵道の一として企劃され、翌年三月四鄭鐵路局を創設し、四年十二月對橫濱正金銀行との間の借欵契約によつて、六年に其起工に著手し、十一月四平街、鄭家屯間の鐵道の竣成を告げたのである。

次いで大正八年會社との借欵契約成立と共に、從前の借欵をも之れに移し、名稱を四洮鐵路局と改稱して鄭家屯より通遼(白音太來)に到る鄭通支線の起工となり、十年十一月竣工し、更に十二年十一月鄭家屯より洮南に達する鄭洮線の竣成となり、玆に當初の目的である四平街、洮南間の全通を見たのである。現在その營業總哩は四平街、洮南間三一二•三粁、鄭家屯、通遼間一一三•七粁、計四二六粁(二七二•四哩)である。沿線

は蒙古科爾沁部各旗の遊牧地に屬し、鄭通支線白市、大罕間約四十粁と大林、錢家店間約十粁を除き他は所謂漢人に對する開放地とされ、東三省の行政の行はるゝ處である。

本鐵路の開設後の營業成績は大略左記の如くである。

年度	旅客人員	旅客收入	貨物噸數	貨物收入	一日一粁平均收入
大正七年	一三七、〇三七	一八二、五一二元	二〇九、〇四八	三九一、五六〇	一二・五三元
大正十年	一六九、五九八	二一四、八七六	五六九、〇三一	七八三、九〇八	二四・四三
大正十一年	二八五、九八三	四二四、二二八	一、二三三、五八五	一、六五七、八一三	二二・五三

右表十一年は鄭家屯、通遼間開通の年度であつて、一日一粁平均收入は低下を見たのであるが、更に最近大正十二年度によれば三二元三七に增加し、其の成績よりして滿鐵の營養線として將來最も好望のものである。其の托送の主なるものは大豆、高粱、粟等の農産物である。



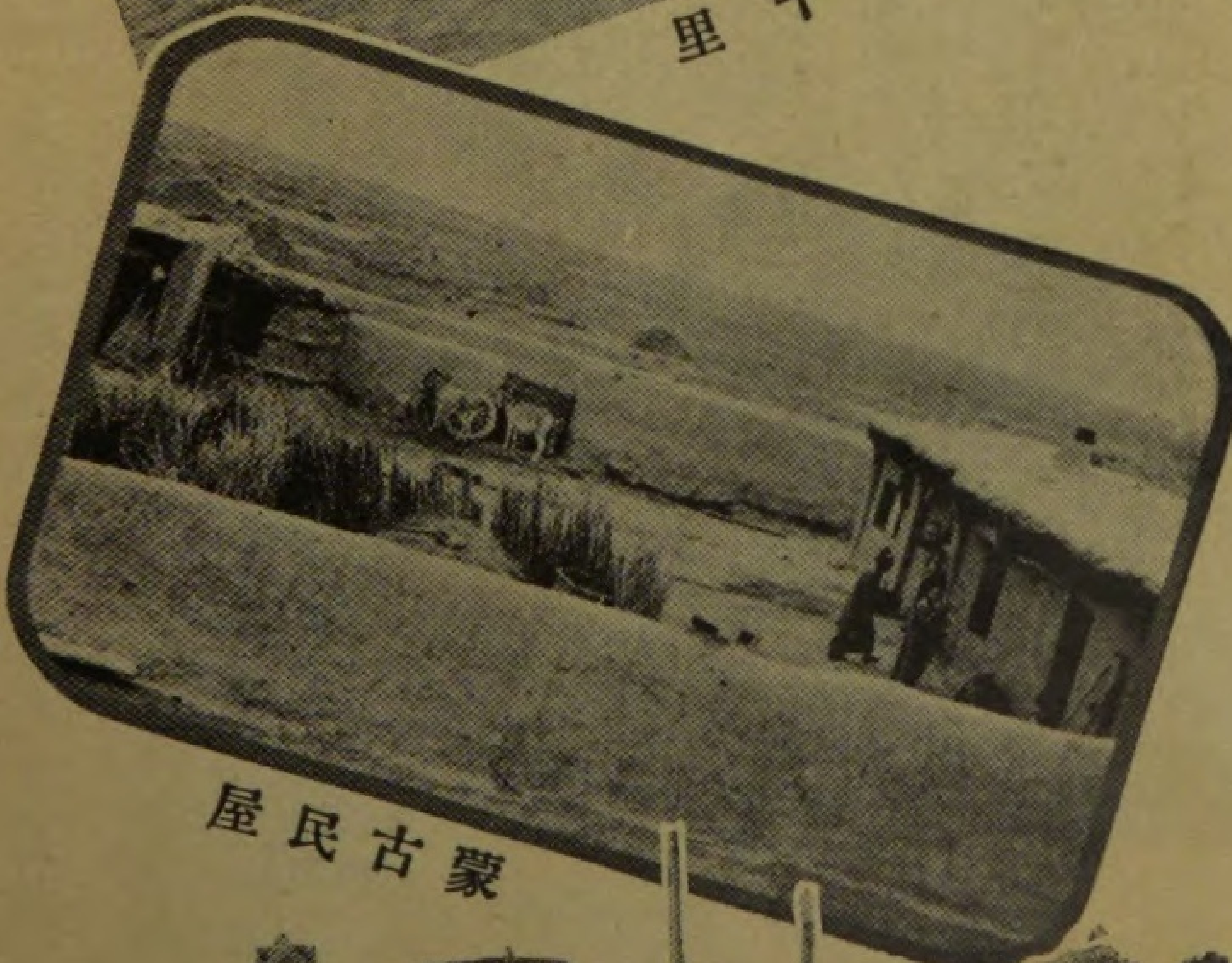
鄭家屯孔子廟



ラクダ隊商



一望千里



蒙古民屋



モリン廟

四平街 (Ssu-ping-kai)

鄭家屯	八七・九	粁
洮南	三一三・三	
通遼	二〇一・六	

泉溝 (Chuan-kou)

四平街	一〇・九	粁
鄭家屯	七七・〇	

梨樹縣城へは西南四十支里、東一支里には關帝廟がある。

八面城 (Pa-mien-cheng)

四平街	二八・一	粁
鄭家屯	五九・八	

【官公衙】帝國領事館鐵嶺分館、郵便局、電報局、電話局、商會、農會。

形狀八角柱狀の蠟石牌が附近の土城趾より發掘された事から八面城の地名を生じたと云はれ、現在遼代の陀羅尼經幢石の頭部と云はるゝ此の八角柱狀牌は關帝廟内に納められてゐる。

曾て遼金時代の咸州（開原）黄龍府（農安）間の通路要衝に當り、北は遼源に、西は大窪に、東は賣買城に、南は鵞鷺樹に通じ、附近一帶の沃野を控へて著名の集散市場である。市街は清初の建設に係り、人口三萬を擁してゐる。勝蹟には街北に前掲の關帝廟があつて堂宇壯麗、境内も廣く鐘樓、鼓樓がある。城趾は遼金、元代の韓州の治所と云はれ街南にあつて現在は畑地となつてゐる。

◎曲家店 (Chu-chia-tien)

四平街 三八・九粁
鄭家屯 四九・〇

◎傅家屯 (Fu-chia-tun)

四平街 五一・五粁
鄭家屯 三六・四

◎三江口 (San-chiang-kou)

四平街 六四・三粁
鄭家屯 二三・六

三江口の村落は遼河の西岸にある。もと營口を起點とする遼河の遡航は通江口までであつたものを、明治三十九年蒙古博王旗は此の地までの遡航を許し、其の頃から此の村落の出現膨脹となつたのであるが、更に其四年後の明治四十三年、達賴罕王旗は上流鄭家屯迄の舟航を許した爲めに、其の發展は中絶してしまつたのである。

驛は大民屯の高地にあつて、對岸三江口の低地を避けたのである。そして三江口の名は上流で東西遼河合流する事から斯く呼稱さるゝに至つたのである。

◎一棵樹 (Yi-ko-shu)

四平街	七四・〇粁
鄭家屯	一三・九

◎鄭家屯 (Cheng-chia-tun)

四平街	八七・九粁
洮南	三三四・四
通遼	一一三・七

【車馬賃】 馬車、轎車、人力車等があるが賃金は一定してゐない。市街中樞まで日本貨八十

錢前後であるが、惡路の場合は非常に高價である。

【旅館】 鄭家屯ホテル（市街中央、その二層樓は高く民屋を拔いて遠く驛より想見し得る。俥、金票八十錢、室料二・〇〇—五・〇〇圓、食事料朝一・〇〇圓、晝及晩二・〇〇圓）。

【官公衙】 帝國領事館分館、滿鐵公所、道尹公署、縣知事公署、地方審判檢察廳、洮遼鎭守使公署、稅捐局、溫都爾王府巡邊總局、正隆及朝鮮銀行支店、中國銀行、交通銀行、東三省官銀號各支店。

當地方は同時年間に開墾行はれ、內蒙古達賴罕王族溫都魯群王旗下に屬し、鄭性の屯堡として同治十年昌圖府康平縣の管轄となり、光緒二十七年遼源州、民國二年現在の遼源縣となつた處である。宣統二年（明治四十三年）に遼河航行が許されると共に急速の發展を遂げ、大正六年末終端驛として四鄭鐵路の開通に連れ當地方に黃金時代を現出し、鄭通、鄭洮兩線の開通は其の發達に災し當今の市況は從前の如くではない。

西遼河、西喇木倫の二流域灌流して附近は奉天省內稀有の地味豐穰の處である。人口約六萬餘。市街の東北十支里には勃波兒山（ボーボルシャン）があつて、晩春桃李翠柳の賞すべき遊樂

地であると共に溫都魯王府の靈地として知られてゐる。街西六支里には又鄂博山がある。蒙古名を蒙古兒陀羅海（蒙古人の頭袋）と曰ひ、古名を奚王嶺と云ふ。金史に都統杲が宗翰と奚王會議に約すとあるは此處であつて、達爾罕王旗と博王旗との境界に當る一山である。

臥虎屯 (Wu-hu-tun)

鄭家屯 二三・〇粁
洮南 二〇一・四

長嶺と洮南に到る岐路に當る比較的に古い村落である。驛西の一湖は札噶蘇諾爾（魚湖の意）と云ひ、名の如く魚類頗る多く、又往時から其の穗を綿代用に移出された蒲を茂生してゐる。驛西二十支里に馬里近（牧者の意）と稱する東西二村があつて各々喇嘛廟がある。西廟は東廟より結構宏大で和碩溫都兒親王家の家廟である。唐克里廟（天の廟）と通稱し、嘉慶年間慧豐寺の寺號を勅賜され、一丈二尺の木像長壽佛があ

る。

◆洮遼道荒　洮南と開通の開放が行はれたにも拘らず遼源との中間には達爾罕旗下の未開放地を存して交通不便の爲め、幾多の折衝を經て宣統二年、幅員二十支里、延長百四十餘支里の帶の如き土地の開放が行はれた。之れを洮遼道荒と云ひ、鄭家屯を距る七哩邊りから本線に沿ふて太平川附近まで約八十哩に延びてゐる。其の間地味は肥沃とは云へない。

◇前甸 (Chien-tien)

鄭家屯　三八・一粁
洮南　一八六・三

◇茂林 (Mao-lin)

鄭家屯　五八・一粁
洮南　一六六・三

◇三林 (San-lin)　鄭家屯 六八・八粁　洮南 一五五・六

◇衙門臺 (Ya-men-tai)　鄭家屯 七七・五粁　洮南 一四六・九

◇金山 (Chin-shan)　鄭家屯 八七・二粁　洮南 一三七・二

◇豐庫 (Feng-ku)　鄭家屯 九六・九粁　洮南 一二七・五

◇太平川 (Tai-ping-chuan)　鄭家屯 一一一・三粁　洮南 一一三・一

鄭洮間の中央に位し、双山、懐德、長嶺の三縣に圍まれ、交通の要衝である。附近は旗民の手によつて廣く開墾され、農產地として將來ある處である。

◇邊昭 (Pien-chao)

鄭家屯 一三六・五粁
洮南 八七・九粁

邊昭の村落は札薩克圖旗下にあるが蒙古三旗の境界點となり從つて長嶺、開通、遼源の縣界ともなるのである。

◇開通 (Kai-tung)

鄭家屯 一六〇・六粁
洮南 六三・八粁

光緒二十九年、札薩克圖旗下開放の議成り其の三十一年南部を開通縣として當地を治所とし、七井子の舊名から開通に更改し現下人口一萬である。

驛西九里に俄勒廟と稱する喇嘛廟がある。樹林蓊々泉水深く風光佳絶である。又東

八十支里の未開放地にはダブスヌ、ノール湖と云ふ著名の曹達湖があつて鹽の産がある。

◇鴻　興 (Hung-hsing)

鄭家屯	一八〇・七粁
洮　南	四三・七

◇雙　崗 (Shuang-kang)

鄭家屯	一九五・八粁
洮　南	二八・六

◇黑　水 (Hei-shai)

鄭家屯	二一三・五粁
洮　南	一一・九

◇洮　南 (Tao-nan)

四平街	三一二・三粁
鄭家屯	二二四・四
通　遼	三三八・一

【車馬賃】驛から城内まで約二十町、馬車邦貨約五十錢

【旅館】鄭家屯ホテル洮南支店（康樂中街、驛より三十町、馬車邦貨六十錢、宿泊料本店に準ず）

【官公衙】滿鐵公所、縣署、地方審判廳及檢察廳、稅捐局、電報郵政局、警務局、中國銀行、東三省官銀行各支店等。

【通貨】奉天票、吉林官帖等で邦貨の流通は困難である、遊覽客は旅館にて便宜立換拂をして貰ふが便である。

洮南は洮兒河の南岸五支里に位し、東蒙に於ける政治經濟上の一大中心地とし。方五支里の土墻で圍まれ、街衢は其の北半部に展開し、人口三萬と稱せられてゐる。

光緒（明治初年）の初めから札薩克圖旗の移民が行はれたが、政府の認可した開放は其の二十八年から宣統二年まで前後四回行はれ、洮兒河以北は洮安縣となり、中部は洮南縣に、南部は開通縣となつたのである。

當初は雙流鎭と稱し、郊外の蒙古村から薩鷄街茅土とも通稱され、光緒三十一年洮

南府の治所となり、民國二年(大正二年)縣知所となつたのである。洮安、鎭東、安廣、突泉等の諸縣に圍繞され、索倫の森林に通じ、嶺南北の蒙古各旗と往來し得て、農産市場としてばかりでなく畜産市場としても知られてゐる重鎭である。

【勝蹟】元代及其の以前に洮兒河は塔兀兒、托吾兒、塔兀、託羅等の文字が使はれ、其の支流である歸流河にも四五種の文字が使はれてゐた。河には好味の魚類が棲息してゐるが途中に洲多く舟運の便はない。

昔十一世紀の前半、遼の全盛期に、英帝聖宗が女眞から獻納の「海東靑」と云ふ鷹を使つて此の洮兒河(當時達魯古河)地方に遊獵し、長春河と命名したといふ記錄のある處である。

驛北百二十支里に多羅札薩克圖郡王家の家廟である喇嘛廟がある。葛根廟と通稱し、山に靠り流に濫むで宏大の規模を占め、勅賜寺號を梵通寺と云ふてゐる。又驛東三十支里の成四家子には一土城の古址がある。

鄭通支線（四洮鐵道）

白　市 (Pai-shih)

鄭家屯　九・七粁
通遼　一〇六・〇

此の驛の所在地は未開放地であつて、東に當つて見ゆる村落は漢人の自然に侵入して來た開放地の尖端である。又東西に橫はる平原には鄭家屯の二三商家が、馬群、牛群の爲めに一頭に付三ケ月十數錢の草税を蒙古の草局に納めて放牧する處である。

驛名白市は蒙古語の支那家屋と云ふ意味である。

未開放地　白市より大罕迄の間は蒙古の所謂未開放地であつて、車窓から眞の蒙古の風物に接すのには此の線を選ぶ外はなく、四洮線の他の何處も實は眞の蒙古の風物には接し得ないのである。

元來蒙古領は遠く淸の建國當時、其の所領の絕對不可侵を宣明して漢人種の所有權

其他を全く許容しなかつたのである。然し時代の推移と共に豊饒肥沃の隣接地方には何時となく漢人の侵入する處となり、從つて侵入すれば從つて之れを漢人に對する居留地として所屬の蒙古王に對し開放を迫り其の行政を布く。是れが即開放地即放荒と言はるゝ處である。此の放荒地は移住漢人の手によつてよく耕作され、歳々驚くべき數字の穀類を生産しつゝあるが、蒙古王旗下の未開放地は、依然として住民の懶惰性のまゝに十年一日の如く、遊牧のみ行はれ荒蕪漠々、其の荒原氣分の横溢する様は正に一顧の價値がある。

◈巴　西　(Pa-shi)

鄭家屯　一六・五粁
通　遼　九七・二粁

◈歐　里　(Outo-li)

鄭家屯　二六・二粁
通　遼　八七・五粁

◎門　達 (Men-ta)

鄭家屯　三七・九粁
通遼　七五・八粁

次驛大罕に近き路北の民家傍に螺螄形の小山が窓外に見える。草に塵芥を積んで固めた物見臺であつて、糞堆と云ひ卑俗には馬牛の糞で固めた塚と云ふてゐるが、文字から來た誤解である。此の物見臺は大きければ大きい程舊家を示すものだとも曰はれてゐるし、螺螄形の廻旋は何處も一律のものだとも言はれる。

此の驛の少し手前から再び開放地となつて、乾坤を改めたかの如く耕地農作の土地が續くのである。

◎大　罕 (Ta-han)

鄭家屯　五三・一粁
通遼　四八・四粁

鄭家屯乃至通遼一帶は水質頗る惡く、濾過して飲料とするけれども、此の邊は蒙古

唯一の良水の地である。そして驛南、清河と遼河の三角洲に湧出する水は燒酎に適し、邦人經營の三泰號の製造所があつて、小村落を形成してゐる。

図大林 (Ta-lin)

鄭家屯 六五・三粁
通遼 四八・四

【勝蹟】 十支里、遼河の北岸に乎爾根廟(ホルケンミヤオ)がある。周圍二支里に喇嘛五百人居住してゐる。此の地下洞は達爾罕王祖先の墳墓となつてゐる。窓外南方に臥牛の如き山の背の見ゆるものは牛頭山と稱し蒙古名を伊克圖虎爾吉(イクトゴルチ)(大牛犢の意)と云ひ、前驛の南に遠く出沒するものは小牛頭山であつて共に蒙古七山の一つである。

図錢家店 (Chien-chia-tien)

鄭家屯 九〇・二粁
通遼 二三・五

一帶地味よく附近の集散場となり、通遼縣下の東部の要衝として一大營舍がある。

布かれて此處に通遼縣となつたのである。現時人口三萬五千を數へ鐵道の開通は鄭家屯の繁盛を奪つて急速の發展を成しつゝある。

【勝蹟】北二里の漫塔城城北には敖寶(アオボ)と稱する土崗があつて、舊曆正月と冬至節とに羊猪を犧牲として祖先を祭る習慣で賑ふ處である。西七十支里に蒙古喇嘛の活佛の居廟で著名な莫林廟(ムリミヤオ)がある。陰曆四月十八日と、七月十五日地人香火會を擧行して古佛を祀り盛觀である。順治年間の開基であつて、前廟は乾隆年間の建立、勅賜寺號を集寧寺と云ひ、後廟は嘉慶年間の建立、隆祐寺と云ひ他の一つは小堂宇であるが建築最も古きものゝ如く簡素枯淡である。

⊠通遼（Tung-liao）

四平街	二〇一・六粁
鄭家屯	一一三・七
洮南	三三八・一

【旅館】邦人旅館はない。鴻賓旅館（南大街、驛より一支里半、馬車賃小洋二五錢）大昌旅館（中大街、驛より二支里半、馬車賃小洋四十錢）

【官公衙】滿鐵公所派出所、通遼縣署、警察所、税捐局、郵政、電話、電報局、蒙荒營、天惠地局、共和地局、慶番銀行支店等。

東西五支里、南北二支里半、高さ約七尺の土壁を繞し、東西に貫く中街を繁盛の商業區としてゐる。附近一帶は一眸千里の平野であつて地味頗るよく東蒙一と云はれ、開魯、古城、林西の諸縣に聯絡し、嶺南北より遠く陰山地方の蒙古各旗に往來する要驛として對蒙貿易の一大市場となつてゐる。

巴林旗のダライ（人名）なる人家の所在から發生したと云はるゝ白音太來を別名とし、民國元年（大正元年）に始めて開墾行はれ、同三年に開放地となり、七年に縣治を



放牧（蒙古モリ廟附近）

布かれて此處に通遼縣となつたのである。現時人口三萬五千を數へ鐵道の開通は鄭家屯の繁盛を奪つて急速の發展を成しつゝある。

【勝蹟】 北二里の漫塔城城北には敖寶（アオボ）と稱する土崗があつて、舊曆正月と冬至節とに羊猪を犧牲として祖先を祭る習慣で賑ふ處である。西七十支里に蒙古喇嘛の活佛の居廟で著名な莫林廟（ムリミヤオ）がある。陰曆四月十八日と、七月十五日地人香火會を擧行して古佛を祀り盛觀である。順治年間の開基であつて、前廟は乾隆年間の建立、勅賜寺號を集寧寺と云ひ、後廟は嘉慶年間の建立、隆祐寺と云ひ他の一つは小堂宇であるが建築最も古きものゝ如く簡素枯淡である。

京奉線

奉天の小西邊門外に所在する瀋陽驛を起點として會社の奉天驛を過ぎ、溝幇子驛で營口より去來する支線と合し、歷史に千古の氣を吐く長城の起點である山海關を經、極東有數の貿易港天津に出で、首都北京の正陽門車站に到る五百餘哩の民國々有鐵道は卽京奉線である。

謂ふまでもなく我が國に近接して彼れに重きを爲す東三省を首都に緊締する本線は、唯一の緊要交通路であるばかりか、極東の東西を膠漆に結び、東亞乃至世界鐵道網の重責に當るもの、民國の諸鐵道が總て本線を基幹として枝梢を派するものかの如く、天津からは津浦線を、豊臺驛からは京漢線を射出してゐる。

直通列車は鮮滿乃至西伯利亞からの旅客を併せて日に一個列車を發し、食堂寢臺車

を連結し略一晝夜を要して北京に達するのである。本書は日支聯絡客の便宜の爲め本線中の山海關、天津、北京に就て略記しておく。

◇山海關 (Shan-hai-kuan)　奉天 二六〇粁

【旅館】鐵路飯店（線路の南側車站附近、二層樓煉瓦建歐風旅館宿泊料五弗—十弗）大和館（南關、驛より三町、純日本式宿泊料二弗五〇—五弗）

車站から約半哩で城內に達し、其の途上は南關と呼ばるゝ街衢である。縣城は臨楡縣の所在地で四門を有し、其の宏壯の門樓に登れば關內外の風光を一眸の下に納め得る。中央に方形の鐘樓、鼓樓がある。

縣城の東門外に突出の城壁一廓を爲すものは東羅城と云ひ、西門外のものは西羅城と云ふ。

◆長城　縣城の南門外四哩の海岸老龍頭（ラオロントウ）から起り、縣城の東壁と相連らなつて角山の巓を登り、亂峯の脊背を縫うて右曲左折し、直隷、山西、陝西の各省を經、蒙古との境上を過ぎ長驅甘肅省嘉峪關に至つて止むものは卽萬里長城である。東經一二一度から九七度に跨り、民國史上最も著名の記念物であると共に世界稀有の大建築物である。其の起源は今から二千餘年前秦の始皇が北方强胡の來襲に備ふる爲め、將軍蒙恬をして築かしめたもの、今は風餐雨蝕舊觀を存してはゐないが、坐ろに當年の雄圖を偲ばしめ、幾多の興亡變遷の歷史を語るかの如くである。

【勝蹟】　西關門外西北約五哩、首山の巓に二郞廟（エルラヌミヤオ）がある。前は海に瀕み、後は長城に據り山紫水明の處、又外人銷夏の仙境に選ばれる處である。縣城の北門外約五哩角山の頂には一名角山寺と云ふ棲賢寺がある。山海關の名刹であつて第一の勝區である。驛の南方約三哩、渤海灣沿岸は遠淺であつて北淸稀れに見る絕好海水浴場である。

◇天津 (Tien-tsin)

奉天 四五五・五粁

【車馬賃】各車站から外人居留地まで俥五仙—二〇仙、馬車五〇仙—一弗、市内電車は一周線二仙、他は各線三仙宛。

【旅館】設備完く規模の大なるは外國人經營のもの、次いで日本旅館となり、支那客桟は外客の宿泊に適してゐない。—アスター・ハウスホテル Astor House Hotel（英租界、一名利順德（リイウシントウ）宿泊料米式七弗—十六弗）インピリアル・ホテル Imperial Hotel（法租界、一名裕中、宿泊料米式六—八弗）クヰンス・ホテル Queen's Hotel（英租界、一名妃德飯店（クエイトー）、宿泊料米式五—八弗）オテル・ド・ペイ Hotel de la Paix（Wagons-lits）一名大來飯店（ターライ）（佛租界、宿泊料米式四弗五〇以上）其他法國飯店（ファクオ）Hotel de France（東車站附近）及塔古飯店 D'arc's Hotel（英租界、宿泊料米式七弗以上）常磐ホテル（日本租界、宿泊料六—一五弗）大和ホテル（同五—一〇弗）等。

【領事館】帝國總領事館、英、露、米、佛、伊、デンマルク、白、和、ノルウェー、ホルトガル、スエデン、獨、墺各領事館署。

【官衙】 直隷督軍公署、交渉公署、天津縣公署、鹽運使署、海關監督署、財政廳、津海關、天津鈔關、警察廳、京奉鐵路總局、津浦鐵路總局、直隷觀業公署、高等地方審判廳等。

【銀行】 横濱正金銀行(英國租界)、Chartered Bank of India Australia & China; Hongkong Shanghai Banking Corporation; Russo-Asiatic Bank; Banque Belge pour l'Etranger; Banque de l'Indochine; Deutsch-Asiatische Bank; Banque Indutsrielle de Chine 北洋保商銀行、中國銀行、交通銀行等。

【主要店舗】 雜貨店—福利公司 Hall & Holtz co (英租界) 公易公司、西賓館 Travers Smith & Sons (佛租界) 武齊洋行(武内商會) 山王號(日本租界) 王井洋行(同上) 澤洋行(同上) 加藤洋行(同上)。時計店—享達利 Vrard & Co. (佛租界) 樫村洋行(日本租界)。運輸業—太古洋行 Batterfield & Swire (英租界)、怡和洋行(同上) 西比利亞鐵路公司、大阪商船(日本租界) 郵船會社(同上)。輸出入業—仁記洋行、瑞記洋行、三井洋行(日本租界) 大倉組(同上) 松昌洋行(同上) 日信洋行(同上)。絹織物商—瑞林祥、瑞盛錦、敦慶陞、元隆、慶豊成(以上估衣街) 老九章(日本租界)等。

【病院】 日本共立病院、共濟病院(日本租界) 北洋女施醫院(佛租界) 養病院、英皇院、天津官醫院、北洋醫院等。

【料理店】アスター・ハウス、インピリアル・ホテル、德義樓（日本租界）敷島（一流日本料理店）神戶館（敷島に亞ぐもの）。天津料理義和成（イーホーチオヌ）、聚和成。回々料理鴻賓樓。寧波料理聚豐園。山東料理全聚德。廣東料理嶺南樓。

天津は渤海直隷灣の巨江白河河口を溯ること約三十七浬に位せる北支那最大の商埠で白河と南運河の會する地位にあり、人口約七十五萬を有して居る。

市街は外國租界と支那市街とに大別され、外國租界は白河本流の左右兩岸一帶の地を占め、日本租界は其の右岸にありて法國及英國の租界と連つて居る。

外國租界の西北面一帶に展開せる支那市街は即天津城市で十一市區に分れて居るが、城裡は舊城廓內で殆ど全市の中央に位し、支那官省、學校等多く、十字街上の鼓樓の支那風建築は旅行者に喜ばれる。窰窪は袁世凱の直隷總督時代に創設した模範市街で、諸官省、工廠、學校、病院等多く、又李鴻章を祀れる李公祠、河北公園、孫家花園などの遊覽地も此の地界にある。

貿易港としては背後に横はる貿易區域の廣大なること支那開港場第一と稱せられ輸入品は綿絲綿製品を第一とし、石油、砂糖、木材、鐵道材料、紙卷煙草、麥粉これに次ぎ、輸出品は綿花、羊毛を主とし、山羊生皮、豚毛、落花生、燒酎、藥品、駱駝毛、大豆、棗子などである。

天津から塘沽に至る間の白河左岸、桂甲寺附近一帶の地は、天津を中心として直隸、河南兩省の各都市に搬出せらるゝ鹽の產地として昔から知られた長蘆鹽場で、其の生產額は一年約三百萬擔に上る。旅行者は塘沽車站の前面に展開せる鹽田灌漑用の大小無數の風車と堆積せる累々たる鹽層を望見して駭目せらるゝであらう。

◇北　京（Pe-king）　奉天　三三八・五粁

【車馬賃】

	自動車	馬車(二人乘)	人力車
一時間	三・〇〇円	〇・五〇円	〇・一五円
半日	八・〇〇	二・〇〇	〇・七〇
一日	一八・〇〇	五・〇〇	一・五〇

【註】人力車を一日雇切り又は食事時間に亙る場合は飯錢（食事代、普通小洋二〇仙位）及酒錢（酒代）の給與を要す。

【視察に便宜を供與する處】日本國際觀光局 Japan Tourist Bureau（崇文門大街）に於ては觀光者の爲に各種の便を圖つて呉れる。

【旅館】歐風—六國飯店 Grand Hotel des Wagons-Lits（東交民巷南御河橋畔、白義人經營、宿泊料、米式大洋一〇—一五弗、使用語英、佛、支語）北京飯店 Grand Hotel de Peking（東長安街宿泊料、米式八—一八弗、朝一弗五〇、晝一弗七五、夕二弗、使用語同上）長安飯店 Astor House Hotel（王府井大街、宿泊料、大洋五弗、使用語英、支語）德國順利飯店 Hotel de Nord（崇文門大街、宿泊料、同上、使用語獨、支語）德晶飯店 Te-chang Hotel（燈市口、華洋折衷、洋食

支那食隨意、宿泊料、三—五弗）東安飯店 Palace Hotel（東長安街、支那人經營、宿泊料、五弗以上）電報飯店 Telegraph Hotel（東長安街、佛人經營、宿泊料、四弗以上）—日本旅館—扶桑館（東單牌樓、宿泊料、二食付六—八弗）華東飯店（東單牌樓、支那式日本旅館にて室代三弗五〇、食事は外部より取寄す）一聲館（崇文門內船板胡同、宿泊料、三—四弗）松尾家（東河沿下宿營業、宿泊料三食付三—三・五〇弗）一二三館（東單牌樓羊肉胡同、宿泊料、三食付五—六弗）—支那旅館—金臺旅館（西河沿、宿泊料、一—四弗）中西旅館（所在地同上、宿泊料、一—二・五〇弗）等。

【旗亭】歐風—六國飯店其他—日本料理—長春亭（東單羊肉胡同）朝日軒（東單溝沿頭）等—支那料理、飯莊—天壽堂（西珠市口）會賢堂（十刹海北沿）福壽堂（打磨金魚胡同）惠豐堂（觀音寺街）燕壽堂（總布胡同）等。泰豐樓（煤市橋）天和玉（石頭胡同）致美齋（煤市橋）正陽樓（前門外肉市）等以上飯館子。—茶樓、茶軒、清茶館、孰れも喫茶館であつて前者最も高尙である。茶代、五、六仙、希望により菓子等を供す。其の主なるもの第一樓（廟房頭條勸業場內）茘香茶社（同上）春明館（中央公園內）等。

【官公會社學校】日、英、米、佛、伊、露、獨、墺、葡、和、白各公使館。正金銀行、總統府

國務院、衆議院、參政院、審計院、外交部、內務部、財政部、陸海軍部、參謀本部、高等及地方審判廳、高等及地方檢査廳、京漢鐵路局、京綏鐵路局、道勝、香港、上海銀行、中獨、中法實業、中國、交通各銀行、北京大學、燕京大學、陸軍大學、朝陽大學、中華大學、明德大學、中國公學大學部、高等師範學校、工業專門、農業專門、醫學專門、法政專門、商業學校其他、北京工藝官局、北京工藝商局、京師丹鳳火柴、北京電燈、自來水（水道）、商務總會等。

【娛樂】 劇場―第一舞臺（テイイーウータイ）（西柳樹井大街、設備最も完全である） 新明大戲場（香廠） 文明茶園（西珠市口） 廣德樓（大柵欄）。 書館（シウクワン）―藝妓が無扮裝にて歌舞する寄席の如きもの四海昇平樓（石頭胡同）。 妓館（チークワン）―清吟小班（一等） 茶室（二等） 下處（三等） の三階級がある。 活動寫眞―平安電影、電影公司等。 俱樂部―北京西紳公會（東交民巷） 中法協會（同上） 大和俱樂部（東單牌樓……三條胡同）。

概觀 直隷平野の一角、直隷省の中央に位し、西南方に北支隨一の大商埠天津を控へて最も形勝の位置を占めてゐる。

北京に到著した外客が劈頭に眼を驚かすものは內城及外城の磚造城廓である。 城は明代の創築、清朝の重修のもの。內城は周圍約四十支里、高三十五尺餘、不整長方形

を成し各門通じて九門を有し、外城は內城の南面を抱擁して東西に長く、南北に短き長方形を成し、其の周圍約二十八支里高さ二丈、七門を開いてゐる。城壁の四隅には角櫓(チアオルー)を置き、各門の華麗の輪奐は、其の傍に立つ五本宛の旗桿と共に人目を壓し、大國の都城に恥ぢぬ偉觀を呈してゐる。城壁には大小無數の銃眼を穿ち外周には護城河(ホーチオヌホー)を繞らしてゐる。

市街全面積は約五方里あつて、我が東京市と面積略伯仲の間にある。

內城は歷朝の紫禁城を中心として發達し、淸代には八旗の居住地に充てゝあつた爲めに商業の繁榮は外城の街路に及ばないが、各門に通ずる大街路縱橫に一里、無數の胡(ホウ)同(トウ)(小路)之れと交叉して通行に便し、整然として我が京都の如く、官府、官廟、第邸等の壯大の建物が多い。

外城には著名の天壇(テヱンタン)と先農壇(シヱンノフタン)を首め寺院、墳墓、園圃、荒地等全面積の三分の二以上を占め、市街の部分は狹小であるが、正陽門外である前門大街一帶は北京商業の

中心地として百貨輻輳し、豪商巨賈の店舗櫛比してゐる。

市內人口は適確の調査とは云ひ得ぬが、支那警察廳の調査に據ると戶數十七萬二千人口九十三萬二千餘、日本三千五百と注されてゐる。

【沿革】往古夏の幽州、周の燕京の故地であつて、現今は直隸省順天府の管轄に屬してゐる。帝都の地として選ばれたのは遼(西曆九三六)に始まり、金(一一五三)、元(一一七三)の二朝亦此處に都城を占め、降つて明初(一四〇二)帝都を應天府に定めた時、單なる一地方衙門として北平府と名稱さるゝに至つたのである。後に明の永樂帝の時再び此處に遷都し、從來の土壘は堂々の磚壁に改築され、舊に倍する王城の盛觀となり、淸朝之れを繼承して今日に及んでゐる。

帝都として此の北京は、禹城からすれば東北隅に遍在するが、南方九州を抑へ、祖宗發祥の地を守らんとする爲めには、遼、金、元、淸各朝とも滿蒙の北人であつて、絕好の要衝であつたからに相違ないのである。そして明の永樂帝の此處への遷都も北人制御の地の利に鑑みたと見做されてゐる。

【勝蹟】▼宮城―內城の中央に在りて別に一廓を築く、南華園、西苑、大液池、瓊島、瀛臺、景山の勝がある。▼紫禁城―宮城の內部中央より南東に偏して一廓を爲し、

西太后の便殿たりし坤寧宮、光緒帝の便殿たりし養心殿、國寶を陳列せる武英殿、歴朝の書畫を陳列せる文華殿等がある。▼中央公園—天安町の西側に在り、市內第一の公園。▼雍和宮—內城に於ける著名な喇嘛寺、西藏蒙古式に扮飾せられた寺である。▼孔子廟—內城安定門の東南にあつて、孔子の神位を奉安する大成殿がある。▼國士監—孔子廟の西隣、歴史博物館である。▼鼓樓—宮城後門の正北部にある。元の世祖忽必烈の建設、高さ約百尺、宮城の內外が見渡される。▼鐘樓—鼓樓の北に在り、現存のものは淸朝の築造に係る。▼天壇—外城永定門內東に在り、天子親しく皇天上帝を奉祀せらるゝ祭壇で、周圍約三里の廓壁を繞らし、廓內に齋宮、圜丘、皇乾殿、祈年殿設があつて、規模宏大である。▼先農壇—天壇の西にあり、四圍繞らすに垣牆を以てし、廓內先農壇、天神、地祇、太歲の各壇がある。▼萬壽山—北京市街を距る十一哩（自動車、馬車、人力車の便あり）、淸朝の離宮で頤和園と稱し、禁苑として一般の觀覽を許さなかつたが、今は開放して居る。淸朝藝術の粹を盡せる樓閣殿堂、彫欄

畫廊等何れも旅行者を驚かさゞるものはない。▼玉泉山―萬壽山の西約一哩半、金朝行宮芙蓉殿の遺地で靜明園と云ふ。▼明の十三陵―明朝永樂帝以後の十三皇を葬つた山陵で、北京を北へ距る二五哩、京綏線の南口驛から約八哩、石人石獸起伏して往古の陵道の如何に森嚴であつたかを追想せしめる。▼八達嶺―南口から更に北進すると、四邊の山嶺に蜿蜒たる城墻が見える。これが卽ち萬里の長城で京綏線の青龍橋驛（北京より三六哩二）に下車し、八達嶺に登りて長城を眺むると、西方は重疊たる連山と共に遙に雲際に沒し、東方は削れるが如き山勢を急下して深谷に落ち、建造の雄大なる旅行者をしてそゞろに秦皇の偉業に驚嘆せしむ。

南滿洲鐵道旅行案内（終）

滿洲の印象

碧梧桐

柿と安煙草が彩つてゐる　（大連）
ぶらんこに遠くよる波の砂に坐つた　（星ケ浦）
鐵掘りの望む夕燒の雪搖曳す　（千山）
釘離れした扉を朝から打つ音　（鞍山）
夕日の中に立つ地をかける烏　（首山堡）
ペチカうんと焚込んだ額しとる　（遼陽）
炭屑ふんではゐりかねとる　（撫順）
毛深い添へ馬の數のふみすべる雪　（開原）
刈り殘された羊にて寐る　（公主嶺）
けふ一日ぎりの石炭をすくひ殘さず　（長春）

大正十三年九月二十日印刷
大正十三年九月廿五日發行

南滿洲鐵道株式會社編

印刷者　嶺田嘉三
印刷所　大連市立商工學校